

FLTナンバー: ELTb42-E, ARTa42-E

授業テーマ: Twelfth Night 『十二夜』上演

授業の概要: このクラスでは3年次の Shakespeare Production I, II で学んだシェイクスピアの戯曲 Twelfth Night (『十二夜』)を舞台上演する。

到達目標: 1. 実際の舞台上演を通して、シェイクスピアの戯曲をより深く理解する。
2. 舞台制作にかかわる共同作業を通して、リーダーシップや仲間を思いやる力を養う。

授業方法: 通年を通して、舞台制作活動を行う。全体ミーティングとパートごとの作業の2本立てで進めていく。担当教員はあくまでアドバイザー的役割であり、参加学生が主体的に取り組んでいく。特に秋学期は上演本番までは、授業時間外の長時間の活動が必須となる。本番後は各自の活動内容についての個人レポートと来年度の受講生のためのパートごとの資料作成を行う。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	春学期	授業後、各自、希望の役を決定し、必要な書類の提出を行う。(60分)
	金曜日:オリエンテーション、スタッフの役割説明、キャストオーディションの説明	
2.	火曜日:アシスタント・ディレクター決定	オーディションを受ける人は希望する役についての面談の準備をすること。
	金曜日:オーディションのための事前打ち合わせ(個人面談含む)	
3.	火曜日:オーディション	役割決定後、各自の取り組み内容を理解し、必要な準備を進めていくこと。(60分)
	金曜日:オーディション(予備日)	
4.	火曜日:キャスト発表、スタッフ(コミッティ、音響・照明・大道具、衣装・小道具・メイクアップ、字幕)決定	役割決定後、各自の取り組み内容を理解し、必要な準備を進めていくこと。(60分)
5.	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(60~90分)
6.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(60~90分)
	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	
7.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(60~90分)
	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	
8.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(60~90分)
	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	
9.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(60~90分)
	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	
10.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(60~90分)
	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	
11.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(60~90分)
	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	
12.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(60~90分)
	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	
13.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(60~90分)
	金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	
14.	火曜日:各パートの研究発表(スタッフ)	発表後、各パートでフィードバックを行い、秋学期の活動へ向けての準備を始めること。
	金曜日:各パートの研究発表(キャスト)	
15.	春学期の振り返り	秋学期の活動へ向けての準備を始めること。

16. 秋学期
火曜日: 全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備(シラバスの便易上演回数週2回としているが、実際には週平均5回の活動となる)
金曜日: 全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備
17. 火曜日: 全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備
金曜日: 全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備
18. 火曜日: 全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備
金曜日: 全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備
19. 火曜日: 第1ドレス・リハーサルの予行演習
金曜日: 第1ドレス・リハーサル
20. 火曜日: 第1ドレス・リハーサルのフィードバック、及び第2ドレス・リハーサルの準備
金曜日: 第2ドレス・リハーサル
21. 火曜日: 第2ドレス・リハーサルのフィードバック、及び本番の準備
金曜日: 本番1日目
土曜日: 本番2日目
22. 火曜日: 反省会
金曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成(並行して個人レポートも作成)
23. 火曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
金曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
24. 火曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
金曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
25. 火曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
金曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
26. 火曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
金曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
27. 火曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
金曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
28. 火曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
金曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
29. 火曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
金曜日: パートごとに次年度へ向けての資料作成
30. 火曜日: SPルームの整頓
金曜日: SPルームの整頓

各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(長時間)

各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(長時間)

各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(長時間)

各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(長時間)

各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(長時間)

各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。(長時間)

資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。(30分)

資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。(30分)

資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。(30分)

資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。(30分)

資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。(30分)

資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。(30分)

資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。(30分)

資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。(30分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

舞台上演を行うに当たっては、参加者一人一人の積極的な取り組み、仲間との連帯が何よりも大切である。授業時間外の作業が多く(特に秋学期の上演までの期間)、体力と気力が大いに必要とされるので、覚悟の上、臨んでほしい。

フィードバックの方法:

春学期の成果発表、秋学期の本番の舞台上演へ向けての作業に対しては、担当教員が適宜、コメント、アドバイスをしていく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	30%	授業への意欲的な取り組み姿勢を評価する。
春学期の成果発表	20%	春学期の取り組みの成果を評価する。
本番での発表	40%	本番までの取り組みの成果を評価する。
レポート、資料作成	10%	授業内容の総括ができていないかを評価する。

教科書: ハンドアウト(上演用台本)を用意する。

参考文献等: 授業時に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

e-mail: htsuji@dwc.doshisha.ac.jp
tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: Thomas Hardyの小説研究

授業の概要: 19世紀後期のイギリス人作家Thomas Hardy (1840-1928)の6大作の一つThe Return of the Native (1878)を精読することによって、小説の高度な研究方法の習得を目指す。
 (1) The Return of the Native (1878)の研究方法(講義)
 (2) 作品の精読と分析
 (3) 作品に関連した研究書のまとめの発表

到達目標: アカデミックな小説研究の方法を習得し、あわせて作品の読み方を学んでいく。

授業方法: 人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的には、講義と精読と発表を中心に授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。15分。
2. 講義: The Return of the Nativeの研究方法(1)	質問を準備しておく。15分。
3. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
4. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
5. 講義: The Return of the Nativeの研究方法(2)	質問を準備しておく。15分。
6. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
7. これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。15分。
8. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
9. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
10. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
11. これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。15分。
12. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
13. 発表: 研究書のまとめ	レジュメの準備をする。60分。
14. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
15. 学期末の総まとめ	これまでの授業内容を復習しておく。15分。
16. 授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。15分。
17. 講義: The Return of the Nativeの研究方法(3)	質問を準備しておく。15分。
18. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
19. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
20. 発表: 研究書のまとめ	レジュメの準備をする。60分。
21. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
22. レポートについて	質問を準備しておく。15分。
23. これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。15分。
24. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
25. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
26. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
27. これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。15分。
28. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
29. 作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。60分。
30. おわりに	質問を準備しておく。15分。

受講者へのメッセージやアドバイス: ハーディの中期の傑作小説The Return of the Nativeを取り上げます。中期の作品であるせいか、この作品は、ハーディが作家として評価されたいという、良い意味と悪い意味の野心にふれる作品となっています。ギリシャ悲劇の構造美を踏襲していること、ビクトリア朝の伝統的な価値観と並んで、ダーウインの進化論以降の科学主義や宗教的懐疑論が顔を出しています。ストーリー展開は、きわめて世俗的な嫁姑問題や、若い女性の憧れや、現実離れた夢をあつかっていて、俗っぽい筋立てです。しかし、ハーディが描くと見事な芸術作品に変貌します、といった見本のような作品です。

フィードバックの方法: レポートは採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	秋学期の学期末のレポート1回	40%	小説研究の方法論を踏まえてレポートが書かれているかどうかを基準とする。
	発表	25%	レジュメの作り方や内容によって評価する。
	授業への積極的参加度	35%	準備学習への意欲によって評価する。

教科書: Thomas Hardy, The Return of the Native (1878) (Norton Edition)

参考文献等: 授業中に提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

Eメールやマナーの連絡、および授業前後と授業外のアポに対応する。

FLTナンバー:

授業テーマ: 外国語学習者方略と自己調整学習

授業の概要: このコースでは、外国語学習者方略 (Learner Strategy=LS) についての最新の研究を概観しながら日本のようなEFL環境下で外国語として英語をどのように学ぶべきなのかそのアプローチについて、StrategyとSelf-regulationをキーワードに議論します。

到達目標: 最終的には、
 (1) 学習者の特徴に応じた最適の方略 (Best-Fit Strategy) を学習者に発見させる方法について理解が深まる
 (2) 学習者の特徴に応じた自己調整学習 (Self-Regulated Learning) について理解が深まる
 (3) 教える側すなわちTeaching Strategyにも議論を拡げ、また現在の第二言語習得研究 (Second Language Acquisition Research) の知見にも依拠しながらEFL環境における英語教育のあり方について理解が深まる

授業方法: 授業計画のテーマに沿い、授業を進めます。ディスカッションベースの自ら考え・意見交流ができるような形をとります。予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることも求められます。できる限り、わかりやすい授業を心がけます。

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内
 容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Section 1. 学習者方略研究の現状 学習者方略研究の定義・分類・研究方法(1)	授業に対する期待を考える (60分)
2. 学習者方略研究の定義・分類・研究方法(2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
3. 学習者方略研究の定義・分類・研究方法(3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
4. 学習者方略研究の定義・分類・研究方法(4)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
5. 学習者方略研究の定義・分類・研究方法(5)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
6. 学習者方略研究の定義・分類・研究方法(6)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
7. Section 2. 学習者方略研究に対する批判 学習者方略研究に対する批判(1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
8. 学習者方略研究に対する批判(2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
9. 学習者方略研究に対する批判(3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
10. 学習者方略研究に対する批判(4)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
11. Section 3. 量的データ分析 量的データの収集・分析方法(1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
12. 量的データの収集・分析方法(2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
13. 量的データの収集・分析方法(3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
14. 量的データの収集・分析方法(4)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
15. 量的データの収集・分析方法(5)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
16. Section 4. 質的データ分析 質的データの収集・分析方法(1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
17. 質的データの収集・分析方法(2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
18. 質的データの収集・分析方法(3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
19. 質的データの収集・分析方法(4)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
20. 質的データの収集・分析方法(5)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
21. Section 5. 今後の研究の方向性 自己調整学習と学習者方略の融合(1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
22. 自己調整学習と学習者方略の融合(2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
23. 自己調整学習と学習者方略の融合(3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
24. 自己調整学習と学習者方略の融合(4)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
25. 自己調整学習と学習者方略の融合(5)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
26. 自己調整学習と学習者方略の融合(6)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
27. 自己調整学習と学習者方略の融合(7)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
28. 自己調整学習と学習者方略の融合(8)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
29. 自己調整学習と学習者方略の融合(9)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)
30. まとめ	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく (60分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

全体を通して、予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることが求められます。

フィードバックの
方法:

プレゼンテーションについては評価を事後にManaba等で提示します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中のディスカッション 態度	40	到達目標(1)～(2)に関する知識により評価する
ファイナルペーパー	60	到達目標(1)～(2)に関する知識により評価する

教科書:

同志社女子大学英語英文学会. (2017). English playbook. 京都: Author.
ハンドアウトを配布します。

参考文献等:

授業中に提示します。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けて

授業の概要: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集・調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。春学期は概要を含む演習形式、秋学期は個人発表ならびに論文執筆が主となる。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を研究発表するのみならず、授業担当教員の指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

到達目標: 卒業論文完成に向けて、各自のペースでスケジュールを考える。それに従って資料の収集・調査を行い、その結果を逐次口頭発表し、質疑応答を通してよりよい論文の制作をめざす。論文執筆にあたっては、書式の修得や論理的な展開・構成に留意しつつ、各自のオリジナリティーを明確に打ち出していく。

授業方法: 演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	各自研究テーマについて考えておく。時間無制限
2. 個人発表などのスケジュール調整	用例の調査などを行っておく。一時間
3. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。一時間
4. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。一時間
5. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。一時間
6. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。一時間
7. スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。一時間
8. 個人発表後の論文執筆状況の確認並びに二回目の個人発表のスケジュール調整	二回目の個人発表の準備。一時間
9. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
10. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
11. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
12. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
13. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
14. スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。一時間
15. 夏休み中のゼミ合宿についての話し合い	春学期提出のレポートの準備。一時間
16. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
17. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
18. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
19. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
20. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
21. 夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。一時間
22. 以後は卒業論文完成に向けての個人指導を行う	質問事項などを整理しておく。一時間
23. 個人指導を行う	質問事項などを整理しておく。一時間
24. 個人指導を行う	質問事項などを整理しておく
25. 卒業論文提出に向けて書式・体裁などの最終確認を行う	卒業論文の草稿をまとめておく。一時間
26. 論文提出に向けて最終チェックを行う	完成原稿を用意する。一時間
27. 提出後は反省・総括を行う	各自自らの論文を総括しておく。一時間
28. 卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文原稿の再確認。一時間
29. 卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文集の編集作業を行う。二時間
30. 卒業論文集を完成させる	論文集の編集作業を行う。二時間

受講者へのメッセージやアドバイス: 悔いのないよう全力で取り組んでほしい。

フィードバックの方法: 個人発表に際して意見を述べる。論文の草稿に朱を入れる。論文集作成に向けて全体の書式などを統一させる。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書: 特になし

参考文献等: 特になし

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

研究室での対応、連絡メールによるやりとり。

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けて取り組む授業である。

授業の概要: 開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

到達目標: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。

授業方法: 春学期には中間発表を各自一回する。
秋学期には夏休み中に書き上げた論文の下書きにもとづき、個別に指導する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	全体での打ち合わせ(春学期)	なし
2.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
3.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
4.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
5.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
6.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備(60分)
7.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
8.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
9.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
10.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
11.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
12.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
13.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
14.	学生による中間発表	発表の準備(180分)
15.	今後に向けて	なし
16.	全体での打ち合わせ(秋学期)	なし
17.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
18.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
19.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
20.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
21.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
22.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
23.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
24.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
25.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
26.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き(300分)
27.	ふりかえり	なし
28.	ふりかえり	なし
29.	ふりかえり	なし
30.	ふりかえり	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 面談

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業論文	70	卒業論文の完成度。
	中間発表	15	中間発表が適切になされたかどうか。
	推敲	15	努力を惜しまず論文を練り直したかどうか。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に取り組む。

授業の概要: 講義に加え個別指導にもとづいて各人の問題意識に基づいた卒業論文を作成する。

到達目標: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

授業方法: 講義・個別指導など

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	個別面談1	卒論の対象を明確にしておく
3.	個別面談2	卒論の対象を明確にしておく
4.	卒業論文に向けて	
5.	個別指導1	卒論で解明したい謎を明確にしておく
6.	個別指導2	卒論で解明したい謎を明確にしておく
7.	個別指導3	卒論で解明したい謎を明確にしておく
8.	個別指導4	卒論で解明したい謎を明確にしておく
9.	グループ内での中間発表1	
10.	グループ内での中間発表2	
11.	個別指導5	卒論で謎を解明するためのアプローチを明確にしておく
12.	個別指導6	卒論で謎を解明するためのアプローチを明確にしておく
13.	個別指導7	卒論で謎を解明するためのアプローチを明確にしておく
14.	グループ内での中間発表3	
15.	グループ内での中間発表4	9月下旬～10月初旬に卒論合宿を行う
16.	秋学期の授業について	
17.	論文の書式について	
18.	個別指導8	
19.	個別指導9	
20.	個別指導10	
21.	論文相互添削1	各人が原稿を印刷して持参しグループ内で相互添削する
22.	論文相互添削2	各人が原稿を印刷して持参しグループ内で相互添削する
23.	個別指導11	
24.	個別指導12	11月中旬にプレ論文をマナビーで提出する
25.	個別指導13	
26.	個別指導14	
27.	振り返り	
28.	振り返り	
29.	振り返り	
30.	振り返り	

受講者への
メッセージや
アドバイス: ★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

フィードバックの方法: 個別指導の中でコメントする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	受講態度	30	受講の態度(出席状況を含む)や積極性を総合的に考慮して評価する。
	ディスカッション	30	ディスカッションでの貢献度を総合的に考慮して評価する。
	中間発表	40	中間発表の完成度を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: 学内メール: kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けて取り組む授業である

授業の概要: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。
開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

到達目標: ①卒業論文作成のために必要な知識を集める(知識・理解)
②卒業論文作成のために論理的に考え、解決の方法を工夫し、主体的に取り組む(関心・意欲・態度)
③問題の設定、問題解決の方法、収集した情報の整理、推論の過程、その結果得られた結論を明快にわかりやすく論述し、卒業論文を完成させる。(表現・技能・能力)

授業方法: 演習方式で行う。各自が事前に用意した進捗報告やデータをもとにディスカッションをし、対話を通して次の問題点を見つけ、解決策をともに考える。データがまとまり、文章としての執筆に入る際に合宿を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス・担当順決定	各自質問・相談したいことがあればまとめておくこと。
2.	【全員による卒論構想発表会】自分の卒業論文に関する次の二点を一人3分で発表する。 ①明らかにしたい内容 ②それを明らかにするための具体的な方法	3分のプレゼンテーションに備えて資料を準備しておく。(2時間)
3.	第一回進捗発表①	担当者は事前にレジュメを用意する。(3時間以上)
4.	第一回進捗発表②	担当者は事前にレジュメを用意する。(6時間以上)
5.	第1回進捗発表③	担当者は事前にレジュメを用意する。(9時間以上)
6.	第1回進捗発表④	担当者は事前にレジュメを用意する。(1(12時間以上)
7.	第1回進捗発表⑤	担当者は事前にレジュメを用意する。(15時間以上)
8.	予備日	
9.	第2回進捗発表①	担当者は事前にレジュメを用意する。(15時間以上)
10.	第2回進捗発表②	担当者は事前にレジュメを用意する。(15時間以上)
11.	第2回進捗発表③	担当者は事前にレジュメを用意する。(15時間以上)
12.	第2回進捗発表④	担当者は事前にレジュメかスライドを用意する。(15時間以上)
13.	第2回進捗発表⑤	担当者は事前にレジュメを用意する。(15時間以上)
14.	夏休みの研究計画報告①	夏休みにやるべきことを具体的に考えて計画をレジュメかスライドにまとめる。(2時間)
15.	夏休みの研究計画報告②	夏休みにやるべきことを具体的に考えて計画をレジュメかスライドにまとめる。(2時間)
16.	中間報告会①	今までの研究成果をまとめたデータとレジュメまたはスライドを用意する。(20時間以上)
17.	中間報告会②	今までの研究成果をまとめたデータとレジュメまたはスライドを用意する。報告が済んだ人は執筆にとりかかる。(20時間)
18.	中間報告会③	今までの研究成果をまとめたデータとレジュメまたはスライドを用意する。報告が済んだ人は執筆にとりかかる。(20時間)
19.	卒論作成に向けて	各自執筆を進めて、途中経過をマナビーまたは共有ファイルにアップしておく。
20.	文章表現指導①	各自執筆を進め、途中経過をマナビーまたは共有ファイルにアップしておく。(20時間)
21.	文章表現指導②	各自執筆を進め、途中経過をマナビーまたは共有ファイルにアップしておく。(20時間)
22.	最終発表会①	第一稿を完成させ、マナビーまたは共有ファイルにアップしておくこと。(20時間)
23.	文章表現指導③	各自執筆を進め、途中経過をマナビーまたは共有ファイルにアップしておくこと。(20時間)
24.	最終発表会②	各自文章の推敲を進め、第二稿をマナビーまたは共有ファイルにアップしておくこと(20時間)
25.	個別指導	ゼミ生同士で協力しあい、点検推敲を進める。
26.	卒業論文反省会	未定。受講者と相談。
27.	卒業論文反省会	未定。受講者と相談。
28.	卒業論文反省会	未定。受講者と相談。
29.	ゼミ内卒論発表会①	発表用のスライドを準備する。
30.	ゼミ内卒論発表会②	発表用のスライドを準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 指示を待つのではなく問題解決に向けて主体的にとりくむこと。

フィードバックの方法: Eメールによるおよびマナビーによる。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業論文	75%	学科が定める論文の必要要件を満たしている。自ら設定した課題に対する探求の過程とそこから導かれた考察の結果をわかりやすく説得力のある文章を用いて論述できている。

中間報告

25%

定められた中間報告の機会において、教員の指示を待つのではなく自らの課題の解決に向けて主体的に考え、その過程とその時点での問題点を資料にまとめた上で口頭で報告し、他の受講者や教員とのディスカッションを通して自らの研究にフィードバックすることができる。(担当日に報告ができない場合は、必ず事前連絡を行い、日程を変更して規定の報告を行うこと。)

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメールまたはマネージャーによる

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語の音声・文法・語彙・言語生活・言語行動などに関する卒業論文を執筆する。

授業の概要: ゼミ生が取り組む卒業論文について、助言および指導をする。

到達目標: ①自らが関心を寄せるテーマを深めるために、先行研究を読み解き、問題の所在を明確にする。
②問題解決に向け、自らデータを収集し、整理し、分析する。
③論理的かつ、わかりやすく文章および口頭で表現することを目標とする。

授業方法: ゼミ生による報告および質疑応答、討論をおこなう。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	
2. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
3. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
4. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
5. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
6. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
7. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
8. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
9. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
10. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
11. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
12. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
13. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
14. ゼミ生による報告、質疑応答、討論	指示された課題に取り組む。60分以上
15. 春学期のまとめと今後の取り組みについて	指示された課題に取り組む。60分以上
16. ゼミ生による草稿の報告	指示された課題に取り組む。60分以上
17. ゼミ生による草稿の報告	指示された課題に取り組む。60分以上
18. ゼミ生による草稿の報告	指示された課題に取り組む。60分以上
19. ゼミ生による草稿の報告	指示された課題に取り組む。60分以上
20. ゼミ生による草稿の報告	指示された課題に取り組む。60分以上
21. ゼミ生による草稿の報告	指示された課題に取り組む。60分以上
22. ゼミ生による草稿の報告	指示された課題に取り組む。60分以上
23. ゼミ生による草稿の報告	指示された課題に取り組む。60分以上
24. ゼミ生による草稿の報告	指示された課題に取り組む。60分以上
25. ゼミ生による草稿の報告	指示された課題に取り組む。60分以上
26. 各章の校正・点検	指示された課題に取り組む。60分以上
27. 資料の点検と各章の再検討	指示された課題に取り組む。60分以上
28. 論文全体の見直し・注・参考文献の確認	指示された課題に取り組む。60分以上
29. 提出にむけた最終確認	指示された課題に取り組む。60分以上
30. ふりかえり	指示された課題に取り組む。60分以上

受講者へのメッセージやアドバイス: 4年間の修学成果として、関心あるテーマに果敢に取り組み「日本語学」の楽しさや奥行き、広さを感じて欲しいと思っています。また同じゼミで卒業論文に取り組むゼミ生の報告にも積極的に関わること、ともに学び、ともに考えるような時間になることを望んでいます。

フィードバックの方法: 適宜、進捗状況に応じて個別に、また全体に対応します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	進捗状況の報告	50	到達目標による。
	報告へのコメント	50	論理的で、わかりやすく、適切なコメントであるかを評価の基準とする。

教科書:

参考文献等: 適宜、指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: E-mail、面談。

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語または日本語による言語行動(表記行動をふくむ)を対象とする卒業論文の執筆

授業の概要: 卒業研究の進捗状況を報告する。

到達目標: ①問題の設定ができる。
②実証的かつ論理的に、思考し表現することができる。

授業方法: ゼミ生による報告、質疑応答を中心とする。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	なし。
2. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
3. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
4. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
5. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
6. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
7. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
8. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
9. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
10. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
11. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
12. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
13. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
14. 報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
15. 春学期のふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上。
16. 草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
17. 草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
18. 草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
19. 草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
20. 草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
21. 草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
22. 草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
23. 草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
24. 草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
25. 草稿の報告	指示された課題にとりくむ。60分以上。
26. ふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上。
27. ふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上。
28. ふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上。
29. ふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上。
30. ふりかえり	指示された課題にとりくむ。60分以上。

受講者へのメッセージやアドバイス: ゼミ仲間とともに4年間の集大成にチャレンジしましょう。他人のテーマもわがテーマとおもって授業に参加してください。どうしても欠席せざるをえない場合であっても無届欠席は言語道断です。

フィードバックの方法: 適宜、個別にまたは全体に対応します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	進捗状況の報告	50	到達目標によります。
	報告へのコメント	50	わかりやすい日本語による適切なコメントができているかが重視されます。

教科書: なし。

参考文献等: 適宜、指示。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール、マネビー、面談。

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けての取り組み

授業の概要: 各自で研究テーマを設定し、資料を収集・調査した上で十分な考察を加え、卒業研究を行う。

到達目標: 卒業論文を作成すること

授業方法: 前半3回は教師が講義を行う。その後は、個人指導とする。ただし、全員が出席するクラス授業として、夏休みの前後2回、中間発表を行う。毎回の学外学習時間は3時間程度とするが、当然のことながら研究に当たっては継続的な自律学習が求められる。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 1	レジメを読んでおく。学外学習時間3時間。
2. 卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 2	各自のテーマをもとに、基本的事項を確認する。学外学習時間3時間。
3. 卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 3	各自のテーマをもとに、基本的事項を確認する。学外学習時間3時間。
4. 個人指導 1	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
5. 個人指導 2	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
6. 個人指導 3	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
7. 中間発表 1	中間発表1の準備をする。学外学習時間5時間。
8. 中間発表 2	中間発表2の準備をする。学外学習時間5時間。
9. 個人指導 4	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
10. 個人指導 5	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
11. 個人指導 6	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
12. 個人指導 7	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
13. 個人指導 8	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
14. 個人指導 9	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
15. 個人指導 10	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
16. 中間発表 3	中間発表3の準備をする。学外学習時間5時間。
17. 個人指導 11	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
18. 個人指導 12	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
19. 個人指導 13	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
20. 個人指導 14	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
21. 個人指導 15	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
22. 個人指導 16	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
23. 個人指導 17	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
24. 個人指導 18	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
25. 個人指導 19	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
26. 個人指導 20	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。

27. 個人指導 21 卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
28. 個人指導 22 卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。学外学習時間3時間。
29. 振り返り 1 卒業研究の過程を成果を内省する。学外学習時間5時間。
30. 振り返り 2 卒業研究の過程を成果を内省する。学外学習時間5時間。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

卒業研究は、4年間の学業の華である。自分自身が大学でどういうことに興味を持ち、それをどう学んだか、その学びの成果を自分自身でどう組み立てたかが問われる。そのことを、十二分に心得ること。そういう意味で卒業研究の具体的な果実である卒業論文は自分で自分に課す課題で、自分で評価すべきものがある。言われたから出すようなものではない。まして、ちょっと長めのレポートなどではないし出せば通るといものでももちろんない。

フィードバックの
方法:

個人指導を通して、フィードバックする。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究態度	100%	以下の3点を等分に評価する。 ①研究動機追及の真摯さ 他からの受け売りや思い付きなどではなく、いかに自らの問題意識に突き動かされてそのテーマを研究しようと思ったか。 ②研究遂行における自己管理 研究を遂行するために、いかに予定を立て実行したか。また、予定通り実行できなかったときに、いかに軌道修正をしたか。 ③授業態度 中間発表内容及び個人指導から見て、いかに自分の課題として卒業研究に取り組んでいるか。 注 個人指導が5回に満たない者は不合格とする。

教科書: マナビーで指示する。

参考文献等: 都度、指示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: 以下のアドレスを使用すること。
kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に向けて取り組む授業

授業の概要: 4年間の勉学の集大成として、自ら研究課題を設定して資料を収集し、十分な分析・考察を加えて、それを卒業論文として仕上げていきます。
開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を教員に報告し、指導を受けることを要します。

到達目標: 自らが設定した問題について追究し、自らの考えを構築し発信する作業である卒業研究という主体的学習活動を通じ、以下の能力や態度を養うことを到達目標とします。
①自ら問題を設定し、それらの問題を解決するために必要な情報を収集、整理し、実証的、論理的、多角的に物事を考えることができる。
②論理的に思考し、その結果を適正な日本語を用いて分かりやすく伝えることができる。
③異なる文化・言語を背景に持つ人の視点等、多角的な視点から日本語・日本文化に迫り、理解を深めると同時に、異文化への柔軟な態度や社会貢献の姿勢をもはぐくむ。
④自分の考えを持ち、自分を表現できる真の国際人としての態度を培う。
⑤生涯にわたって学び、真理探求することで今後の自己形成につなげていくことができる態度を培う。

授業方法: 研究方法や論文執筆に関する講義のほか、各自の卒業研究に関する発表および討論・助言、個別の執筆指導などの方法で進めます。
卒業論文は指導教官の指導を受けながら進めるものです。発表やレポート課題、個人指導等による指導を受けずに卒業論文を提出することは認めません。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション、進捗状況の報告	3年次末に完成させた研究計画書、および、春休み中に進めた研究内容のまとめを報告・提出できる準備をしておく。(30分)
2. 卒業論文の構成、文章作法	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。(30分)
3. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。序論や調査の概要(研究方法)を書き進める。(30分)
4. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。(30分)
5. パソコンを使って、序論・調査の概要(研究方法)の章を書き進める。	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを参照しながら、書き進める。(30分)
6. 発表	各自研究を進める。発表担当者は準備を行う。(1時間)
7. 発表	各自研究を進める。発表担当者は準備を行う。(1時間)
8. 発表	各自研究を進める。発表担当者は準備を行う。(1時間)
9. 発表	各自研究を進める。発表担当者は準備を行う。(1時間)
10. 発表	各自研究を進める。発表担当者は準備を行う。(1時間)
11. まとめ	ここまでの作業の振り返りを行い、研究を進めるに当たっての課題・解決方法を整理する。(1時間)
12. 先行研究の章を書く。	各自研究・レポート作成を進める。(1時間)
13. 先行研究の章を書く。	各自研究・レポート作成を進める。(1時間)
14. 先行研究の章を書く。	各自研究・レポート作成を進める。(1時間)
15. 序論、調査の概要(研究方法)、先行研究の各章の下書きを完成させる。	各自研究・レポート作成を進める。(1時間)
16. 中間発表	各自研究・執筆を進める。発表担当者は、発表準備を行う。(1時間)
17. 中間発表	各自研究・執筆を進める。発表担当者は、発表準備を行う。(1時間)
18. 中間発表	各自研究・執筆を進める。発表担当者は、発表準備を行う。(1時間)
19. 中間発表	各自研究・執筆を進める。発表担当者は、発表準備を行う。(1時間)
20. 個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
21. 個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
22. 個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
23. 個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
24. 個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
25. 個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
26. 個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
27. 個人指導	各自研究・執筆を進める。(1時間程度)
28. ふりかえり	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。(1時間程度)
29. ふりかえり	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。(30分)
30. ふりかえりと総評	自己の卒業論文の取り組みのふりかえりを書き、提出する準備をする。(30分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

・ゼミでの発表の際は、自身の研究の単なる経過報告に止まらず、他者の意見が聞きたい点・議論したい点も明確に示すことで、ゼミの場が活かされます。十分な準備をして臨みましょう。
・ゼミは発表者以外の人が積極的に質問・コメントすることで真に意味ある場となります。全員の主体的参加を求めます。
・卒論と就職活動や進学準備との両立はなかなか大変ですが、緩急はつけながらも手を止めず、こつこつと研究を進めるよう

にしましょう。

・問題にぶち当たるなどした際は、指導教員に自発的に相談してください。

フィードバックの方法:

授業のほか、必要に応じてマナビーのコースニュースやメールや面談でフィードバックを行います。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表および課題提出	80	出席状況ならびに発表、レポート課題の提出、授業への参加度等を総合的に考慮して評価する。
授業への参加度	20	出席状況、授業への積極的な参加態度

教科書:

参考文献等:

授業や配布資料、個人指導のなかで紹介します。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

メール: yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp
研究室: D210

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業研究

授業の概要: 毎回の課題や春・秋学期に行う報告を重ね、調査、論述、報告の技能を磨く。

到達目標: 問を設定し、答えを導く。卒業論文執筆に必要な調査、論述、報告の技能を磨き、卒業論文を提出する。

授業方法: 演習

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入: 関心や問題意識を共有する	前年度の演習の経験を元に、卒業論文の問を説明できるようにしておく。課題に答える。(60分)
2.	練習1: 章立てを行う	章立てを正確に行う。課題に答える。(100分)
3.	練習2: 引用する	引用を正確に行う。課題に答える。(120分)
4.	練習3: 注、文献リストを記す	注、文献リストを正確に記す。課題に答える。(120分)
5.	練習4: 方法を定め、計画を立てる	研究の方法を定め、今後の計画を立てる。課題に答える。(120分)
6.	練習5: 卒業論文フォーマットを作る	卒業論文フォーマットを正確に作成する。課題に答える。(120分)
7.	調査・報告1: 調査を進め報告する	第5回で設定した方法に基づき、図書館や資料室その他調査先で調査を進める。成果を報告する準備を進める。課題に答える。(180分)
8.	調査・報告2: 調査を進め報告する	第5回で設定した方法に基づき、図書館や資料室その他調査先で調査を進める。成果を報告する準備を進める。課題に答える。(180分)
9.	調査・報告3: 調査を進め報告する	第5回で設定した方法に基づき、図書館や資料室その他調査先で調査を進める。成果を報告する準備を進める。課題に答える。(180分)
10.	研究1: 卒業論文下書を提出する	これまでの成果を卒業論文フォーマットにまとめ、卒業論文下書として提出する。課題に答える。(180分)
11.	研究2: 下書にコメントする	各自の下書を参照しコメントする。課題に答える。(180分)
12.	研究3: 近年の研究から方法を学ぶ	近年の研究から研究の方法を学ぶ。執筆を進める。課題に答える。(180分)
13.	研究4: 卒業論文下書を提出する	これまでの学習、調査を踏まえ、卒業論文下書を提出する。課題に答える。(180分)
14.	研究5: 努力したことをまとめる	これまでを振り返り、努力したことをまとめる。課題に答える。(180分)
15.	総括: 方法を定め、計画を立てる	これまでを振り返り、今後の執筆計画を立てる。課題に答える。(180分)
16.	導入: 執筆状況を報告する	現在の執筆状況、今後の執筆計画を説明できるようにしておく。課題に答える。(60分)
17.	調査・報告1: 研究を進め報告する	研究を進め、考察を深める。課題に答える。(180分)
18.	調査・報告2: 研究を進め報告する	研究を進め、考察を深める。課題に答える。(180分)
19.	調査・報告3: 研究を進め報告する	研究を進め、考察を深める。課題に答える。(180分)
20.	研究1: 卒業論文下書を提出する	研究を進め、考察を深める。課題に答える。(180分)
21.	研究2: 適切な体裁を確認する	研究を進め、考察を深める。課題に答える。(180分)
22.	研究3: 適切な表記を確認する	研究を進め、考察を深める。課題に答える。(240分)
23.	研究4: 卒業論文題目を再考する	研究を進め、考察を深める。課題に答える。(240分)
24.	研究5: 引用の方法を確認する	研究を進め、考察を深める。課題に答える。(240分)
25.	研究6: 章立てを再考する	研究を進め、考察を深める。課題に答える。(240分)
26.	研究7: 今後の計画を報告する	研究を進め、考察を深める。課題に答える。(240分)
27.	研究8: 要旨を報告する	卒業論文の問、答えを報告する。クラスでの議論に参加する。完成に向けて全体および細部を整える。課題に答える。(300分)
28.	研究9: 要旨を報告する	卒業論文の問、答えを報告する。クラスでの議論に参加する。完成に向けて全体および細部を整える。課題に答える。(300分)
29.	研究10: 要旨を報告する	卒業論文の問、答えを報告する。クラスでの議論に参加する。完成に向けて全体および細部を整える。課題に答える。(300分)
30.	総括: これまでを振り返る	これまでを振り返り、研究の成果を確認する。課題に答える。(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 各回の内容を理解し、課題を期限までに提出することで、計画的に卒業論文を執筆できるよう予定を組んでいます。ひとつひとつ着実にこなしていきましょう。報告の具体的な日程や方法は初回授業時に確認します。

フィードバックの方法: 初回授業時に指示する。以下を組み合わせ実施する。

- ・マナビーでの指導
- ・クラスでの指導

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文への取り組み	100	出席状況、授業への参加度、課題提出状況など、卒業論文完成に向けた姿勢、努力を総合的にみる。

教科書: 初回授業時に指示する。論文の書き方、資料の探し方をまとめた書籍は各自の関心や希望に応じて読んでおくことを勧める。ただし、論文の体裁、表記は、本学科「卒業論文作成ガイド」や本ゼミでの指導に即したものとす。

参考文献等： 初回授業時に指示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 分析力／Analytical ability, 思考力／Thinking power, プレゼンテーション力／Presentation skill, コミュニケーション力／Communication skill, 思いやる力／Capacity for compassion, 変化対応力／Responding to change, 自己管理力／Self-managerial power, 自己実現力／Ability of self-realization

教員との連絡
方法： 初回授業時に指示する。

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文の執筆

授業の概要: 各自が研究課題を設定し、資料を収集し、十分な考察を加えて、卒業論文を執筆する。春学期は、各自の個別発表と論文の書き方の修得を中心とする演習形式、秋学期は個別指導を中心とするが、定期的に各自の研究の進展状況を発表する機会を設ける。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこと。

到達目標: 論文執筆を通して、適切な情報収集と分析の力を身につけることができる。研究テーマの考察をふまえ、論理的な文章を書くことができる。論文の完成を目指して、自己スケジュールを管理することができる。

授業方法: 学生の発表、議論と個別指導を中心とする。授業外にも随時指導を受けることができる

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要の説明	なし
2.	個別発表などのスケジュール調整	卒業論文完成に向け、各自計画を立てる。(30分)
3.	個別発表と議論(1回目)	研究テーマについて各自発表の用意を進める。(45分)
4.	個別発表と議論(1回目)	研究テーマについて各自発表の用意を進める。(45分)
5.	個別発表と議論(1回目)	研究テーマについて各自発表の用意を進める。(45分)
6.	個別発表と議論(1回目)	研究テーマについて各自発表の用意を進める。(45分)
7.	個別発表と議論(1回目)	研究テーマについて各自発表の用意を進める。(45分)
8.	テーマへの向き合い方を考える—資料収集講座・文献目録の作成と先行研究の検討	1回目発表をふまえて、あらためて資料収集をする。また文献目録の作成をする。(45分)
9.	テーマへの向き合い方を考える—資料収集講座・文献目録の作成と先行研究の検討	1回目発表をふまえて、あらためて資料収集をする。また文献目録の作成をする。(45分)
10.	テーマへの向き合い方を考える—資料収集講座・文献目録の作成と先行研究の検討	1回目発表をふまえて、あらためて資料収集をする。また文献目録の作成をする。(45分)
11.	テーマへの向き合い方を考える—資料収集講座・文献目録の作成と先行研究の検討	1回目発表をふまえて、あらためて資料収集をする。また文献目録の作成をする。(45分)
12.	テーマへの向き合い方を考える—資料収集講座・文献目録の作成と先行研究の検討	1回目発表をふまえて、あらためて資料収集をする。また文献目録の作成をする。(45分)
13.	卒論のケーススタディ(1)	ケーススタディの論文を検討し、自らの論文執筆に活かす。(45分)
14.	卒論のケーススタディ(2)	ケーススタディの論文を検討し、自らの論文執筆に活かす。(45分)
15.	卒論のケーススタディ(3)	ケーススタディの論文を検討し、自らの論文執筆に活かす。(45分)
16.	個別発表と議論(2回目 夏期休暇の成果の報告)	論文の書式などに留意しながら資料を作成する。(45分)
17.	個別発表と議論(2回目 夏期休暇の成果の報告)	論文の書式などに留意しながら資料を作成する。(45分)
18.	個別発表と議論(2回目 夏期休暇の成果の報告)	論文の書式などに留意しながら資料を作成する。(45分)
19.	個別発表と議論(2回目 夏期休暇の成果の報告)	論文の書式などに留意しながら資料を作成する。(45分)
20.	個別発表と議論(2回目 夏期休暇の成果の報告)	論文の書式などに留意しながら資料を作成する。(45分)
21.	個別指導	研究テーマについて各自検討を進め、着実に原稿を執筆する。(1時間以上)
22.	個別指導	研究テーマについて各自検討を進め、着実に原稿を執筆する。(1時間以上)
23.	個別指導	研究テーマについて各自検討を進め、着実に原稿を執筆する。(1時間以上)
24.	提出のための点検と指導	要旨の作成や書式の確認、図版の整備をしておく。(45分)
25.	提出のための点検と指導	要旨の作成や書式の確認、図版の整備をしておく。(45分)
26.	提出のための点検と指導	要旨の作成や書式の確認、図版の整備をしておく。(45分)
27.	論文執筆後のふりかえりと展望	各自の論文を読み直しておく。(45分)
28.	論文執筆後のふりかえりと展望	各自の論文を読み直しておく。(45分)
29.	論文の講評	なし
30.	まとめ	なし

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業や卒論に関する情報はすべてマナビーを通じて連絡します。気持ちに余裕をもって進められるよう、一つずつ段階をクリアしていきましょう。

フィードバックの方法: 質問や疑問については、授業時間後、あるいはオフィスアワーの時間を中心に受け付ける。提出課題については授業時にコメントするか、マナビーを通じてコメントをする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文への取り組み	100	卒業論文作成への取り組みの度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: メールアドレス: nmiyakos@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文作成に取り組む

授業の概要: 各人の問題意識に基づいた卒業論文を作成する

到達目標: 四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成します。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要します。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととします。

授業方法: 個人発表、個人指導、執筆過程における添削指導

「授業内容」
および
「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	ポスターセッションを振り返り、卒業論文の構想を練る
2. 個別面談1	ポスターセッションを振り返り、卒業論文の構想を練る
3. 個別面談2	ポスターセッションを振り返り、卒業論文の構想を練る
4. 個別面談3	ポスターセッションを振り返り、卒業論文の構想を練る
5. 個別面談4	ポスターセッションを振り返り、卒業論文の構想を練る
6. 個別指導1	個別面談を踏まえて調査を行い、進捗状況を報告する
7. 個別指導2	個別面談を踏まえて調査を行い、進捗状況を報告する
8. 個別指導3	個別面談を踏まえて調査を行い、進捗状況を報告する
9. 中間発表1	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ねる
10. 中間発表2	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ねる
11. 中間発表3	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ねる
12. 中間発表4	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ねる
13. 中間発表5	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ねる
14. 中間発表6	個別指導を踏まえて、調査、考察を重ねる
15. 春学期総括	中間報告をふまえ、個々人が夏休みに行くことを共有する
16. 論文の書式・文体について	これまでの取り組みを踏まえて卒業論文を下書きし、持参する
17. 個別指導7	個別面談・中間報告を踏まえて調査、考察を重ね、進捗状況を報告する
18. 個別指導8	個別面談・中間報告を踏まえて調査、考察を重ね、進捗状況を報告する
19. 個別指導9	個別面談・中間報告を踏まえて調査、考察を重ね、進捗状況を報告する
20. 個別指導10	個別面談・中間報告を踏まえて調査、考察を重ね、進捗状況を報告する
21. 個別指導11	個別面談・中間報告を踏まえて調査、考察を重ね、進捗状況を報告する
22. 論文相互添削1	各人が原稿を印刷して持参しペアを組んで相互添削する
23. 論文相互添削2	各人が原稿を印刷して持参しペアを組んで相互添削する
24. 個別指導12	11月中旬にプレ論文をマナビーで提出する
25. 個別指導13	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する
26. 個別指導14	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する
27. 振り返り	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する
28. 振り返り	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する
29. 振り返り	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する
30. 振り返り	個別面談・中間報告・相互添削を踏まえて推敲し、進捗状況を報告する

受講者への
メッセージや
アドバイス:★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください。

なお、シラバスは、履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

フィードバックの
方法:

個別指導の中でコメントします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	30	授業への参加。教員の個別指導への応答。執筆途中の論文をこまめに送ってくるのが望ましい。
相互添削への参加	30	文意の通じない箇所や体裁上のケアレスミスを指摘できるかどうかを評価します。
中間発表	40	中間発表の時点における完成度を総合的に考慮して評価します。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的な
能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

メール、マナビー、Teamsを通してこまめに連絡を取って進めてゆきましょう。

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文の完成

授業の概要: 「卒業研究」に準じる

到達目標: 卒業論文の完成を通じ、自律的な問題解決の態度と思考力を身につける

授業方法: 担当教員の指導を受け、卒業論文を完成させ提出する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	なし	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 「卒業研究」に準じる

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合
卒業論文	100%

評価基準

「卒業研究」の合格を必要条件とし、主査及び副査により下記の点を審査して評価する。卒業論文は、担当教員より十分な指導を受け、所定の期限内に提出されたものでなければならない。

(1) 卒業論文の完成度。
(2) 卒業論文の書式等が「卒業論文作成ガイド」(学科で配布)に準拠していること。

※卒業論文は、原則として、論文形式で提出する。ただし、分野やテーマの特性上、論文形式になじまない場合は、指導教員の許可と学科主任の承認を受けて、論文相当の成果物を提出することができる。

教科書: なし

参考文献等: 担当教員の指示による

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法: 「卒業研究」の授業

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語の社会言語学的研究

授業の概要: 社会言語学に関する最新の論文を読み、研究の動向を知ると同時に、論文の読み方を学び、レビューの作成をする。

到達目標: ①日本語を対象とした社会言語学に関する研究の流れや特徴を知る。(知識・理解)
②社会言語学について関心をもち、説明できるようにする(関心・意欲・態度)
③日本語の社会言語学現に関する論文のサマリーを簡潔にまとめることができる。(表現・技能)

授業方法: 講義とディスカッションを中心に進める。説明を聞いた上で、各自が担当する論文を精読してきた上で要約して説明し、その内容についてディスカッションを行う

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業ガイダンス・担当決め	特になし
2. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
3. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
4. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
5. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
6. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
7. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
8. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
9. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
10. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
11. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
12. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
13. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
14. 春学期講読分のまとめ1	特になし
15. 春学期講読分のまとめ2	特になし
16. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
17. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
18. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
19. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
20. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
21. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
22. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
23. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
24. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
25. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
26. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくること。(15分)
27. 秋学期講読分のまとめ	特になし
28. レポート執筆に関する指導	レポートの下書きを準備
29. レポート執筆に関する指導	修正したレポートの下書きを準備
30. 年間講読分のまとめ	修正したレポートの下書きを準備

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業の順序および扱う資料は受講生と相談の上変更する場合があります。受講生の希望に応じ、課外の合宿等を行うことを想定しています。ゼミの運営に関しては、各自が積極的に希望を述べて協力することを望みます。

フィードバックの方法: 適宜、進捗状況に応じて個別に、また全体に対応します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加と貢献度	50	各授業の発表や質疑応答により、到達目標①②の達成度を評価する。
レポート	50	レポートにより、到達目標③の達成度を評価する。

教科書:

参考文献等: 適宜、指示をする。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメールによる(アドレスは授業時に開示する)

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語指導の実際

授業の概要: 日本語教育初級段階及び中級段階における指導の実際とその課題について探求する。

到達目標: ①日本語教育初級段階において指導の実際を分析し、その知見をもとにあるべき指導の姿を探求できる能力の基礎を獲得すること
②日本語教育中級段階において指導の実際を分析し、その知見をもとにあるべき指導の姿を探求できる能力の基礎を獲得すること授業方法: 演習形式。
まず、初級段階の授業構造を解説し、それをもとに実際に行われた授業を分析しその課題と課題を考慮した上でのあるべき姿を検討する。中級段階においても同様に行う。「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 修士課程で学ぶことに関してのオリエンテーション	レジメを読んでおく。
2. 日本語教育初級段階の授業構造を理解する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
3. 日本語教育初級段階の授業構造を理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
4. 日本語教育初級段階の授業構造を理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
5. 日本語教育初級段階の授業構造を理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
6. 日本語教育初級段階の授業構造を理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
7. 日本語教育初級段階の授業を分析する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
8. 日本語教育初級段階の授業を分析する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
9. 日本語教育初級段階の授業を分析する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
10. 日本語教育初級段階の授業を分析する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
11. 日本語教育初級段階の授業を分析する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
12. 日本語教育初級段階の授業を分析する。 6	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
13. 日本語教育初級段階の授業を分析する。 7	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
14. 日本語教育初級段階の授業を分析する。 8	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
15. 日本語教育初級段階の授業を分析する。 9	まとめ。これまでの発表の内容を振り返っておく。想定学外 学習時間 60分以上。
16. 日本語教育中級段階の授業構造を理解する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
17. 日本語教育中級段階の授業構造を理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
18. 日本語教育中級段階の授業構造を理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
19. 日本語教育中級段階の授業構造を理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
20. 日本語教育中級段階の授業構造を理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
21. 日本語教育中級段階の授業を分析する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
22. 日本語教育中級段階の授業を分析する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
23. 日本語教育中級段階の授業を分析する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
24. 日本語教育中級段階の授業を分析する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
25. 日本語教育中級段階の授業を分析する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
26. 日本語教育中級段階の授業を分析する。 6	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
27. 日本語教育中級段階の授業を分析する。 7	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
28. 日本語教育中級段階の授業を分析する。 8	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
29. 日本語教育中級段階の授業を分析する。 9	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。 想定学外学習時間 60分以上。
30. 日本語教育中級段階の授業を分析する。 10	まとめ。これまでの発表の内容を振り返っておく。想定学外 学習時間 60分以上。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法： 授業中並びに前後に対応する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合
授業への積極的な参加度	50%
発表	50%

評価基準

教師への質疑応答並びに発表者への質疑応答などを通して、到達目標①・②がいかに達成されたかを評価する。ただし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は不可とする。
発表内容とその仕方を、①・②の観点から評価する。

教科書： マナビー参照のこと。

参考文献等： 都度、指示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

以下のアドレス使用すること。
kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 中近世移行期の絵巻の研究及び絵巻を用いた文化研究

授業の概要: 本授業では、15世紀から17世紀初頭の絵巻への取り組みを通して、絵画表象や視覚表象研究のための基礎力を身につけることを目標とする。絵巻諸本掌握やテキストの検討などの資料を理解するための手法修得と、絵巻研究および隣接領域の批判的読解、各自のテーマにそくした文化研究という三つの柱で進めていく。

到達目標: 各自の研究をすすめるための絵巻資料の扱いができるようになる。近年の多様な文化研究の動向を絵画表象および視覚表象研究を基軸に理解し、自らの研究テーマの深化に活かすことができるようになる。

授業方法: 演習形式を基本とするが必要に応じて学外の資料所蔵機関で調査も実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要の説明	なし。
2.	講読論文および読解資料の選択	なし。
3.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくる。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間以上)
4.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくる。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間以上)
5.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間以上)
6.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間以上)
7.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間以上)
8.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくる。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間以上)
9.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくる。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
10.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間以上)
11.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間以上)
12.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間以上)
13.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間以上)
14.	各自の研究テーマ報告	発表の用意を進める。(1時間以上)
15.	春期のまとめ	これまでの授業をふりかえり、自らの課題を把握する。(1時間以上)
16.	スケジュールの確認と講読論文および読解資料の選択	なし。
17.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくる。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間)
18.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくる。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間以上)
19.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間以上)
20.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間以上)
21.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間以上)
22.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくる。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間以上)
23.	絵巻・絵画・視覚表象論の講読	配付論文を事前に読み、課題を行ってくる。また授業後も、各自で自主的な調査・検討を行う。(1時間以上)
24.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間以上)
25.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間以上)
26.	中近世移行期の絵巻読解	中近世移行期の絵巻の検討をする。(1時間以上)
27.	文献調査	事前に調査予定古典籍の情報収集をする。(1時間以上)
28.	各自の研究テーマに基づく論文講読	各自の研究テーマで重要な論文を紹介し、自らの研究視座を明らかにする。(1時間以上)
29.	各自の研究テーマ報告	発表の用意を進める。(1時間以上)
30.	秋期のまとめ	これまでの授業をふりかえり、自らの課題を把握する。(1時間以上)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 質問や疑問については、授業時間後、あるいはオフィスアワーの時間を中心に受け付ける。提出課題については授業時にコメントするか、マナビ-を通じてコメントをする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	受講態度	50	出席状況ならびに授業への参加度を総合的に考慮して評価する。
	レポート	50	論理的な文章を書くことができているかで評価する。

教科書:

参考文献等: 仏教美術論集『様式論』竹林舎、2012年
 仏教美術論集『組織論』竹林舎、2016年
 仏教美術論集『機能論』竹林舎、2014年
 『論集・東洋日本美術史と現場』竹林舎、2012年
 『日本美術史の杜』竹林舎、2008年

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

メールアドレス: nmiyakos@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 音楽理論研究

授業の概要: 和声・対位法(フーガを含む)等の実習、および楽曲分析を各々の学生の進度に合わせ、授業を行う。

到達目標: 楽曲分析、および調性音楽理論による高度な音楽書法の修得を目標とする。
過去の名曲といわれる楽曲を分析することにより、作曲に対する技法や時代背景を研究する。
そしてその一助となる和声法や対位法を学習する。

授業方法: 基本としてグループレッスン形式にて行う。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

- | | 授業内容 |
|-----|-----------|
| 1. | 音楽理論研究 1 |
| 2. | 音楽理論研究 2 |
| 3. | 音楽理論研究 3 |
| 4. | 音楽理論研究 4 |
| 5. | 音楽理論研究 5 |
| 6. | 音楽理論研究 6 |
| 7. | 音楽理論研究 7 |
| 8. | 音楽理論研究 8 |
| 9. | 音楽理論研究 9 |
| 10. | 音楽理論研究 10 |
| 11. | 音楽理論研究 11 |
| 12. | 音楽理論研究 12 |
| 13. | 音楽理論研究 13 |
| 14. | 音楽理論研究 14 |
| 15. | 音楽理論研究 15 |
| 16. | 音楽理論研究 16 |
| 17. | 音楽理論研究 17 |
| 18. | 音楽理論研究 18 |
| 19. | 音楽理論研究 19 |
| 20. | 音楽理論研究 20 |
| 21. | 音楽理論研究 21 |
| 22. | 音楽理論研究 22 |
| 23. | 音楽理論研究 23 |
| 24. | 音楽理論研究 24 |
| 25. | 音楽理論研究 25 |
| 26. | 音楽理論研究 26 |
| 27. | 音楽理論研究 27 |
| 28. | 音楽理論研究 28 |
| 29. | 音楽理論研究 29 |
| 30. | 音楽理論研究 30 |

準備学習等の内容

大学で学んだ理論科目の復習(30~90分)
 前回の授業で与えられた課題の実践と復習(60分以上)
 前回の授業で与えられた課題の実践と復習(60分以上)

受講者へのメッセージやアドバイス: 大学で学んだ理論科目の知識および技術を基にした授業を行う。

フィードバックの方法: 適宜、予習及び復習を行わせる。
授業の復習としての宿題や、次回の授業の課題準備などを課す。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	50	課題の実践状況など
	レポート	50	実習した課題・作品の提出など

教科書: 適宜その都度指定する

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー 他

FLTナンバー:

授業テーマ: 音楽学研究

授業の概要: 英語による音楽文献を読む力を身に付けると共に、西洋音楽の作品研究を行う上で必要な方法論について学ぶことを目的として、László Somfai, The keyboard sonatas of Joseph Haydn : instruments and performance practice, genres and styles (University of Chicago Press, 1995)を講読する。

到達目標: 知識・理解: テキストの講読によって音楽学研究の方法論を学ぶ。
 関心・意欲・態度: 毎回の予習復習によって関心をもって学習する。
 表現・技能・能力: 学習によって得られた知識にもとづき自らの思考を構築する。

授業方法: 講読、議論

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内
 容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 導入	研究内容について予め考えておく
2. テキストの講読(序文)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
3. テキストの講読(第1章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
4. テキストの講読(第1章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
5. 序文、第1章のふりかえり	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
6. テキストの講読(第2章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
7. テキストの講読(第2章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
8. テキストの講読(第3章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
9. テキストの講読(第3章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
10. 第2章、第3章のふりかえり	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
11. テキストの講読(第4章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
12. テキストの講読(第4章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
13. テキストの講読(第5章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
14. テキストの講読(第5章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
15. 第4章、第5章のふりかえり	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
16. テキストの講読(第6章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
17. テキストの講読(第6章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
18. テキストの講読(第7章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
19. テキストの講読(第7章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
20. 第6章、第7章のふりかえり	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
21. テキストの講読(第8章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
22. テキストの講読(第8章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
23. テキストの講読(第9章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
24. テキストの講読(第9章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
25. 第8章、第9章のふりかえり	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
26. テキストの講読(第10章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
27. テキストの講読(第10章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
28. テキストの講読(第11章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
29. テキストの講読(第11章)	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)
30. 第10章、第11章のふりかえり まとめ	テキスト講読の予習・与えられた課題を行う(60分)

受講者への
 メッセージや
 アドバイス:

フィードバックの
 方法: 授業内で解説します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50	到達目標に達しているかどうかで評価する。
	授業への積極的参加	50	授業へ積極的に参加しているかどうかで評価する。

教科書: 特になし。コピーして配布します。

参考文献等: 適宜指示する。

獲得が期待される
 基礎的・汎用的能力: 分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 自己管理能力, 自己実現力

教員との連絡
 方法: E-mail:htsutsui@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 作曲家/演奏家の視点から見た声楽作品研究

授業の概要: ドイツ歌曲やオペラ等の声楽作品が作曲されるにあたり、作曲時の生活環境や心理状態が、作品に何らかの影響を及ぼしていると考えられる。それを演奏するにあたり、関係文献を精読、分析し、パフォーマーからの目で見たい解釈を進めていく。またプレゼンテーション時の声の出し方などにも役立つ発声法の研究も併用する。

到達目標: 1. 参考文献の精読による理解と解説力。
2. 歌詞の解釈と表現力。
3. 声の出し方。

授業方法: 授業開始にイタリア、ドイツ、日本の声楽作品から研究作品を決め、その時代の文献を精読し、授業内での発表と実演を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業説明と研究作品についての質疑応答。	授業開始までに自分であらかじめ研究作曲家を決めておく。(60)
2. 発声と歌唱(1) 声を出すこととは	発声についての準備はいらぬが、研究作曲家については文献の精読を開始しておく。 歌唱作品についての譜読み。(60)
3. 発声と歌唱(2) 発声の仕方と楽曲へのアプローチ	次週の発表についての準備。(60)
4. 作曲家研究発表 1	資料を作成し、配布できるように準備。(60)
5. 発声と歌唱(3) より煮詰めた歌唱	歌唱作品の音楽上の準備。(60)
6. 発声と歌唱(4)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
7. 発声と歌唱(5)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
8. 作曲家研究発表 2	資料作成と配布の準備。(60)
9. 発声と歌唱(6)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
10. 発声と歌唱(7)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
11. 発声と歌唱(8)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
12. 作曲家研究発表 3	資料作成と配布の準備。(60)
13. 発声と歌唱(9)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
14. 発声と歌唱(10)	歌唱と最終段階での資料まとめに入る。(60)
15. まとめ+α	資料作成と配布の準備。(60)
16. 春学期とは違うジャンルの作曲家研究。	歌曲かオペラ作品かを事前に決定しておくこと。(60)
17. 発声と歌唱(11) 発声について自分流を開発する。	歌唱に入れるように譜読みをしておく。(60)
18. 発声と歌唱(12)	声のトレーニング。(60)
19. 作曲家研究発表 4	資料作成と配布準備。(60)
20. 発声と歌唱(13)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
21. 発声と歌唱(14)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
22. 作曲家研究発表 5	資料作成と配布準備。(60)
23. 発声と歌唱(15)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
24. 発声と歌唱(16)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
25. 発声と歌唱(17)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
26. 作曲家研究発表 6	資料作成と配布準備。(60)
27. 発声と歌唱(18)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
28. 発声と歌唱(19)	平素より声を出すトレーニングをしておく。(60)
29. 発声と歌唱(20)	歌唱と最終段階での資料まとめに入る。(60)
30. 総括	資料作成と配布の準備。(60)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 発表毎に教室にて解説をします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	40%	研究レポートをもとに説明の仕方と質疑応答などの理解度を段階的に評価する。
授業への参加度	60%	演習の歌唱における発声と発音の到達度と、質疑応答の参加度を段階的に評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応。Eメール(tinoue@dwc.doshisha.ac.jp)

FLTナンバー:

授業テーマ: 芸術の哲学から文学を考える

授業の概要: 文学作品とは芸術だろうか。私たちが何かを文学作品と呼ぶとき、正確にはいったい何を指しているのだろうか。文学作品を論じるとはどのような営みなのか。傑作・駄作に客観的な基準はあるのだろうか。私たちが虚構の人物に同情したり怒りをおぼえたりするのはなぜだろうか。文学作品の中のジェンダー表象はなぜ問題になるのだろうか。この授業では文学研究に関わるこのような原理的な問題について、主に近年の分析美学の成果を参照しながら理解を深めることを目的とする。

到達目標: 1.文学作品と芸術の定義に関する主要な議論について説明できる
2.文学研究という営みを美学的観点から意味づけることができる
3.文学作品の特徴をフィクションの哲学の観点から説明することができる。

授業方法: 毎週、特定の文献を講読し、その内容について議論しながら理解を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス(授業の進め方、発表スケジュール)	
2. 文学作品は芸術か1 -芸術とはなにか-	配布資料をあらかじめ読んでおく
3. 文学作品は芸術か2 -芸術とはなにか-	配布資料をあらかじめ読んでおく
4. 文学作品は芸術か3 -芸術とはなにか-	配布資料をあらかじめ読んでおく
5. なにが文学作品か1 -作品の存在論-	配布資料をあらかじめ読んでおく
6. なにが文学作品か2 -作品の存在論-	配布資料をあらかじめ読んでおく
7. なにが文学作品か3 -作品の存在論-	配布資料をあらかじめ読んでおく
8. どのような文学作品を評価すべきか1 -芸術の批評-	配布資料をあらかじめ読んでおく
9. どのような文学作品を評価すべきか2 -芸術の批評-	配布資料をあらかじめ読んでおく
10. どのような文学作品を評価すべきか3 -芸術の批評-	配布資料をあらかじめ読んでおく
11. 作者の意図は重要か1 -芸術作品の解釈-	配布資料をあらかじめ読んでおく
12. 作者の意図は重要か2 -芸術作品の解釈-	配布資料をあらかじめ読んでおく
13. 作者の意図は重要か3 -芸術作品の解釈-	配布資料をあらかじめ読んでおく
14. 春学期のまとめ1	
15. 春学期のまとめ2	
16. 春学期の復習	
17. 文学とフィクション1 -フィクションとはなにか-	配布資料をあらかじめ読んでおく
18. 文学とフィクション2 -虚構世界と現実世界-	配布資料をあらかじめ読んでおく
19. 文学とフィクション3 -フィクションのパラドックス-	配布資料をあらかじめ読んでおく
20. 文学とフィクション4 -フィクションに価値はあるか-	配布資料をあらかじめ読んでおく
21. 文学作品のアダプテーション1 -コミック化-	配布資料をあらかじめ読んでおく
22. 文学作品のアダプテーション2 -アニメ化・映画化-	配布資料をあらかじめ読んでおく
23. 文学とマイノリティ1 -ジェンダーの問題-	配布資料をあらかじめ読んでおく
24. 文学とマイノリティ2 -レイシズムの問題-	配布資料をあらかじめ読んでおく
25. 文学に価値はあるか1	配布資料をあらかじめ読んでおく
26. 文学に価値はあるか2	配布資料をあらかじめ読んでおく
27. 文学に価値はあるか3	配布資料をあらかじめ読んでおく
28. 秋学期のまとめ1	
29. 秋学期のまとめ2	
30. 秋学期のまとめ3	

受講者へのメッセージやアドバイス: ★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！
受講人数にもよりますが、配付資料やより専門的な文献の内容を毎週読んでくる作業が課します。

フィードバックの方法: 授業中に発表に対してコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	報告・議論の内容	60	※欠席:1回…—5点、2回…—15点、3回…—30点、4回…—50点
	期末レポート	40	

教科書: 授業中にプリントを配布する。

参考文献等: 西村清和『現代アートの哲学』(産業図書、1995)
ロバート・ステッカー『分析美学入門』(森功次訳、勁草書房、2013)
ノエル・キャロル『批評について:芸術批評の哲学』(森功次訳、勁草書房、2017)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法: 学内メール:kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: すぐれた文学作品を精読する。

授業の概要: 受講生と話し合いの上、とりあげる作品を決定し、それを分析していく。

到達目標: 小説の言語は、一つの単純な辞書的な意味に還元できるものではなく、様々なイメージを喚起する強い力を持っている。それをじっくりと味わい、作品の世界を豊かに立ち上げることをめざす。

授業方法: 演習

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	打ち合わせ(春学期)	なし
2.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
3.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
4.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
5.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
6.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
7.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
8.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
9.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
10.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
11.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
12.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
13.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
14.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
15.	ふりかえり	なし
16.	打ち合わせ(秋学期)	なし
17.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
18.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
19.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
20.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
21.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
22.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
23.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
24.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
25.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
26.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
27.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
28.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
29.	受講生による作品研究	発表準備(180分)
30.	ふりかえり	なし

受講者への
メッセージや
アドバイス:フィードバックの
方法: 教室で解説する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表	50	到達目標の作品の世界を的確に分析できているかを評価する
	レポート	50	到達目標の作品の世界を的確に分析できているかを評価する

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力教員との連絡
方法: Eメール

FLTナンバー:

授業テーマ: 平安朝文学を読む

授業の概要: 平安朝文学、主に源氏物語を対象としてその作品分析を行う。本文をどのように読み、そこからどのように研究へ発展させるかということに関して、引用や特殊表現に注目し、また文学史的な展望の中で問題を掘り下げていく。

到達目標: 自立して研究ができるようになることをめざす。そのために研究法の確立、問題点を発見する力、論理の展開、結論への導き方などを体得することをめざす。あわせて学位論文の執筆。

授業方法: 演習、討議方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	発表の準備
2. 演習及び討議	発表の準備
3. 演習及び討議	発表の準備
4. 演習及び討議	発表の準備
5. 演習及び討議	発表の準備
6. 演習及び討議	発表の準備
7. 演習及び討議	発表の準備
8. 演習及び討議	発表の準備
9. 演習及び討議	発表の準備
10. 演習及び討議	発表の準備
11. 演習及び討議	発表の準備
12. 演習及び討議	発表の準備
13. 演習及び討議	発表の準備
14. 演習及び討議	発表の準備
15. 演習及び討議	発表の準備
16. 演習及び討議	発表の準備
17. 演習及び討議	発表の準備
18. 演習及び討議	発表の準備
19. 演習及び討議	発表の準備
20. 演習及び討議	発表の準備
21. 演習及び討議	発表の準備
22. 演習及び討議	発表の準備
23. 演習及び討議	発表の準備
24. 演習及び討議	発表の準備
25. 演習及び討議	発表の準備
26. 演習及び討議	発表の準備
27. 演習及び討議	発表の準備
28. 演習及び討議	発表の準備
29. 演習及び討議	発表の準備
30. 総括	論文執筆の準備

受講者へのメッセージやアドバイス: 学位取得をめざして頑張してほしい

フィードバックの方法: 口頭発表についてはそのつど意見・批判を行う。論文については質問・相談に応じ、草稿に朱をいれて完成にむけて修正を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート(論文)	100	論文の内容によって評価する

教科書: 特になし

参考文献等: 特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業時及び研究室にて対応。メールでも対応する。

FLTナンバー:

授業テーマ:

日本における一年の暮らしと芸能

授業の概要:

全国各地には様々な祭礼や芸能がある。祭や芸能は「〇〇祭」として、それだけを取り上げられることが多い。芸能それ自体の研究も重要であるが、一年間の行事・祭礼・芸能は、それぞれの地域の自然や生業と、密接な関係にある。本講では、一年を通しての、全国各地の人々のさまざまな暮らしや生産活動を取り上げ、それに関わる行事や祭礼に込められた人々の想いを追求していきたい。さらにそれらの生活の中で発生し、伝えられてきた祭礼や芸能と、芸能それ自体の発展、変容についても講じていきたい。また、日本全国の実例を知るために映像資料を多用する。

ただし、大学院生対象の講義であることから、受講生が少ない場合、その受講生の専門性と関わる民俗学の著作や論文をテキストにし、講読を行う場合もある。

到達目標:

(1)祭や芸能が単独で存在してきたわけではなく、人々の生活の中ではなくてきた民俗であることを確認できる。
 (2)学生諸氏にとっては、祭礼や芸能の中にとどめられている歴史性や文学性、あるいは宗教性や芸術性に気づき、専門との関わりを持たせることができる。

授業方法:

5:講義/演習の混合

「授業内容」

および
「準備学習等の内容」:

授業内容

1. ガイダンス:講義の進め方を説明する。受講生の人数と専門性を確認し、それによって、受講生の専門と関わりの深い書籍、論文の講読に変更することもあり得る。あるいは、春学期は講義形式にし、秋学期を講読にすることもあり得る。
2. マクロな視点から見た日本の地域:バリエーション豊富な自然と様々な言語・文化などから、日本の南北、日本の東西、農村と山村(水田耕作と焼き畑)、中央と地方(都市と農村)などの区分について概観する。
3. 日本の地域(その1):雪国の暮らし
4. 日本の地域(その2):南島の暮らし
5. 日本の地域(その3):山村の暮らし
6. 日本の地域(その4):漁村の暮らし
7. 日本の地域(その5):湖岸の暮らし
8. 日本の地域(その6):焼き畑をする暮らし
9. 日本の地域(その7):畑作民の暮らし
10. 日本の地域(その8):狩猟民の暮らし
11. 日本の地域(その9):水田耕作民の暮らし
12. 生業サイクルと四季の祭:冬から春の祭、夏の祭、秋の祭、それぞれが持つ意味を考える。
13. 冬から春の祭(予祝行事):愛知県花祭り、静岡県西浦田楽などの事例から
14. 夏の祭(厄払い行事 その1):京都祇園会の事例から
15. 夏の祭(厄払い行事 その2)と盆:京都やすらい花、夏越の祓、そして馬音内盆踊りなどから
16. 秋の祭(収穫感謝祭):熊本県球磨地方などの事例から
17. 都市の祭(その1):滋賀県長浜市曳山祭、福井県小浜祭などの事例から
18. 都市の祭(その2):大阪市天神祭、長崎くんちなどの事例から
19. 修験系行事:岩手県早池峰神楽、黒森神楽などの事例から
20. 神楽:京都市太田神社巫女舞、石清水八幡宮の御神楽などの事例から
21. 言祝ぐ行事:三河万歳、秋田万歳、佐渡の春駒などから漫才へ
22. 仏教行事(その1):当麻寺練供養、四天王寺の聖霊会などから
23. 仏教行事(その2 念仏・説経):京都市六歳念仏や空也堂踊躍念仏、節談説経などから
24. 芸能の展開の道筋:これまで見てきた芸能の流れを整理する。
25. 仏教行事(その3 教化の芝居):千葉県鬼来迎、京都市壬生狂言などから芝居へ
26. 唱える芸能:念仏、声明から歌へ
27. 語る芸能:青森のイタコ、そして説経節、義太夫、そして浪曲、落語
28. 歌う芸能:様々な民謡と歌
29. 見せる芸能:江戸期に展開した芝居文化

準備学習等の内容

- 自らの研究と民俗学の関わりがどのあたりにあるかを考えて文章にまとめてみる。(60分)
- 網野善彦『東と西の語る日本の歴史』など東西を論じる書籍に目を通してみる。(60分)
- 市川健夫『雪国の自然と暮らし』などに目を通してみる。(60分)
- 伊波普猷『をなり神の島 1』などに目を通してみる。(60分)
- 湯川洋司『変容する山村—民俗再考』などに目を通してみる。(60分)
- 山口徹『海的生活誌 一半島と島の暮らし』などに目を通してみる。(60分)
- 橋本鉄男『琵琶湖の民俗誌』、長谷川嘉和『近江の民具—滋賀県立琵琶湖博物館の収蔵品から』などに目を通してみる。(60分)
- 佐々木高明『日本の焼き畑』などに目を通してみる。(60分)
- 白石昭臣『畑作の民俗』などに目を通してみる。(60分)
- 山村民俗の会『狩猟 一狩りの民俗と山の動物誌』などに目を通してみる。(60分)
- 坪井洋文『稲を選んだ日本人』などに目を通してみる。(60分)
- 本田安次『日本の祭と芸能』などに目を通してみる。(60分)
- 早川孝太郎『花祭り』などに目を通してみる。(60分)
- 脇田晴子『中世京都と祇園祭—疫神と都市の生活』などに目を通してみる。(60分)
- 山路興造『京の歳時記 今むかし』などに目を通してみる。(60分)
- 三隅治雄『踊りの宇宙—日本の民族芸能』などに目を通してみる。(60分)
- 植木行宣、福原敏男『山・鉾・屋台行事—祭りを飾る民俗造形』などに目を通してみる。(60分)
- 米山俊直『天神祭—大阪の祭礼』などに目を通してみる。(60分)
- 宮古市教育委員会『黒森神楽(資料篇)—無形民俗文化財』などに目を通してみる。(60分)
- 本田安次『日本の民俗芸能(第1)神楽(1966年)』などに目を通してみる。(60分)
- 小沢昭一『芸人の肖像』などに目を通してみる。(60分)
- 中村元『仏教行事散策』などに目を通してみる。(60分)
- 五来重『仏教と民俗 仏教民俗入門』などに目を通してみる。(60分)
- 民俗学的視点で自らの研究を分析してみる。(60分)
- 梅原猛、西川 照子『壬生狂言の魅力—梅原猛の京都遍歴』などに目を通してみる。(60分)
- 五来重『踊り念仏』などに目を通してみる。(60分)
- 岩崎武夫『さんせう太夫考—中世の説経語り』などに目を通してみる。(60分)
- 町田嘉章、浅野建二『日本民謡集』などに目を通してみる。(60分)
- 服部幸雄『大いなる小屋 江戸歌舞伎の祝祭空間』などに目を通してみる。(60分)

30. 総括: 人の暮らしと芸能の関係を整理し、確認する。 身近な芸能を調査して、文章にまとめてみる。(120分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

このラインナップはあくまで目安であり、それぞれの専門性に関わる分野を拡大したり、あるいは専門性に合わせた著作、論文を読む形で講義を進めることも可能である。民俗学に興味のある学生から相談を受けた場合は臨機応変に対応したい。

フィードバックの
方法:

少人数であることが予想されるため、質問等には直接対応できると思われる。また、最終的なレポートは、返却の予定はないが、希望者にはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小論文	60	それぞれの専門性と関わらせて、民俗学を理解し、応用できているかどうかを、レポート内容によって評価する。
発言	40	講義時にどれだけ積極的に考え、発言したかを評価する。

教科書:

参考文献等:

準備学習等の内容に取り上げた書籍をはじめ、適宜紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、

教員との連絡
方法:

講義時に対応する。Eメールも可能。講義時にアドレスを伝える。

FLTナンバー:

授業テーマ: 天皇陵の考古学

授業の概要: かつて考古学は「狭義の歴史学(文献史学)の補助学」であるとか、「文献が残っていない時代だけを扱う学問」であるとか思われてきたけれども、近年の考古学の進展はそのようなとらえ方がすでに過去のものになったことを如実に語ってくれている。今や、考古学の成果を抜きにしては歴史を語ることはできないのである。この講義では、考古学とはどういう学問であり、また考古学が解き明かす歴史とはどのようなものであるかを、具体例に即して理解していただく。

到達目標: 考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ばりかたを理解する。また、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができるようにする。

授業方法: 本学の春学期の授業はすべて遠隔授業となった。この授業も春学期は、授業支援システム「マナビー」(主として「掲示板」「レポート」とYoutubeの動画を利用するものとする。「マナビー」の掲示板に当日の授業の指示をするので、それにしたがって受講すること。秋学期は通常の講義形式とする。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 天皇陵問題とは何か	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(60分)。
2. 天皇陵の概念	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
3. 天皇陵の沿革と制度	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
4. 天皇陵研究の歴史1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
5. 天皇陵研究の歴史2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
6. 天皇陵研究の歴史3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
7. 天皇陵研究の歴史4	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
8. 古墳時代前期の大王墓1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
9. 古墳時代前期の大王墓2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
10. 古墳時代前期の大王墓3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
11. 古墳時代前期の大王墓4	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
12. 古墳時代中期の大王墓1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
13. 古墳時代中期の大王墓2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
14. 古墳時代中期の大王墓3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
15. 古墳時代中期の大王墓4	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。
16. 古墳時代後期の大王墓1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
17. 古墳時代後期の大王墓2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
18. 古墳時代後期の大王墓3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
19. 飛鳥時代の天皇陵1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。

20.	飛鳥時代の天皇陵2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
21.	飛鳥時代の天皇陵3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
22.	奈良時代の天皇陵1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
23.	奈良時代の天皇陵2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
24.	奈良時代の天皇陵3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
25.	奈良時代の天皇陵4	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
26.	平安時代の天皇陵1	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
27.	平安時代の天皇陵2	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
28.	平安時代の天皇陵3	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
29.	平安時代の天皇陵4	1. 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと(30分)。 2. 前回の講義の内容を復習しておくこと(30分)。 3. なお、準備学習にあたっては、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
30.	まとめ	授業での内容をまとめなおしておくこと(60分)。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
大レポート	50	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする。そして、考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ばりかたを理解するとともに、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができたかどうか。
平常点	30	積極的に授業に参加したかどうか。受講を通じて、考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ばりかたを理解するとともに、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができたかどうか。
ミニ・レポート	20	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

「マナビー」による連絡
「マナビー」のリマインダ機能を設定し、掲示板・個別指導を常時確認しておくこと。

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

平成30年・31年に文化庁が発表した「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」により、約20年ぶりに日本語教育人材の資質・能力が見直された。まずは、この報告書で示された枠組みや各分野の日本語教育人材に求められる資質・能力を理解するために、昨今の日本語教育を取り巻く各方面の動向を押さえていく。その上で、海外で教える日本語教師に焦点を当て、各国・地域で求められる日本語教師の資質・能力の異同を、各種調査・先行研究を通して理解し、求められる資質・能力の養成・研修に資する資料の収集や方法の模索を試みる。

到達目標:

- ①日本語教育人材の資質・能力に関わる知識を得る。(知識・理解)
- ②活躍の場により異なる日本語教育人材の資質・能力の差異について関心をもち、説明しようとする(関心・意欲・態度)
- ③海外で教える日本語教育人材に関する調査や先行研究のレビューをまとめることができる。(表現・技能)

授業方法:

講義と発表、それらに関するディスカッションを中心とする。
指定する報告書・図書中の担当箇所や論文を精読し、そのポイントをレジュメにまとめて説明する。
その上で内容についてディスカッションを行う。必要に応じて、動画資料の視聴も行う。

「授業内容」

および
「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・授業の概要説明 ・各自の研究テーマの紹介	シラバスを読んでおく。 各自の研究テーマについて説明できるよう準備をしておく。(1時間)
2.	講義:『在り方』報告書について	『在り方』の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
3.	講義:『在り方』報告書について	『在り方』の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
4.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
5.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
6.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
7.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
8.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
9.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
10.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
11.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
12.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
13.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
14.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(1時間)
15.	今学期のまとめ	今学期のふりかえり レポート作成
16.	秋学期の概要説明 国際交流基金「海外日本語教育機関調査」について	シラバスに目を通す。(10分)
17.	海外の日本語教育の概況 発表割り当て	関連資料・文献を読んでおく。(2時間)
18.	講義:台湾の日本語教育	関連資料・文献を読んでおく。(2時間)
19.	講義:台湾の日本語教育	指定のVTR等に目を通しておく。(2時間)
20.	講義:台湾の日本語教育	関連資料・文献等を読んでおく。(2時間)
21.	台湾の戦前戦中の日本語教育・ 多言語社会台湾を知る動画視聴 ディスカッション	関連資料・文献等を読んでおく。(2時間)
22.	台湾に今も残るリンガフランカとしての日本語 文献講読・動画視聴	関連資料・文献等を読んでおく。(2時間)
23.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(2時間)
24.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(2時間)
25.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(2時間)
26.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(2時間)
27.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(2時間)
28.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(2時間)
29.	担当者による報告とディスカッション	報告の準備。担当者以外は報告書の該当箇所に目を通しておく。(2時間)
30.	まとめ 期末課題に関する解説等	今学期の学びをふりかえっておく。(1時間)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

日本語教育の視点から世界や社会の情勢に関心をもち常に情報にアンテナを張ってください。
また、日本語学習者や日本語教育現場に積極的に関わることで、日本語教師に求められるものを体感的にも理解するよう努めてほしいです。

フィードバックの方法:

授業中および授業前後のフィードバックを基本とする。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	40	発表や討論に関して、到達目標①②③の観点から理解度や態度、技能を評価する。
レポート	40	到達目標③の観点から、レポートの仕上がり度合いを評価する。
授業への参加度	20	授業に積極的に参加し、ディスカッションにおいて到達目標①②をふまえた発言ができていないかを評価する。

教科書:

参考文献等:

平畑奈美(2014)『「ネイティブ」とよばれる日本語教師』春風社
水谷修監修(2009)『日本語教師の過去・現在・未来 第2巻 「教師」』凡人社
浅田匡他編著(1998)『成長する教師——教師学への誘い』金子書房
ドナルド・ショーン著、佐藤学・秋田喜代美訳(2001)『専門家の知恵 反省的実践家は行為しながら考える』ゆ
るみ出版
文化庁(2019)「日本語教育人材の養成・研修の在り方(報告)改訂版」

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

研究室: D210
メール: yuyamamo@dw.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語教育学研究

授業の概要: 日本語教育を色々な角度から対比しながら見ていく。
例: 国内外の日本語に対する対応、日本語と他言語、母語と第2言語など

到達目標: 日本語教師のみならず、言語や文化に興味のある方に、新たな言葉と文化の面白みを感じ取ってもらいたい。そして世界の
人々とのコミュニケーションに役立つ専門知識の習得を目指す。

授業方法: 講義と演習

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと日常生活と言葉の話	スマホ或いはPC必携
2.	前講義の復習に関するQ&A (1) 日本語教育の現状・日本1	スマホ或いはPC必携
3.	前講義の復習に関するQ&A (2) 日本語教育の現状・日本(2)	スマホ或いはPC必携
4.	前講義の復習に関するQ&A (3) 日本語教育の現状・日本(3)	スマホ或いはPC必携
5.	前講義の復習に関するQ&A (4) 日本語教育の現状・海外(1)	スマホ或いはPC必携
6.	前講義の復習に関するQ&A (5) 日本語教育の現状・海外(2)	スマホ或いはPC必携
7.	前講義の復習に関するQ&A (6) 日本語教育の現状・海外(3)	スマホ或いはPC必携
8.	前講義の復習に関するQ&A (7) 日本語教育の現状・海外(4)	スマホ或いはPC必携
9.	前講義の復習に関するQ&A (8) 日本語教育の現状・海外(5)	スマホ或いはPC必携
10.	前講義の復習に関するQ&A (9) 文化庁・国際交流基金・日本語教育学会等の役割と 現実	スマホ或いはPC必携
11.	前講義の復習に関するQ&A (10) 日本語の特色(1)	スマホ或いはPC必携
12.	前講義の復習に関するQ&A (11) 日本語の特色(2)	スマホ或いはPC必携
13.	前講義の復習に関するQ&A (12) 日本語の特色(3)	スマホ或いはPC必携
14.	前講義の復習に関するQ&A (13) 日本語の特色(4)	スマホ或いはPC必携
15.	今までの復習と確認	スマホ或いはPC必携
16.	前講義の復習に関するQ&A (14) アルタイ語に関して	スマホ或いはPC必携
17.	前講義の復習に関するQ&A (15) 英語との比較	スマホ或いはPC必携
18.	前講義の復習に関するQ&A (16) 中国語との比較	スマホ或いはPC必携
19.	前講義の復習に関するQ&A (17) 母語と第2言語(1) (母語と第2言語と外国語)	スマホ或いはPC必携
20.	前講義の復習に関するQ&A (18) 母語と第2言語(2) (移民と実態)	スマホ或いはPC必携
21.	前講義の復習に関するQ&A (19) 母語と第2言語(3) (共生日本語)	スマホ或いはPC必携
22.	前講義の復習に関するQ&A (20) 日本語教育と今後(1)	スマホ或いはPC必携
23.	前講義の復習に関するQ&A (21) 日本語教育と今後(2)	スマホ或いはPC必携
24.	前講義の復習に関するQ&A (22) 日本語教育と今後(3)	スマホ或いはPC必携
25.	前講義の復習に関するQ&A (23) 日本語教育とAI(1) (教室内で)	スマホ或いはPC必携
26.	前講義の復習に関するQ&A (24) 日本語教育とAI(2) (教室外で)	スマホ或いはPC必携
27.	前講義の復習に関するQ&A (25) 言語教育の原点(1)	スマホ或いはPC必携
28.	前講義の復習に関するQ&A (26) 言語教育の原点(2)	スマホ或いはPC必携
29.	前講義の復習に関するQ&A (27) 言い忘れたこと色々	スマホ或いはPC必携
30.	まとめと発表	まとめ

受講者への
メッセージや
アドバイス: 日本語・日本文化・日本人再発見を一緒にしませんか?!

フィードバックの方法： 毎回の複数確認クイズ

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	課題追及度	50	各自の課題に対する発表、まとめ、プレゼン
	授業参加度	20	授業課題に対する準備・予習
	授業態度など	30	授業に対する姿

教科書： 特になし
必要に応じて、授業中に指示します。

参考文献等： 書籍・先行研究(論文)雑誌等を読む。
その他、必要に応じて授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 情報力、分析力、思考力、そして創造力

教員との連絡方法： 非常勤講師控え室に来てください。

FLTナンバー:

授業テーマ: 平安朝文学を読む

授業の概要: 平安朝文学、主に源氏物語を対象としてその作品分析を行う。本文をどのように読み、そこからどのように研究へ発展させるかということに関して、引用や特殊表現に注目し、また文学史的な展望の中で問題を掘り下げていく。

到達目標: 自立して研究ができるようになることをめざす。そのために研究法の確立、問題点を発見する力、論理の展開、結論への導き方などを体得することをめざす。あわせて学位論文の執筆。

授業方法: 演習、討議方式

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	発表の準備。二時間
2. 演習及び討議	発表の準備。一時間
3. 演習及び討議	発表の準備。一時間
4. 演習及び討議	発表の準備。一時間
5. 演習及び討議	発表の準備。一時間
6. 演習及び討議	発表の準備。一時間
7. 演習及び討議	発表の準備。一時間
8. 演習及び討議	発表の準備。一時間
9. 演習及び討議	発表の準備。一時間
10. 演習及び討議	発表の準備。一時間
11. 演習及び討議	発表の準備。一時間
12. 演習及び討議	発表の準備。一時間
13. 演習及び討議	発表の準備。一時間
14. 演習及び討議	発表の準備。一時間
15. 演習及び討議	発表の準備。一時間
16. 演習及び討議	発表の準備。一時間
17. 演習及び討議	発表の準備。一時間
18. 演習及び討議	発表の準備。一時間
19. 演習及び討議	発表の準備。一時間
20. 演習及び討議	発表の準備。一時間
21. 演習及び討議	発表の準備。一時間
22. 演習及び討議	発表の準備。一時間
23. 演習及び討議	発表の準備。一時間
24. 演習及び討議	発表の準備。一時間
25. 演習及び討議	発表の準備。一時間
26. 演習及び討議	発表の準備。一時間
27. 演習及び討議	発表の準備。一時間
28. 演習及び討議	発表の準備。一時間
29. 演習及び討議	発表の準備。一時間
30. 総括	論文執筆の準備。一時間

受講者への
メッセージや
アドバイス: 学位取得をめざして頑張ってもらいたいフィードバックの
方法:

口頭発表についてはそのつど意見・批判を行う。論文については質問・相談に応じ、草稿に朱をいれて完成にむけて修正を行う。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート(論文)	100	論文の内容によって評価する

教科書: 特になし

参考文献等: 特になし

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

授業時及び研究室にて対応。メールでも対応する。

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語の配慮表現に関する研究

授業の概要: 日本語の配慮表現に関わる最新の論文を読み、研究の動向を知ると同時に、論文の読み方を学び、仮に設定したテーマに関わるレビューを作成する

到達目標: ①日本語の配慮表現についての知識を得る。(知識・理解)
②身近な日本語の配慮表現について関心を持ち、説明できるようにする(関心・意欲・態度)
③日本語の配慮表現に関する論文のサマリーを簡潔にまとめることができる。(表現・技能)

授業方法: 講義とディスカッションを中心に進める。説明を聞いた上で、各自が担当する論文を精読してきた上で要約して説明し、その内容についてディスカッションを行う

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業ガイダンス・担当決め	特になし
2. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
3. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
4. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
5. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
6. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
7. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
8. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
9. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
10. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
11. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
12. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
13. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
14. 春学期講読分のまとめ1	特になし
15. 春学期講読分のまとめ2	特になし
16. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
17. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
18. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
19. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
20. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
21. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
22. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
23. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
24. 担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでもくること。(15分)
25. 秋学期講読分のまとめ	特になし
26. 年間講読分のまとめ	特になし
27. レビュー(レポート)作成指導	レビュー原案の作成(15分)
28. レビュー(レポート)作成指導	レビュー原案の作成(15分)
29. レビュー(レポート)作成指導	レビュー原案の作成(15分)
30. レビュー(レポート)作成指導	レビュー原案の作成(15分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:フィードバックの
方法: 授業中に解説する「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加と貢献度	50%	各授業の発表や質疑応答により、到達目標①②の達成度を評価する。
レポート	50%	レポートにより、到達目標③の達成度を評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡
方法:

Eメールによる(アドレスは授業時に開示する)

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語教育と社会の動きを読み取る。

授業の概要: 社会の動きによって日本語教育がどのように変わってきたかを、制度・学習者・教師・教材・学習内容・指導法などの点から考察する。当然そこには現実の社会の動きのみならず、日本語教育の周辺領域の変化も加わることとなるが、そうしたものにも目を向けていく。

到達目標: 学位論文の執筆ができるだけの知見と洞察力の獲得、それを論として構成し表出する力の育成を目指す。

授業方法: 演習、討議方式

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

	授業内容	準備学習等の内容
29.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
30.	総括	論文執筆の準備。学外学習時間60分以上。
1.	ガイダンス	発表の準備。学外学習時間60分以上。
2.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
3.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
4.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
5.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
6.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
7.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
8.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
9.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
10.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
11.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
12.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
13.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
14.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
15.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
16.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
17.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
18.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
19.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
20.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
21.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
22.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
23.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
24.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
25.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
26.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
27.	テーマの提供・発掘及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。
28.	演習及び討議	発表の準備。学外学習時間60分以上。

受講者への
メッセージや
アドバイス: 博士課程で学ぶことの意味を自覚し、当初の目標の実現に一步でも近づいてもらいたい。

フィードバックの
方法: 授業中のテーマをめぐるやり取りについては教師も指導者としてではなく討論者の一人として加わる。そうした議論を通してフィードバックとしたい。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	100	この課程としてふさわしい視点と内容・構成を持っているかを評価する。

教科書: 都度の指示

参考文献等: 都度の指示

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 作家の創作の秘密に迫る

授業の概要: 近代の作家を対象とし、文学作品がどのような精神の営みによって生み出されたのかを掘り下げていく。

到達目標: 自立した研究者として作家・作品と向き合えるようになることを目指す。

授業方法: 演習

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	打ち合わせ(春学期)	研究したい作家について考えてくること(60分)
2.	演習	発表の準備(180分)
3.	演習	発表の準備(180分)
4.	演習	発表の準備(180分)
5.	演習	発表の準備(180分)
6.	演習	発表の準備(180分)
7.	演習	発表の準備(180分)
8.	演習	発表の準備(180分)
9.	演習	発表の準備(180分)
10.	演習	発表の準備(180分)
11.	演習	発表の準備(180分)
12.	演習	発表の準備(180分)
13.	演習	発表の準備(180分)
14.	演習	発表の準備(180分)
15.	演習	発表の準備(180分)
16.	打ち合わせ(秋学期)	なし
17.	演習	発表の準備(180分)
18.	演習	発表の準備(180分)
19.	演習	発表の準備(180分)
20.	演習	発表の準備(180分)
21.	演習	発表の準備(180分)
22.	演習	発表の準備(180分)
23.	演習	発表の準備(180分)
24.	演習	発表の準備(180分)
25.	演習	発表の準備(180分)
26.	演習	発表の準備(180分)
27.	演習	発表の準備(180分)
28.	演習	発表の準備(180分)
29.	演習	発表の準備(180分)
30.	おわりに	今後の課題について考えてくること(60分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法: 教室で解説する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	100	レポートが研究としてのレベルに達しているかどうかで評価する

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: メール

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本語の言語接触

授業の概要: 言語は、異なる言語と接触を繰り返すことによって、何らかの影響を受けて変化する。他言語との接触によって生じる日本語のバリエーションに注目して、日本国内はもとより、アジアはじめ各地で使用される日本語の実態とその背景を探りたい。

到達目標: ①先行研究を探索し、把握する能力を身につける。
②先行研究の内容を理解し、適切に評価する能力を身につける。
③論理的でわかりやすい日本語能力にみがきをかける。

授業方法: 受講者との議論を中心とする。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
21. 受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
22. 受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
23. 受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
24. 学期末レポートのテーマ決定	指示された課題にとりくむ。60分以上
25. 学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。60分以上
26. 学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。60分以上
27. 学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。60分以上
28. 学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。60分以上
29. 学期末レポートの作成	指示された課題にとりくむ。60分以上
30. まとめ	指示された課題にとりくむ。60分以上
1. 日本語の言語接触について(概要)	
2. 日本語の歴史と言語接触について	指示された課題にとりくむ。60分以上
3. 日本語言語接触について(国内)	指示された課題にとりくむ。60分以上
4. 日本語言語接触について(国内)	指示された課題にとりくむ。60分以上
5. 日本語言語接触について(海外)	指示された課題にとりくむ。60分以上
6. 日本語言語接触について(海外)	指示された課題にとりくむ。60分以上
7. 基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
8. 基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
9. 基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
10. 基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
11. 基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
12. 基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
13. 基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
14. 基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
15. 基本文献の講読	指示された課題にとりくむ。60分以上
16. 受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
17. 受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
18. 受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
19. 受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上
20. 受講生による報告	指示された課題にとりくむ。60分以上

受講者へのメッセージやアドバイス: 言語接触に注目した日本語の実態について、さまざまな観点から考えてみましょう。なお、授業内容の回数や順序は進捗状況に応じて変更することがあります。

フィードバックの方法: 適宜、個別にまたは全体に対応する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末レポート	50	到達目標による。
	授業時の報告	50	到達目標による。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール、面談。

FLTナンバー:

授業テーマ: 日本近現代文学研究の方法と実践—文学と災禍

授業の概要: 19世紀半ばから現在に及ぶ長い期間に生成した日本近代文学の諸作品を読みながら、その研究と方法について考えます。明治初期に発生した日本近代文学と呼ばれる範疇は、もはや150年ちかくの歴史を持つこととなった。本授業では、その歴史をたどりながら、作品がもつ文学的喚起力を手掛かりに、文学研究の方法を学びます。具体的には日本近現代文学は、どのように災禍を描いたかをたどり、現在のコロナの時代を考えていきたいと思えます。

受講生は本授業の履修を通じて、文学研究とは何か、という根源的な問題について考えていってもらいたいと望んでいます。

到達目標: 受講生各自が文学研究の目的と、その実践について深い認識を得ること。
文学読解の方法を通じて文学研究の目的を考えること

授業方法: 講義と発表、ディスカッション

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本近現代文学の流れ1 明治期文学と近代化への目覚め	日本近代文学史の概略を学習するために、簡単な参考書を 予習する 1時間
2.	日本近現代文学の流れ2 大正期から昭和期の文学勃興期	日本近代文学史の概略を学習するために、簡単な参考書を 予習する 1時間
3.	日本近現代文学の流れ3 昭和文学と戦争	日本近代文学史の概略を学習するために、簡単な参考書を 予習する 1時間
4.	日本近現代文学の流れ4 近現代文学における災禍の表象	日本近代文学史の概略を学習するために、簡単な参考書を 予習する 1時間
5.	日本近現代文学の流れ5 同時代文学とヒューマニティ	日本近代文学史の概略を学習するために、簡単な参考書を 予習する 1時間
6.	プレゼンテーション1 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
7.	プレゼンテーション2 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
8.	プレゼンテーション3 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
9.	プレゼンテーション4 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
10.	プレゼンテーション5 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
11.	プレゼンテーション6 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
12.	プレゼンテーション7 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
13.	プレゼンテーション8 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
14.	プレゼンテーション9 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
15.	総合討議	前期末レポート作成の準備 5時間
16.	日本文学研究と文学理論1 戦争論	文学理論の読解のための参考文献を予習する 2時間
17.	日本文学研究と文学理論2 文体論	文学理論の読解のための参考文献を予習する 2時間
18.	日本文学研究と文学理論3 構造主義からポスト構造主義へ	文学理論の読解のための参考文献を予習する 2時間
19.	日本文学研究と文学理論4 ジェンダー理論	文学理論の読解のための参考文献を予習する 2時間
20.	日本文学研究と文学理論5 ポストコロニアル理論	文学理論の読解のための参考文献を予習する 2時間
21.	プレゼンテーション1 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
22.	プレゼンテーション2 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
23.	プレゼンテーション3 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
24.	プレゼンテーション4 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
25.	プレゼンテーション5 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
26.	プレゼンテーション6 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
27.	プレゼンテーション7 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
28.	プレゼンテーション8 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
29.	プレゼンテーション9 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備 2時間
30.	総合討議	後期レポート作成準備 5時間

受講者への
メッセージや
アドバイス: この授業では日本文学における災禍、特に戦争の問題を研究するということがどのような意味を持ち、またその実践に向けてどのような基礎知識を学習しなければならないかについて勉強します。自分の主たる研究テーマに沿って、受講生は自由にそのテーマを考えてゆくとともに、具体的な作品分析の方法についても学びます。毎授業時に出たトピックについて、毎回それを身に付けていくスキルを獲得してください。

フィードバックの方法:

学生自身の専攻分野を問わず、各自の修士論文に資するように、研究技能の習得を目指します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の参加度	40	授業の積極度、課題の進捗状況などを加味して総合的に判断する
各期末レポート	30	
発表	30	

教科書: 中川成美『戦争をよむ—70冊の小説案内』(岩波新書、2017)

参考文献等: 受講時に各自に指示します。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、文学理論の読解力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

授業時に指示します

FLTナンバー:

授業テーマ: 古典文学の研究手法を学び、学術論文を執筆する

授業の概要: 一年間を通して学術論文を作成します。

到達目標: ①作品を正確に読み取ることが出来る
②先行研究を正確に読み取り、整理することが出来る
③問いを立てることが出来る
④問いを解決することが出来る
⑤ ①～④を文章化することが出来る

授業方法: Teams、マナビー、メールを通じた遠隔演習を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	なし
2.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ①	前回の内容の振り返りをする(20分)
3.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ②	前回の内容の振り返りをする(20分)
4.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ③	前回の内容の振り返りをする(20分)
5.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ④	前回の内容の振り返りをする(20分)
6.	個人面談	前回の内容の振り返りをする(20分)
7.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(20分)
8.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(20分)
9.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(20分)
10.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(20分)
11.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(20分)
12.	中間報告①	進捗状況を発表する(120分)
13.	中間報告②	中間報告①をふまえて再度発表をする(120分)
14.	中間報告③	中間報告②をふまえて再度発表をする(120分)
15.	夏休み中の研究の目標をたて、共有する	夏休み中に論文を執筆する(一度目・60分)
16.	相互添削	夏休み中に執筆した論文を持参する(60分)
17.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ⑤	前回の内容の振り返りをする(60分)
18.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ⑥	前回の内容の振り返りをする(60分)
19.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ⑦	前回の内容の振り返りをする(60分)
20.	『源氏物語』の研究手法を学ぶ⑧	前回の内容の振り返りをする(60分)
21.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(60分)
22.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(60分)
23.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(60分)
24.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(60分)
25.	個人指導	前回の内容の振り返りをする(60分)
26.	推敲①	執筆した論文を持参する(120分)
27.	推敲②	前回推敲した論文を持参する(60分)
28.	推敲③	前回推敲した論文を持参する(60分)
29.	合評会	前回推敲した論文を持参する(60分)
30.	ふりかえり	前回推敲した論文を持参する(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 本講座は、論文の執筆を目的としています。京都近辺で行われる学会や研究会に出かけ、発表の形式や質疑応答の様子を見て学ぶことを推奨します。(学会や研究会の情報は授業中に伝えます。)

※内容は履修者に断りを入れてうえで柔軟に変更する場合があります。

フィードバックの方法: 授業中に行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	論文	100	学術論文としてのルールを守り、基準を満たしているかを評価します。

教科書: なし

参考文献等: 受講者の関心に合わせて適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 火曜日4限
上記をオフィスアワーとします。お気軽に研究室にお立ち寄りください。
また、メールでの質問も受け付けます。(メールアドレスは授業時に開示します。)

FLTナンバー:

授業テーマ: オペラ作品の歌唱とその表現

授業の概要: オペラ作品のアリア、重唱の歌唱、演技を通じて音楽作品再現時に、自分自身の個性と音楽スタイルの調和をどう図るか演習・演唱を通じて考察する。

到達目標: 作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高める。

授業方法: 演習・演唱・ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、及び声質に合う曲目の選択。	
2.	モーツァルト作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
3.	モーツァルト作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
4.	モーツァルト作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
5.	モーツァルト作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
6.	モーツァルト作品⑤	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
7.	ロッシーニ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
8.	ロッシーニ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
9.	ロッシーニ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
10.	ロッシーニ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
11.	ドニゼッティ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
12.	ドニゼッティ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
13.	ドニゼッティ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
14.	ドニゼッティ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の研究発表までに修正しておくこと。(60分以上)
15.	研究発表	
16.	ヴェルディ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
17.	ヴェルディ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
18.	ヴェルディ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
19.	ヴェルディ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
20.	プッチーニ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
21.	プッチーニ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
22.	プッチーニ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
23.	プッチーニ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
24.	プッチーニ作品⑤	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)

25. 各自の個性に合った作品研究①
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
26. 各自の個性に合った作品研究②
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
27. 各自の個性に合った作品研究③
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
28. 各自の個性に合った作品研究④
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。(60分以上)
29. 各自の個性に合った作品研究⑤
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の研究発表までに修正しておくこと。(60分以上)
30. 研究発表

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60%	積極的に授業に参加し、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。
研究発表	40%	研究発表により、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。

教科書:

その都度指定する。

参考文献等:

授業内で紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、自己実現力

教員との連絡
方法:

初回の授業にて伝える。

FLTナンバー:

授業テーマ: 非和声音を含む四声体和声

授業の概要: 非和声音を用いたバス課題とソプラノ課題の実習

到達目標: 正確かつ美しい四声体和声を書くスキルを習得

授業方法: 課題実習、個別指導

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	20. 個別指導19	課題実習(90分)
	21. 個別指導20	課題実習(90分)
	22. 個別指導21	課題実習(90分)
	23. 個別指導22	課題実習(90分)
	24. 個別指導23	課題実習(90分)
	25. 個別指導24	課題実習(90分)
	26. 個別指導25	課題実習(90分)
	27. 個別指導26	課題実習(90分)
	28. 個別指導27	課題実習(90分)
	29. 個別指導28	課題実習(90分)
	30. 総合	課題実習(90分)
	1. 授業の概要の説明と準備	教科書を整える(30分)
	2. 個別指導1	課題実習(90分)
	3. 個別指導2	課題実習(90分)
	4. 個別指導3	課題実習(90分)
	5. 個別指導4	課題実習(90分)
	6. 個別指導5	課題実習(90分)
	7. 個別指導6	課題実習(90分)
	8. 個別指導7	課題実習(90分)
	9. 個別指導8	課題実習(90分)
	10. 個別指導9	課題実習(90分)
	11. 個別指導10	課題実習(90分)
	12. 個別指導11	課題実習(90分)
	13. 個別指導12	課題実習(90分)
	14. 個別指導13	課題実習(90分)
	15. 個別指導14	課題実習(90分)
	16. 個別指導15	課題実習(90分)
	17. 個別指導16	課題実習(90分)
	18. 個別指導17	課題実習(90分)
	19. 個別指導18	課題実習(90分)

受講者への
メッセージや
アドバイス: 和声法I、和声法II、和声法II、和声法IV、和声法V、和声法VI、和声法VII、和声法VIIIの内容を理解していることが望ましい。

フィードバックの
方法: 毎回の授業でフィードバック

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	課題実習	80	
	平常点	20	学習態度による平常点

教科書: 和声—理論と実習 III (音楽之友社)
Henri Challan著 380 Basses et chants donnés / 第9巻 9a Textes(Leduc)
Henri Challan著 380 Basses et chants donnés / 第10巻10a Textes第10巻(Leduc)

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 分析力、創造力、構成力

教員との連絡
方法: 研究室で対応
マネージャーの個別指導

FLTナンバー:

授業テーマ: スペイン音楽研究

授業の概要: スペイン音楽の歴史は、ローマ帝国の植民地だった古代から始まり、イスラム教徒たちによる占領時代のアラビア音楽の影響、多くのロマの人々の存在によるジプシー音楽の影響、そして地域ごとに非常に特色のある民俗音楽の展開、そして近現代におけるヨーロッパ近隣諸国からの影響などで、非常に複雑なものとなっている。そのような複雑な音楽史を通史的考察により把握しようと試みる。

到達目標: 知識・理解: 英語による読解によってスペイン音楽史を理解する。
関心・意欲・態度: 毎回の予習復習によって授業内容を深める。
表現・技能・能力: 最終レポートによって自らの知識をまとめる。

授業方法: Gilbert Chase, The Music of Spain (Dover, 1960)を読み進めて行く。必要に応じて参考資料などを配布し、視聴覚資料についても当該機器を活用する。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 導入: スペイン音楽	スペイン音楽についての興味を探る。(60分)
2. テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」1	「ルネサンス時代の世俗音楽」1の部分を読んでおく。(60分)
3. テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」2	「ルネサンス時代の世俗音楽」2の部分を読んでおく。(60分)
4. テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」3	「ルネサンス時代の世俗音楽」3の部分を読んでおく。(60分)
5. テキスト講読。「初期ギターの大匠たち」1	「初期ギターの大匠たち」1の部分を読んでおく。(60分)
6. テキスト講読。「初期ギターの大匠たち」2	「初期ギターの大匠たち」2の部分を読んでおく。(60分)
7. テキスト講読。「初期ギターの大匠たち」3	「初期ギターの大匠たち」3の部分を読んでおく。(60分)
8. テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」1	「オルガン奏者と音楽理論家」1を読んでおく。(60分)
9. テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」2	「オルガン奏者と音楽理論家」2を読んでおく。(60分)
10. テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」3	「オルガン奏者と音楽理論家」3を読んでおく。(60分)
11. テキスト講読。「スカルラッチェを中心として」1	「スカルラッチェを中心として」1を読んでおく。(60分)
12. テキスト講読。「スカルラッチェを中心として」2	「スカルラッチェを中心として」2を読んでおく。(60分)
13. テキスト講読。「スカルラッチェを中心として」3	「スカルラッチェを中心として」3を読んでおく。(60分)
14. テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」1	「アルベニスとグラナドス」1を読んでおく。(60分)
15. テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」2	「アルベニスとグラナドス」2を読んでおく。(60分)
16. テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」3	「アルベニスとグラナドス」3を読んでおく。(60分)
17. テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」1	「マヌエル・デ・ファリャ」1を読んでおく。(60分)
18. テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」2	「マヌエル・デ・ファリャ」2を読んでおく。(60分)
19. テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」3	「マヌエル・デ・ファリャ」3を読んでおく。(60分)
20. テキスト講読。「若い世代」1	「若い世代」1を読んでおく。(60分)
21. テキスト講読。「若い世代」2	「若い世代」2を読んでおく。(60分)
22. テキスト講読。「若い世代」3	「若い世代」3を読んでおく。(60分)
23. テキスト講読。「名演奏家たち」1	「名演奏家たち」1を読んでおく。(60分)
24. テキスト講読。「名演奏家たち」2	「名演奏家たち」2を読んでおく。(60分)
25. テキスト講読。「名演奏家たち」3	「名演奏家たち」3を読んでおく。(60分)
26. テキスト講読。「イベリアの民族音楽」1	「イベリアの民族音楽」1を読んでおく。(60分)
27. テキスト講読。「イベリアの民族音楽」2	「イベリアの民族音楽」2を読んでおく。(60分)
28. テキスト講読。「イベリアの民族音楽」3	「イベリアの民族音楽」3を読んでおく。(60分)
29. テキスト講読。「1941年以後のスペイン音楽」1	「1941年以後のスペイン音楽」1を読んでおく。(60分)
30. テキスト講読。「1941年以後のスペイン音楽」2	「1941年以後のスペイン音楽」2を読んでおく。(60分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: レポートについては、可能な範囲で、コメントおよび解説をする

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	到達目標に達しているかどうかで評価する
授業への積極的参加	50	授業へ積極的に参加しているかどうかで評価する

教科書: プリント

参考文献等: 講義時に適宜必要に応じ指示する

獲得が期待される
基礎的・汎用的な
能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: Eメール: rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 音楽美学研究

授業の概要: 哲学的観点から音楽美学を捉え直す方法を探る。そのために、哲学と芸術、哲学と音楽(美学)の接点において重要な役割を果たした著作を、なるべく原文(最低限、英文)によって読み解いてゆく。具体的には、ショーペンハウアー、ニーチェ、ベルグソン、フッサール、ハイデッガー、ズッカーカンドル、ダールハウス、ダニエル・シャルルなどの著作から適宜選択する。

到達目標: 知識・理解: テキストの講読によって哲学的観点による音楽美学を理解する。
 関心・意欲・態度: 毎回の予習復習によって関心をもって学習する。
 表現・技能・能力: 学習によって得られた知識にもとづき自らの思考を構築する。

授業方法: テキスト(主に英文)の講読と討論。

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 導入とテキスト選定。	自らの音楽美学的興味について考えておく。(30分)
2. 講読(テキスト1~3頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト1~3頁部分を読んでおく。(60分)
3. 講読(テキスト4~6頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト4~6頁部分を読んでおく。(60分)
4. 講読(テキスト7~9頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト7~9頁部分を読んでおく。(60分)
5. 講読(テキスト10~12頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト10~12頁部分を読んでおく。(60分)
6. 講読(テキスト13~15頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト13~15頁部分を読んでおく。(60分)
7. 講読(テキスト16~18頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト16~18頁部分を読んでおく。(60分)
8. 講読(テキスト19~21頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト19~21頁部分を読んでおく。(60分)
9. 講読(テキスト22~24頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト22~24頁部分を読んでおく。(60分)
10. 講読(テキスト25~27頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト25~27頁部分を読んでおく。(60分)
11. 講読(テキスト28~30頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト28~30頁部分を読んでおく。(60分)
12. 講読(テキスト31~33頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト31~33頁部分を読んでおく。(60分)
13. 講読(テキスト34~36頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト34~36頁部分を読んでおく。(60分)
14. 講読(テキスト37~39頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト37~39頁部分を読んでおく。(60分)
15. 講読(テキスト40~42頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト40~42頁部分を読んでおく。(60分)
16. 講読(テキスト43~45頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト43~45頁部分を読んでおく。(60分)
17. 講読(テキスト46~48頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト46~48頁部分を読んでおく。(60分)
18. 講読(テキスト49~51頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト49~51頁部分を読んでおく。(60分)
19. 講読(テキスト52~54頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト52~54頁部分を読んでおく。(60分)
20. 講読(テキスト55~57頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト55~57頁部分を読んでおく。(60分)
21. 講読(テキスト58~60頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト58~60頁部分を読んでおく。(60分)
22. 講読(テキスト61~63頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト61~63頁部分を読んでおく。(60分)
23. 講読(テキスト64~66頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト64~66頁部分を読んでおく。(60分)
24. 講読(テキスト67~69頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト67~69頁部分を読んでおく。(60分)
25. 講読(テキスト70~72頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト70~72頁部分を読んでおく。(60分)
26. 講読(テキスト73~75頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト73~75頁部分を読んでおく。(60分)
27. 講読(テキスト76~78頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト76~78頁部分を読んでおく。(60分)
28. 講読(テキスト79~81頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト79~81頁部分を読んでおく。(60分)
29. 講読(テキスト82~84頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト82~84頁部分を読んでおく。(60分)
30. 講読(テキスト85~87頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト85~87頁部分を読んでおく。(60分)

受講者への
 メッセージや
 アドバイス:

フィードバックの方法: レポートについては、可能な範囲で、コメント・解説をする

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50	到達目標に達しているかどうかで評価する。
	授業への積極的参加	50	授業へ積極的に参加しているかどうかで評価する。

教科書: プリント

参考文献等: 適宜指示する。

獲得が期待される
 基礎的・汎用的能力:
 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
 方法: Eメール: rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 類義語の使い分けの研究

授業の概要: 「あがる」と「のぼる」など、意味が近い言葉の意味の違いや使い分けを考える。

到達目標: 類義語の使い分けを根拠をもとに考えることができる。意味の違いを言語化することができる。また、論文を批判的に読み、自分の考えを深めるために使うことができる。

授業方法: ディスカッションと論文の講読による。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	特になし
2. アガルとノボル	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
3. アガルとノボル	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
4. サガル・オリル・オチル・クダル	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
5. サガル・オリル・オチル・クダル	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
6. アルキマワル・ブラツク・ウロツク	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
7. アルキマワル・ブラツク・ウロツク	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
8. ツカレル・クタビレルなど	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
9. ツカレル・クタビレルなど	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
10. サケルとヨケル	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
11. サケルとヨケル	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
12. チカヅクとチカヨル	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
13. チカヅクとチカヨル	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
14. アタルとブツカル	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
15. アタルとブツカル	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
16. ムスブ・ユワエル・ツナグ・ククルなど	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
17. ムスブ・ユワエル・ツナグ・ククルなど	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
18. ツツム・クルム・マク	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
19. ツツム・クルム・マク	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
20. トク・トカス・ホドク・ホグス	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
21. トク・トカス・ホドク・ホグス	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
22. 任意の類義語	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
23. 任意の類義語	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
24. 任意の類義語	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
25. 任意の類義語	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
26. 任意の類義語	各自用例等をあげて考えてくる(30分)
27. レポート指導	レポートのテーマとする語についてまとめてくる(30分)
28. レポート指導	レポートのテーマとする語についてまとめてくる(30分)
29. レポート指導	文章にして書いてくる(2時間)
30. レポート指導	推敲をしてくる(1時間)

受講者へのメッセージやアドバイス: 母語話者としてふだん無意識に使い分けている語も、いざその意味の違いを尋ねられると説明が難しいことがある。根拠となる用例をもとに、意味の違いを考えて言語化する力、また、他者の解説を批判的に読む力をつけ、各自の専門の勉強にいかしてほしい。

フィードバックの方法: 授業時の対応、またはEメール、マナビーを活用する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	70%	自分で考え、適切に言語化して発言することができる。人の意見を聞いて自分の考えを修正することができる。人の意見も交えて、客観的に物事を考えることができる。論文の形で書かれた意見を批判的に読むことができる。
レポート	30%	授業で発見した内容をわかりやすく文章化することができる。

教科書:

参考文献等: 柴田武「言葉の意味—辞書に書いてないこと」平凡社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, リーダーシップ, 思いやる力, 変化対応力, 自己管理能力, 自己実現力

教員との連絡方法: メールまたはマナビー

FLTナンバー:

授業テーマ:

表象文化論

授業の概要:

小津安二郎監督作品を事例として、「日本文化」がいかに論じられ認識されてきたのかを考察する。関連作品や文献の読解を通じて研究対象を定め、先行研究を踏まえた論述を行う技能を修得する。

春学期には蓮實重彦『監督 小津安二郎(増補決定版)』を精読する。各回、担当者は各章の概要を報告し、全員で議論を行う。秋学期には春学期の成果をもとに、各自本書に加えたい一章を執筆する。理解の難しい箇所、作品や文献の参照が必要な箇所は随時宮本が紹介する。

各回、マナビーから課題に取り組む。課題が当該回および次回の予習復習に相当する。各自の回答状況を踏まえて講義が進められる。また、回答の一部は氏名を省き、次回講義で紹介されることがある。

到達目標:

次の3点を達成する。

- ・関心や問題意識を整理し、問に定める。
- ・研究に必要な文献を探し、概要をまとめる。
- ・研究結果を適切な形式でまとめ、報告する。

授業方法:

演習(必要に応じて学外での研究・調査を含む)

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 導入:関心や問題意識の共有・担当調整	関心や問題意識を説明できるようにしておく。様々な方法を駆使して小津安二郎とその作品について情報を得ておく。課題に答える。(60分)
2. 報告と議論:「Ⅰ 否定すること」	「Ⅰ 否定すること」を精読し、概要を説明できるようにしておく。課題に答える。(120分)
3. 報告と議論:「Ⅱ 食べること」	「Ⅱ 食べること」を精読し、概要を説明できるようにしておく。課題に答える。(120分)
4. 報告と議論:「Ⅲ 着換えること」	「Ⅲ 着換えること」を精読し、概要を説明できるようにしておく。課題に答える。(120分)
5. 報告と議論:「Ⅳ 住むこと」	「Ⅳ 住むこと」を精読し、概要を説明できるようにしておく。課題に答える。(120分)
6. 報告と議論:「Ⅴ 見ること」	「Ⅴ 見ること」を精読し、概要を説明できるようにしておく。課題に答える。(120分)
7. 報告と議論:「Ⅵ 立ちどまること」	「Ⅵ 立ちどまること」を精読し、概要を説明できるようにしておく。課題に答える。(120分)
8. 報告と議論:「Ⅶ 晴れること」	「Ⅶ 晴れること」を精読し、概要を説明できるようにしておく。課題に答える。(120分)
9. 報告と議論:「Ⅷ 憤ること」	「Ⅷ 憤ること」を精読し、概要を説明できるようにしておく。課題に答える。(120分)
10. 報告と議論:「Ⅸ 笑うこと」	「Ⅸ 笑うこと」を精読し、概要を説明できるようにしておく。課題に答える。(120分)
11. 報告と議論:「Ⅹ 驚くこと」	「Ⅹ 驚くこと」を精読し、概要を説明できるようにしておく。課題に答える。(120分)
12. 報告と議論:選んだ1章から(1)	これまでみてきた各章の中から1章を選び、注目した点とその理由を説明できるようにしておく。課題に答える。(120分)
13. 報告と議論:選んだ1章から(2)	これまでみてきた各章の中から1章を選び、注目した点とその理由を説明できるようにしておく。レポートを提出する。(120分)
14. 講評:レポートを振り返る	これまで力を注いだ点を説明できるようにしておく。課題に答える。(60分)
15. 総括:修得した技能を確認する	これまでを振り返り、修得した技能を説明できるようにしておく。秋学期に向けて、関心のある論文を探す。課題に答える。(60分)
16. 導入:関心や問題意識の共有	春学期を振り返り、関心や問題意識を説明できるようにしておく。課題に答える。(60分)
17. 報告と議論:構想を書き出す	論じたい事柄をできるだけ多く挙げる。課題に答える。(60分)
18. 報告と議論:構想を節にまとめる	第17回で挙げた事柄を論じるための筋道を立てる。課題に答える。(60分)
19. 報告と議論:引用の方法を確認する	論じる上で必要となる引用とその方法を確認する。課題に答える。(60分)
20. 報告と議論:注、文献リストを記す	論じる上で必要となる注、文献リストの記載方法を確認する。課題に答える。(60分)
21. 報告と議論:方法を定め、計画を立てる	執筆の方法を定め、調査先や調査する資料について定める。課題に答える。(60分)
22. 報告と議論:調査を進め報告する(1)	これまでの実践を踏まえて調査研究を進め、執筆を進める。課題に答える。(180分)
23. 報告と議論:調査を進め報告する(2)	これまでの実践を踏まえて調査研究を進め、執筆を進める。課題に答える。(180分)
24. 報告と議論:調査を進め報告する(3)	これまでの実践を踏まえて調査研究を進め、執筆を進める。課題に答える。(180分)
25. 報告と議論:要旨を報告する(1)	これまでの実践を踏まえて調査研究を進める。要旨を説明できるようにしておく。課題に答える。(180分)
26. 報告と議論:要旨を報告する(2)	これまでの実践を踏まえて調査研究を進める。要旨を説明できるようにしておく。課題に答える。(180分)
27. 報告と議論:要旨を報告する(3)	これまでの実践を踏まえて調査研究を進める。要旨を説明できるようにしておく。課題に答える。(180分)
28. 報告と議論:力を注いだ点を報告する	これまで力を注いだ点を報告できるようにしておく。レポートを提出する。(180分)
29. 講評:レポートを振り返る	第28回で提出したレポートのコメントをまとめる。課題を提出する。(180分)

30. 総括: 修得した技能を確認する

これまで修得した技能を説明できるようにしておく。課題を提出する。(180分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

小津とその作品を事例に、すでに知られている(と思われる)ものをよくみて、考え、まとめる力を養おうという演習です。小津についてこれまで知らなくとも、映画や文献を通じて知ってみたいという方の受講を歓迎します。

フィードバックの方法:

授業時に実施する。必要に応じて、マナビーを通じて行うことがある。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加・貢献度	50	出席状況ならびに授業への参加度を総合的に考慮して評価する。
レポート	50	授業内容および課題の設問を踏まえた考察、報告ができているかをみる。第13回および第28回で提出するレポートが「レポート」に相当する。

教科書:

各自、無理をする必要はないが可能な限り読んでおくといよい。
蓮實重彦『監督 小津安二郎〔増補決定版〕』筑摩書房、2016年。

参考文献等:

初回授業時に指示する。一例として以下を挙げておく。授業で触れる順に並べた。比較的手に入りやすい増補版、文庫本を含めた。初版情報は随時紹介する。

- 坂村健、蓮實重彦編『デジタル小津安二郎展——カメラマン厚田雄春の視』東京大学総合研究博物館、1998年。
- 蓮實重彦、山根貞男、吉田喜重編『小津安二郎生誕100年記念「Ozu 2003」の記録 国際シンポジウム』朝日新聞社、2004年。
- 井上和男『陽の当たる家 小津安二郎とともに』フィルムアート社、1993年。
- 吉田喜重『吉田喜重が語る小津安二郎の映画世界』ジェネオンエンタテインメント、2004年。
- 北野圭介『ハリウッド100年史講義——夢の工場から夢の王国へ』平凡社、2001年。
- 四方田犬彦『日本映画史100年』集英社、2000年。
- 佐藤忠男『完本 小津安二郎の芸術』朝日新聞社、2000年。
- 吉田喜重『小津安二郎の反映画』岩波書店、2011年。
- 松浦莞二、宮本明子編著『小津安二郎 大全』朝日新聞出版、2019年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力／Analytical ability, 思考力／Thinking power, プレゼンテーション力／Presentation skill, コミュニケーション力／Communication skill, 思いやる力／Capacity for compassion, 変化対応力／Responding to change, 自己管理力／Self-managerial power, 自己実現力／Ability of self-realization

教員との連絡方法:

初回授業時に指示する。

FLTナンバー:

授業テーマ: モンポウ研究

授業の概要: 20世紀スペインで最重要な作曲家であるフラダリック・モンポウに関して、その生涯と作品の関係について検討する。特に激動の20世紀スペインにおいてモンポウの生まれ育ったバルセロナ、カタルーニャは、常にマドリッド中央政府と緊張関係にあったと同時に、文化・言語・地理上フランス、パリと密接な関係があり、この複雑な政治・文化的状況がモンポウの音楽に及ぼした影響についても考慮する。

到達目標: 作曲家の生涯とその作品にはどのような関係があるのかを、政治・経済・文化的な様々な要素を考慮にいれながら詳細に探り、音楽学的研究の手続きを学ぶ。

授業方法: 講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入1: スペイン音楽史	スペイン音楽史について調べる(60分)
2.	導入2: カタルーニャの歴史	カタルーニャの歴史について調べる(60分)
3.	1893年モンポウ生誕	1893年当時のバルセロナの状況について調べる(60分)
4.	1894~1910年少年期の経験・学習	モンポウ少年期について調べる(60分)
5.	1911~1913年パリ留学	モンポウのパリ留学について調べる(60分)
6.	1914~1920年バルセロナでの活動、初期作品群、ブランカフォルトとの友情	バルセロナ時代初期作品について、当時の政治経済文化状況、交友関係について調べる。作曲家ブランカフォルトについて調べる。(60分)
7.	1920年《魔法の歌》出版	《魔法の歌》について調べる(60分)
8.	1920~1930年パリ滞在、最初の高評価、さまざまな作品	当時のモンポウの状況(政治・社会・文化的状況、活動状況)について調べる(60分)
9.	《歌と踊り》第1番ほかの作品	《歌と踊り》第1番ほかの作品について調べる(60分)
10.	1930~1940年《前奏曲集》ほかの作品1	《前奏曲集》ほかの作品について調べる1(60分)
11.	1930~1940年《前奏曲集》ほかの作品2	《前奏曲集》ほかの作品について調べる2(60分)
12.	当時のヨーロッパの政治状況(スペイン内戦)	当時のヨーロッパ政治状況について調べる(60分)
13.	1941~1945年バルセロナ帰還と最初の栄誉	当時の作品や状況について調べる(60分)
14.	1945~1951年さまざまな作品	当時の作品や状況について調べる(60分)
15.	1952年サン・ジョルディのアカデミアで教鞭	当時の作品や状況について調べる(60分)
16.	1953~1957年母親の死と自らの結婚	当時の作品や状況について調べる(60分)
17.	1958年コンポステラ音楽祭での教授職	コンポステラ音楽祭について調べる(60分)
18.	1959年《ひそやかな音楽》第1集	《ひそやかな音楽》第1集について調べる(60分)
19.	1960~1962年さまざまな作品	当時の作品や状況について調べる(60分)
20.	1963年オラトリオ《Improperios》	オラトリオ《Improperios》について調べる(60分)
21.	1965年《ひそやかな音楽》第3集	《ひそやかな音楽》第2集、第3集について調べる(60分)
22.	1967年《ひそやかな音楽》第4集	《ひそやかな音楽》第4集について調べる(60分)
23.	1970年《Bequerianas》	《Bequerianas》について、詩人グスタボ・アドルフォ・ベケールについて調べる(60分)
24.	1973年《ポール・ヴァレリーの五つの歌曲》	《ポール・ヴァレリーの五つの歌曲》について、詩人ポール・ヴァレリーについて調べる(60分)
25.	1978年《歌と踊り》第14番	《歌と踊り》シリーズについて調べる(60分)
26.	《歌と踊り》シリーズ	《歌と踊り》シリーズについて調べる(60分)
27.	1979~1987年最晩年と死	当時の作品や状況について調べる(60分)
28.	作曲家の生涯と作品について1	作曲家の生涯と作品について学問的に考えてくる1(60分)
29.	作曲家の生涯と作品について2	作曲家の生涯と作品について学問的に考えてくる2(60分)
30.	まとめ	今までの学習成果をまとめる(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 毎回前回の振り返りを行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加	50	授業準備を毎回きちんと行い、授業中に積極的に発言するなど、前向きに参加しているか
	最終レポート	50	授業内容をきちんと自分のものとしているか

教科書:

参考文献等: Clara Janés, La vida callada de Federico Mompou, Vaso Roto, Madrid, 2012.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力, 思考力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 自己管理能力, 自己実現力

教員との連絡方法: メール: rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: イギリス文化研究(博士論文作成)

授業の概要: イギリス文化における特定の課題を掘り下げ、明確化し論文としてまとめる。

到達目標:

1. 各自の課題を明確にすることができる
2. 先行研究を調査し、課題を明らかにすることができる
3. 研究課題に対して適切な研究方法を選定することができる
4. 研究倫理に配慮した研究計画書を作成することができる
5. 研究計画に基づき、データ収集、分析ができる
6. 分析したデータに基づき論文を作成することができる
7. 博士論文の概要を報告することができる

授業方法: ゼミナール形式

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 1-1)本研究の視座 研究課題と理論、概念の検討	研究課題や関連する理論に関する文献収集(120分)
2. 1-2)研究課題の明確化 研究課題と理論、概念の検討	研究課題や関連する理論に関する文献収集(120分)
3. 1-3)研究課題の明確化 研究課題と理論、概念の明確化	研究課題や関連する理論に関する文献収集(120分)
4. 2-1)先行研究の調査と検証 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	研究論文を調査・検証し、活用できる論文を選定(60分) 研究方法の復習とデザインの選択(60分)
5. 2-2)先行研究の調査と検証 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	研究論文を調査・検証し、活用できる論文を選定(60分) 研究方法の復習とデザインの選択(60分)
6. 2-3)先行研究の調査と検証 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	研究論文を調査・検証し、活用できる論文を選定(60分) 研究方法の復習とデザインの選択(60分)
7. 2-4)先行研究の調査と検証 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	研究論文を調査・検証し、活用できる論文を選定(60分) 研究方法の復習とデザインの選択(60分)
8. 3)問題の所在と研究方法の決定	研究方法手順の作成(120分)
9. 4-1)研究計画書の作成	研究計画書を修正(120分)
10. 4-2)研究計画書の作成	研究計画書を修正(120分)
11. 5)主要概念の定義	主要概念の定義を作成(120分)
12. 6-1)データの収集と分析	研究データを収集し、分析(60分) 本調査に向けた課題を明確にする(60分)
13. 6-2)データの収集と分析	研究データの収集・分析(120分)
14. 6-3)データの収集と分析	研究データの収集・分析(120分)
15. 7-1)論文執筆(課題と方法)	調査結果を図表にまとめる(240分)
16. 7-2)論文執筆(課題と方法)	調査結果を図表にまとめる(120分)
17. 7-3)論文執筆(図表作成)	課題と方法にそって記述(120分)
18. 8-1)論文執筆(考察の構成)	結果の確認と推敲(120分)
19. 8-2)論文執筆(考察)	考察を構成にそって記述(120分)
20. 8-3)論文執筆(考察)	考察執筆(120分)
21. 9-1)論文執筆(結論)	結論執筆(120分)
22. 9-2)論文執筆(結論の推敲)	結論の推敲(120分)
23. 10)残された課題	今後の課題を記述(120分)
24. 11-1)論文執筆(要約)	要約を記述(120分)
25. 11-2)論文執筆(要約)	要約の論理性、整合性を確認(120分)
26. 12-1)論文発表・ディスカッション	プレゼンテーション資料を作成(120分)
27. 12-2)論文発表・ディスカッション	プレゼンテーションの準備(120分)
28. 13)論文修正	質疑応答や助言を論文に反映させて修正(240分)
29. 14-1)まとめと講評	講評後、さらに論文修正(240分)
30. 14-2)まとめと講評	

受講者へのメッセージやアドバイス: 多種多様なイギリス文化研究についての論文を比較しながら、序章から終章に至る流れを確認すると共に、博士論文の書き方、修士論文との違い、文献の書き方を習得し、最終的にはオリジナリティの高い、高質の博士論文を書いていきましょう。特に、先行研究論文を数多く読む中で、問題点は何かを見極めていくことが大切です。分からない点は色々アドバイスをしますので、安心して論文を書いていってください。

フィードバックの方法: 講義時や課題提出時に直接コメントする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	博士論文	70	到達目標1~7の到達度により評価する
	プレゼンテーション	20	到達目標7のプレゼンテーションを評価する
	意欲・取り組み姿勢・態度	10	毎回の発表や質疑応答について評価する

教科書: 適宜、プリントを配布する。

参考文献等： 必要時、紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法： 講義時にメールを連絡する。必要であれば、日時を決めた後、研究室に来てください。
心配なく何でも相談しに来てください。

専門実技

各専攻実技担当者

FLTナンバー:

授業テーマ: 専門実技

授業の概要: 声楽コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コースの全学生が4年間必修とする専門実技。(鍵盤楽器コースは伴奏法を含む。)

到達目標: 各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法: 個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。(10～30時間)
2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考文献等: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

FLTナンバー:

授業テーマ: 専門実技

授業の概要: 声楽コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コースの全学生が4年間必修とする専門実技。(鍵盤楽器コースは伴奏法を含む。)

到達目標: 各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法: 個人指導

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。(10～30時間)
2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考文献等: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力教員との連絡
方法: Eメール

FLTナンバー:

授業テーマ: 専門実技

授業の概要: 声楽コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コースの全学生が4年間必修とする専門実技。(鍵盤楽器コースは伴奏法を含む。)

到達目標: 各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法: 個人指導

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。(10～30時間)
2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)
15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。(10～30時間)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考文献等: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力教員との連絡
方法: Eメール

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: 国際的な研究機関での共同プロジェクト: 環境問題の理解と解決を立案・実施

授業の概要: 京都や大阪など関西圏には、国際的課題に取り組んでいる研究機関が数多く存在しています。研究機関と聞くと、わたし達の日常生活にはあまり直接関係しない活動をしている組織なのでは？と思われるかもしれませんが。しかし実際は、こうした研究機関は、市民社会と連携した取り組みを数多く行っています。

以上のような研究機関の取り組みのなかから、本年度は、人間文化研究機構・総合地球環境学研究所 (<https://www.chikyu.ac.jp/>)と共同で実施する、環境問題の理解と解決を目指すプロジェクトに従事します。具体的には、行政機関やNPOなどと協力して環境問題の理解と解決に取り組んでいる、「オープンサイエンス・プロジェクト」 (<https://www.chikyu.ac.jp/rihn/project/2018-02.html>)の要請を踏まえた上で、受講生自らが主体的に目的やテーマを設定し一般市民との交流を促す企画を立案し実施することを計画しています。

到達目標: ・実社会が求める課題を理解し対応するための幅広い視野や能力を身に付ける。
 ・現実課題の解決を前提とした社会調査の方法とスキルを習得する。
 ・実体験を通して自らのキャリア形成やライフプランニングを再考する。
 ・自らの調査内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力を身に付ける。

授業方法: 演習形式 & 実習形式
 ・事前学習(1~5回)・事後学習(11~15回)は演習形式で行い、プロジェクトの準備やまとめに関連する発表と討論を実施します。
 ・事前・事後授業は受講生と日程調整(不定期開催)の上、水曜日の4限目以降に行う予定です。
 ・プロジェクト実習(6~10回)は実習形式で行い、8~9月に現地調査や協力機関とのワークショップなどを実施する予定です。
 ・受講生の数によりますが、事前と事後ではグループワークを行っていただく予定です。

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内
 容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前学習 I : プロジェクト概要説明	事前にシラバスをよく読んでプロジェクトの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。(15分)
2.	事前学習 II : プロジェクト計画立案	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。(30分)
3.	事前学習 III : プロジェクト計画決定	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。(30分)
4.	事前学習 IV : プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。(30分)
5.	事前学習 V : プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
6.	プロジェクト実施	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
7.	プロジェクト実施	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
8.	プロジェクト実施	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
9.	プロジェクト実施	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
10.	プロジェクト実施	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
11.	事後学習 I : 活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
12.	事後学習 II : 活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。(30分)
13.	事後学習 III : 報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。(30分)
14.	事後学習 IV : 報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。(30分)

15. 事後学習Ⅴ：総括と評価

プロジェクト実習や事前・事後学習の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。(30分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

本演習の受講生には、自らのキャリア形成やライフプラン構築のための有意義な経験とするとともに、国際的な研究機関の役割や価値について理解を深めることを期待しています。
 本演習は、NOPなどの市民団体や行政機関と連携して企画を立案・実施する機会が用意されています。こうした経験は、就職活動にとどまらずライフプランを考える上でも貴重な経験になると確信しています。

フィードバックの方法:

・最終回に、各受講生に対して総評と評価を行います。各回の個別の諸活動後にアドバイスや評価を行います。
 ・またレポート(報告書)も、最終回に返却するとともに評価を直接お伝えいたします。

「成績評価方法」
 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	20%	発表は、到達目標である「実社会が求める課題を理解し対応するための視点・能力」に基づいているか評価します。
レポート	20%	レポート(報告書)は、到達目標である「自らの調査内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力」に基づいて制作できているか評価します。
授業への参加度	60%	到達目標である「社会調査のため方法とスキル」を習得しようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と積極的な参加・取り組みを求めます。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応します。
 また授業内でご提示するe-mailでも対応します。

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: 北海道富良野地域を対象とした地域のありかたとまちづくりの実態調査

授業の概要: 北海道富良野地域を対象とし、そこで展開される地域観光や政策、地域住民の視点などを、観光的・地理学的・社会学など幅広い観点から体験し、学習することを通して、農村地域の展開の可能性について総合的に考える。

到達目標: 1: 地域調査の実態を現地において実地に学ぶ。
2: 観光や地域文化のみならず、社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるか、実践的に関心をもつ。さらに幅広い社会調査を通して現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養う。

授業方法: 事前学習とともに、実際に北海道富良野に8日間滞在し、現地調査と発信を中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス 北海道富良野地域のありかた(事前学習)	配布資料の確認(1時間)
2. 富良野の観光と歴史的背景(事前学習)	配布資料の確認(2時間)
3. 地域学習におけるグループ分けと課題の考察(事前学習)	配布資料の確認(2時間)
4. 北海道富良野における現地学習調査 富良野地域の概要	配布資料の確認(2時間)
5. 北海道富良野における現地学習調査 ラベンダー観光の現状と課題	配布資料の確認(2時間)
6. 北海道富良野における現地学習調査3 地域の食を通じた地域振興	現地の状況に関する予備学習(2時間)
7. 北海道富良野における現地学習調査3 スイーツを通じた地域振興	現地の状況に関する予備学習(2時間)
8. 北海道富良野における現地学習調査1 東京大学演習林での自然学習1	現地の状況に関する予備学習(2時間)
9. 北海道富良野における現地学習調査1 鳥沼公園での自然学習2	現地の状況に関する予備学習(2時間)
10. 北海道富良野における現地学習調査1 中富良野町長との町政に関する講話	現地の状況に関する予備学習(2時間)
11. 北海道富良野における現地学習調査 コンテンツツーリズムの展開 研究動向の把握	現地の状況に関する予備学習(2時間)
12. 北海道富良野における現地学習調査 ドラマを通じたコンテンツツーリズムの展開	現地の状況に関する予備学習(2時間)
13. 北海道富良野における現地学習調査 インスタグラム・SNSを通じたコンテンツツーリズムの展開2	現地の状況に関する予備学習(2時間)
14. 北海道富良野における現地学習調査 環境と観光1 観光客数の動態と動向	現地の状況に関する予備学習(2時間)
15. 北海道富良野における現地学習調査 環境と観光 観光客に対する実態調査	アンケート調査に関する予備学習(2時間)
16. 北海道富良野における現地学習調査 ウオーキングを通じた観光とまちづくり フットパスの概要	現地の状況に関する予備学習(2時間)
17. 北海道富良野における現地学習調査 ウオーキングを通じた観光とまちづくり フットパスの実例	写真・ビデオ機材の準備とルート地図の整理(2時間)
18. 北海道富良野における現地学習調査 農業を通じた観光とまちづくり1	現地の状況に関する予備学習(2時間)
19. 北海道富良野における現地学習調査 農業を通じた観光とまちづくり2	現地の状況に関する予備学習(2時間)
20. 北海道富良野における現地学習調査 防災とまちづくり1	地域資料の収集と分析(2時間)
21. 北海道富良野における現地学習調査 防災とまちづくり2	地域資料の収集と分析(2時間)
22. 北海道富良野における現地学習調査 地元の高校生と協働した食の提供	地域食材・流通に関する調査(2時間)
23. 北海道富良野における現地学習調査 地元の高校生と協働した食を通じた地域文化の理解	現地の状況に関する予備学習(2時間)
24. 北海道富良野における現地学習調査 多世代・多地域交流の実態2	現地の状況に関する予備学習(2時間)
25. 北海道富良野における現地学習調査 調査結果の発信 ラジオ放送・現地発表会を通じた発信力の養成1	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(2時間)
26. 北海道富良野における現地学習調査 調査結果の発信 ラジオ放送・現地発表会を通じた発信力の養成2	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(4時間)
27. 現地調査報告会	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(4時間)
28. 現地調査報告と討論会・フィードバック	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(4時間)
29. 全体の総括(事後学習)	現地学習全体の資料とふりかえり(4時間)
30. 総括 学習内容のプレゼンテーション	現地学習全体の資料とふりかえり(4時間)

受講者へのメッセージやアドバイス: 夏季の北海道に現地滞在し、現地を学びます。地域を楽しみつつ学習し、主体的に発信(ラジオや各種報告会)していくプロセスを学んでいただきます。なお、新型コロナウイルスの感染状況を随時判断しながら、対象地域を変更して実施する場合があります。

フィードバックの方法: 授業内での個別・全体へのフィードバックを随時おこなう

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点 現地調査への参加度	50	到達目標1: 地域調査の実態を現地において実地に学ぶ過程を総合的に評価する。
	プレゼンテーション発表内容	30	到達目標2: 観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する。
	大学報告会におけるプレゼンテーション	20	到達目標2: 観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する。
教科書:	特にない。現地で必要な資料を適宜消化するとともに、映像資料の事前視聴をおこなう		
参考文献等:	必要に応じて適宜指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	事前学習ならびに現地調査前には、研究室訪問(知徳館C354)なども通じた連絡を中心とし、授業中(現地学習中)には、随時、適宜対面で相互に相談をおこなう。メール類も随時活用する。		

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: 地域企業の課題解決策を立案・実施する

授業の概要: 地域企業との共同プロジェクトのなかから、地域企業の抱える課題を正確に把握して、その課題への解決策を企業とともに考えて実施します。
具体的には、奈良交通株式会社の子会社である新若草山自動車道株式会社の要請と協力のもと、「奈良奥山ドライブウェイ」の利用促進と観光への活用について、受講生自らが主体的に目的やテーマを設定しプロモーション企画を立案し実施することを計画しています。
また、新若草山自動車道株式会社以外の事業領域における同様の活動への展開も考えています。

到達目標: 1: 地域企業の実態を現地において実際に学ぶ。
2: 地域企業の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるか、実践的に関心をもつ。さらに幅広い社会調査を通して現地の企業、それを取り巻く人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養う。

授業方法: 事前学習・事後学習とともに、実際に現地に訪れて、現地調査と発信を中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前学習 I : プロジェクト概要説明	事前にシラバスをよく読んでプロジェクトの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。(15分)
2.	事前学習 II : プロジェクト計画立案 協力してもらう地域企業の現状や課題について、情報提供を受ける。	企業のホームページ等で情報収集をしておいてください。(60分)
3.	事前学習 III : プロジェクト計画決定 地域企業が抱える課題解決のために、自分たちがどのように貢献できるかの提案を決定します。	地域企業が抱える課題解決のために、自分たちがどのように貢献できるかを考えてきておいてください。(60分)
4.	事前学習 IV : プロジェクト実施準備 自分たちで考えた課題解決策について、地域企業からの意見をもらいます。	課題解決策の提案ができるように、準備をしておいてください。(120分)
5.	事前学習 V : プロジェクト実施準備 現地でのプロジェクト実施の具体的な計画を立案する。	課題解決策を実施するための計画を具体的に考えておいてください。(60分)
6.	プロジェクト実習 I -1	実際に現地の状況を確認します。現地の状況に関する予備学習(60分)
7.	プロジェクト実習 I -2	実際に現地の状況を確認します。現地の状況に関する予備学習(60分)
8.	プロジェクト実習 I -3	実際に現地の状況を確認します。現地の状況に関する予備学習(60分)
9.	プロジェクト実習 I -4	実際に現地の状況を確認します。現地の状況に関する予備学習(60分)
10.	プロジェクト実習 II -1	現地の状況に即したプロジェクト実施計画を考えます。利用状況に関する予備学習(60分)
11.	プロジェクト実習 II -2	現地の状況に即したプロジェクト実施計画を考えます。利用状況に関する予備学習(60分)
12.	プロジェクト実習 II -3	現地の状況に即したプロジェクト実施計画を考えます。利用状況に関する予備学習(60分)
13.	プロジェクト実習 II -4	現地の状況に即したプロジェクト実施計画を考えます。利用状況に関する予備学習(60分)
14.	プロジェクト実習 III -1	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
15.	プロジェクト実習 III -2	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
16.	プロジェクト実習 III -3	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
17.	プロジェクト実習 III -4	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
18.	プロジェクト実習 IV -1	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
19.	プロジェクト実習 IV -2	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
20.	プロジェクト実習 IV -3	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
21.	プロジェクト実習 IV -4	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
22.	プロジェクト実習 V -1	収集した素材を使って、課題解決策を作成します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
23.	プロジェクト実習 V -2	収集した素材を使って、課題解決策を作成します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
24.	プロジェクト実習 V -3	収集した素材を使って、課題解決策を作成します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
25.	プロジェクト実習 V -4	収集した素材を使って、課題解決策を作成します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
26.	事後学習 I : 現地プロジェクトで収集・作成した素材や情報を総合して成果物としてまとめます。	素材や情報の整理(120分)
27.	事後学習 II : 協力企業に成果物の概要を説明し、改善意見などを出してもらう。	発表の準備・プレゼンテーション準備(120分)
28.	事後学習 III : 修正した成果物の確認。	成果物の修正(60分)

29. 事後学習Ⅳ： 発表の準備・プレゼンテーション準備(120分)
 全体の総括
30. 事後学習Ⅴ： 発表の準備・プレゼンテーション準備(120分)
 学習内容のプレゼンテーションと成果物の提供

受講者へのメッセージやアドバイス： 地域で活動している企業の中に入って、その仕事を体験するとともに、課題解決に貢献することによって、受講者の能力を発揮させることができるように、積極的に活動してください。

フィードバックの方法： 授業内での個別・全体へのフィードバックを随時おこないます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	50	到達目標1: 事前・事後学習および現地プロジェクトへの参加度。単に出席するのではなく、積極的に学んだり貢献したりしようとしているかどうか。
	成果物	30	到達目標2: 地域企業の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できたか。
	大学報告会におけるプレゼンテーション	20	到達目標2: 地域企業の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮しているか。

教科書： 特になし

参考文献等： 必要に応じて指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法： オフィスアワー、マネビの「スレッド」およびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: プロジェクト演習「国際的な研究機関での共同プロジェクト: 環境問題の理解と解決」の取り組みを通してリーダーシップを修得する

授業の概要: 本演習では、人間文化研究機構・総合地球環境学研究所 (<https://www.chikyu.ac.jp/>) と共同で実施する、環境問題の理解と解決を目指すプロジェクトへの参加を通して、リーダーシップの修得を目的とします。
 このような目的の下、当該機関の要請を基に実施する活動や企画などに取り組む受講生の指導・サポートを行っていただきます。具体的には、行政機関やNPOなどと協力して環境問題の理解と解決に取り組んでいる、「オープンサイエンス・プロジェクト」(<https://www.chikyu.ac.jp/rihn/project/2018-02.html>) の要請を踏まえた活動や企画の立案、実施、報告などを行うなかで、受講生の取りまとめ役を担うとともに、ご協力いただいている行政機関の方々や担当教員のサポートなどで主導的役割も担っていただく予定です。
 なお本演習は、プロジェクト演習Ⅰを受講し単位を取得した学生に限定します。

到達目標: ・実社会が求める課題に取り組む経験を通してリーダーシップを身に付ける。
 ・現実課題の解決を前提とした調査や企画を推進するために必要となるリーダーシップを学ぶ。
 ・リーダーシップの修得を通して自らのキャリア形成やライフプランニングを再考する。

授業方法: 演習形式 & 実習形式
 ・事前学習(1~5回)・事後学習(11~15回)は演習形式で行い、プロジェクトの準備やまとめに関連する発表と討論を実施します。
 ・事前・事後授業は受講生と日程調整(不定期開催)の上、水曜日の4限目以降に行う予定です。
 ・プロジェクト実習(6~10回)は実習形式で行い、8~9月に現地調査や協力機関とのワークショップなどを実施する予定です。
 ・受講生の数によりますが、事前と事後ではグループワークを行っていただく予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前学習Ⅰ: プロジェクト概要説明	事前にシラバスをよく読んでプロジェクトの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。(15分)
2.	事前学習Ⅱ: プロジェクト計画立案	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。(30分)
3.	事前学習Ⅲ: プロジェクト計画決定	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。(30分)
4.	事前学習Ⅳ: プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。(30分)
5.	事前学習Ⅴ: プロジェクト実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
6.	プロジェクト実施	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
7.	プロジェクト実施	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
8.	プロジェクト実施	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
9.	プロジェクト実施	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
10.	プロジェクト実施	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
11.	事後学習Ⅰ: 活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。(30分)
12.	事後学習Ⅱ: 活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。(30分)
13.	事後学習Ⅲ: 報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。(30分)
14.	事後学習Ⅳ: 報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定です、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。(30分)

15. 事後学習Ⅴ:総括と評価

プロジェクト実習や事前・事後学習の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。(30分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

本演習の受講生には、自らのキャリア形成やライフプラン構築のための有意義な経験としてリーダーシップの修得を目指されるとともに、国際的な研究機関の役割や価値について理解を深めることを期待しています。
本演習は、NOPなどの市民団体や行政機関と連携して企画を立案・実施する機会が用意されています。こうした経験を通して得られたリーダーシップは、就職活動にとどまらずライフプランを考える上でも貴重な経験になると確信しています。

フィードバックの
方法:

・最終回に、各受講生に対して総評と評価を行います。各回の個別の諸活動後にアドバイスや評価を行います。
・またレポート(報告書)も、最終回に返却するとともに評価を直接お伝えいたします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	20%	発表は、到達目標である「実社会が求める課題に取り組む経験を通して身に付けたリーダーシップ」に基づいて実施しているか評価します。
レポート	20%	レポート(報告書)は、到達目標である「現実課題の解決を前提とした調査や企画を推進する際に必要となるリーダーシップ」に基づいて制作できているか評価します。
授業への参加度	60%	到達目標である受講生のなかで主導的役割を積極的に担う姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と積極的な発言を求めます。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応します。
また授業内でご提示するe-mailでも対応します。

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: 北海道富良野地域を対象とした地域のありかたとまちづくりの実態調査

授業の概要: 北海道富良野地域を対象とし、そこで展開される地域観光や政策、地域住民の視点などを、観光的・地理学的・社会学など幅広い観点から体験し、学習することを通して、農村地域の展開の可能性について総合的に考える。

到達目標: 1: 地域調査の実態を現地において実地に学ぶ。
2: 観光や地域文化のみならず、社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるか、実践的に関心をもつ。さらに幅広い社会調査を通して現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養う。
3: プロジェクト全体の統括として、教員と受講生、地域の人々との連絡を緊密に図る力を養う。

授業方法: 事前学習とともに、実際に北海道富良野に8日間滞在し、現地調査と発信を中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 北海道富良野地域のありかた(事前学習)	配布資料の確認(2時間程度)
2.	富良野の観光と歴史的背景(事前学習)	配布資料の確認(2時間程度)
3.	地域学習におけるグループ分けと課題の考察(事前学習)	配布資料の確認(2時間程度)
4.	北海道富良野における現地学習調査 富良野地域の概要	配布資料の確認(2時間程度)
5.	北海道富良野における現地学習調査 ラベンダー観光の現状と課題	配布資料の確認(2時間程度)
6.	北海道富良野における現地学習調査3 地域の食を通じた地域振興	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
7.	北海道富良野における現地学習調査3 スイーツを通じた地域振興	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
8.	北海道富良野における現地学習調査1 東京大学演習林での自然学習1	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
9.	北海道富良野における現地学習調査1 鳥沼公園での自然学習2	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
10.	北海道富良野における現地学習調査1 中富良野町長との町政に関する講話	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
11.	北海道富良野における現地学習調査 コンテンツツーリズムの展開 研究動向の把握	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
12.	北海道富良野における現地学習調査 ドラマを通じたコンテンツツーリズムの展開	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
13.	北海道富良野における現地学習調査 インスタグラム・SNSを通じたコンテンツツーリズムの展開2	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
14.	北海道富良野における現地学習調査 環境と観光1 観光客数の動態と動向	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
15.	北海道富良野における現地学習調査 環境と観光観光客に対する実態調査	アンケート調査に関する予備学習(2時間程度)
16.	北海道富良野における現地学習調査 ウオーキングを通じた観光とまちづくり フットパスの概要	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
17.	北海道富良野における現地学習調査 ウオーキングを通じた観光とまちづくり フットパスの実例	写真・ビデオ機材の準備とルート地図の整理(2時間程度)
18.	北海道富良野における現地学習調査 農業を通じた観光とまちづくり1	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
19.	北海道富良野における現地学習調査 農業を通じた観光とまちづくり2	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
20.	北海道富良野における現地学習調査 防災とまちづくり1	地域資料の収集と分析(2時間程度)
21.	北海道富良野における現地学習調査 防災とまちづくり2	地域資料の収集と分析(2時間程度)
22.	北海道富良野における現地学習調査 地元の高校生と協働した食の提供	地域食材・流通に関する調査(2時間程度)
23.	北海道富良野における現地学習調査 地元の高校生と協働した食を通じた地域文化の理解	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
24.	北海道富良野における現地学習調査 多世代・多地域交流の実態2	現地の状況に関する予備学習(2時間程度)
25.	北海道富良野における現地学習調査 調査結果の発信 ラジオ放送・現地発表会を通じた発信力の養成1	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(2時間程度)
26.	北海道富良野における現地学習調査 調査結果の発信 ラジオ放送・現地発表会を通じた発信力の養成2	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(2時間程度)
27.	現地調査報告会	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(2時間程度)
28.	現地調査報告と討論会・フィードバック	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備(2時間程度)
29.	全体の総括(事後学習)	現地学習全体の資料とふりかえり(2時間程度)
30.	総括 学習内容のプレゼンテーション	現地学習全体の資料とふりかえり(2時間程度)

受講者へのメッセージやアドバイス: 夏季の北海道に現地滞在し、現地を学びます。地域を楽しみつつ学習し、主体的に発信(ラジオや各種報告会)していくプロセスを学んでいただきます。なお、この授業はプロジェクト演習Ⅰをすでに受講された方で、全体の統括・演習Ⅰ受講者と地域とをつなぐ役割を担っていただきます。

フィードバックの方法: 授業内での個別・全体へのフィードバックを随時おこなう

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点 現地調査への参加度	40	到達目標1:地域調査の実態を現地において実地に学ぶ過程を総合的に評価する。
	プレゼンテーション発表内容	20	到達目標2:観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する。
	大学報告会におけるプレゼンテーション	20	到達目標2:観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する。
	全体の統括・管理	20	到達目標3:プロジェクト全体の統括として、教員と受講生、地域の人々との連絡を緊密に図る力を養う。

教科書: 特になし。現地で必要な資料を適宜消化するとともに、映像資料の事前視聴をおこなう

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 事前学習ならびに現地調査前には、研究室訪問(知徳館C354)なども通じた連絡を中心とし、授業中(現地学習中)には、随時、適宜対面で相互に相談をおこなう。メール類も随時活用する。

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: 地域企業の課題解決策を立案・実施する

授業の概要: 地域企業との共同プロジェクトのなかから、地域企業の抱える課題を正確に把握して、その課題への解決策を企業とともに考えて実施します。
具体的には、奈良交通株式会社の子会社である新若草山自動車道株式会社の要請と協力のもと、「奈良奥山ドライブウェイ」の利用促進と観光への活用について、受講生自らが主体的に目的やテーマを設定しプロモーション企画を立案し実施することを計画しています。
また、新若草山自動車道株式会社以外の事業領域における同様の活動への展開も考えています。

到達目標: 1: 地域企業の実態を現地において実際に学ぶ。
2: 地域企業の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるか、実践的に関心をもつ。さらに幅広い社会調査を通して現地の企業、それを取り巻く人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養う。
3: プロジェクト全体の統括として、教員と受講生、企業などの関係者との連絡を緊密に図る力を養う。

授業方法: 事前学習・事後学習とともに、実際に現地に訪れて、現地調査と発信を中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前学習Ⅰ: プロジェクト概要説明	事前にシラバスをよく読んでプロジェクトの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。(15分)
2.	事前学習Ⅱ: プロジェクト計画立案 協力してもらう地域企業の現状や課題について、情報提供を受ける。	企業のホームページ等で情報収集をしておいてください。(60分)
3.	事前学習Ⅲ: プロジェクト計画決定 地域企業が抱える課題解決のために、自分たちがどのように貢献できるかの提案を決定します。	地域企業が抱える課題解決のために、自分たちがどのように貢献できるかを考えてきておいてください。(60分)
4.	事前学習Ⅳ: プロジェクト実施準備 自分たちで考えた課題解決策について、地域企業からの意見をもらいます。	課題解決策の提案ができるように、準備をしておいてください。(120分)
5.	事前学習Ⅴ: プロジェクト実施準備 現地でのプロジェクト実施の具体的計画を立案する。	課題解決策を実施するための計画を具体的に考えておいてください。(60分)
6.	プロジェクト実習Ⅰ-1	実際に現地の状況を確認します。現地の状況に関する予備学習(60分)
7.	プロジェクト実習Ⅰ-2	実際に現地の状況を確認します。現地の状況に関する予備学習(60分)
8.	プロジェクト実習Ⅰ-3	実際に現地の状況を確認します。現地の状況に関する予備学習(60分)
9.	プロジェクト実習Ⅰ-4	実際に現地の状況を確認します。現地の状況に関する予備学習(60分)
10.	プロジェクト実習Ⅱ-1	現地の状況に即したプロジェクト実施計画を考えます。利用状況に関する予備学習(60分)
11.	プロジェクト実習Ⅱ-2	現地の状況に即したプロジェクト実施計画を考えます。利用状況に関する予備学習(60分)
12.	プロジェクト実習Ⅱ-3	現地の状況に即したプロジェクト実施計画を考えます。利用状況に関する予備学習(60分)
13.	プロジェクト実習Ⅱ-4	現地の状況に即したプロジェクト実施計画を考えます。利用状況に関する予備学習(60分)
14.	プロジェクト実習Ⅲ-1	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
15.	プロジェクト実習Ⅲ-2	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
16.	プロジェクト実習Ⅲ-3	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
17.	プロジェクト実習Ⅲ-4	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
18.	プロジェクト実習Ⅳ-1	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
19.	プロジェクト実習Ⅳ-2	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
20.	プロジェクト実習Ⅳ-3	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
21.	プロジェクト実習Ⅳ-4	プロジェクト実施計画に基づいて、素材収集を実施します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
22.	プロジェクト実習Ⅴ-1	収集した素材を使って、課題解決策を作成します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
23.	プロジェクト実習Ⅴ-2	収集した素材を使って、課題解決策を作成します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
24.	プロジェクト実習Ⅴ-3	収集した素材を使って、課題解決策を作成します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
25.	プロジェクト実習Ⅴ-4	収集した素材を使って、課題解決策を作成します。プロジェクト実施のための予備学習(60分)
26.	事後学習Ⅰ: 現地プロジェクトで収集・作成した素材や情報を総合して成果物としてまとめます。	素材や情報の整理(120分)
27.	事後学習Ⅱ: 協力企業に成果物の概要を説明し、改善意見などを出してもらう。	発表の準備・プレゼンテーション準備(120分)
28.	事後学習Ⅲ: 修正した成果物の確認。	成果物の修正(60分)

29. 事後学習Ⅳ： 発表の準備・プレゼンテーション準備(120分)
 全体の総括
30. 事後学習Ⅴ： 発表の準備・プレゼンテーション準備(120分)
 学習内容のプレゼンテーションと成果物の提供

受講者へのメッセージやアドバイス： 地域で活動している企業の中に入って、その仕事を体験するとともに、課題解決に貢献することによって、受講者の能力を発揮させることができるように、積極的に活動してください。

フィードバックの方法： 授業内での個別・全体へのフィードバックを随時おこないます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	40	到達目標1: 事前・事後学習および現地プロジェクトへの参加度。単に出席するのではなく、積極的に学んだり貢献したりしようとしているかどうか。
	成果物	20	到達目標2: 地域企業の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できたか。
	大学報告会におけるプレゼンテーション	20	到達目標2: 地域企業の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮しているか。
	全体の統括・管理	20	到達目標3: プロジェクト全体の統括として、教員と受講生、企業などの関係者との連絡を緊密に図る力を養う。

教科書： 特になし

参考文献等： 必要に応じて指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法： オフィスアワー、マナビーの「スレッド」およびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: Sustainable Development Goals and Environmental Activism

授業の概要: What are sustainable development goals (SDGs)? They are goals of the UNDP to improve living quality. In this one-year course for 2nd year students, you will learn about environmental SDGs and create a project of your own. The goal is for students to use English while developing teamwork, organizing, and planning skills in order to perform research that will benefit either the university or society. Students are required to communicate in English within the team, organize and manage group work for the group project, and present the results of the research project in English.

到達目標: Upon completion of this course, students will be able to perform research in English and create a final project report. Students will also develop interpersonal, communication, time-management, and presentation skills.

授業方法: Students will participate in group discussions and give research project updates about their outside research. This class will meet as a group 10-15 times during the entire year. Smaller group meetings will take place at other times, including weekends, as required to do project research for the class. Announcements will be made at least 1-2 weeks in advance. Students will be required to spend at least 60 hours of work on their project during the year. There may be some class excursions and group travel required. Students will be responsible for any costs. However, discussions and decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Discuss course and research project guidelines	Reading and note-taking in preparation for research project. Target of 2-3 hours of homework.
2. Discuss research skills and how to present research results	Reading and note-taking in preparation for research project. Target of 2-3 hours of homework.
3. Communication and team building skills 1	Reading and note-taking in preparation for research project. Target of 2-3 hours of homework.
4. Communication and team building skills 2; choose research projects	Reading and note-taking and working on research project. Target of 2-3 hours of homework.
5. Determine research project objectives and research plan	Reading and note-taking and working on research project. Target of 2-3 hours of homework.
6. Organizational skills and continue research project	Discussions and working on research project. Target of 2-3 hours of homework.
7. Discuss research project details with individuals or group from another project	Reading about and researching another organization in Japan. Target of 2-3 hours of homework.
8. Visit and discuss research project details with individuals or group outside DWC	Researching and working on research project. Target of 2-3 hours of homework.
9. Continue research project	Researching and working on research project. Target of 2-3 hours of homework.
10. Research plan updates	Researching and working on research project. Target of 2-3 hours of homework.
11. Continue research project	Review project objectives and finish any remaining uncompleted tasks. Target of 5 hours of homework.
12. Review project objectives	Write report and plan presentation. Target of 5 hours of homework.
13. Prepare final report	Prepare a formal presentation using PowerPoint. Target of 5 hours of homework.
14. Present final report	Write or record self-reflection. Target of 2-3 hours of homework.
15. Discuss and reflect on project, team work, and evaluation of student performance	Feedback to teacher. 30 minutes per person.

受講者へのメッセージやアドバイス: Students will work in groups to choose a project, conduct research, and give updates and feedback to other groups through class discussions, online discussions, and presentations. Students will do research outside of class to complete a project.

All members of the class will meet together 10-15 times during the entire year. Small group meetings at other times, including weekends, will be necessary to complete 60 hours on the project.

Students should have either 1) at least a GPA of 3.0 in the CASE Program OR 2) be able to give their opinions and discuss various social issues in English (CASE Program students and regular Gensha students). English will be used inside and outside the classroom.

フィードバックの方法: Feedback will be provided through written and oral comments.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Group work	25	Ability to work effectively as a team
Research activities	25	Productivity and effort of research
Research project	50	Presentation and project results

教科書: None

参考文献等: Will be provided in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: Will be provided in class materials

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: International Project Teams

授業の概要: After graduating, many students will find themselves working with people from other countries in companies. Even if they do not leave Japan, they may have to communicate with people working in other countries using English. This course requires actively using English to complete a task with Japanese and non-Japanese team members. The aims are for students to use English and teamwork skills to do the following:
 1) Actively do research by communicating with people in Japan and other countries to complete a team project
 2) Organize and manage group work to successfully complete a project similar to real world companies
 3) Present research project findings in English

到達目標: Upon completion of this course, students will understand and be able to use English to do a research project and present a final project report. They will also learn and practice to improve their communication and leadership skills as they gain self-confidence.

Students will be able to use successful projects as examples of their hard work and management skills when searching for a job.

授業方法: Students will participate in group discussions and give research project updates, while doing outside research. Students of this course will meet 10-15 times in-person and online during the year. Even though the course is scheduled for Mondays, meetings at other times, including weekends, may be necessary to communicate with groups and team members in other countries. There may also be some class excursions and group travel required. Students will be responsible for any costs. However, decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内
 容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Discuss course and research project guidelines	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
2. Discuss research skills and how to present research results	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
3. Communication and team building skills 1	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
4. Communication and team building skills 2 and choose research projects	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
5. Study about communication styles in various countries.	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
6. Study about communication styles in various countries.	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
7. Study about cultural differences	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
8. Study about cultural differences	Reading and researching about cultural differences and practice important English vocabulary and phrases. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
9. Organizational skills & choose research projects	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
10. Discuss research project details with international team members online	Online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
11. Discuss research project details with international team members online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
12. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
13. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
14. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
15. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
16. International project teams give project updates online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
17. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
18. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.

- | | | |
|-----|--|--|
| 19. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 20. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 21. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 22. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 23. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 24. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 25. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 26. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 27. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 28. | Complete project and prepare research report | Work with team members to complete the project and organize report summary. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 29. | International team members present research report | Prepare a formal presentation using PowerPoint. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 30. | Discuss and reflect on project, team work, and evaluation of student performance | Self-reflection. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

Students will work in international workteams to complete a project by conducting research, and give periodic updates and reports to other groups. They will do this through group discussions on campus, online discussions and through presentations. Students will do outside research, including talking with people in other countries and in Japan, to complete a project.

PBE students will meet 10–15 times during the year. Even though the course is scheduled on Mondays, meetings at other times, including weekends, will be necessary to complete the project. Students who are able to help their team complete a project successfully will be able to use those experiences when searching for a job. However, this will not be an easy task. It will take hard work and effort. Students will be required to work at least 60 hours with students from outside Japan on their project to complete this course.

Students should have either 1) at least a GPA of 3.0 in the CASE Program OR 2) be able to give their opinions and discuss various social issues in English (CASE Program students and regular Gensha students). This is because English will be used outside the classroom.

フィードバックの
方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Research Project updates and final presentation	50%	Presentation contents and preparation
Research activities organization	20%	Research activities such as gathering background information, planning, and carrying out necessary surveys, and so on
Group work	30%	Ability and efforts to work as a team

教科書:

No Textbook

参考文献等:

Will be announced in class

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

Irogers@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: Research Project Management

授業の概要: This is a one-year course for 3rd year students who have completed Project-Based English I and want to develop their organizational and leadership skills further. The goal is for students to use English and develop teamwork skills to perform research that will benefit either the university or society. Students are required to communicate in English within the team, assist groups with organization and managerial skills for group work for the group project, and assist the group with preparing the results of the research project for the presentation in English.

到達目標: Upon completion of this course, students will be able to lead and guide teams as they perform research in English and collaborate to create a final project report. Students will further develop their interpersonal, communication, time-management, and presentation skills. Students in this course are acting as assistants to the teacher and guides to the PBE I students.

授業方法: Students will participate in group discussions and give research project updates about their outside research. This class will meet as a group 10-15 times during the entire year. Smaller group meetings will take place at other times, including weekends, as required to do project research for the class. Announcements will be made at least 1-2 weeks in advance. Students will be required to spend at least 60 hours of work on their project during the year. There may be some class excursions and group travel required. Students will be responsible for any costs. However, discussions and decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Help students understand course and research project guidelines	Help students prepare to begin a research project. 1-2 hours of outside work per week.
2. Discuss research skills and how to present research results	Help students organize research projects. 1-2 hours of outside work per week.
3. Communication and team building skills 1	Help students do a needs assessment for a research project. 1-2 hours of outside work per week.
4. Communication and team building skills 2 and choose research projects	Help students work on research projects. 1-2 hours of outside work per week.
5. Discuss research project updates	Help students work on research projects. 1-2 hours of outside work per week.
6. Organizational skills & continue research project	Help students work on research projects. 1-2 hours of outside work per week.
7. Discuss research project details with individuals or another group	Help students work on research projects. 1-2 hours of outside work per week.
8. Visit and discuss research project details with individuals or group outside DWC	Help students work on research projects. 1-2 hours of outside work per week.
9. Continue research project	Help students work on research projects. 1-2 hours of outside work per week.
10. Research project and activity planning updates	Help students work on research projects. 1-2 hours of outside work per week.
11. Continue research project	Help students complete the project and organize report summary. 1-2 hours of outside work per week.
12. Complete Project	Help students prepare research report. 1-2 hours of outside work per week.
13. Prepare research report	Help students prepare a formal presentation using PowerPoint. 1-2 hours of outside work per week.
14. Present research report	Encourage students to reflect and discuss their learning experience. 1-2 hours of outside work per week.
15. Discuss and reflect on project, team work, and evaluation of student performance. Lead self-reflection session.	Feedback to teacher. 30 minutes per group.

受講者へのメッセージやアドバイス: Students will work in groups to choose a project, conduct research, and give updates and feedback to other groups through class discussions, online discussions, and presentations. Students will do research outside of class to complete a project.

All members of the class will meet together 10-15 times during the entire year. Small group meetings at other times, including weekends, will be necessary to complete 60 hours on the project.

Students should have either 1) at least a GPA of 3.0 in the CASE Program OR 2) be able to give their opinions and discuss various social issues in English (CASE Program students and regular Gensha students). This is because English will be used outside the classroom

フィードバックの方法: Feedback will be provided through written and oral comments.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Assisting in class	45	Assisting the teacher with class activities
	Assisting groups	45	Assisting the group with time-management and other guidance
	Cooperation	10	Overall communication and organizational effort

教科書: None

参考文献等: Will be provided in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Will be provided in class materials

FLTナンバー: SOCa26-GS

授業テーマ: International Project Teams

授業の概要: After graduating, many students will find themselves working with people from other countries in companies. Even if they do not leave Japan, they may have to communicate with people working in other countries using English. This course requires actively using English to complete a task with Japanese and non-Japanese team members. The aims are for students to use English and teamwork skills to do the following:
 1) Actively do research by communicating with people in Japan and other countries to complete a team project
 2) Organize and manage group work to successfully complete a project similar to real world companies
 3) Present research project findings in English

到達目標: Upon completion of this course, students will understand and be able to use English to do a research project and present a final project report. They will also learn and practice to improve their communication and leadership skills as they gain self-confidence.

Students will be able to use successful projects as examples of their hard work and management skills when searching for a job.

授業方法: Students will participate in group discussions and give research project updates, while doing outside research. Students of this course will meet 10-15 times in-person and online during the year. Even though the course is scheduled for Mondays, meetings at other times, including weekends, may be necessary to communicate with groups and team members in other countries. There may also be some class excursions and group travel required. Students will be responsible for any costs. However, decisions about excursions will be made together, and students can choose not to participate without penalty.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Discuss course and research project guidelines	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
2. Discuss research skills and how to present research results	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
3. Communication and team building skills 1	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
4. Communication and team building skills 2 and choose research projects	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
5. Study about communication styles in various countries.	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
6. Study about communication styles in various countries.	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
7. Study about cultural differences	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
8. Study about cultural differences	Reading and researching about cultural differences and practice important English vocabulary and phrases. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
9. Organizational skills & choose research projects	Researching general information about different countries and ways to communicate. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
10. Discuss research project details with international team members online	Online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
11. Discuss research project details with international team members online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
12. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
13. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
14. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
15. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
16. International project teams give project updates online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
17. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.
18. International team members work remotely and meet online	Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class.

- | | | |
|-----|--|--|
| 19. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 20. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 21. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 22. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 23. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 24. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 25. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 26. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 27. | International team members work remotely and meet online | Researching and online discussion with international team members. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 28. | Complete project and prepare research report | Work with team members to complete the project and organize report summary. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 29. | International team members present research report | Prepare a formal presentation using PowerPoint. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |
| 30. | Discuss and reflect on project, team work, and evaluation of student performance | Self-reflection. Students should expect to do at least 1 hour of work each week for this class. |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

Students will work in international workteams to complete a project by conducting research, and give periodic updates and reports to other groups. They will do this through group discussions on campus, online discussions and through presentations. Students will do outside research, including talking with people in other countries and in Japan, to complete a project.

PBE students will meet 10–15 times during the year. Even though the course is scheduled on Mondays, meetings at other times, including weekends, will be necessary to complete the project. Students who are able to help their team complete a project successfully will be able to use those experiences when searching for a job. However, this will not be an easy task. It will take hard work and effort. Students will be required to work at least 60 hours with students from outside Japan on their project to complete this course.

Students should have completed Project-Based English I successfully. If they have not completed Project-Based I, an interview will be required.

フィードバックの
方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Research Project updates and final presentation	50%	Presentation contents and preparation
Research activities organization	20%	Research activities such as gathering background information, planning, and carrying out necessary surveys, and so on
Group work	30%	Ability and efforts to work as a team

教科書:

No Textbook

参考文献等:

Will be announced in class

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: いのちと倫理～思想研究を通し～

授業の概要: 同志社女子大学(人間生活学科)での4年間の様々な学びの集大成として、各人の設定した研究テーマを探求します。ゼミ内での討論等を通し、互いに切磋琢磨し、研究の方法、まとめ方、発表の仕方等を習得します。

到達目標: 1. 各人のテーマに即し、先行研究に基づき、論理的に考察した卒業論文を完成し、所定の期日までに指導教員に提出します。
2. 12月初旬には卒業論文のテーマを提出し、12月下旬には卒業論文発表会の要旨を提出します。
3. プレゼンテーションの技術を習得し、卒論委員会が運営する卒論発表会において、ゼミ生全員が卒業論文の要旨を口頭発表します。

授業方法: 演習形式を基本とします。個人発表、グループ討議、グループ批評等を通し、学習者相互の思考を深めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 演習での学びの振り返り。	シラバスにより当該科目の内容、到達目標、評価基準を整理する(45分)。 応用演習1・2で学んだ事をふりかえり、自身の問題意識を高める(60分)。
2.	基礎学習とテーマ探し1 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介、方法論確認)と発表ポイントの整理(90分)。発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
3.	基礎学習とテーマ探し2 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介、方法論確認)と発表ポイントの整理(90分)。発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
4.	基礎学習とテーマ探し3 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介、方法論確認)と発表ポイントの整理(90分)。発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
5.	卒論デザイン作成、及び、先行研究検索、基本文献検索、批評に向けた確認 研究倫理に関する学び(先行研究に関して)	卒論デザイン作成に向けて、自身の卒論の焦点を絞る。仮説と論証方法を模索し、整理する。先行研究の方法に関して研究倫理と合わせ学びを深める(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
6.	先行研究と資料収集1	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
7.	先行研究と資料収集2	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
8.	先行研究と資料収集3	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
9.	先行研究と資料収集4	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
10.	卒論デザイン作成説明	配布資料や参考文献を用いて、卒業論文を執筆の方法論などを再考しつつ、深め、整理する(90分)。 卒論デザイン作成資料をふりかえり、自己のテーマを絞る(90分)。
11.	卒論デザイン発表1	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
12.	卒論デザイン発表2	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
13.	卒論デザイン発表3	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
14.	卒論デザイン発表4	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。 発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
15.	中間原稿提出に向けて	夏季休暇後の中間原稿提出に向けて思索の深化と下書き作成準備。中間原稿執筆へのスケジュールの確認。自己の関心事を文章化し、論点を明示する(90分)。 表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
16.	中間原稿提出。	夏季休暇を用いて、中間原稿執筆。自己の関心事を文章化し、論点を明示する。 中間原稿作成(60時間/3600分) 表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。

17. 中間原稿相互批判
研究倫理規定の確認
事前に預かった受講生の中間原稿への批評コメント作成。他者からのコメントに対応できるよう、自身の卒論を再検討する。夏季休暇を用いて、中間原稿執筆。自己の関心事を文章化し、論点を明示する。
中間原稿作成(90分)
表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める。研究倫理規定(捏造、改ざん、盗用など)も合わせて相互に確認する。(180分)
18. 中間原稿の深化と発展1
新たな資料紹介、先行研究批判など。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。
発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
19. 中間原稿の深化と発展2
新たな資料紹介、先行研究批判など。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。
発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
20. 中間原稿の深化と発展3
新たな資料紹介、先行研究批判など。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。
発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
21. ポスター発表(ゼミ内)
ポスター発表資料準備。後輩にむけ、卒論の論理構成を提示(6時間/360分)。
自己の卒論の論理構成を確認。
発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
22. ポスター発表後の再検討課題発表1
ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。
発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
23. ポスター発表後の再検討課題発表2
ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。
発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
24. ポスター発表後の再検討課題発表3
ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料(卒論デザイン)を作成(120分)。
発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
25. 卒業論文第一次提出。ゼミ内査読者選定。
卒業論文第一次原稿を執筆。提出用と査読用の2部準備。ゼミ内、卒業論文規定に従い原稿作成(120時間/7200分)
発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
26. 卒論タイトル・要旨の最終確認。
相互議論、相互批評による、タイトルの明確化、要旨の的確化に努める。配布資料の作成(180分)。
発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(90分)。
27. 研究倫理規程に即して、卒論査読者よりコメント。
冬季休暇を用いて、他の受講者の卒論批評。研究倫理規定に即して、自分自身の卒論の整理と深化。配布資料の作成(1800分)
発表時の意見交換や助言をふりかえり、自己の課題を深める(120分)。
28. 各卒論への批評大会。
他者からの批評に耐えうるよう、自身の卒論の再検証(180分)。
発表時の意見交換や助言をふりかえり、最終提出に向けた整理(360分)。
29. 発表資料作成による卒論の深化
卒論の中心テーマ、結論への吟味。再度、構成の確認など。発表用資料の作成(180分)。
発表時の意見交換や助言をふりかえり、最終提出に向けた整理(180分)。
30. 卒業論文の提出。卒論発表会に向けて準備。
発表会后、最終原稿(発表資料・口頭原稿含む)提出。
最終原稿の提出。発表会に向けた資料作成など。引用方法などを含め、誤字脱字等、校正の上、提出(1200分)。

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業時間外の自主学習及びグループ学習等が求められます。先行研究(文献研究など)を踏まえた上での思想の構築が期待されます。

フィードバックの方法: 毎回のゼミ内で、相互の学びを深めるコメントペーパーを作成します。ゼミ生同志の意見交換を含んだコメントペーパーを積極的に用います。学生からのコメントはゼミ内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有し、かつ個々人へフィードバックします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	クラスへの参加・貢献	40	クラス内での互いの学びへの批判力、貢献度などにより評価します。
	卒業論文・卒業論文発表	60	卒業論文かつ卒業論文発表会における完成度、独自性、科学性などを総合的に評価します。よって、いずれかが不十分の場合は単位認定にならないことを付言する。

教科書: 教室にて指示します。

参考文献等: 教室にて指示します。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

授業前後の対応を基本としますが、オフィスアワー、Eメール、別途個人面談など随時対応します。

FLTナンバー:

授業テーマ: 社会福祉の歴史・制度・実践

授業の概要: 応用演習ⅠⅡで学んだ社会福祉の歴史・制度・実践を踏まえ、各自でテーマを絞り込み、研究計画に基づいて卒業論文の作成および論文要旨の口頭発表を行う。

到達目標: 卒業論文の完成

授業方法: レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議などとおし、一部で社会福祉見学・配属実習を行うことによって、各自の研究テーマを深めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 資料読解	毎回、自己の研究テーマに関する発表資料を準備する(90分)
2. 資料読解	毎回、自己の研究テーマに関する発表資料を準備する(90分)
3. 資料読解	毎回、自己の研究テーマに関する発表資料を準備する(90分)
4. 資料読解	毎回、自己の研究テーマに関する発表資料を準備する(90分)
5. 資料読解	毎回、自己の研究テーマに関する発表資料を準備する(90分)
6. 資料読解	毎回、自己の研究テーマに関する発表資料を準備する(90分)、発表で出された意見を整理し、今後の研究の方向性を探る(60分)
7. 資料読解	毎回、自己の研究テーマに関する発表資料を準備する(90分)、発表で出された意見を整理し、今後の研究の方向性を探る(60分)
8. 資料読解	毎回、自己の研究テーマに関する発表資料を準備する(90分)、発表で出された意見を整理し、今後の研究の方向性を探る(60分)
9. 資料読解	毎回、自己の研究テーマに関する発表資料を準備する(90分)、発表で出された意見を整理し、今後の研究の方向性を探る(60分)
10. 資料読解	毎回、自己の研究テーマに関する発表資料を準備する(90分)、発表で出された意見を整理し、今後の研究の方向性を探る(60分)
11. 論文作成	毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく(180分)
12. 論文作成	毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく(180分)
13. 論文作成	毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく(180分)、プレゼンテーションの訓練を行う(90分)
14. 中間発表	発表で出された意見を整理し修正を行う(120分)
15. 中間発表	発表で出された意見を整理し修正を行う(120分)
16. 論文作成	毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく(180分)
17. 論文作成	毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく(180分)
18. 論文作成	毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく(180分)
19. 論文作成	毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく(180分)
20. 論文作成	卒論の進ちよくを確認しながら、いつまでに何を行うか明確にする(180分)
21. 論文作成	卒論の進ちよくを確認しながら、いつまでに何を行うか明確にする(180分)
22. 論文作成	卒論の進ちよくを確認しながら、いつまでに何を行うか明確にする(180分)
23. 論文作成	卒論の進ちよくを確認しながら、いつまでに何を行うか明確にする(180分)
24. 論文作成	卒論の進ちよくを確認しながら、いつまでに何を行うか明確にする(180分)、プレゼンテーションの訓練を行う(90分)
25. 最終発表	発表で出された意見を整理し修正を行う(120分)
26. 最終発表	発表で出された意見を整理し修正を行う(120分)
27. 論文修正	提出に向けて最終確認を行う(180分)
28. 論文提出	提出に向けて最終確認を行う(180分)
29. 論文講評	卒業論文口頭試問に備えておく(120分)
30. 論文講評	卒業論文口頭試問に備えておく(120分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	出席を含む授業への参加・態度
卒業論文	50	卒業論文および論文要旨の口頭発表による総合評価

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

力:

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、Eメール等を利用

FLTナンバー:

授業テーマ: 社会心理学(日常を計量する)

授業の概要: 社会心理学は、日常生活の中で自分やまわりの人々が繰り広げる様々な「行動の饗宴」を素材として、そのような行動を「発現」させる「心の仕組み」を明らかにする学問ツールです。卒業研究では、「社会心理学」という学問ツールに触れることによって、だれもが「体感」している日常素材を対象として各自が実際に「心の冒険」をし<=研究>、卒業後の「社会」の中で自己成長を遂げるステップにすることを目標とします。とりわけ、学問領域だけでなく、実務・リサーチ系でも有力な統計ツールとして認知されている「SPSS」統計処理ソフトの活用能力や他の処理スキルを身につけることも併せて目指します。

この演習の最終目標は、各人が築きあげた成果を卒業研究としてまとめ発表することです。これは、「感想文」とは異なり、あくまでも社会心理学という学問ツールの適用結果としての研究(卒業論文+口頭発表)の形にします。これによって、演習生のキャンパス・ライフのアカデミックな部分を「形」として残すこととなります。

到達目標: 特定主題での社会心理学的研究の達成

授業方法: 1時間30分の授業時間のみが「学習時間」ではなく、その合間に多くの「作業・学習時間」が必要となります。「皆出席」を前提に、各自が「期間中」にどのくらい格闘したかを評価の対象とします。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC、スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1年間の概観	2時間程度の作業
2.	卒業研究テーマの同定作業	2時間程度の作業
3.	卒業研究テーマの同定作業と研究準備	2時間程度の作業
4.	卒業研究テーマの同定作業と研究準備	2時間程度の作業
5.	卒業研究の準備	2時間程度の作業
6.	卒業研究の準備と着手	2時間程度の作業
7.	卒業研究の着手	2時間程度の作業
8.	卒業研究の着手	2時間程度の作業
9.	収集データの整理	2時間程度の作業
10.	収集データの整理	2時間程度の作業
11.	収集データの整理	2時間程度の作業
12.	収集データの整理と解析	2時間程度の作業
13.	収集データの整理と解析	2時間程度の作業
14.	卒業研究の中間発表	2時間程度の作業
15.	卒業研究の中間発表	2時間程度の作業
16.	卒業論文作成に向けた概観	2時間程度の作業
17.	収集データの解析	2時間程度の作業
18.	収集データの解析	2時間程度の作業
19.	卒業研究データの「図表」化作業	2時間程度の作業
20.	卒業研究データの「図表」化作業	2時間程度の作業
21.	卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	2時間程度の作業
22.	卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	2時間程度の作業
23.	卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	2時間程度の作業
24.	卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	2時間程度の作業
25.	卒業論文全体の作成	2時間程度の作業
26.	卒業論文全体の作成	2時間程度の作業
27.	卒業論文の完成	2時間程度の作業
28.	発表会用の「要約」の作成、発表会用の「発表スライド」の作成作業	2時間程度の作業
29.	発表会用の「発表スライド」の作成作業	2時間程度の作業
30.	発表会の最終準備(発表スライド+口頭発表)	2時間程度の作業

受講者へのメッセージやアドバイス: 準備学習(予習・復習)等の内容: 授業と授業の間の1週間にこそ、自己進歩があることを忘れないようにしましょう。

フィードバックの方法: 演習時の応答およびマナビー

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席と研究取り組み状況	50	授業時・時間外の熱心さ
	卒業論文の完成	25	論文としての完成度
	卒論発表会パフォーマンス	25	呈示と発表の完成度

教科書: 演習時に指示する。

参考文献等: 適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡
方法:

マナーおよび日常的接触

FLTナンバー:

授業テーマ: 快適な居住環境に関する研究の手法を学ぶ

授業の概要: 人間生活学科における学びの集大成として卒業論文を執筆する

到達目標: 各自が設定するテーマに基づき、問題解決のための手法を検討し、その結果をわかりやすく提示する

授業方法: 各自のテーマに基づき、問題解決手法(文献調査、フィールド調査、心理実験)を実施し、進捗状況を授業内で発表・議論する。卒業論文を執筆し、卒業論文発表会にて発表する。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究テーマ・研究手法の発表1	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる(60分)
2. 研究テーマ・研究手法の発表2	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる(60分)
3. 研究テーマ・研究手法の発表3	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる(60分)
4. 研究計画の発表1	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える(60分)
5. 研究計画の発表2	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える(60分)
6. 研究計画の発表3	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える(60分)
7. 研究計画の発表4	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する(60分)
8. 研究計画の発表5	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する(60分)
9. 研究計画の発表6	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する(60分)
10. 進捗状況の発表1	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
11. 進捗状況の発表2	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
12. 進捗状況の発表3	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
13. 進捗状況の発表4	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
14. 進捗状況の発表5	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
15. 進捗状況の発表6	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する(120分)
16. 中間発表1	これまでの進捗をまとめると同時に、今後必要となるデータ／分析をピックアップする(120分)
17. 中間発表2	これまでの進捗をまとめると同時に、今後必要となるデータ／分析をピックアップする(120分)
18. 研究結果の発表1	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる(120分)
19. 研究結果の発表2	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる(120分)
20. 研究結果の発表3	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる(120分)
21. 研究結果の発表4	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める(120分)
22. 研究結果の発表5	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める(120分)
23. 研究結果の発表6	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める(120分)
24. 研究要旨の作成1	自身の研究内容を、端的にまとめられるよう研究ノートをまとめなおす(120分)
25. 研究要旨の作成2	自身の研究内容を、端的にまとめられるよう研究ノートをまとめなおす(120分)
26. 研究概要の作成1	自身の研究内容を、A4用紙2枚にまとめられるよう、図表を整理する(120分)
27. 研究概要の作成2	自身の研究内容を、A4用紙2枚にまとめられるよう、図表を整理する(120分)
28. 卒論発表資料の作成1	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える(60分)
29. 卒論発表資料の作成2	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える(60分)
30. 卒論発表資料の作成3	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 大学生生活の集大成です。コミュニケーション力やプレゼンテーション力を駆使しながら、卒業論文発表会を目指して頑張りましょう!

フィードバックの方法: 授業中にディスカッションしながらフィードバックする

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	30	ゼミでの発表内容、他者発表時の質問・ディスカッションなど
	ゼミでの発表・討論	30	他者の発表に関する議論、自身の発表に対する回答など
	論文	40	研究の実施状況、論文の出来栄

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

マネージャーによる

FLTナンバー:

授業テーマ: 服飾文化の歴史と現在

授業の概要: 4年間の学びの集大成として卒業論文を執筆します。これまでなされてきた服飾文化に関する研究をととして生活文化のさまざまな課題を探究し、これからあるべき生活にむけてその可能性を示すことを目指します。ゼミでのプレゼンテーションや意見交換のなかで互いに知見を広め思考を深めるとともに論文執筆の手順と方法を習得します。

到達目標: ①卒業論文として適切な文章表現を身につける。
②卒業論文として適切な情報収集と論理的な分析の手法を身につける。
③互いの卒業研究に関して建設的なディスカッションができる。
④卒業論文の成果をプレゼンテーションで表現し伝えることができる。

授業方法: ゼミナール形式を基本に個人指導も行います。各自で研究テーマを設定し、論文執筆にむけて計画をたて、それにもとづいて資料収集、調査、執筆をすすめます。中間報告や経過報告をととして進行状況を確認しながら卒業論文の完成を目指します。完成した卒業論文は所定の期日までに指導教員に提出し、その後、卒業論文発表会において論文要旨を口頭発表します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 卒業研究の進め方	「応用演習Ⅱ」で計画した予備調査の成果をまとめる
2. テーマ発表①	テーマについてのレポート作成および発表準備
3. テーマ発表②	テーマについてのレポート作成および発表準備
4. テーマ発表③	テーマについてのレポート作成および発表準備
5. 文献資料の検索と収集	文献等資料の検索結果をまとめる
6. 研究計画を発表①	研究計画書の作成および発表準備
7. 研究計画を発表②	研究計画書の作成および発表準備
8. 研究計画を発表③	研究計画書の作成および発表準備
9. 文献資料研究①	文献資料に関するレポート作成
10. 文献資料研究②	文献資料に関するレポート作成
11. 文献資料研究③	文献資料に関するレポート作成
12. 中間報告Ⅰおよび意見交換①	中間レポートの作成および発表準備
13. 中間報告Ⅰおよび意見交換②	中間レポートの作成および発表準備
14. 中間報告Ⅰおよび意見交換③	中間レポートの作成および発表準備
15. 学外見学	見学のための下調べ
16. 中間発表Ⅱおよび意見交換①	中間レポートの作成および発表準備
17. 中間発表Ⅱおよび意見交換②	中間レポートの作成および発表準備
18. 中間発表Ⅱおよび意見交換③	中間レポートの作成および発表準備
19. 論文の構成①	構成表と目次の下書き
20. 論文の構成②	構成表と目次の下書き
21. 卒業論文タイトル検討①	タイトル案を考える
22. 卒業論文タイトル検討②	タイトル案を考える
23. 卒業論文要旨および概要作成①	要旨および概要の下書き
24. 卒業論文要旨および概要作成②	要旨および概要の下書き
25. 卒業論文要旨および概要作成③	要旨および概要の下書き
26. 卒業論文発表会準備 パワーポイント作成①	パワーポイント作成の準備
27. 卒業論文発表会準備 パワーポイント作成②	パワーポイント作成の準備
28. 卒業論文発表会準備 原稿作成①	原稿下書き
29. 卒業論文発表会準備 原稿作成②	原稿下書き
30. 卒業論文発表会準備 仕上げ	発表練習を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業内でコメントし、適宜授業時間外にも個人指導を行います。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30	授業への準備と到達目標③に関する態度や発言を評価する。
論文	50	到達目標①②および途中経過における取り組みについて達成度を評価する。
口頭発表	20	到達目標④および途中経過における取り組みについて達成度を評価する。

教科書:

参考文献等: 適宜指示します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、

教員との連絡方法: オフィスアワー マナビーの掲示板機能 メール

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

各自が設定した卒業論文のテーマに基づき、先行研究調査、現地調査、データ分析等を行ない、その進捗状況を報告する。その際、積極的に質疑を受け、応答し、討議を行なう。また、個人ゼミを行なうことで、進行状況を確認しつつ、より卒業論文テーマの内容について深めていく。

最終的には、卒業論文を期日までに提出し、卒業論文発表会にて発表する。

到達目標:

- ・まちづくりに関する専門的な知識について、卒業論文の作成を通して理解を深める
- ・設定したテーマに対し、研究の方法、まとめ、発表の仕方を習得する
- ・卒業論文の完成

授業方法:

ゼミナール形式で行なう。進捗状況の報告時にはレジュメを用意し、質疑応答、討議ができるようにしておく。なお、現地調査、データ分析などにおいて授業時間外の作業を伴うことが多い。
また、卒業論文の完成には数回の修正を求められることがある。

「授業内容」

および
「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の進め方と卒業論文に関する説明	自身の研究テーマについて整理しておく。(30分)
2.	研究の進捗状況報告1	研究テーマの確認と研究計画について、スライドを作成する。(60分)
3.	研究の進捗状況報告2	研究テーマの確認と研究計画について、スライドを作成する。(60分)
4.	研究の進捗状況報告3	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
5.	研究の進捗状況報告4	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
6.	研究の進捗状況報告5	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
7.	研究の進捗状況報告6	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
8.	研究の進捗状況報告7	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
9.	研究の進捗状況報告8	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
10.	研究の進捗状況報告9	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
11.	研究の進捗状況報告10	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
12.	研究の進捗状況報告11	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
13.	研究の進捗状況報告12	研究の進捗状況についてスライドを作成する。(60分)
14.	中間報告1	これまでの研究内容を整理し、今後の研究計画を検討する。(60分)
15.	中間報告2	これまでの研究内容を整理し、今後の研究計画を検討する。(60分)
16.	研究の進捗状況報告と卒論目次の作成1	これまでの進捗状況と卒論目次についてレジュメを作成する。(30分)
17.	研究の進捗状況報告と卒論目次の作成2	これまでの進捗状況と卒論目次についてレジュメを作成する。(30分)
18.	研究結果の報告1	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
19.	研究結果の報告2	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
20.	研究結果の報告3	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
21.	研究結果の報告4	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
22.	研究結果の報告5	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
23.	研究結果の報告6	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
24.	卒業論文の要旨作成1	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
25.	卒業論文の要旨作成2	研究結果についてスライドを作成する。(60分)
26.	卒業論文の概要作成1	卒業論文全体の概要を整理するとともに、結論について自身の考えをまとめる。(60分)
27.	卒業論文の概要作成2	卒業論文全体の概要を整理するとともに、結論について自身の考えをまとめる。(60分)
28.	卒業論文発表資料作成1	卒業論文口頭発表時に用いるスライドを作成する。(60分)
29.	卒業論文発表資料作成2	卒業論文口頭発表時に用いるスライドを作成する。(60分)
30.	卒業論文発表資料作成3	前回指摘を受けた箇所を修正したうえで、スライドを作成する。(60分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

4年間の学びの集大成として、多少つらい時期があるかもしれないが、最後まで粘り強く取り組むことを望む。

フィードバックの
方法:

個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却するほか、マネビーの個別指導によりコメントすることもある。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、卒業論文の完成に向けて取り組んでいるかを評価する。
卒業論文・口頭発表	50	自身が調べた内容に対し、きちんとまとめ、発表できているかを評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的な
能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー, Eメール(asaito@dwc.doshisha.ac.jp), マナビーの個別指導を利用

FLTナンバー:

授業テーマ: 被服造形とデザイン

授業の概要: 本科目は、ゼミナール科目である。大学での学びの集大成として、主に被服造形およびデザインの視点から被服学に関する研究に取り組む。研究成果は、論文にまとめ、所定の期日までに指導教員に提出する。また卒業論文発表会において論文要旨を口頭発表する。

到達目標: 1.造形・デザインを中心に被服学分野の諸問題への関心を高め、知見を広げる。
2.被服学分野における諸問題を探求し、思考する態度を養う。
3.被服学分野における独自の視点にたった表現力を養う。
4.効果的な研究成果のまとめとプレゼンテーションの手順および方法を習得する。

授業方法: ゼミナール形式の授業。必要に応じて個人面談をおこなう。各自で研究に取り組み、授業時には報告とディスカッション等をおこなう。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	各自の研究テーマ・手法について考える。(60分)
2. 研究テーマ・手法の計画(1)	研究計画をレポートにまとめる。(90分)
3. 研究テーマ・手法の計画(2)	第2回のレポートに対する指摘事項について調べる。(90分)
4. 研究計画(1)	研究計画書を作成する。(90分)
5. 研究計画(2)	研究計画書を作成する。(90分)
6. 経過報告とディスカッション(1)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
7. 経過報告とディスカッション(2)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
8. 経過報告とディスカッション(3)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
9. 経過報告とディスカッション(4)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
10. 経過報告とディスカッション(5)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
11. 経過報告とディスカッション(6)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
12. 経過報告とディスカッション(7)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
13. 中間発表(1)	発表準備を行う。(90分) ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。(180分)
14. 中間発表(2)	発表準備を行う。(90分) ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。(180分)
15. 中間発表(3)	発表準備を行う。(90分) ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。(180分)
16. 研究の進捗確認とディスカッション	これまでの研究成果と今後の計画についてまとめる。(90分)
17. 経過報告とディスカッション(8)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
18. 経過報告とディスカッション(9)	研究に取り組む。(180分) 報告準備を行う。(90分)
19. 作品撮影と資料整理	作品・資料を整理する。(90分)
20. 論文作成(1)	論文を執筆する。(180分)
21. 論文作成(2)	論文を執筆する。(180分)
22. 論文作成(3)	論文を執筆する。(180分)
23. 論文作成(4)	論文をまとめ、仮提出する。(180分)
24. 卒業論文要旨および概要作成(1)	卒業論文要旨および概要を作成する。(180分)
25. 卒業論文要旨および概要作成(2)	卒業論文要旨および概要を作成する。(180分)
26. 卒業論文発表会の資料作成(1)	発表用のパワーポイントを作成する。 (90分)
27. 卒業論文発表会の資料作成(2)	発表用のパワーポイントを作成する。 (90分)
28. 卒業論文発表会の原稿作成(1)	発表原稿を作成する。(90分)
29. 卒業論文発表会の原稿作成(2)	発表原稿を作成する。(90分)
30. 卒業論文発表会の準備とまとめ	卒業論文発表会の発表練習を行う。(60分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 研究計画書はディスカッションの際に解説して返却する。
仮提出した要旨や論文は添削して返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
論文(作品を含む)	40	研究内容と作品および論文完成度により到達目標1,2,3,4の達成度を評価する。
口頭発表	20	到達目標4を実践し、研究成果を正しく明瞭に伝えることができたかを基準とする。
参加度	40	到達目標1,2,3,4の達成に向けた研究および授業への取り組みへの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール(jfujimot@dwc.doshisha.ac.jp)

FLTナンバー:

授業テーマ: 都市計画、まちづくりに関する研究

授業の概要: 人間生活学科での4年間の学びの集大成として、各自テーマを設定して研究を行い、論文としてまとめる。

到達目標:

- ・研究課題を設定できる。
- ・設定した課題に適した各種調査・分析ができる。
- ・理論的な文章で研究成果をまとめることができる。
- ・研究成果を簡潔に発表することができる。

授業方法: ゼミ形式と個別指導で進める。期限までに論文を指導教員に提出し、卒業論文発表会において口頭発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究の進め方・論文執筆の基本	特になし。
2. 研究課題の相談①	各自研究課題を検討し、レジュメとしてまとめる。(300分～)
3. 研究課題の相談②	各自研究課題を検討し、レジュメとしてまとめる。(300分～)
4. 研究課題の相談③	各自研究課題を検討し、レジュメとしてまとめる。(300分～)
5. 先行研究の調査、研究手法の検討①	各自先行研究の調査を行い、研究手法と計画をレジュメとしてまとめる。(300分～)
6. 先行研究の調査、研究手法の検討②	各自先行研究の調査を行い、研究手法と計画をレジュメとしてまとめる。(300分～)
7. 先行研究の調査、研究手法の検討③	各自先行研究の調査を行い、研究手法と計画をレジュメとしてまとめる。(300分～)
8. 進捗状況の発表①	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
9. 進捗状況の発表②	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
10. 進捗状況の発表③	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
11. 進捗状況の発表④	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
12. 進捗状況の発表⑤	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
13. 進捗状況の発表⑥	各自研究の進捗状況をレジュメとしてまとめる。(300分～)
14. 夏季休暇中の調査計画の作成①	各自休暇中の研究計画をレジュメとしてまとめる。(300分～)
15. 夏季休暇中の調査計画の作成②	各自休暇中の研究計画をレジュメとしてまとめる。(300分～)
16. 中間発表①	各自調査を進め、その成果をレジュメとパワーポイントでまとめておく。(300分～)
17. 中間発表②	各自調査を進め、その成果をレジュメとパワーポイントでまとめておく。(300分～)
18. 論文執筆と進捗発表①	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
19. 論文執筆と進捗発表②	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
20. 論文執筆と進捗発表③	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
21. 論文執筆と進捗発表④	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
22. 論文執筆と進捗発表⑤	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
23. 論文執筆と進捗発表⑥	各自論文を執筆し、疑問点をまとめておく。(600分～)
24. 要旨の作成①	各自要旨を作成しておく。(600分～)
25. 要旨の作成②	各自要旨を作成しておく。(600分～)
26. 卒業論文の仕上げ①	各自論文を仕上げる。(600分～)
27. 卒業論文の仕上げ②	各自論文を仕上げる。(600分～)
28. 研究発表会のパワーポイント作成①	各自パワーポイントを作成し、また必要に応じて発表原稿をまとめておく。(300分～)
29. 研究発表会のパワーポイント作成②	各自パワーポイントを作成し、また必要に応じて発表原稿をまとめておく。(300分～)
30. 発表リハーサル	各自発表準備を行っておく。(300分～)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: ゼミ形式の授業でのコメントの他、必要に応じて個別面談による指導を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	50	授業での定期的な進捗発表の内容、自主性 研究課題の設定、調査・分析、文章表現
論文	50	

教科書: なし

参考文献等: 適宜、各人のテーマに合わせて紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法: マナビー、メール

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

4年間の学びの集大成として卒業論文を作成します。各自が独自に設定した研究課題に対して解決方法を考え、関連資料やデータを収集して分析・考察を行い、これからの住まいや空間計画に生かす知見・提案を導き出します。研究の内容と成果について卒業論文発表会にて発表します。

到達目標:

- ・身の回りの生活環境から研究課題を発見し、テーマに相応しい研究方法や分析方法を検討できる。
- ・資料・データを読み取り、論理的に考察できる。
- ・卒業論文の内容を簡潔に発表できる。

授業方法:

ゼミナール形式を基本とします。必要に応じて個人面談や授業時間外に調査を行います。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 卒業論文の進め方	スケジュールを確認する(30分)
2. 研究対象に関する報告①	調査対象に関して情報収集を行い、レジュメを作成して発表準備をする(180分)
3. 研究対象に関する報告②	調査対象に関して情報収集を行い、レジュメを作成して発表準備をする(180分)
4. 先行研究に関する報告①	先行研究を調査し、レジュメを作成して発表準備をする(180分)
5. 先行研究に関する報告②	先行研究を調査し、レジュメを作成して発表準備をする(180分)
6. 調査対象地域に関する報告①	調査地域に関わる情報収集を行い、レジュメを作成して発表準備をする(180分)
7. 調査対象地域に関する報告②	調査地域に関わる情報収集を行い、レジュメを作成して発表準備をする(180分)
8. 研究方法の検討①	研究方法を検討し、レジュメを作成して発表準備をする(180分)
9. 研究方法の検討②	研究方法を検討し、レジュメを作成して発表準備をする(180分)
10. 調査計画・調査準備①	調査計画を作成し、調査準備を行う(180分)
11. 調査計画・調査準備②	調査計画を作成し、調査準備を行う(180分)
12. プレ調査①	事前調査を行い、改善点を見つけ、本調査に向けて修正・改良する(180分)
13. プレ調査②	事前調査を行い、改善点を見つけ、本調査に向けて修正・改良する(180分)
14. 中間報告①	これまでの研究活動の成果と夏休み中の研究計画をスライドにまとめる(120分)
15. 中間報告②	これまでの研究活動の成果と夏休み中の研究計画をレジュメにまとめる(120分)
16. 調査結果の報告①	調査結果をまとめ、図表を作成する(180分) 調査結果から言えることを考察する(60分)
17. 調査結果の報告②	調査結果をまとめ、図表を作成する(180分) 調査結果から言えることを考察する(60分)
18. 研究結果の報告③	調査結果をまとめ、図表を作成する(180分) 調査結果から言えることを考察する(60分)
19. 研究結果の報告④	調査結果をまとめ、図表を作成する(180分) 調査結果から言えることを考察する(60分)
20. 研究結果の報告⑤	調査結果をまとめ、図表を作成する(180分) 調査結果から言えることを考察する(60分)
21. 研究結果の報告⑥	調査結果をまとめ、図表を作成する(180分) 調査結果から言えることを考察する(60分)
22. 卒業論文の構成とタイトル作成①	卒業論文の構成とタイトルを考える(60分)
23. 卒業論文の構成とタイトル作成②	卒業論文の構成とタイトルを完成させる(60分)
24. 卒業論文の要旨作成①	研究内容を簡潔にまとめる(120分)
25. 卒業論文の要旨作成②	指摘箇所を修正して要旨を完成させる(120分)
26. 卒業論文の梗概作成①	研究内容を簡潔にまとめる(120分)
27. 卒業論文の梗概作成②	指摘箇所を修正して梗概を完成させる(120分)
28. 卒業論文発表会のスライド作成①	スライド、発表原稿を作成する(120分) 卒業研究または制作の内容を簡潔明快に伝える法保・手段を考える。
29. 卒業論文発表会のスライド作成②	指摘箇所を修正する(120分)
30. 卒業論文発表会のリハーサル	卒業論文発表会のリハーサルを行い、指摘箇所を修正する(120分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

それぞれスケジュールに基づき課題を進めます。

フィードバックの
方法:

授業時にコメントします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
論文	60	内容、完成度、期限
発表・ディスカッション	20	理解度、発表、質疑応答
積極的参加	20	取り組みへの意欲・態度、積極的発言

教科書： 適宜紹介する

参考文献等： 適宜紹介する

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法： マナビー掲示板、Eメール(ytsukada@dwc.doshisha.ac.jp)

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究の実施, 卒業論文の作成とプレゼンテーション

授業の概要: 栄養・調理・食品の各分野の専任教員の指導のもとに大学4年間の締めくくりとして、テーマを定めて1年間研究を行う。その成果を卒業論文発表会において発表し、卒業論文としてまとめる。これらを通して、学術研究における倫理的規範を身につけると共に、研究のすすめ方、問題点の解決法、研究のまとめ方、プレゼンテーションの方法を学ぶ。

到達目標: 持続的な研究活動により、配属研究室独自の高い技能を学修するだけでなく、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理力、協同性など、社会人として求められる資質を身につける。得られた最終成果を論文にまとめて指導教員に提出し、学科主催の卒業論文発表会において専任教員と在学生の前で口頭発表する。

授業方法: 授業方法は担当する教員によって異なる。1テーマにつき1～複数名で行う。年間を通して教員の指導のもとで研究を進めるが、受け身ではなく、各自がグループ内で協動的に役割を果たしつつ、自律的に行動する。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション(心構え, 研究の進め方, 研究倫理など)	研究を遂行するに当たっては、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画をたて、実験や調査を行い、結果を分析する作業が必須である。そのため、授業時間外に継続的にまとまった時間を確保する必要がある。また、卒業論文発表会用のスライド作成や卒業論文をまとめる作業も、必要に応じて授業時間外に行う。
2. 2-27. 文献検索, 討論, 実験・調査(準備, 測定, フィールドワーク, 培養・飼育, データ処理, 後片付けなど)を各研究室および各自の研究内容に応じて行い, 研究室内で中間発表を行う。さらに, 卒業論文発表会にむけて研究成果をまとめ, 論文を作成す	
3. 28-30. 卒業論文まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 3年次に実施したオリエンテーションでの説明を参照して下さい。

フィードバックの方法: 教員が日常的に学生とディスカッションを行う。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的参加度および研究に対する貢献度	50	
卒業論文発表会の発表および卒業論文	50	「卒業論文」に関しては、研究活動に対する取り組み状況、提出された論文や卒業論文発表会での内容に基づいて、指導教員が総合評価する。なお、卒業論文発表会では多数の専任教員と在学生の前で口頭発表し、その完成度が評価される。

教科書: 特に指定なし

参考文献等: 卒業論文のテーマにより異なる

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 研究室内で対応

FLTナンバー:

授業テーマ: 加工食品に関する食物学的研究

授業の概要: 研究計画, 実験, 結果, 考察を通じて修士論文作成に関する個別指導を行う。

到達目標: 学会誌に掲載されるレベルの研究を行うことで, 自らの力で研究活動を遂行できる研究者としての基礎的能力を身につける。

授業方法: 個別指導

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究計画	予習:与えられたテーマに関する論文を読みほどこいておく(90分) 復習:研究内容,進め方につき検討した内容につきまとめておく(90分)
2.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
3.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
4.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
5.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
6.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
7.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
8.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
9.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
10.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
11.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
12.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
13.	実験	予習:行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習:教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い,評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
14.	学会発表の準備	得られた結果をまとめて,日本農芸科学会,日本食品科学工学会,日本家政学会などでは発表する準備を行う。予習:そのために自分でプレゼンテーションのpower pointなどを作成しておく(1-2日)。 復習:指摘された箇所を修正。プレゼンテーションの練習(1-2日)。

15.	学会発表	日本農芸科学会, 日本食品科学工学会, 日本家政学会などでの発表を行う。予習: プレゼンテーションの練習(1-2日)。 復習: 学会発表で指摘いただいた点につきとりまとめる(3時間)。
16.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
17.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
18.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
19.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
20.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
21.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
22.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
23.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
24.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
25.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
26.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
27.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
28.	実験	予習: 行う実験に関連する論文を読みほどこきマニュアルを整理しておく(90分) 復習: 教員の指導のもと実験を行う。出てきた結果につきディスカッションを行い, 評価する。その評価を元に新たな研究の方向性を探る(90分)。
29.	論文作成	論文作成指導を受けながら, 論文審査に向けて, 修士論文を作成する。と同時に学術雑誌への投稿準備も進める。 予習: 原稿の作成(1週間)。 復習: 指摘された箇所の修正(1日)。
30.	修士論文審査	予習: 口頭諮問に向けて質疑に正しく応答できるように研究結果への理解を深めておく(3時間)。 復習: 指摘事項について, 修士論文の訂正を行う(3時間)。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

実験による研究という性質上, 上記以外の時間も出てきて行う必要がある。

フィードバックの
方法:

対面, メールなどで個別指導する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究内容	65	審査のある学会誌に掲載可能な内容があるかどうか。
	研究への取り組み姿勢	30	日頃の取り組み。
	審査発表	20	適切な発表と質疑応答が来ているか総合的に判断。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

対面・lineなど

FLTナンバー:

授業テーマ: 臨床栄養学

授業の概要: 疾患の病態と栄養管理について学ぶ

到達目標: 疾患の病態と栄養管理について学修する

授業方法: 講義形式

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 病態解析検査学(1)	前回の授業の復習(60分)
2. 病態解析検査学(2)	前回の授業の復習(60分)
3. 病態解析検査学(2)	前回の授業の復習(60分)
4. まとめ	前回の授業の復習(60分)
5. 健康食品管理(1)	前回の授業の復習(60分)
6. 健康食品管理(2)	前回の授業の復習(60分)
7. 健康食品管理(3)	前回の授業の復習(60分)
8. 健康食品管理(4)	前回の授業の復習(60分)
9. 食品検査－微生物(1)	前回の授業の復習(60分)
10. 食品検査－微生物(2)	前回の授業の復習(60分)
11. 食品検査－微生物(3)	前回の授業の復習(60分)
12. 栄養と病態解析(1)	前回の授業の復習(60分)
13. 栄養と病態解析(2)	前回の授業の復習(60分)
14. 栄養と病態解析(3)	前回の授業の復習(60分)
15. 栄養と病態解析(4)	前回の授業の復習(60分)
16. 妊産婦・婦人科疾患(1)	前回の授業の復習(60分)
17. 妊産婦・婦人科疾患(2)	前回の授業の復習(60分)
18. 妊産婦・婦人科疾患(3)	前回の授業の復習(60分)
19. 妊産婦・婦人科疾患(4)	前回の授業の復習(60分)
20. 妊産婦・婦人科疾患の栄養管理(1)	前回の授業の復習(60分)
21. 妊産婦・婦人科疾患の栄養管理(2)	前回の授業の復習(60分)
22. 小児疾患(1)	前回の授業の復習(60分)
23. 小児疾患(2)	前回の授業の復習(60分)
24. 小児疾患(3)	前回の授業の復習(60分)
25. 小児の栄養管理(1)	前回の授業の復習(60分)
26. 小児の栄養管理(2)	前回の授業の復習(60分)
27. 小児の栄養管理(3)	前回の授業の復習(60分)
28. 骨粗鬆症(1)	前回の授業の復習(60分)
29. 骨粗鬆症(2)	前回の授業の復習(60分)
30. まとめ	予習(60分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:
遅刻せずに皆出席可能な状況の年に受講すること
予習してあらかじめ知識の整理をしておく、授業後は必ず復習することにより効果的な学習が可能となる

フィードバックの
方法:
毎回の授業において質疑応答を行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	まとめの試験	100	受験資格は出席80%以上、試験70点以上を合格

教科書: 特に無し

参考文献等: 各講師の配布資料

獲得が期待される
基礎的・汎用的な能
力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理
力、自己実現力

教員との連絡
方法:
授業後

FLTナンバー:

授業テーマ: 臨床栄養学、病態栄養学、臨床栄養管理

授業の概要: 消化器疾患の内科系および外科系臨床と栄養管理および強制栄養補給法としての静脈・経腸栄養管理について当該分野専門の臨床医および管理栄養士によるオムニバス講義

到達目標: 消化器疾患の内科系および外科系臨床と栄養管理および強制栄養補給法としての静脈・経腸栄養管理について知識を深める

授業方法: 配布資料やパワーポイント等による資料提示を含む少人数講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	内科 上部消化管(1)	消化管の構造と機能、主要疾患について予習する(45分)
2.	内科 上部消化管(2)	前回の復習(30分)
3.	上部消化管疾患における栄養管理	前回の復習(30分)
4.	内科 下部消化管(1)	前回の復習(30分)
5.	内科 下部消化管(2)	前回の復習(30分)
6.	下部消化管の栄養管理(1)	前回の復習(30分)
7.	下部消化管の栄養管理(2)	前回の復習(30分)
8.	内科 肝臓・胆のう(1)	肝臓の構造と機能、主要疾患について予習する(45分)
9.	内科 肝臓・胆のう(2)	前回の復習(30分)
10.	肝・胆疾患の栄養管理(1)	前回の復習(30分)
11.	肝・胆疾患の栄養管理(2)	前回の復習(30分)
12.	内科 すい臓(1)	すい臓の構造と機能、主要疾患について予習する(45分)
13.	内科 すい臓(2)	前回の復習(30分)
14.	内科 すい臓(3)	前回の復習(30分)
15.	膵疾患の栄養管理	前回の復習(30分)
16.	外科 消化管(1)	術後侵襲時の代謝変動について調べておく(45分)
17.	外科 消化管(2)	前回の復習(30分)
18.	外科 消化管(3)	前回の復習(30分)
19.	外科 肝臓(1)	前回の復習(30分)
20.	外科 肝臓(2)	前回の復習(30分)
21.	外科 胆のう・すい臓(1)	前回の復習(30分)
22.	外科 胆のう・すい臓(2)	前回の復習(30分)
23.	外科疾患の栄養管理	前回の復習(30分)
24.	経静脈・経腸栄養学(1)	経静脈栄養法および経腸栄養法における投与ルート、栄養剤、合併症について予習する(45分)
25.	経静脈・経腸栄養学(2)	前回の復習(30分)
26.	経静脈・経腸栄養学(3)	前回の復習(30分)
27.	経静脈・経腸栄養学(4)	前回の復習(30分)
28.	消化器疾患の栄養管理のまとめ(1)	前回の復習(30分)
29.	消化器疾患の栄養管理のまとめ(2)	前回の復習(30分)
30.	全体のまとめ	これまでの配布資料等を整理し、全般の復習をしておく(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 夜間講義のため遅れないように注意すること。欠席時はあらかじめ連絡すること。

フィードバックの方法: 少人数に対する講義であり、外部講師が多いため、その場で積極的に質問し解決することが重要

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	まとめの試験	100%	受験資格は出席80%以上、試験70点以上を合格

教科書: 配布資料

参考文献等: 専門分野により多くの参考図書が出版されるので、それぞれの講師に確認する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: メールが望ましい(それぞれの講師に確認する)

FLTナンバー:

授業テーマ: 臨床栄養学

授業の概要: さまざまな疾患の病態と栄養管理について学ぶ

到達目標: さまざまな疾患の病態と栄養管理について学修する

授業方法: 講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 腎疾患(1)	腎疾患について予習する(60分)
	2. 腎疾患(2)	前回の授業内容の復習(60分)
	3. 腎疾患(3)	前回の授業内容の復習(60分)
	4. 腎疾患の栄養管理	前回の授業内容の復習(60分)
	5. 内分泌疾患(1)	前回の授業内容の復習(60分)
	6. 内分泌疾患(2)	前回の授業内容の復習(60分)
	7. 内分泌疾患(3)	前回の授業内容の復習(60分)
	8. 内分泌疾患(4)	前回の授業内容の復習(60分)
	9. 内分泌疾患の栄養管理	前回の授業内容の復習(60分)
	10. 血液疾患(1)	前回の授業内容の復習(60分)
	11. 血液疾患(2)	前回の授業内容の復習(60分)
	12. 血液疾患の栄養管理	前回の授業内容の復習(60分)
	13. アレルギー疾患(1)	前回の授業内容の復習(60分)
	14. アレルギー疾患(2)	前回の授業内容の復習(60分)
	15. アレルギー疾患(3)	前回の授業内容の復習(60分)
	16. 呼吸器疾患(1)	前回の授業内容の復習(60分)
	17. 呼吸器疾患(2)	前回の授業内容の復習(60分)
	18. 呼吸器疾患の栄養管理	前回の授業内容の復習(60分)
	19. 老年者の疾患(1)	前回の授業内容の復習(60分)
	20. 老年者の疾患(2)	前回の授業内容の復習(60分)
	21. 老年者の疾患(3)	前回の授業内容の復習(60分)
	22. 老年者の疾患(4)	前回の授業内容の復習(60分)
	23. 老年者の栄養管理(1)	前回の授業内容の復習(60分)
	24. 老年者の栄養管理(2)	前回の授業内容の復習(60分)
	25. 悪性腫瘍(1)	前回の授業内容の復習(60分)
	26. 悪性腫瘍(2)	前回の授業内容の復習(60分)
	27. 悪性腫瘍(3)	前回の授業内容の復習(60分)
	28. 悪性腫瘍の栄養管理(1)	前回の授業内容の復習(60分)
	29. 悪性腫瘍の栄養管理(2)	前回の授業内容の復習(60分)
	30. まとめ	予習(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 遅刻せずに皆出席可能な状況の年に受講すること
予習してあらかじめ知識の整理をしておく、授業後は必ず復習することにより効果的な学習が可能となる

フィードバックの方法: 毎回の授業において質疑応答を行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	まとめの試験	100	受験資格は出席80%以上、試験70点以上を合格

教科書: 特に無し

参考文献等: 各講師の配布資料

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業後

FLTナンバー:

授業テーマ: 臨床栄養学研究

授業の概要: 研究計画、実施、解析、修士論文作成に関する個別指導を行う

到達目標: 先行研究の検索から修士論文作成までの一連の経験と教員による指導を通して、自らの力で研究活動を遂行できる基礎的能力を身に着ける

授業方法: 個別面談、メールその他の方法により指導する

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究計画	先行研究の検索と検証、計画立案について、教員や指導者と相談しながら進める(90分×5)
2. 研究倫理審査受審	審査書類の作成を行い、受審手続きを行えるよう取り組む(90分×5)
3. 研究の実施	スケジュール管理とともに研究実技(分析機器等の実技)の習熟に取り組む(90分×5)
4. データベースの構築	データ管理の基本、コンピュータソフトの活用能力を身に着ける(90分×5)
5. データの解析、統計処理	統計処理の基本学習とともにSPSS等の統計ソフトに習熟する(90分×5)
6. 中間発表	プレゼンテーションのソフトの活用能力や表現力を磨く(90分×5)
7. 論文作成	論文作成指導を受けながら、論文審査の2か月前を目途に計画的に進める(90分×10)

受講者へのメッセージやアドバイス: 常に指導者や教員と連携を心がけること(報告・連絡・相談)

フィードバックの方法: 面談やメール等により随時対応します

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究への取り組み	35	日ごろの取り組みの評価
論文内容	35	論文の内容、論旨、図表等を総合的に評価
中間発表	30	適切な発表と質疑応答ができていないかを総合的に評価

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: メール、電話、面談、マナビー等随時

FLTナンバー:

授業テーマ: 医療分野の管理栄養士業務について実地研修(インターンシップ)を行うことにより、実務能力を体得する。

授業の概要: 医療機関において1年間にわたり実地研修を行い、医療分野の管理栄養士としての基本的能力を養う。特に1年間で到達すべきコンピテンシーを業務分野ごとに明示されたレベルに到達できることを目標とする。

到達目標: インターンシップにより実施する研修分野と到達すべきコンピテンシーの概要は次の通り。
<インターンシップにおけるスキルの到達目標>
レベルI当該項目を知っているが経験がない
レベルII当該項目を指導下で実践できる。(経験はあるが単独ではできない)
レベルIII当該項目を単独で実践できる
レベルIV当該項目を熟練し指導できる

授業方法: 医療機関においての実地修練であることから、管理栄養士だけでなく、医師、コメディカルスタッフ、事務職、調理師等関連職者から実地指導を受ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」/ Course Contents and Outside Class Work

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 医療人として、管理栄養士として、組織人としての基本的な態度、行動をとる (目標レベルIII)	特に医療における管理栄養士の職業倫理について、既存資料、webサイト、日本栄養士会生涯教育などにより、研鑽しまとめておく。(60分)
2. 栄養管理 (1)栄養評価(目標レベルIII) (2)栄養管理計画(目標レベルIII) (3)栄養補給法(目標レベルII~III) (4)食事摂取量調査(目標レベルIII) (5)医療連携(目標レベルI~III)	栄養管理プロセスの基本、特に栄養評価に基づく栄養診断について学習しておく。(45分)
3. 栄養指導 行動科学的な手法を用いた指導ができる、など(目標レベルII~III)	認知行動療法などの栄養指導において応用される介入手法について学習しておく。(45分)
4. チーム医療への参加、クリニカルパスの運用(目標レベルII)	医療における様々な医療チームの現状と診療報酬上に多職種連携がどのように評価されているかを学習しておく。(45分)
5. 給食経営管理 (1)献立作成(目標レベルII~III) (2)調理・配膳(目標レベルI~III) (3)食材料管理(目標レベルII~III) (4)給食の評価(目標レベルII~III)	給食経営管理においてポイントとなる業務を理解するために、医師によるオーダーから、配食に足るまでの情報の流れと関連業務を総括して述べられる準備をしておく。(45分)
6. リスクマネジメント (1)医療安全管理(目標レベルI~III) (2)院内感染対策(目標レベルI~II) (3)食品衛生管理(目標レベルI~II) (4)災害時緊急対策(目標レベルI~II)	食事の安全安心を含め、医療現場におけるリスク管理を、患者、医療者、施設などそれぞれの視点からまとめておく(45分)
7. 栄養関連会議に出席し意見を述べる。(目標レベルI)	栄養関連の会議の種類、出席者、必要な資料等について調べておく。(30分)
8. 部門運営(費用対効果、労働基準法など含む)(目標レベルI~II)	栄養部門業務を俯瞰して図式し、人員配置、業務の概要、合理的な運営方法などについて検討しておく。労働基準法、労働安全衛生法などを調べておく。(45分)
9. 研究活動(テーマ設定、計画、実施、まとめ、論文作成)(目標レベルII~III)	1年次から研究テーマについて、指導教員、現地指導者と十分に話し合っておく。人を対象とした医学研究の倫理審査について、学習しておく。(60分)
10. 専門分野の知識の習得(目標レベルIII)	特に医療における管理栄養士に必要な専門知識や技術について把握し、学会誌等をとおして新しい知識の習得に努める。(60分×10)

受講者へのメッセージやアドバイス: インターンシップは、受け身で研修すると十分に効果をもたらしません。常に与えられた課題について、事前準備を怠らず、実地研修に臨むこと。報告、連絡、相談を心がけること。すべての研修内容は、管理栄養士が求められるスキルを習得し患者の治療に最大限に貢献するために行うものであることを忘れてはいけません。

フィードバックの方法: 指導教員は学生およびインターンシップ指導者と密接に連携し、実習内容の確認および、スキルの到達度の点検を実施する。点検により研修内容の修正や研修量の調整を行い、最大限に研修効果を得るよう連携する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50%	出席率60%未満は0点とする
到達度評価	50%	コンピテンシー票の記載により到達度を評価

教科書: 用いない

参考文献等: 給食経営管理実務ガイドブック 富岡和夫編著(同文書院)
栄養管理プロセス 日本栄養士会監訳(第一出版)
静脈経腸栄養ガイドライン(第3版) 日本静脈経腸栄養学会編集(照林社)
エッセンシャル臨床栄養学第8版 佐藤和人、本間健、小松龍史編(医歯薬出版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 電話、メール等でアポイントメントを取り、面談して対応する

13.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
14.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
15.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
16.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
17.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
18.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
19.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
20.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
21.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
22.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
23.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
24.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
25.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
26.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
27.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
28.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
29.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
30.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 毎回の出席に加えて、研究を自ら遂行する積極性が重要である。

フィードバックの方法: 指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究室活動、コミュニケーションの各区分ごとに評価する。	100	薬学研究 I のルーブリック評価表に明示された評価基準に基づく。

教科書: それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文

参考文献等: それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 各教員で対応

FLTナンバー:

授業テーマ: 問題解決能力の醸成
(薬学教育モデル・コアカリキュラムG 薬学研究)

授業の概要: 研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。

到達目標: 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解し、自らが実施する研究に係る法令、指針を理解した上で、それらを遵守して研究に取り組み、研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。医療機関、製薬企業、医療行政などの幅広い薬学専門分野において、問題点や課題を自ら発見し、それらの解決のために真摯に取り組む研究者としての視点を身に付けている。

授業方法: 実験研究ならびに調査研究に対し個別に教育指導を行う。学生の研究内容にあわせて指導教員が個別に指導する。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1)薬学における研究の位置づけ G(1)-1)~4) 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) (2)研究に必要な法規範と倫理 G(2)-1)~3) 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)A-(2)・④-3再掲 (3)研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 G(3)-1)~6) 1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能) 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能) 3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。

13.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
14.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
15.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
16.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
17.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
18.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
19.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
20.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
21.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
22.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
23.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
24.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
25.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
26.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
27.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
28.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
29.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
30.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 毎回の出席に加えて、研究を自ら遂行する積極性が重要である。

フィードバックの方法: 指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究室活動、コミュニケーションの各区分ごとに評価する。	100	薬学研究Ⅱのルーブリック評価表に明示された評価基準に基づく。

教科書: それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文

参考文献等: それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 各教員で対応

FLTナンバー:

授業テーマ: 問題解決能力の醸成
(薬学教育モデル・コアカリキュラムG 薬学研究)

授業の概要: 研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。

到達目標: 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解し、自らが実施する研究に係る法令、指針を理解した上で、それらを遵守して研究に取り組み、研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。医療機関、製薬企業、医療行政などの幅広い薬学専門分野において、問題点や課題を自ら発見し、それらの解決のために真摯に取り組む研究者としての視点を身に付けている。

授業方法: 実験研究ならびに調査研究に対し個別に教育指導を行う。学生の研究内容にあわせて指導教員が個別に指導する。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1)薬学における研究の位置づけ G(1)-1)~4) 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) (2)研究に必要な法規範と倫理 G(2)-1)~3) 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)A-(2)・④-3再掲 (3)研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 G(3)-1)~6) 1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能) 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能) 3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。

13.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
14.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
15.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
16.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
17.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
18.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
19.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
20.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
21.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
22.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
23.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
24.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
25.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
26.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
27.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
28.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
29.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
30.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 毎回の出席に加えて、研究を自ら遂行する積極性が重要である。

フィードバックの方法: 指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究室活動、コミュニケーション、卒業論文・プレゼンテーションの各区分ごとに評価する。	100	薬学研究Ⅲのルーブリック評価表に明示された評価基準に基づく。

教科書: それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文

参考文献等: それぞれの研究専門分野の書物、ならびに、研究に関連する論文

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 各教員で対応

FLTナンバー: NUSd15-KG

授業テーマ: 安楽で安全な生活援助技術を修得する

授業の概要: 看護の基本となる生活援助技術を、対象者の安楽・安全と、看護者自身の安全・安楽の視点を踏まえて学ぶ。生活援助技術としては、環境、活動、清潔、食事、排泄、安楽の援助に関する項目を含む。

到達目標: ①安楽・安全な生活援助技術を行うために必要な基礎的知識を習得することができる。
②対象者にとって最も安楽・安全な生活援助方法を理解するための基礎的技術を体験することができる。授業方法: 授業は講義、演習より構成される。
講義では、科学的根拠および、対象者や看護者の安全・安楽に関する視点に重点をおいて行う。
演習では、デモンストレーションをみた後に、2~4名のグループとなり、看護師役、患者役、観察者役に分かれて実施する。倫理的態度を身に着ける視点も含める。演習後の振り返りを実施することにより、学びを共有し、知識の習得および技術の獲得を高める。「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	科目オリエンテーション/看護技術とは/安楽・安全な生活援助とは/生活環境とは	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習・復習) (60分)
2.	活動・休息の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習) (60分)
3.	バイタルサインの観察を用いた環境に関する体験学習① (グループワーク)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
4.	バイタルサインの観察を用いた環境に関する体験学習② (まとめ)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
5.	病床整備と援助の環境① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
6.	病床整備と援助の整備② (グループワーク)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
7.	安楽な体位と体位変換① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
8.	安楽な体位と体位変換② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
9.	ストレッチャーと車椅子移乗と移送① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
10.	ストレッチャーと車椅子移乗と移送② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
11.	清潔の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習) (60分)
12.	衣生活の援助とは リネン交換の方法(デモンストレーション)	教科書関連ページを読む(予習・復習) (60分)
13.	リネン・寝衣交換① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
14.	リネン・寝衣交換② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
15.	全身清拭① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
16.	全身清拭② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
17.	洗髪・整容の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習) (60分)

18.	洗髪・整容① (デモンストレーション／実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
19.	洗髪・整容② (デモンストレーション／実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
20.	食事の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習) (60分)
21.	食事・口腔清拭① (デモンストレーション／実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習前後でレポートを作成する(予習・復習) (60分)
22.	食事・口腔清拭② (デモンストレーション／実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習前後でレポートを作成する(予習・復習) (60分)
23.	排泄の援助とは	教科書関連ページを読む(予習・復習) (60分)
24.	床上排泄・陰部洗浄① (デモンストレーション／実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
25.	床上排泄・陰部洗浄② (デモンストレーション／実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) PSCで実技練習を行う(予習・復習) (60分)
26.	実技チェック	教科書関連ページを読む(予習・復習) (60分)
27.	足浴・手浴① (グループ実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
28.	足浴・手浴② (グループ発表)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 手順を確認する(予習) 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
29.	安楽確保の援助とは(個別発表)	これ迄の学修範囲を振り返る(復習) (90分)
30.	まとめ	学習範囲の総復習を行う(予習) (90分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

上記30コマの授業内容は順序を変更して開講することがあります。
なお、単位認定においては、①期末試験60点以上、②30コマのうち2/3以上の出席を必要とします。
また、1コマ欠席につき、3点減点します。

コロナ感染拡大によっては、感染防止の観点から、授業方法の変更があり得ます。

フィードバックの
方法:

各単元に課したレポートの内容を確認後にコメントをつけて返却します。また、技術に対してコメントします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技チェック	40	到達目標②に対する達成度より評価する
筆記試験	30	到達目標①に対する知識や理解度より評価する
レポート	20	到達目標①、②を踏まえ、実技演習の振り返りより、自分が根拠を理解し、対象者への配慮をもって技術を達成できたかを基準とする
演習態度	10	到達目標②に対する準備状態と態度・意欲より評価する
欠席		減点する

教科書:

阿曾洋子ほか、基礎看護技術、第8版、医学書院。
看護がみえるVOL1 基礎看護技術、MEDIC MEDIA.

参考文献等:

角濱春美ほか、看護実践のための根拠が分かる基礎看護技術 第2版、メディカルフレンド社。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、マネビーなどで対応する。

FLTナンバー: NUSd25-KG

授業テーマ: 安全で安楽な診療の補助技術を修得する

授業の概要: 看護の基本となる診療の補助技術を、対象の安全・安楽のみならず、看護者自身の安全・安楽に配慮して実施する視点に重点をおいて学ぶ。

到達目標: 1. 科学的根拠に基づいて診療の補助技術を実施するために必要な基礎的知識を習得することができる。
2. 安全・安楽に配慮した診療の補助技術を獲得することができる。授業方法: 授業は、講義、デモンストレーション、演習により構成される。
講義では、科学的根拠および、対象者や看護師の安全・安楽に関して重点をおく。
演習では、2~4名の小グループで看護師役、患者役、観察者役を交代して実施し、倫理的態度を身に付ける視点も含めながら行う。
また、演習後も振り返りを実施することにより、学びを共有し、知識の習得および技術の獲得を高める。「授業内容」
および
「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 科目のオリエンテーション 診療の補助技術とは	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) (60分)
2. 感染予防の基礎知識	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) 「看護技術がみえるVol1」をテキストとして用います。 (60分)
3. 感染予防 【手指衛生・個人防護具の取り扱い①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) 「看護技術がみえるVol1」をテキストとして用います。 (60分)
4. 感染予防 【手指衛生・個人防護具の取り扱い②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) 「看護技術がみえるVol1」をテキストとして用います。 (60分)
5. 感染予防 【無菌操作①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) 「看護技術がみえるVol1」をテキストとして用います。 (60分)
6. 感染予防 【無菌操作②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) 「看護技術がみえるVol1」をテキストとして用います。 (60分)
7. 感染予防 【無菌操作③】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) 「看護技術がみえるVol1」をテキストとして用います。 (60分)
8. 感染予防 【無菌操作④】	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) 「看護技術がみえるVol1」をテキストとして用います。 (60分)
9. 薬物療法の基礎 【与薬】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) 「看護技術がみえるVol1」をテキストとして用います。 (60分)
10. 薬物療法の基礎 【注射】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) (60分)
11. 注射 【皮下注射①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) (60分)
12. 注射 【皮下注射②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) (60分)
13. 注射 【筋肉注射①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) (60分)
14. 注射 【筋肉注射②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) (60分)

15.	注射 【静脈注射①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) (60分)
16.	注射 【静脈注射②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) (60分)
17.	採血	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) (60分)
18.	採血 【静脈血採血①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) (60分)
19.	採血 【静脈血採血②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) (60分)
20.	呼吸に伴う医療処置 【吸引・吸入】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) (60分)
21.	呼吸に伴う医療処置 【吸引】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習内容を整理する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) (60分)
22.	呼吸に伴う医療処置 【吸入】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習内容を整理する(復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) (60分)
23.	排泄に関する医療処置 【導尿・洗腸】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 講義内容を整理する(復習) (60分)
24.	排泄に関する医療処置 【導尿①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う (復習) (60分)
25.	排泄に関する医療処置 【導尿②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う (復習) (60分)
26.	排泄に関する医療処置 【導尿③】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う (復習) (60分)
27.	排泄に関する医療処置 【洗腸①】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
28.	排泄に関する医療処置 【洗腸②】	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) (60分)
29.	実技チェック	教科書関連ページを読む(復習) プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う (復習) 全学習範囲の総復習を行う (120分)
30.	まとめ	全学習範囲の総復習を行う (120分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

上記30コマの授業内容は、順序を変更し開講することがあります。
なお、単位認定においては、①期末試験60点以上、②全体の2/3以上の授業コマの出席を必要条件とします。
1コマ欠席につき5点減点をします。

教科書(テキスト)については、記載のある回は指定のものを持参してください。
指定のない回は、教科書no1、2を持参して下さい。
教科書については、第1回目授業で説明も行います。

フィードバックの
方法:

各單元ごとに課したレポート内容を確認後、教室または実習室にて、コメントをつけて返却します。
また、技術に対し、実習室にて、口頭にてコメントをします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技チェック	40%	到達目標2に対する達成度より評価する。
筆記試験	40%	到達目標1に対する知識や理解度より評価する。
レポート	10%	到達目標1と到達目標2を踏まえ、実技演習の振り返りより、自分が根拠を理解し配慮をもって技術を達成できたかを基準とする。
演習態度	10%	到達目標2に対する準備状態と態度、意欲より評価する。

欠席 減点する。

教科書: 阿曾洋子ほか、基礎看護技術、第8版、医学書院(1年次春学期に購入済のため、再購入不要)
看護がみえるVOL2、臨床看護技術、MEDIC MEDIA
看護がみえるVOL1、基礎看護技術、MEDIC MEDIA(1年次春学期に購入済のため、再購入不要)

参考文献等: 角濱春美ほか、基礎看護技術、メヂカルフレンド社
竹尾恵子、看護技術プラクティス、学研
系統看護学講座、基礎看護技術Ⅱ、医学書院

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: 教員まで直接メール(skimura@dwc.doshisha.ac.jp)にてご連絡下さい。
また、オフィスアワーを活用してください。

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 在宅看護または高齢者看護学領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる
2. 在宅看護または高齢者看護学領域の保健医療福祉に関する研究の情報を収集し、解明されている点と未解明な点を分析し、研究テーマを焦点化する
3. 研究テーマについて、研究の意義や目的を明確にできる
4. 研究目的にそった適切な研究方法を選択することができる
5. 研究倫理に配慮した研究計画書を作成できる

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 卒業研究Ⅱガイダンス 文献検索の目的と意義	在宅看護学や高齢者看護学について関心のある研究テーマを持参する(30分)
2. 研究テーマの明確化: リサーチクエスチョンを意識化する	実習場面や講義を振り返り、関心のある看護研究テーマを持参する(30分)
3. 研究テーマの明確化: リサーチクエスチョンとキーワードを焦点化する	いくつかの研究テーマから絞り込み、キーワードを考えておく(60分)
4. 文献検索演習(1): キーワードをもとに検索	適切なキーワードを5つ程度考えておく(60分)
5. 文献検索演習(2): 絞り込み検索	疾患や年齢、性別、看護方法や場等について絞りこみができる準備をしておく(60分)
6. 文献検索演習(3): 有用な文献を選択	アブストラクトを読み、有用な文献を選択しておく(120分)
7. 研究テーマに関連した文献検討(1): 文献を読み込み文献カード作成	収集した文献を読み、文献カードを作成する。発表準備をする(120分)
8. 研究テーマに関連した文献検討(2): 作成した文献カードを分類する	収集した文献を読み、複数の文献カードを整理し発表準備をする(120分)
9. 研究テーマに関連した文献検討(3): 先行研究成果を明らかにする	収集した文献から、研究テーマに沿った先行研究成果を発表できるように準備する(180分)
10. 研究テーマに関連した文献検討(4): 先行研究結果から研究課題を明確にする	テーマに関する文献検討資料の作成(120分)
11. 研究テーマに関連した文献検討(5): 先行研究結果から研究課題の意義をまとめる	テーマに関する文献検討資料の作成(120分)
12. 研究テーマに関連した文献検討(6): 文献検討結果をわかりやすく整理し文章化する	文献検討結果をレポートにまとめておく(120分)
13. 研究テーマに関連した文献検討(7): 文献検討結果をレポートとしてまとめる	レポート①を修正し、提出する(120分)
14. 研究テーマに関連した文献検討(8): 文献検討結果のプレゼンテーション	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(60分)
15. 研究計画書の意義、構成等について	資料を読み、計画書の作成について復習しておく 卒業研究Ⅰで作成した計画書を見直す(60分)
16. 研究方法の検討(対象者の選定やデザイン)	量的研究、質的研究の分析方法について学習しておく 研究実施の予算やスケジュールについて確認する(120分)
17. 研究倫理について(1): 研究倫理の現状、法律と制度	研究倫理について、卒業研究Ⅰの内容を復習しておく(30分)
18. 研究倫理について(2): 倫理的配慮の手続方法きについて	倫理審査委員会について調べておく(30分)
19. 研究方法について(1): 実験研究	実験研究方法について復習しておく(60分)
20. 研究方法について(2): 質的研究法	質的研究方法について復習しておく(60分)
21. 研究方法について(3): 事例研究	事例研究について復習しておく(120分)
22. 研究方法について(4): 実態調査: 質問紙法	質問紙法について復習しておく(120分)
23. 研究計画について(分析方法の検討)	研究計画の検討(60分)
24. 研究計画書の作成(原案作成)	研究計画原案の作成(120分)
25. 研究計画書の作成(修正)	研究計画書(修正案)の作成(60分)
26. 研究計画書の作成(推敲)	研究計画書の見直しと修正案の作成(60分)
27. 研究計画書の作成(完成)	研究計画書(レポート②)の仕上げをしておく(120分)
28. 研究計画書のプレゼンテーション準備	指定されたパワーポイント資料の作成(60分)
29. 研究計画書のプレゼンテーション	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(30分)
30. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 興味あるテーマを見つけて、看護の現象について深く考え将来的に看護の質の向上につながるような研究を計画しましょう。

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	到達目標1~5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 適宜、紹介する。

参考文献等： 必要時、紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法： 講義時又はメールで連絡する。mkomatsu@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 看護実践の探究とその方法としての研究の必要性を学ぶことをねらいとする。卒業研究Ⅰの学修を基盤として、ウイメンズヘルス領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 1) 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2) 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
3) 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4) 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5) 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 演習(プレゼンテーション、ディスカッションなど)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	関心のあるテーマの模索①ブレインストーミング	これまでの学習や経験からウイメンズヘルス領域における関心のあるテーマについて考える(60分)
3.	関心のあるテーマの模索②ブレインストーミング後の情報整理、テーマを絞る	前回の授業内容から、情報整理をしておく(60分)
4.	関心のあるテーマと文献検討①	卒業研究Ⅰで学習した文献クリティークの視点を確認しておく(60分)
5.	関心のあるテーマと文献検討②	文献を丁寧に読んでおく(90分)
6.	関心のあるテーマと文献検討③	文献を丁寧に読んでおく(90分)
7.	関心のあるテーマと文献検討④	文献を丁寧に読んでおく(90分)
8.	関心のあるテーマと文献検討⑤	文献を丁寧に読んでおく(90分)
9.	関心のあるテーマと文献検討⑥	文献を丁寧に読んでおく(90分)
10.	関心のあるテーマと文献検討⑦	文献を丁寧に読んでおく(90分)
11.	関心のあるテーマと文献検討⑧	文献を丁寧に読んでおく(90分)
12.	関心のあるテーマと文献検討のまとめ①	文献レビューを作成する(90分)
13.	関心のあるテーマと文献検討のまとめ②	文献レビューを作成する(90分)
14.	研究テーマの絞り込み、研究の問いの明確化	文献検討の総括をする(90分)
15.	研究方法の検討① 研究倫理	卒業研究Ⅰで学習した研究倫理を確認しておく(60分)
16.	研究方法の検討② 研究デザイン	卒業研究Ⅰで学習した研究デザインを確認しておく(60分)
17.	研究方法の検討③ データ収集方法	卒業研究Ⅰで学習したデータ収集方法を確認しておく(60分)
18.	研究方法の検討④ データ分析方法	卒業研究Ⅰ、保健医療統計で学習したデータ分析方法を確認しておく(60分)
19.	研究計画書の作成① 背景	卒業研究Ⅰで学習した研究計画書の構成を確認しておく(90分)
20.	研究計画書の作成② 背景	これまでに作成した文献レビューを整理しておく(90分)
21.	研究計画書の作成③ 研究方法	研究目的・仮説を確認しておく(90分)
22.	研究計画書の作成④ 分析方法	研究目的・仮説・研究方法を確認しておく(90分)
23.	研究計画書の作成⑤ 倫理的配慮	卒業研究Ⅰで学習した「倫理的配慮の必要性やその理由について」再確認しておく(90分)
24.	研究計画書の作成⑥ 原案完成	授業19～23を振り返り、計画書の作成準備を行う(90分)
25.	研究計画書のプレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備をしておく(90分)
26.	研究計画書のプレゼンテーション②	配付された資料を丁寧に読み、質問やコメントができるように準備する(90分)
27.	研究計画書の推敲	授業25,26を振り返り、アドバイスを参考に推敲しておく(90分)
28.	研究計画書の完成	誤字脱字などないように確認しておく(60分)
29.	夏期休暇中の課題の明確化	研究実施に向けて、具体的に進め方をイメージする(60分)
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 関心のあるテーマについての研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言などの文献を読み込み、論理的・批判的な思考力を学修していきます。

フィードバックの方法: 授業内で解説・フィードバックを行う、計画書はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	50	到達目標1)～5)の到達度や計画書の完成度により評価する
	発表、討論	30	到達目標1)2)の理解度やグループ討論での役割とその達成度で評価する
	授業への参加度	20	積極的な取り組みの姿勢、スケジュール管理について評価する

教科書:

参考文献等: テーマにあわせ適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

Eメールなど

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. オリエンテーション	研究 I を見直しておく。また、提出したレポートなどを持参。(60分)
2.	2. リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及。(60分)
3.	3. 研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討。(60分)
4.	4. 研究テーマの決定	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。(60分)
5.	5. 研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。(60分)
6.	6. 研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。(60分)
7.	7. 研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。(60分)
8.	8. 研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成。(60分)
9.	9. 研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。(60分)
10.	10. 仮説の検討	仮説を検討しておく。(60分)
11.	11. 研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく。(60分)
12.	12. 研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。(60分)
13.	13. 研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく。(60分)
14.	14. 研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく。(60分)
15.	15. 研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。(60分)
16.	16. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく。(60分)
17.	17. データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく。(60分)
18.	18. データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく。(60分)
19.	19. 研究計画書とは	研究 I で作成した研究計画書の再検討をしておく。(60分)
20.	20. 研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成。(60分)
21.	21. 研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成。(60分)
22.	22. 研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成。(60分)
23.	23. 計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成。(60分)
24.	24. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。(60分)
25.	25. 計画書の作成(添付資料の検討と作成)	研究計画書の作成。(60分)
26.	26. 計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成。(60分)
27.	27. 研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成。(60分)
28.	28. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。(60分)
29.	29. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。(60分)
30.	30. 研究計画書の発表	発表の準備。(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。
非対面授業となりましたので、Microsoft Teams を用いたオンライン授業を行います。
Web授業の限界(技術的トラブル)などでは不利益を受けないように配慮いたします。

フィードバックの方法: メール、マナビー、電話、テレビ電話などで対応します。教室(ゼミ)、マナビーなどで、集団指導と個別指導を組み合わせで行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考文献等: 小笠原知枝, 松木光子編(2007) これからの看護研究—基礎と応用, ヌーヴェルヒロカワ。
片山由加里ほか(2019) 日々の看護実践から研究の問い(リサーチクエスション)を産み出す, 日本看護診断学会誌, pp64-72

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: ゼミ前後およびメール、マナビー、電話、テレビ電話などで対応します。

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する。

到達目標:

- ・文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
- ・研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
- ・自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
- ・研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
- ・研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: ウェブ授業やマナビーを用いた学生とのディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 卒業研究Ⅱの科目オリエンテーション	卒業研究Ⅰの授業資料を整理する(予習) シラバスを確認する(予習) オリエンテーション内容を整理する(復習) (30分)
2. 文献検索の目的と意義	授業内容を整理する(復習) 自身が受けた授業内容や実習体験などから、研究疑問を考える(復習) (60分)
3. 研究疑問(テーマ)の明確化	関心のあるテーマを探す(予習) 関心のあるテーマに関連した文献を探す(復習) (60分)
4. 研究テーマに関連した文献検討①	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習) (60分)
5. 研究テーマに関連した文献検討②	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習) (60分)
6. 研究テーマに関連した文献検討③	テーマに関する文献検討資料を作成する(予習・復習) (60分)
7. 研究計画書作成の目的と意義	研究計画書作成についての資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習) (60分)
8. 研究計画書作成の方法	研究計画書作成についての資料を読む(復習) 授業資料や講義内容を整理する(復習) (60分)
9. 研究方法の検討(研究倫理①)	研究倫理に関する資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習) (60分)
10. 研究方法の検討(研究倫理②)	研究倫理に関する資料を読む(予習) 授業資料や講義内容を整理する(復習) (60分)
11. 研究方法の検討(分析方法①)	研究分析方法に関する資料を読む(予習) 研究の分析方法について整理する(復習) (60分)
12. 研究方法の検討(分析方法②)	研究分析方法に関する資料を読む(予習) 研究の分析方法について整理し、自身の研究に適した分析方法について考える(復習) (60分)
13. 研究計画書(背景①)	研究計画(背景)を検討する(予習・復習) (60分)
14. 研究計画書(背景②)	研究計画(背景)を検討する(予習・復習) (60分)
15. 研究計画書(研究デザイン)	研究計画(研究デザイン)を検討する(予習・復習) (60分)
16. 研究計画書(倫理的配慮①)	研究計画(倫理的配慮)を検討する(予習・復習) (60分)
17. 研究計画書(倫理的配慮②)	研究計画(倫理的配慮)を検討する(予習・復習) (60分)
18. 研究計画書(分析方法の検討①)	研究計画(分析方法)を検討する(予習・復習) (60分)
19. 研究計画書(分析方法の検討②)	研究計画(分析方法)を検討する(予習・復習) (60分)
20. 研究計画書の作成(原案作成①)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習) (60分)
21. 研究計画書の作成(原案作成②)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習) (60分)
22. 研究計画書の作成(原案作成③)	研究計画書(案)を作成する(予習・復習) (60分)
23. 研究計画書の作成(推敲・修正①)	研究計画書(修正案)を作成する(予習・復習) (60分)
24. 研究計画書の作成(推敲・修正②)	研究計画書(修正案)を作成する(予習・復習) (60分)
25. 研究計画書の作成(完成)	研究計画書全体の検討を行う(予習・復習) (60分)
26. 研究計画書のプレゼンテーションに向けた準備	研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習) (60分)

- | | | |
|-----|------------------|--|
| 27. | 研究計画書のプレゼンテーション① | 研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)
(60分) |
| 28. | 研究計画書のプレゼンテーション② | 研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)
(60分) |
| 29. | 研究計画書のプレゼンテーション③ | 研究計画書のプレゼンテーション内容を検討する(予習・復習)
(60分) |
| 30. | まとめ | 研究計画書全体を振り返る(予習・復習)
(60分) |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

授業内で口頭にて解説し、添削にてコメントする。
学生が提出した研究計画書に対しても、随時添削して返却する。
返却は教室にて直接、またはメール添付にて実施する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

基礎看護学④ 看護研究、メディカ出版、2018
D.F.ポーリット, C.T.ベック、看護研究 原理と方法、医学書院
西條剛央、看護研究で迷わないための超入門講座、医学書院
黒田裕子、黒田裕子の 看護研究 Step by Step 第5版、医学書院

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

教員まで直接メール(skimura@dwc.doshisha.ac.jp)にてご連絡下さい。

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス 卒業研究Ⅱの進め方	卒業研究Ⅰの復習(90分)
2. 関心領域の明確化1	成人領域の関心のある現象を考え、発表資料を準備する(120分)
3. 関心領域の明確化2	成人領域の関心のある現象を考え、発表資料を準備する(120分)
4. 関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで調べ、発表資料を準備する(120分)
5. 関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する(120分)
6. 研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマを考えておく(120分)
7. 研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマを考えておく(120分)
8. 研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマを考えておく(120分)
9. 研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する(120分)
10. 研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで調べ発表資料を準備する(120分)
11. 研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る(120分)
12. 研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る(120分)
13. 研究デザインの検討(質的・量的)	研究課題に即した研究デザインを選択する(120分)
14. 研究方法の検討(質的・量的)1	研究課題に即した研究方法を選択する(120分)
15. 研究方法の検討(質的・量的)2	研究課題に即した研究方法を選択する(120分)
16. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)1	研究枠組の作成方法を復習する(120分)
17. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)2	研究枠組の作成方法を復習する(120分)
18. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)3	研究枠組の作成方法を復習する(120分)
19. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)1	統計方法を復習する(120分)
20. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)2	統計方法を復習する(120分)
21. 倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する(120分)
22. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成(120分)
23. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成(120分)
24. 研究計画書(原案)章立ての作成	資料の作成(120分)
25. 研究計画書文献レビューの作成	資料の作成(120分)
26. 研究計画書の作成(推敲・修正)1	資料の作成(120分)
27. 研究計画書の作成(推敲・修正)2	資料の作成(120分)
28. 研究計画書の作成(完成)	資料の作成(120分)
29. 研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(120分)
30. 研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(120分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 臨床実習や講義を通して関心ある看護現象を明らかにし、研究計画書作成までのプロセスを獲得してください。

フィードバックの方法: 研究計画書の作成に沿って、その都度助言をします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	到達目標2~5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式、
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 適宜、紹介する。

参考文献等: 必要時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

講義時又はメールで連絡する。

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																																
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)																																																																
授業の概要:	成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する																																																																
到達目標:	【知識・理解】 1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。 2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。 3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。 4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。 5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。																																																																
授業方法:	個別対応 WEB授業配信ツールでの双方向ゼミ																																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table border="0"> <tr> <th>授業内容</th> <th>準備学習等の内容</th> </tr> <tr> <td>1. ガイダンス 卒業研究Ⅱの進め方</td> <td>卒業研究Ⅰの復習</td> </tr> <tr> <td>2. 関心領域の明確化1</td> <td>成人領域の関心のある現象を考える(90分)</td> </tr> <tr> <td>3. 関心領域の明確化2</td> <td>成人領域の関心のある現象を考える(90分)</td> </tr> <tr> <td>4. 関心領域の研究の動向の探索1</td> <td>図書館の医学データベースで調べておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>5. 関心領域の研究の動向の探索2</td> <td>図書館の医学データベースで調べておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>6. 研究疑問の絞り込み1</td> <td>実施可能性のあるテーマの考える(90分)</td> </tr> <tr> <td>7. 研究疑問の絞り込み2</td> <td>実施可能性のあるテーマの考える(90分)</td> </tr> <tr> <td>8. 研究課題の明確化</td> <td>実施可能性のあるテーマの考える(90分)</td> </tr> <tr> <td>9. 研究課題に関する文献検討1</td> <td>図書館の医学データベースで調べておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>10. 研究課題に関する文献検討2</td> <td>図書館の医学データベースで調べておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>11. 研究の背景・意義・目的の検討1</td> <td>文献から研究課題の位置づけを探る(90分)</td> </tr> <tr> <td>12. 研究の背景・意義・目的の検討2</td> <td>文献から研究課題の位置づけを探る(90分)</td> </tr> <tr> <td>13. 研究デザインの検討(質的・量的)</td> <td>研究課題に即した研究デザインを選択する(90分)</td> </tr> <tr> <td>14. 研究方法の検討(質的・量的)1</td> <td>研究課題に即した研究方法を選択する(90分)</td> </tr> <tr> <td>15. 研究方法の検討(質的・量的)2</td> <td>研究課題に即した研究方法を選択する(90分)</td> </tr> <tr> <td>16. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)1</td> <td>研究枠組の作成方法を復習する(90分)</td> </tr> <tr> <td>17. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)2</td> <td>研究枠組の作成方法を復習する(90分)</td> </tr> <tr> <td>18. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)3</td> <td>研究枠組の作成方法を復習する(90分)</td> </tr> <tr> <td>19. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)1</td> <td>統計方法を復習する(90分)</td> </tr> <tr> <td>20. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)2</td> <td>統計方法を復習する(90分)</td> </tr> <tr> <td>21. 倫理的配慮の検討</td> <td>研究倫理を復習する(90分)</td> </tr> <tr> <td>22. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成1</td> <td>資料の作成(120分)</td> </tr> <tr> <td>23. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成2</td> <td>資料の作成(120分)</td> </tr> <tr> <td>24. 研究計画書(原案)章立ての作成</td> <td>資料の作成(120分)</td> </tr> <tr> <td>25. 研究計画書文献レビューの作成</td> <td>資料の作成(120分)</td> </tr> <tr> <td>26. 研究計画書の作成(推敲・修正)1</td> <td>資料の作成(120分)</td> </tr> <tr> <td>27. 研究計画書の作成(推敲・修正)2</td> <td>資料の作成(120分)</td> </tr> <tr> <td>28. 研究計画書の作成(完成)</td> <td>資料の作成(120分)</td> </tr> <tr> <td>29. 研究計画書のプレゼンテーション1</td> <td>資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(180分)</td> </tr> <tr> <td>30. 研究計画書のプレゼンテーション2</td> <td>資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(180分)</td> </tr> </table>	授業内容	準備学習等の内容	1. ガイダンス 卒業研究Ⅱの進め方	卒業研究Ⅰの復習	2. 関心領域の明確化1	成人領域の関心のある現象を考える(90分)	3. 関心領域の明確化2	成人領域の関心のある現象を考える(90分)	4. 関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで調べておく(90分)	5. 関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで調べておく(90分)	6. 研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマの考える(90分)	7. 研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマの考える(90分)	8. 研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマの考える(90分)	9. 研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで調べておく(90分)	10. 研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで調べておく(90分)	11. 研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る(90分)	12. 研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る(90分)	13. 研究デザインの検討(質的・量的)	研究課題に即した研究デザインを選択する(90分)	14. 研究方法の検討(質的・量的)1	研究課題に即した研究方法を選択する(90分)	15. 研究方法の検討(質的・量的)2	研究課題に即した研究方法を選択する(90分)	16. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)1	研究枠組の作成方法を復習する(90分)	17. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)2	研究枠組の作成方法を復習する(90分)	18. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)3	研究枠組の作成方法を復習する(90分)	19. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)1	統計方法を復習する(90分)	20. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)2	統計方法を復習する(90分)	21. 倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する(90分)	22. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成(120分)	23. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成(120分)	24. 研究計画書(原案)章立ての作成	資料の作成(120分)	25. 研究計画書文献レビューの作成	資料の作成(120分)	26. 研究計画書の作成(推敲・修正)1	資料の作成(120分)	27. 研究計画書の作成(推敲・修正)2	資料の作成(120分)	28. 研究計画書の作成(完成)	資料の作成(120分)	29. 研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(180分)	30. 研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(180分)		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. ガイダンス 卒業研究Ⅱの進め方	卒業研究Ⅰの復習																																																																
2. 関心領域の明確化1	成人領域の関心のある現象を考える(90分)																																																																
3. 関心領域の明確化2	成人領域の関心のある現象を考える(90分)																																																																
4. 関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで調べておく(90分)																																																																
5. 関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで調べておく(90分)																																																																
6. 研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマの考える(90分)																																																																
7. 研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマの考える(90分)																																																																
8. 研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマの考える(90分)																																																																
9. 研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで調べておく(90分)																																																																
10. 研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで調べておく(90分)																																																																
11. 研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る(90分)																																																																
12. 研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る(90分)																																																																
13. 研究デザインの検討(質的・量的)	研究課題に即した研究デザインを選択する(90分)																																																																
14. 研究方法の検討(質的・量的)1	研究課題に即した研究方法を選択する(90分)																																																																
15. 研究方法の検討(質的・量的)2	研究課題に即した研究方法を選択する(90分)																																																																
16. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)1	研究枠組の作成方法を復習する(90分)																																																																
17. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)2	研究枠組の作成方法を復習する(90分)																																																																
18. 研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)3	研究枠組の作成方法を復習する(90分)																																																																
19. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)1	統計方法を復習する(90分)																																																																
20. 分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)2	統計方法を復習する(90分)																																																																
21. 倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する(90分)																																																																
22. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成(120分)																																																																
23. 質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成(120分)																																																																
24. 研究計画書(原案)章立ての作成	資料の作成(120分)																																																																
25. 研究計画書文献レビューの作成	資料の作成(120分)																																																																
26. 研究計画書の作成(推敲・修正)1	資料の作成(120分)																																																																
27. 研究計画書の作成(推敲・修正)2	資料の作成(120分)																																																																
28. 研究計画書の作成(完成)	資料の作成(120分)																																																																
29. 研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(180分)																																																																
30. 研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(180分)																																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	臨床実習や講義・演習を通して関心ある看護現象を明らかにし、看護研究初学者としての第1歩を踏むためのプロセスを獲得してください。視線計測に関心のある学生は器機を使用してもらってもかまいません。																																																																
フィードバックの方法:	研究計画書の作成に沿って、助言をしていきます。																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table border="0"> <tr> <th>評価方法</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> <tr> <td>研究計画書</td> <td>70</td> <td>到達目標2~5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式、</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション、ディスカッション</td> <td>20</td> <td>プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td>10</td> <td>授業に取り組む積極性、主体性</td> </tr> </table>	評価方法	割合	評価基準	研究計画書	70	到達目標2~5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式、	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究計画書	70	到達目標2~5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式、																																																															
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性																																																															
授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性																																																															
教科書:	適宜、紹介する。																																																																
参考文献等:	必要時、紹介する。																																																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡方法:	メール マナビー web授業配信ツール																																																																

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

- 1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
- 2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
- 3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
- 4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
- 5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	興味・関心あるテーマを準備する。(60分)
2.	文献検索の目的と意義	文献検索の方法の復習と、文献検索するためのキーワードを準備する。(60分)
3.	研究疑問(テーマ)の明確化	興味・関心あるテーマを準備する。(60分)
4.	研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する。(60分)
5.	研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をおし、必要な論文を選んで優先度をつける。(90分)
6.	研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく(90分)
7.	研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく(90分)
8.	文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく。(90分)
9.	文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う(90分)
10.	文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う(90分)
11.	研究課題の明確化	プレゼンテーションの準備を行う(90分)
12.	研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく。(90分)
13.	研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。(90分)
14.	研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。(90分)
15.	データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。(90分)
16.	データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。(90分)
17.	研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく(90分)
18.	分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく。(90分)
19.	分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。(90分)
20.	研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく。(90分)
21.	研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する(90分)
22.	研究計画書の作成③	研究計画書の修正案を作成する(90分)
23.	研究計画書の作成④	研究計画書の修正案を作成する(90分)
24.	研究計画書の発表準備	研究計画書発表の準備を行う。(90分)
25.	研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う。(90分)
26.	研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う。(90分)
27.	研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う(90分)
28.	研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う(90分)
29.	研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う(90分)
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書の内容	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義時、オフィスアワーに対応する。

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	文献検索の目的と意義	卒業研究Ⅰの資料を読み直しておく(30分)
2.	研究疑問(テーマ)の明確化	関心あるテーマの資料を持参する(60分)
3.	研究疑問(テーマ)の明確化(推敲・修正)	前回の授業を受けて関心のあるテーマをさらに絞り込む(60分)
4.	研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献検討資料の作成(60分)
5.	研究テーマに関連した文献検討(推敲・修正)	テーマに関する文献検討資料の作成・修正(60分)
6.	研究テーマに関連した文献検討(推敲・修正)	テーマに関する文献検討資料の作成・修正(60分)
7.	研究計画書作成の目的と意義、方法(草案)	文献検討を元に、研究の目的・意義・方法について検討(60分)
8.	研究計画書の目的の明確化	文献検討を元に、研究の目的について検討(60分)
9.	研究計画書作成の意義の明確化	文献検討を元に、研究の意義について検討(60分)
10.	研究計画書作成の意義の明確化(推敲・修正)	文献検討を元に、研究の意義について検討(60分)
11.	研究計画書作成の方法の明確化	文献検討を元に、研究の方法について検討(60分)
12.	研究計画書作成の方法の明確化(推敲・修正)	文献検討を元に、研究の方法について検討(60分)
13.	研究方法の検討(研究倫理)	文献検討を元に、研究倫理について検討(60分)
14.	研究方法の検討(研究倫理)(推敲・修正)	文献検討を元に、研究倫理について検討(60分)
15.	研究方法の検討(分析方法)	文献検討を元に、研究の分析方法について検討(60分)
16.	研究方法の検討(分析方法)(推敲・修正)	文献検討を元に、研究の分析方法について検討(60分)
17.	研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)(原案作成)	研究計画の検討(60分)
18.	研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)(推敲・修正)	研究計画の検討(60分)
19.	研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)(推敲・修正)	研究計画の検討(60分)
20.	研究計画書(分析方法)(原案作成)	分析方法の検討(60分)
21.	研究計画書(分析方法)(推敲・修正)	分析方法の修正(60分)
22.	研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書(案)の作成(60分)
23.	研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(案)の作成(60分)
24.	研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書(修正案)の作成(60分)
25.	研究計画書の作成(完成)	研究計画書(修正案)の作成(60分)
26.	研究計画書のプレゼンテーション(準備)	資料の作成(60分)
27.	研究計画書のプレゼンテーション(準備)(推敲・修正)	資料の修正(60分)
28.	研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成(60分)
29.	研究計画書のプレゼンテーション	資料の作成(60分)
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: Eメールを利用 葉山 yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: ウィメンズヘルス領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	文献検索の目的と意義	文献検索の目的について事前学習しておく(60分)。ウィメンズヘルス領域で関心あるテーマについて調べておく(60分)
2.	ウィメンズヘルス領域に関する研究疑問(テーマ)の明確化(1)	ウィメンズヘルス領域で関心のあるテーマの資料を検索し持参する(60分)
3.	ウィメンズヘルス領域に関する研究疑問(テーマ)の明確化(2)	ウィメンズヘルス領域で関心のあるテーマの資料を検索し持参する(60分)
4.	研究テーマに関連した文献検索(1)	関心のあるテーマについて文献を検索しておく(60分)
5.	研究テーマに関連した文献検索(2)	関心のあるテーマについて文献を検索しておく(60分)
6.	研究テーマに関連した文献検索(3)	関心のあるテーマについて文献を検索しておく(60分)
7.	研究テーマに関連した文献検索(4)	関心のあるテーマについて文献を検索しておく(60分)
8.	文献の講読・検討(1)	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく(60分)
9.	文献の講読・検討(2)	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく(60分)
10.	文献の講読・検討(3)	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく(60分)
11.	文献の講読・検討(4)	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく(60分)
12.	研究計画書作成の目的と意義、方法	研究計画書の目的と意義、方法について調べておく(120分)
13.	研究方法の検討(研究倫理)	研究方法の倫理的配慮について調べておく(120分)
14.	研究方法の検討(分析方法)	研究方法の分析方法を調べておく(120分)
15.	研究計画書(背景)	研究計画書の背景を作成しておく(120分)
16.	研究計画書(研究デザイン、方法)	研究計画書の研究デザイン・方法を作成しておく(120分)
17.	研究計画書(分析方法)	研究計画書の分析方法を作成しておく(120分)
18.	研究計画書(倫理的配慮)	研究計画書の倫理的配慮について作成しておく(60分)
19.	研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書(案)を作成しておく(120分)
20.	研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書(案)を作成しておく(120分)
21.	研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正しておく(120分)
22.	研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正しておく(120分)
23.	研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正しておく(120分)
24.	研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正しておく(120分)
25.	研究計画書の作成(完成)	研究計画書を作成しておく(120分)
26.	研究計画書のプレゼンテーション(準備)	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)
27.	研究計画書のプレゼンテーション(準備)	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)
28.	研究計画書のプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)
29.	研究計画書のプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)
30.	まとめ	研究計画書の再確認をしておく(120分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等: 系統看護学講座別巻看護研究、坂下玲子他、医学書院
ナーシング・グラフィック基礎看護学④看護研究、川村佐和子編、メディカ出版
黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版、黒田裕子、医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 質問などは主にゼミ中に対応する
mizumi@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 精神看護学領域において関心のある研究テーマを明確にし、研究計画書を作成する。

到達目標:

1. 関心のあるテーマを明確にすることができる。
2. データベース(医学中央雑誌, CINAL, PubMed等)を活用して、関心のあるテーマに関する文献検索ができる。
3. 文献検索で得た文献を整理し、関心のあるテーマについての現状を明らかにすることができる。
4. 文献検討に基づき、自己の研究テーマを明確にすることができる。
5. 研究テーマについての看護上の意義、目的を明確にすることができる。
6. 研究目的に沿った研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。

授業方法: オンライン, マナビーを活用した演習形式

「授業内容」

および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 関心のあるテーマを明らかにする。	精神看護学領域において関心のある事象・テーマについて考えておくこと。 (90分)
2. 関心のあるテーマについて: 発表・意見交換	精神看護学領域において関心のある事象・テーマについて図書等を活用し調べておく。 (90分)
3. 関心のあるテーマについての文献検索(1)	データベースを活用した文献検索の方法を確認しておく (90分)
4. 関心のあるテーマについての文献検索(2)	文献検索で得た文献の整理 (120分)
5. 関心のあるテーマについての文献検索(3)	文献検索で得た文献の整理 (120分)
6. 関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(1)	文献検索で得た文献の整理 (120分)
7. 関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(2)	文献検索で得た文献の整理 (120分)
8. 関心のあるテーマについての文献検索・文献検討(3)	文献検索で得た文献の整理 (120分)
9. 関心のあるテーマについての現状について(1)	文献検討で得た関心のあるテーマの現状についてまとめる。 (120分)
10. 関心のあるテーマについての現状について(2)	文献検討で得た関心のあるテーマの現状についてまとめる。 (120分)
11. 関心のあるテーマについての現状について(3): 発表, 意見交換	発表資料の作成 (90分)
12. 研究テーマの方向性についての検討	文献検討等の結果から、研究の目的を考えておく。 (90分)
13. 研究テーマの方向性についての検討	指導を受けて修正する。 (90分)
14. 研究方法の検討(1)	研究テーマ、研究目的に合致した研究方法を考えておく。 (90分)
15. 研究方法の検討(2)	指導を受けて修正する。 (90分)
16. 研究倫理について	一般的に「人を対象とした研究」を実施する際の研究倫理の重要性, および倫理的配慮について図書等を活用し整理しておく (90分)
17. 研究倫理の重要性について: 発表, 意見交換	発表資料の作成 (90分)
18. 研究計画書の作成(1): 研究の背景	研究計画書の作成 (90分)
19. 研究計画書の作成(2): 研究の背景	指導を受けて、修正する。 (90分)
20. 研究計画書の作成(3): 研究の目的	研究計画書の作成 (90分)
21. 研究計画書の作成(4): 研究の目的	指導を受けて、修正する。 (90分)
22. 研究計画書の作成(5): 研究方法	研究計画書の作成 (90分)
23. 研究計画書の作成(6): 研究方法	指導を受けて、修正する。 (90分)
24. 研究計画書の作成(7): 全体	研究計画書の作成 (120分)
25. 研究計画書の作成(8): 全体	指導を受けて、修正する。 (90分)
26. 研究計画書の作成(9): 全体	指導を受けて、修正する。 (90分)
27. 研究計画についての発表準備	発表資料の作成 (120分)
28. 研究計画についての発表・意見交換	
29. 研究計画書の提出	
30. まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法: グループ, あるいは個々にフィードバックする.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書の作成	80	研究計画書作成に至るプロセスを理解し, 実施することができる.
	授業への取り組み	20	主体的に取り組むことができる.

教科書: 適宜紹介する.

参考文献等: 適宜紹介する.

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法: ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 卒業研究Ⅰの学修を基盤として、小児看護領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2. 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
3. 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 演習(学生によるプレゼンテーション及びディスカッション)、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	研究Ⅰを見直しておく(60分)。また、提出したレポート、資料などを持参。
2. リサーチクエスションの模索①ブレインストーミング	子ども、家族、小児看護に関連する疑問の探索と追及。「看護における研究第2版」(p.2~10)を読んで理解しておくこと(45分)。
3. リサーチクエスションの模索②関心のあるテーマを絞る	子ども、家族、小児看護に関連のある文献を検索、検討。疑問の探索と追及。「看護における研究第2版」(p.10~15)を読んで理解しておくこと(90分)。
4. 関心のあるテーマについて文献検討①	関心のあるテーマに関連した文献を検索、検討。疑問の探索と追及。「看護における研究第2版」(p.15~19、p.32~37)を読んで理解しておくこと(90分)。
5. 関心のあるテーマについて文献検討②	文献を丁寧に読んでおく。「看護における研究第2版」(p.44~63)を読んで理解しておくこと(90分)。
6. 関心のあるテーマについて文献検討③	文献を丁寧に読んでおく。(60分)
7. 関心のあるテーマについて文献検討④	文献を丁寧に読んでおく。(60分)
8. 関心のあるテーマについて文献検討⑤	文献を丁寧に読んでおく。(60分)
9. 関心のあるテーマについて文献検討⑥	文献を丁寧に読んでおく。(60分)
10. 関心のあるテーマについて文献検討⑦	文献を丁寧に読んでおく。(60分)
11. 関心のあるテーマについての文献検討のまとめ	文献の整理をしておく。(60分)
12. 研究倫理について	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく。「看護における研究第2版」(p.19~29)を読んで理解しておく。卒業研究Ⅰで学習した内容を確認しておく。(90分)
13. リサーチクエスションの明確化、研究テーマの絞り込み	「看護における研究第2版」(p.32~37)を読んで理解しておく。(90分)
14. 研究方法の検討①(研究デザインの検討)	卒業研究Ⅰで学習した研究デザインを確認し検討しておく。「看護における研究第2版」(p.80~83)を読んで理解しておくこと。(90分)
15. 研究方法の検討②(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく。(60分)
16. 研究方法の検討③(データ収集方法の検討)	卒業研究Ⅰで学習したデータ収集方法を確認し検討しておく。(60分)
17. 研究方法の検討④(分析方法の検討)	卒業研究Ⅰで学習した分析方法を確認し検討しておく。(45分)
18. 研究方法の検討⑤研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す。(60分)
19. 研究計画書の作成について	研究Ⅰで作成した研究計画書の構成を確認しておく。「看護における研究第2版」(p.120~134)を読んで理解しておくこと。(90分)
20. 研究計画書の作成①(背景・目的)1	これまでに読んだ文献を振り返り整理しておく。研究計画書の作成。(60分)
21. 研究計画書の作成②(背景・目的)2	研究計画書の作成(60分)
22. 研究計画書の作成③(研究方法)	研究目的や仮説を確認しておく。研究計画書の作成。(60分)
23. 研究計画書の作成④(分析方法)	研究目的や仮説、分析方法を確認しておく。研究計画書の作成。(60分)
24. 研究計画書の作成⑤(倫理的配慮)	卒業研究Ⅰで学習した内容を再確認する。研究計画書の作成。(45分)
25. 研究計画書の作成⑥(原案完成)	これまでの授業を振り返り、研究計画書を作成する。(90分)
26. 研究計画書の発表準備	発表資料の作成。(90分)
27. 研究計画書の発表	発表の資料を読み質問やコメントができるよう準備する。(60分)
28. 研究計画書の推敲	発表時のコメントやアドバイスを参考にし推敲しておく。(60分)
29. 研究計画書の完成	誤字・脱字、修正箇所の確認をしておく。(60分)
30. 研究実施に向けての課題の明確化	研究実施の具体的な進め方を検討しておく。(45分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究には、広い視野を持ち、看護の対象となる人々や社会に貢献するための真摯な姿勢が大切となります。自主的に取り組んでください。関心のあるテーマについて、しっかり文献を読み、理解し、論理的・批判的な思考力を身につけましょう。

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)、マナビー、メールなどで対応する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	60	研究の独自性及び論理性、計画書の完成度や到達目標1~5の到達度により評価する。

プレゼンテーション、ディスカッション 20 プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性について評価する。
授業への参加度 20 授業に取り組む積極性、主体性、スケジュール管理について評価する。

教科書: 南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会

参考文献等: 適宜提示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法: 連絡先: tkawasak@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: ウィメンズヘルス領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	文献検索の目的と意義	文献検索の目的について事前学習しておく(60分)。ウィメンズヘルス領域で関心あるテーマについて調べておく(60分)
2.	ウィメンズヘルス領域に関する研究疑問(テーマ)の明確化(1)	ウィメンズヘルス領域で関心のあるテーマの資料を検索し持参する(60分)
3.	ウィメンズヘルス領域に関する研究疑問(テーマ)の明確化(2)	ウィメンズヘルス領域で関心のあるテーマの資料を検索し持参する(60分)
4.	研究テーマに関連した文献検索(1)	関心のあるテーマについて文献を検索しておく(60分)
5.	研究テーマに関連した文献検索(2)	関心のあるテーマについて文献を検索しておく(60分)
6.	研究テーマに関連した文献検索(3)	関心のあるテーマについて文献を検索しておく(60分)
7.	研究テーマに関連した文献検索(4)	関心のあるテーマについて文献を検索しておく(60分)
8.	文献の講読・検討(1)	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく(60分)
9.	文献の講読・検討(2)	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく(60分)
10.	文献の講読・検討(3)	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく(60分)
11.	文献の講読・検討(4)	文献を読み、プレゼンテーションの準備をしておく(60分)
12.	研究計画書作成の目的と意義、方法	研究計画書の目的と意義、方法について調べておく(120分)
13.	研究方法の検討(研究倫理)	研究方法の倫理的配慮について調べておく(120分)
14.	研究方法の検討(分析方法)	研究方法の分析方法を調べておく(120分)
15.	研究計画書(背景)	研究計画書の背景を作成しておく(120分)
16.	研究計画書(研究デザイン、方法)	研究計画書の研究デザイン・方法を作成しておく(120分)
17.	研究計画書(分析方法)	研究計画書の分析方法を作成しておく(120分)
18.	研究計画書(倫理的配慮)	研究計画書の倫理的配慮について作成しておく(60分)
19.	研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書(案)を作成しておく(120分)
20.	研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書(案)を作成しておく(120分)
21.	研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正しておく(120分)
22.	研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正しておく(120分)
23.	研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正しておく(120分)
24.	研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正しておく(120分)
25.	研究計画書の作成(完成)	研究計画書を作成しておく(120分)
26.	研究計画書のプレゼンテーション(準備)	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)
27.	研究計画書のプレゼンテーション(準備)	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)
28.	研究計画書のプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)
29.	研究計画書のプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)
30.	まとめ	研究計画書の再確認をしておく(120分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等: 坂下玲子他(2016)系統看護学講座別巻看護研究, 医学書院
川村佐和子編(2018)ナースング・グラフィカ基礎看護学④看護研究, メディカ出版
黒田裕子(2017)看護研究Step by Step 第5版, 医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 質問などは主にゼミ中に対応する

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

- 1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
- 2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
- 3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
- 4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
- 5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	興味・関心あるテーマを準備する。(60分)
2.	文献検索の目的と意義	文献検索の方法の復習と、文献検索するためのキーワードを準備する。(60分)
3.	研究疑問(テーマ)の明確化	興味・関心あるテーマを準備する。(60分)
4.	研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する。(60分)
5.	研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をおし、必要な論文を選んで優先度をつける。(90分)
6.	研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく(90分)
7.	研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく(90分)
8.	文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく。(90分)
9.	文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う(90分)
10.	文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う(90分)
11.	研究課題の明確化	プレゼンテーションの準備を行う(90分)
12.	研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく。(90分)
13.	研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。(90分)
14.	研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく。(90分)
15.	データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。(90分)
16.	データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく。(90分)
17.	研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく(90分)
18.	分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく。(90分)
19.	分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。(90分)
20.	研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく。(90分)
21.	研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する(90分)
22.	研究計画書の作成③	研究計画書の修正案を作成する(90分)
23.	研究計画書の作成④	研究計画書の修正案を作成する(90分)
24.	研究計画書の発表準備	研究計画書発表の準備を行う。(90分)
25.	研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う。(90分)
26.	研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う。(90分)
27.	研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う(90分)
28.	研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う(90分)
29.	研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う(90分)
30.	まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書の内容	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義時、オフィスアワーに対応する。

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する。

到達目標: 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	研究 I を復習する。また、提出したレポートなどを持参(60分)。
2.	リサーチクエスションの探索	看護に関する疑問の探索と追及(60分)。
3.	研究テーマの明確化	関連のある文献を検索、検討(120分)。
4.	研究テーマの決定	関連のある文献を検索、検討(120分)。
5.	研究テーマに関連した文献検討1	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成(60分)。
6.	研究テーマに関連した文献検討2	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成(60分)。
7.	研究テーマに関連した文献検討3	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成(60分)。
8.	研究テーマに関連した文献検討4	研究テーマをまとめるために必要な資料の作成(60分)。
9.	研究倫理	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を読んでおく(60分)。
10.	仮説の検討	仮説を検討しておく(60分)。
11.	研究方法の検討(研究デザインの検討)	研究デザインを検討しておく(60分)。
12.	研究方法の検討(研究対象の検討)	研究対象を検討しておく(60分)。
13.	研究方法の検討(データ収集方法の検討)	データ収集方法を検討しておく(60分)。
14.	研究方法の検討(分析方法の検討)	分析方法を検討しておく(120分)。
15.	研究倫理の再確認	自分の研究テーマ、方法を研究倫理の視点で見直す(60分)。
16.	データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成1	資料を作成しておく(180分)。
17.	データ収集に必要な資料(アンケート、インタビューガイドなど)の作成2	資料を作成しておく(180分)。
18.	データ収集のための事前準備(プレ調査、プレインタビューなど)	資料を作成しておく(180分)。
19.	研究計画書とは	研究 I で作成した研究計画書の再検討をしておく(60分)。
20.	研究計画書の作成(背景・目的)1	研究計画書の作成(120分)。
21.	研究計画書の作成(背景・目的)2	研究計画書の作成(120分)。
22.	研究計画書の作成(用語の定義)	研究計画書の作成(120分)。
23.	計画書の作成(研究方法)	研究計画書の作成(60分)。
24.	計画書の作成(添付資料の検討と作成)1	研究計画書の作成(120分)。
25.	計画書の作成(添付資料の検討と作成)2	研究計画書の作成(120分)。
26.	計画書の作成(倫理的配慮)	研究計画書の作成(60分)。
27.	研究計画書の作成(まとめ)	研究計画書の作成(120分)。
28.	研究計画書の発表準備1	発表資料の作成(180分)。
29.	研究計画書の発表準備2	発表資料の作成(180分)。
30.	研究計画書の発表	発表の準備(60分)。

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。
* 準備学習等の内容で記載した時間数は目安であり、研究方法やテーマによって異なります。

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70%	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考文献等: 適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。
メールアドレス: ahagimot@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2. 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
3. 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。
6. 看護の事象について問題意識を持ち、積極的に探求する姿勢をもつ

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
7. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献クリティーク(90分)
8. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成(90分)
9. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献クリティーク(90分)
10. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成(90分)
11. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献クリティーク(90分)
12. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成(90分)
13. 研究計画書の作成について	テキスト第8章を読んでまとめる(90分)
14. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究の背景、目的をまとめる(90分)
15. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究デザインをまとめる(90分)
16. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究方法をまとめる(90分)
17. 研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)	研究の倫理的配慮についてまとめる(90分)
18. 研究計画書(分析方法)	研究の分析方法をまとめる(90分)
19. 研究計画書(分析方法)	研究の分析方法をまとめる(90分)
20. 研究計画書の作成(原案作成)	研究計画書を作成する(90分)
21. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正する(90分)
22. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正する(90分)
23. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を修正する(90分)
24. 研究計画書の作成(推敲・修正)	研究計画書を完成する(90分)
25. 研究計画書の作成(最終案)	プレゼンテーションの準備をする(90分)
26. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする(90分)
27. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする(90分)
28. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする(90分)
29. 研究計画書プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする(90分)
30. まとめ	研究計画書を修正し、完成させる データ収集など今後の計画についてまとめる(90分)
1. 文献検索の目的と意義	テキスト第1章、第2章を読んでまとめる リサーチクエスチョンを考える(90分)
2. 文献検索の目的と意義	テーマに関する資料・文献を探す(90分)
3. 研究疑問(テーマ)の明確化	テキスト第3章を読んでまとめる(90分)
4. 文献検索	テーマに関する資料・文献を探す(90分)
5. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献クリティーク(90分)
6. 研究テーマに関連した文献検討	テーマに関する文献を探し、読む 文献リストの作成(90分)

受講者への
メッセージや
アドバイス: 自ら積極的に学び、看護専門職者として看護研究を実践していく基礎となる力を身につけましょう。

フィードバックの
方法: 授業中にその都度フィードバックする
必要時メール・マナービーで、または対面で行う

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	60%	研究計画書を作成し、修正することができる(目標1～5)
プレゼンテーション、ディ スカッション	20%	自分の考えや学習成果を授業の中で明確に発表できること、ディスカッ ションに積極的に参加すること(目標1～6)
態度	20%	自主性および授業に臨む態度(目標6)

教科書: 坂下玲子ほか(2020). 系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

メールまたはマナビーを通じて連絡する(hihashim@dwc.doshisha.ac.jp)
必要であれば研究室に来てください

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 1.文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2.研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
3.自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4.研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5.研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	興味・関心あるテーマを準備する
2.	文献検索の目的と意義	興味・関心あるテーマを準備する
3.	研究疑問(テーマ)の明確化	文献検索するためのキーワードを準備する
4.	研究テーマに関連した文献収集	文献検索するためのキーワードを準備する
5.	研究テーマに関連した文献検討①	収集した文献に目をとおし、必要な論文を選んで優先度をつける
6.	研究テーマに関連した文献検討②	文献を丁寧に読んでおく
7.	研究テーマに関連した文献検討③	文献を丁寧に読んでおく
8.	文献検討結果の発表準備	文献検討結果を発表するための構成を考えておく
9.	文献検討結果の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う
10.	文献検討結果の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う
11.	研究課題の明確化	プレゼンテーション結果をふまえ、研究課題を再検討する
12.	研究計画書作成の目的と意義、方法	計画書の概要について復習しておく
13.	研究方法の検討①	研究課題に沿った研究方法を学習しておく
14.	研究方法の検討②	研究課題に沿った研究方法を学習しておく
15.	データ収集方法の学習	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく
16.	データ収集方法の検討	研究課題に沿ったデータ収集方法について学習しておく
17.	研究倫理の確認	研究倫理について復習しておく
18.	分析方法の検討①	研究課題に沿った分析方法を学習しておく
19.	分析方法の検討②	研究課題に沿った分析方法を焦点化しておく。
20.	研究計画書の作成①	研究計画書の構成について学習しておく
21.	研究計画書の作成②	研究計画書の原案を作成する
22.	研究計画書の作成③	研究計画書の修正案を作成する
23.	研究計画書の作成④	研究計画書の修正案を作成する
24.	研究計画書の発表準備	研究計画書発表の準備を行う
25.	研究計画書の発表・ディスカッション①	プレゼンテーションの準備を行う
26.	研究計画書の発表・ディスカッション②	プレゼンテーションの準備を行う
27.	研究計画書の発表・ディスカッション③	プレゼンテーションの準備を行う。
28.	研究計画書の見直し	研究計画書の修正を行う
29.	研究計画書の完成	研究計画書の修正を行う
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業(ゼミ)でまとめて解説し、計画書および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式等。授業開始時に評価ルーブリックを提示する。
	プレゼンテーション、ディスカッション	10	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加態度	20	研究に取り組む積極性、主体性

教科書: 医学書院 系統看護学講座別巻 看護研究(著者代表 坂下玲子)

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: manabeまたはE-mailにて対応する

FLTナンバー: NUSI47-KG
 授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)
 授業の概要: 成人看護学領域における研究課題を明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する
 到達目標: ディプロマ・ポリシーに定める到達目標:【知識・理解】【関心・意欲・態度】【表現・技能・能力】

1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2. 成人看護学領域の研究課題に関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
3. 成人看護学領域の研究課題を見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4. 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 研究の過程に基づいて自らの研究課題に沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 卒業研究Ⅱの進め方	事前:卒業研究Ⅰを復習しておく(60分)
2.	関心領域の明確化1	成人看護領域の関心のある現象を考える(90分)
3.	関心領域の明確化2	成人看護領域の関心のある現象を考える(90分)
4.	関心領域の研究の動向の探索1	図書館の医学データベースで研究の動向を調べておく(90分)
5.	関心領域の研究の動向の探索2	図書館の医学データベースで研究の動向を調べておく(90分)
6.	研究疑問の絞り込み1	実施可能性のあるテーマの考える(90分)
7.	研究疑問の絞り込み2	実施可能性のあるテーマの考える(90分)
8.	研究課題の明確化	実施可能性のあるテーマの考える(90分)
9.	研究課題に関する文献検討1	図書館の医学データベースで関連文献を調べておく(90分)
10.	研究課題に関する文献検討2	図書館の医学データベースで関連文献を調べておく(90分)
11.	研究の背景・意義・目的の検討1	文献から研究課題の位置づけを探る(90分)
12.	研究の背景・意義・目的の検討2	文献から研究課題の位置づけを探る(90分)
13.	研究デザインの検討(質的・量的)	研究課題に即した研究デザインを選択する(90分)
14.	研究方法の検討(質的・量的)1	研究課題に即した研究方法を選択する(90分)
15.	研究方法の検討(質的・量的)2	研究課題に即した研究方法を選択する(90分)
16.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)1	研究枠組の作成方法を復習する(90分)
17.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)2	研究枠組の作成方法を復習する(90分)
18.	研究枠組の検討(量的)・インタビューガイドの検討(質的)3	研究枠組の作成方法を復習する(90分)
19.	分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)1	統計解析の方法を復習する(90分)
20.	分析枠組の検討(量的)・分析方法の検討(質的)2	統計解析の方法を復習する(90分)
21.	倫理的配慮の検討	研究倫理を復習する(90分)
22.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成1	資料の作成(120分)
23.	質問紙の作成・インタビューガイドの作成2	資料の作成(120分)
24.	研究計画書(原案)章立ての作成	資料の作成(120分)
25.	研究計画書文献レビューの作成	資料の作成(120分)
26.	研究計画書の作成(推敲・修正)1	資料の作成(120分)
27.	研究計画書の作成(推敲・修正)2	資料の作成(120分)
28.	研究計画書の作成(完成)	資料の作成(120分)
29.	研究計画書のプレゼンテーション1	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(180分)
30.	研究計画書のプレゼンテーション2	資料を作成し、プレゼンテーションの準備をしておく(180分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 臨床実習や講義・演習を通して関心ある看護現象を明らかにし、看護研究初学者としての第1歩を踏むためのプロセスを獲得してください。ゼミの日程は学生と教員で相談しながら、調整していきます。

フィードバックの方法: 研究計画書の作成に沿って、助言をしていきます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	70	到達目標2~5の到達について評価する。 研究の独自性、論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 適宜、紹介する。

参考文献等: 必要時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール
小笠: mogasa@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 看護実践の探究とその方法としての研究の必要性を学ぶことをねらいとする。卒業研究Ⅰの学修を基盤として、基礎看護学領域における研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標: 1) 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
2) 研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
3) 自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
4) 研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5) 研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 演習(プレゼンテーション、ディスカッションなど)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	これまでの学習や経験から基礎看護学領域における関心のあるテーマについて考える(60分)
2.	関心のあるテーマの模索①ブレインストーミング	これまでの学習や経験から基礎看護学領域における関心のあるテーマについて考える(60分)
3.	関心のあるテーマの模索②ブレインストーミング後の情報整理、テーマを絞る	前回の授業内容から、情報整理をしておく(60分)
4.	関心のあるテーマと文献検討①	卒業研究Ⅰで学習した文献クリティークの視点を確認しておく(60分)
5.	関心のあるテーマと文献検討②	文献を丁寧に読んでおく(90分)
6.	関心のあるテーマと文献検討③	文献を丁寧に読んでおく(90分)
7.	関心のあるテーマと文献検討④	文献を丁寧に読んでおく(90分)
8.	関心のあるテーマと文献検討⑤	文献を丁寧に読んでおく(90分)
9.	関心のあるテーマと文献検討⑥	文献を丁寧に読んでおく(90分)
10.	関心のあるテーマと文献検討⑦	文献を丁寧に読んでおく(90分)
11.	関心のあるテーマと文献検討⑧	文献を丁寧に読んでおく(90分)
12.	関心のあるテーマと文献検討のまとめ①	文献レビューを作成する(90分)
13.	関心のあるテーマと文献検討のまとめ②	文献レビューを作成する(90分)
14.	研究テーマの絞り込み、研究の問いの明確化	文献検討の総括をする(90分)
15.	研究方法の検討① 研究倫理	卒業研究Ⅰで学習した研究倫理を確認しておく(60分)
16.	研究方法の検討② 研究デザイン	卒業研究Ⅰで学習した研究デザインを確認しておく(60分)
17.	研究方法の検討③ データ収集方法	卒業研究Ⅰで学習したデータ収集方法を確認しておく(60分)
18.	研究方法の検討④ データ分析方法	卒業研究Ⅰ、保健医療統計で学習したデータ分析方法を確認しておく(60分)
19.	研究計画書の作成① 背景	卒業研究Ⅰで学習した研究計画書の構成を確認しておく(90分)
20.	研究計画書の作成② 背景	これまでに作成した文献レビューを整理しておく(90分)
21.	研究計画書の作成③ 研究方法	研究目的・仮説を確認しておく(90分)
22.	研究計画書の作成④ 分析方法	研究目的・仮説・研究方法を確認しておく(90分)
23.	研究計画書の作成⑤ 倫理的配慮	卒業研究Ⅰで学習した「倫理的配慮の必要性やその理由について」再確認しておく(90分)
24.	研究計画書の作成⑥ 原案完成	授業19~23を振り返り、計画書の作成準備を行う(90分)
25.	研究計画書のプレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備をしておく(90分)
26.	研究計画書のプレゼンテーション②	配付された資料を丁寧に読み、質問やコメントができるように準備する(90分)
27.	研究計画書の推敲	授業25,26を振り返り、アドバイスを参考に推敲しておく(90分)
28.	研究計画書の完成	誤字脱字などないように確認しておく(60分)
29.	夏期休暇中の課題の明確化	研究実施に向けて、具体的に進め方をイメージする(60分)
30.	まとめ	研究実施に向けて、今後の実施計画についてまとめる(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 関心のあるテーマについての研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言などの文献を読み込み、論理的・批判的な思考力を学修していきます。

フィードバックの方法: 授業内で解説・フィードバックを行う、計画書はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	50	到達目標1)~5)の到達度や計画書の完成度により評価する
	発表、討論	30	到達目標1)2)の理解度やグループ討論での役割とその達成度で評価する
	授業への参加度	20	積極的な取り組みの姿勢、スケジュール管理について評価する

教科書:

参考文献等: テーマにあわせ適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

Eメールなど

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究プロセスの理解と修得(研究計画書の作成)

授業の概要: 文献検索の意義と方法を理解し、関心ある研究に関する文献を検討する。そこから、自らの研究テーマを見出し、研究の意義や目的、取り組むための適切な方法などを検討し、研究計画を立案・作成する。ここでは、主として健康長寿に関するテーマを取り上げ、研究に取り組む。

到達目標: 1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索することができる。
2. 関心ある研究に関する文献を検討することができる。
3. 文献検討などから、自らの研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にすることができる。
4. 自らの研究テーマに取り組むための適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 自らの研究テーマに沿った研究計画書が作成できる。

授業方法: 演習・ゼミナール

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション: 研究をすすめること	卒業研究Ⅰでの学びの確認
2. 在宅・高齢者看護学関連の研究とは1	関心あるテーマの資料の準備
3. 在宅・高齢者看護学関連の研究とは2	関心あるテーマの資料の準備
4. 文献検索とは何か1: 目的・意義	関心あるテーマの資料の準備
5. 文献検索とは何か2: その方法	関心あるテーマの文献検討資料の作成
6. 疑問から研究テーマへ	関心あるテーマの文献検討資料の作成
7. 研究テーマの明確化1	関心あるテーマの文献検討資料の作成
8. 研究テーマの明確化2	関心あるテーマの文献検討資料の作成
9. 研究テーマに関連した文献検討1	関心あるテーマの文献検討資料の作成
10. 研究テーマに関連した文献検討2	関心あるテーマの文献検討資料の作成
11. 研究テーマに関連した文献検討3	関心あるテーマの文献検討資料の作成
12. 研究テーマに関連した文献検討4	関心あるテーマの文献検討資料の作成
13. 研究テーマに関連した文献検討5	関心あるテーマの文献検討資料の作成
14. 研究テーマに関連した文献検討6	関心あるテーマの文献検討資料の作成
15. 研究テーマに関連した文献検討7	関心あるテーマの文献検討資料の作成
16. 研究テーマに関連した文献検討8	関心あるテーマの文献検討資料の作成
17. 研究倫理を考える1	研究倫理に関する資料の準備
18. 研究倫理を考える2	研究倫理に関する資料の準備
19. 研究方法の検討1: 研究テーマに取り組むための方法①	研究方法に関する資料の準備
20. 研究方法の検討2: 研究テーマに取り組むための方法②	研究方法に関する資料の準備
21. 研究計画書の作成1: 研究計画書をすすめる前に	研究計画書作成の準備
22. 研究計画書の作成2: 研究テーマと取り組むための方法の確認	研究計画書作成の準備
23. 研究計画書の作成3: 研究テーマと取り組むための方法の確認	研究計画書作成の準備
24. 研究計画書の作成4: 原案作成① 研究計画書作成(原案)	研究計画書作成(原案)
25. 研究計画書の作成5: 原案作成② 研究計画書作成(原案)	研究計画書作成(原案)
26. 研究計画書の作成6: 修正	研究計画書作成(修正)
27. 研究計画書の作成7: 完成・確認	研究計画書作成(修正)
28. 研究計画書のプレゼンテーション1: 準備	研究計画書のプレゼンテーション準備
29. 研究計画書のプレゼンテーション2: 発表	研究計画書のプレゼンテーション準備
30. 研究計画書のプレゼンテーション3: まとめ	研究計画書のプレゼンテーション準備

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究は難しいものではありません。疑問に思うことや、調べてみたいことを、テーマにしてみたらどうでしょうか。研究を楽しみましょう!

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、計画書および発表資料はコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性および理論性、計画書の閉式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 適宜ゼミ内で助言する。また、必要ならばメールでも対応する。

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: 研究テーマを明確にし、自らの研究課題に沿った研究計画書を作成する

到達目標:

- ①文献検索の意義と方法を理解し、文献検索できる。
- ②研究テーマに関する文献を批判的に検討し、解明されている点と未解明な点を抽出できる(現状を把握できる)。
- ③自ら研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にできる。
- ④研究目的にそった適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
- ⑤研究の過程に基づいて自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
27.	研究計画書のプレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作成(60分)
28.	研究計画書のプレゼンテーション(評価)	プレゼンテーション資料の作成(60分)
29.	研究計画書のプレゼンテーション(まとめ)	プレゼンテーション資料の作成(60分)
30.	まとめ	卒業研究Ⅱの振り返り(60分)
1.	オリエンテーション	
2.	文献検索の目的と意義	研究Ⅰの復習をしておく(60分)
3.	研究疑問(テーマ)の明確化①	関心あるテーマの資料を持参する(60分)
4.	研究疑問(テーマ)の明確化②	関心あるテーマの資料を持参する(60分)
5.	研究テーマに関連した文献検討①	テーマに関する文献検討資料の作成(60分)
6.	研究テーマに関連した文献検討②	テーマに関する文献検討資料の作成(60分)
7.	研究テーマに関連した文献検討③	テーマに関する文献検討資料の作成(60分)
8.	研究テーマに関連した文献検討④	テーマに関する文献検討資料の作成(60分)
9.	研究計画書作成の目的と意義	テーマに関する研究計画書の作成(60分)
10.	研究計画書作成の方法	テーマに関する研究計画書の作成(60分)
11.	研究方法の検討(研究倫理①)	テーマに関する研究方法の作成(60分)
12.	研究方法の検討(研究倫理②)	テーマに関する研究方法の作成(60分)
13.	研究方法の検討(分析方法①)	テーマに関する研究方法の作成(60分)
14.	研究方法の検討(分析方法②)	テーマに関する研究方法の作成(60分)
15.	研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)①	研究計画書の作成(60分)
16.	研究計画書(背景、研究デザイン、方法、倫理的配慮)②	研究計画書の作成(60分)
17.	研究計画書(分析方法)①	研究計画書の作成(60分)
18.	研究計画書(分析方法)②	研究計画書の作成(60分)
19.	研究計画書の作成(原案作成)①	研究計画書の作成(60分)
20.	研究計画書の作成(原案作成)②	研究計画書の作成(60分)
21.	研究計画書の作成(推敲・修正)①	研究計画書の修正(60分)
22.	研究計画書の作成(推敲・修正)②	研究計画書の修正(60分)
23.	研究計画書の作成(推敲・修正)③	研究計画書の修正(60分)
24.	研究計画書の作成(完成)	研究計画書の完成(60分)
25.	研究計画書のプレゼンテーション(準備)①	プレゼンテーション資料の作成(60分)
26.	研究計画書のプレゼンテーション(準備)②	プレゼンテーション資料の作成(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: とくに指定しない

参考文献等: 適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義前後およびメールで対応する

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究プロセスの理解と修得(研究計画書の作成)

授業の概要: 文献検索の意義と方法を理解し、関心ある研究に関する文献を検討する。そこから、自らの研究テーマを見出し、研究の意義や目的、取り組むための適切な方法などを検討し、研究計画を立案・作成する。ここでは、主として健康長寿に関するテーマを取り上げ、研究に取り組む。

到達目標: 1. 文献検索の意義と方法を理解し、文献検索することができる。
2. 関心ある研究に関する文献を検討することができる。
3. 文献検討などから、自らの研究テーマを見出し、研究の意義や目的を明確にすることができる。
4. 自らの研究テーマに取り組むための適切な方法を選択し、研究計画を立案することができる。
5. 自らの研究テーマに沿った研究計画書が作成できる。

授業方法: 演習・ゼミナール

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション: 研究をすすめること	卒業研究Ⅰでの学びの確認(30分)
2.	在宅・高齢者看護学関連の研究とは1	関心あるテーマの資料の準備(60分)
3.	在宅・高齢者看護学関連の研究とは2	関心あるテーマの資料の準備(60分)
4.	文献検索とは何か1: 目的・意義	関心あるテーマの資料の準備(60分)
5.	文献検索とは何か2: その方法	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
6.	疑問から研究テーマへ	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
7.	研究テーマの明確化1	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
8.	研究テーマの明確化2	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
9.	研究テーマに関連した文献検討1	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
10.	研究テーマに関連した文献検討2	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
11.	研究テーマに関連した文献検討3	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
12.	研究テーマに関連した文献検討4	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
13.	研究テーマに関連した文献検討5	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
14.	研究テーマに関連した文献検討6	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
15.	研究テーマに関連した文献検討7	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
16.	研究テーマに関連した文献検討8	関心あるテーマの文献検討資料の作成(60分)
17.	研究倫理を考える1	研究倫理に関する資料の準備(60分)
18.	研究倫理を考える2	研究倫理に関する資料の準備(60分)
19.	研究方法の検討1: 研究テーマに取り組むための方法①	研究方法に関する資料の準備(60分)
20.	研究方法の検討2: 研究テーマに取り組むための方法②	研究方法に関する資料の準備(60分)
21.	研究計画書の作成1: 研究計画書をすすめる前に	研究計画書作成の準備(60分)
22.	研究計画書の作成2: 研究テーマと取り組むための方法の確認	研究計画書作成の準備(60分)
23.	研究計画書の作成3: 研究テーマと取り組むための方法の確認	研究計画書作成(原案)(60分)
24.	研究計画書の作成4: 原案作成①	研究計画書作成(原案)(60分)
25.	研究計画書の作成5: 原案作成②	研究計画書作成(原案)(60分)
26.	研究計画書の作成6: 修正	研究計画書作成(修正)(60分)
27.	研究計画書の作成7: 完成・確認	研究計画書作成(修正)(60分)
28.	研究計画書のプレゼンテーション1: 準備	研究計画書のプレゼンテーション準備(60分)
29.	研究計画書のプレゼンテーション2: 発表	研究計画書のプレゼンテーション準備(60分)
30.	研究計画書のプレゼンテーション3: まとめ	研究計画書のプレゼンテーション準備(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 楽しく研究しましょう

フィードバックの方法: ゼミでまとめて解説し、計画書および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究計画書	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 適宜ゼミ内で助言する。

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究計画書の作成)

授業の概要: ビタミンDの認知機能、身体機能や発達についての研究テーマを明確にし、自らの研究テーマに沿った研究計画書を作成する。

到達目標: 主体的な学習により、研究の背景となる情報収集、分析の知識を得ると共に、研究倫理感を養うことを目標とする。

授業方法: 教員の指導のもとで研究を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション 研究の進め方、心構え、研究倫理など	ビタミンDに関して、生理作用について調べる(60分)。
2. オリエンテーション 研究の進め方、心構え、研究倫理など	ビタミンDに関して、生理作用について調べる(60分)。
3. 研究背景の講義①ビタミンD、認知機能、身体機能などについての研究背景、文献検索方法について	ビタミンD、認知機能、身体機能などについての研究背景、文献検索方法について調べる(60分)。
4. 研究背景の講義①ビタミンD、認知機能、身体機能などについての研究背景、文献検索方法について	ビタミンD、認知機能、身体機能などについての研究背景、文献検索方法について調べる(60分)。
5. 研究背景の講義②ビタミンD、認知機能、身体機能などについての研究背景、文献検索方法について	ビタミンD、認知機能、身体機能などについての研究背景、文献検索方法について調べる(60分)。
6. 研究背景の講義②ビタミンD、認知機能、身体機能などについての研究背景、文献検索方法について	ビタミンD、認知機能、身体機能などについての研究背景、文献検索方法について調べる(60分)。
7. 研究の背景を出発点として、テーマについて全員でディスカッションする。	背景についてまとめる(60分)。
8. 研究の背景を出発点として、テーマについて全員でディスカッションする。	背景についてまとめる(60分)。
9. 卒論のテーマに関する文献を探す。各自、文献検索をおこない、背景についてまとめ、プレゼンテーションを行う。	各自、文献検索をおこない、背景についてまとめる(120分)。
10. 卒論のテーマに関する文献を探す。各自、文献検索をおこない、背景についてまとめ、プレゼンテーションを行う。	各自、文献検索をおこない、背景についてまとめる(120分)。
11. 文献の中から、適切な先行研究を選び、その内容を要約してプレゼンテーションする。	文献を抄読し、発表原稿を作成する(120分)。
12. 文献の中から、適切な先行研究を選び、その内容を要約してプレゼンテーションする。	文献を抄読し、発表原稿を作成する(120分)。
13. 文献に関して、疑問点があれば、全員でディスカッションする①	文献を抄読する(60分)。
14. 文献に関して、疑問点があれば、全員でディスカッションする②	文献を抄読する(60分)。
15. 文献に関して、疑問点があれば、全員でディスカッションする③	文献を抄読する(60分)。
16. 文献に関して、疑問点があれば、全員でディスカッションする④	文献を抄読する(60分)。
17. 疑問点を解決するためにどのような研究が必要となるのかについて、全員でディスカッションする①。	疑問点に対してどのような研究が必要となるかについて提案できるように準備する(60分)。
18. 疑問点を解決するためにどのような研究が必要となるのかについて、全員でディスカッションする②。	疑問点に対してどのような研究が必要となるかについて提案できるように準備する(60分)。
19. 疑問点を解決するためにどのような研究が必要となるのかについて、全員でディスカッションする③。	疑問点に対してどのような研究が必要となるかについて提案できるように準備する(60分)。
20. 疑問点を解決するためにどのような研究が必要となるのかについて、全員でディスカッションする④。	疑問点に対してどのような研究が必要となるかについて提案できるように準備する(60分)。
21. 卒論のテーマに関わる情報収集の結果を全員でディスカッションする。	テーマにかかわる情報をまとめる(120分)。
22. 卒論のテーマに関わる情報収集の結果を全員でディスカッションする。	テーマにかかわる情報をまとめる(120分)。
23. 研究計画の構想を提示し、全員でディスカッションする①。	研究計画書の概略を作成する(120分)。
24. 研究計画の構想を提示し、全員でディスカッションする②。	研究計画書の概略を作成する(120分)。
25. 研究計画の構想を提示し、全員でディスカッションする③。	前回のディスカッションから、研究計画書の再構成を行い、プレゼンテーションを作成する(120分)。
26. 研究計画の構想を提示し、全員でディスカッションする④。	前回のディスカッションから、研究計画書の再構成を行い、プレゼンテーションを作成する(120分)。
27. 研究計画書、プレゼンテーションについて、全員でディスカッションする。	研究計画書を完成させ、プレゼンテーションの準備をする(120分)。
28. 研究計画書、プレゼンテーションについて、全員でディスカッションする。	研究計画書を完成させ、プレゼンテーションの準備をする(120分)。
29. まとめ	
30. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 身の回りの些細なことも科学的な思考と方法で明らかになるプロセスを楽しんでほしい。サイエンスは、結果を積み上げていくことが基本となるため、毎授業後の調べものや解析データは、USB中にフォルダーを作り、随時記録していく。

フィードバックの方法:

教員、卒業論文作成グループ間でのディスカッションを日常的に行い、進捗状況を確認する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画	70	研究の妥当性、計画性、倫理性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性・ディスカッションへの積極性
	授業への積極的参加度	10	積極性・主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, リーダーシップ, 変化対応力, 自己管理能力, 自己実現力

教員との連絡
方法:

研究室、メール(nhasegaw@dwc.doshisha.ac.jp)

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と成果発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標: 1.研究倫理を遵守し、主体的に研究計画を遂行できる。
2.データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
3.国内外の先行文献を用いて論理的に考察できる。
4.研究成果を論文形式にまとめることができる。
5.研究の概要について発表およびディスカッションができる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究実施計画の作成	研究実施計画の作成のための準備。(60分)
2. 卒業研究の実施準備－研究協力の依頼	実施計画書に沿った研究依頼の手順を考えておく。(120分)
3. 卒業研究の実施準備－研究調査の準備	調査の準備をしておく。(180分)
4. 卒業研究の実施－データ収集 調査①	データを収集する。(120分)
5. 卒業研究の実施－データ収集 調査②	データを収集する。(120分)
6. 卒業研究の実施－データ収集 調査③	データを収集する。(120分)
7. 卒業研究のデータ整理	収集したデータを確認し、持参する。(120分)
8. 卒業研究データ入力①	入力準備をしておく。(120分)
9. 卒業研究データ入力②	データを入力し分析資料を作成する。(20分)
10. 卒業研究データ分析(統計的手法や質的分析方法の確認)	入力データの分析手法を学習する。(60分)
11. 卒業研究データ分析(統計的手法や質的分析方法の確認)	データを分析して、結果を整理して持参する。(120分)
12. 卒業研究データの分析(統計的手法や質的分析の理解)	分析結果についてプレゼンテーション資料を作成する。(120分)
13. 卒業研究データの分析(統計的手法や質的分析の理解)	分析結果のプレゼンテーション資料を修正する。(60分)
14. 論文作成(背景の記述: 先行研究結果から位置づけ)	文献検討結果と分析結果を照合しておく。(120分)
15. 論文作成(背景の記述: 研究の目的と意義)	文献検討結果と分析結果を照合し「研究の背景」を記述する。(60分)
16. 論文作成(方法の記述(1))	方法を記述しておく。(60分)
17. 論文作成(方法の記述(2))	方法を見直し記述しておく。(60分)
18. 論文作成(結果の構成)	結果の構成を考えておく。(60分)
19. 論文作成(図表の作成)	結果を正確かつわかりやすく示す図表を作成しておく。(120分)
20. 論文作成(結果の記述)	結果のアウトラインを記述しておく(120分)
21. 論文作成(結果の記述)	結果を記述しておく(180分)
22. 論文作成(結果の推敲)	結果の記述を見直ししておく(180分)
23. 論文作成(考察の構成)	考察の構成を考える(60分)
24. 論文作成(考察の記述)	考察を記述しておく(180分)
25. 論文作成(考察の推敲)	考察の見直しをしておく(120分)
26. 論文の結論及び抄録作成	結論と抄録の作成(60分)
27. 抄録の作成とプレゼンテーション準備	抄録と発表資料の作成(120分)
28. 研究のプレゼンテーション	発表資料の作成(60分)
29. 研究のプレゼンテーション	発表資料の作成と発表の練習(60分)
30. 研究実施プロセスの評価	研究プロセスをふりかえりまとめておく(30分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 将来的に看護の質の向上につながる研究課題を論文としてまとめるプロセスを経験します。専門職としての問題意識、学習姿勢を養い、生涯自己研鑽を続けるための基本姿勢を身に付けましょう。

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	到達目標1~4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
	プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
	取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書: 適宜、紹介する。

参考文献等： 必要時、紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法： 講義時又はメールにて連絡する。メールアドレス mkomatsu@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																																
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)																																																																
授業の概要:	看護実践の探究とその方法としての研究の必要性を学ぶことをねらいとする。卒業研究ⅠⅡの学修を基盤として、研究計画書にそって研究を実施し、研究成果の解釈・活用方法を学び、論文にまとめる																																																																
到達目標:	1)研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 2)データを適切に分析し、成果を解釈できる。 3)文献や統計資料を用いて成果を解釈し、論理的に考察できる。 4)研究成果を論文や抄録にまとめることができる。 5)研究成果について発表することができる。 6)研究についてディスカッションすることができる。																																																																
授業方法:	演習(プレゼンテーション・ディスカッション・データ収集など)																																																																
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	<table border="0"> <tr> <th>授業内容</th> <th>準備学習等の内容</th> </tr> <tr> <td>1. 研究実施計画の検討①</td> <td>夏期休暇中の進捗状況を報告できるように準備する(90分)</td> </tr> <tr> <td>2. 研究実施計画の検討②</td> <td>実施に向けての具体的な計画をイメージする(60分)</td> </tr> <tr> <td>3. 研究実施の準備①</td> <td>実施計画に基づき準備を進める(60分)</td> </tr> <tr> <td>4. 研究実施の準備②</td> <td>実施計画に基づき準備を進める(60分)</td> </tr> <tr> <td>5. 卒業研究の実施① データ収集と整理</td> <td>研究目的、対象者への説明について確認しておく、データ収集に必要な物品を準備しておく(60分)</td> </tr> <tr> <td>6. 卒業研究の実施② データ収集と整理</td> <td>データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)</td> </tr> <tr> <td>7. 卒業研究の実施③ データ収集と整理</td> <td>データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)</td> </tr> <tr> <td>8. 卒業研究の実施④ データ収集と整理</td> <td>データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)</td> </tr> <tr> <td>9. 卒業研究の実施⑤ データ収集と整理</td> <td>データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)</td> </tr> <tr> <td>10. 卒業研究の実施⑥ データ収集と整理</td> <td>データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)</td> </tr> <tr> <td>11. 卒業研究の実施⑦ データ収集と整理</td> <td>データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)</td> </tr> <tr> <td>12. 卒業研究の実施⑧ データ収集と整理</td> <td>データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)</td> </tr> <tr> <td>13. 卒業研究の実施⑨ データ収集と整理</td> <td>データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)</td> </tr> <tr> <td>14. 卒業研究の実施⑩ データ収集と整理</td> <td>データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)</td> </tr> <tr> <td>15. 卒業研究の実施⑪ データ分析と解釈</td> <td>データ分析の可能性や方向性を検討する(60分)</td> </tr> <tr> <td>16. 卒業研究の実施⑫ データ分析と解釈</td> <td>データ分析に必要な知識(例えば、統計学など)を確認しておく(60分)</td> </tr> <tr> <td>17. 卒業研究の実施⑬ データ分析と解釈</td> <td>データ分析に必要な知識(例えば、統計学など)を確認しておく(60分)</td> </tr> <tr> <td>18. 卒業研究の実施⑭ データ分析と解釈</td> <td>図・表の書き方を確認しておく(60分)</td> </tr> <tr> <td>19. 論文作成① 背景の記述</td> <td>文献レビュー、仮説の再検討を行っておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>20. 論文作成② 背景の記述</td> <td>文献レビュー、仮説の再検討を行っておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>21. 論文作成③ 方法の記述</td> <td>記述に必要な文献を整理しておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>22. 論文作成④ 結果の記述</td> <td>図・表を整理しておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>23. 論文作成⑤ 結果の記述</td> <td>図・表の整理と文章の推敲をしておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>24. 論文作成⑥ 考察の記述</td> <td>目的・仮説の確認と論点の整理をしておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>25. 論文作成⑦ 考察の記述</td> <td>論点の整理と文章の推敲をしておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>26. 論文作成⑧ 要約の記述、抄録の作成</td> <td>要約・抄録の作成準備をする(90分)</td> </tr> <tr> <td>27. 研究成果のプレゼンテーション準備</td> <td>発表のアウトラインの検討、資料の作成準備をする(90分)</td> </tr> <tr> <td>28. 研究成果のプレゼンテーション</td> <td>・時間内にポイントをしぼり、分かりやすく発表できるように準備する(60分) ・配付された資料を丁寧に読み、質問やコメントができるように準備する(60分)</td> </tr> <tr> <td>29. 論文・抄録の完成</td> <td>文章の推敲・修正をしておく(90分)</td> </tr> <tr> <td>30. まとめ</td> <td>研究のプロセスを振り返り、今後の課題を考慮しておく(60分)</td> </tr> </table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 研究実施計画の検討①	夏期休暇中の進捗状況を報告できるように準備する(90分)	2. 研究実施計画の検討②	実施に向けての具体的な計画をイメージする(60分)	3. 研究実施の準備①	実施計画に基づき準備を進める(60分)	4. 研究実施の準備②	実施計画に基づき準備を進める(60分)	5. 卒業研究の実施① データ収集と整理	研究目的、対象者への説明について確認しておく、データ収集に必要な物品を準備しておく(60分)	6. 卒業研究の実施② データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)	7. 卒業研究の実施③ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)	8. 卒業研究の実施④ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)	9. 卒業研究の実施⑤ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)	10. 卒業研究の実施⑥ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)	11. 卒業研究の実施⑦ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)	12. 卒業研究の実施⑧ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)	13. 卒業研究の実施⑨ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)	14. 卒業研究の実施⑩ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)	15. 卒業研究の実施⑪ データ分析と解釈	データ分析の可能性や方向性を検討する(60分)	16. 卒業研究の実施⑫ データ分析と解釈	データ分析に必要な知識(例えば、統計学など)を確認しておく(60分)	17. 卒業研究の実施⑬ データ分析と解釈	データ分析に必要な知識(例えば、統計学など)を確認しておく(60分)	18. 卒業研究の実施⑭ データ分析と解釈	図・表の書き方を確認しておく(60分)	19. 論文作成① 背景の記述	文献レビュー、仮説の再検討を行っておく(90分)	20. 論文作成② 背景の記述	文献レビュー、仮説の再検討を行っておく(90分)	21. 論文作成③ 方法の記述	記述に必要な文献を整理しておく(90分)	22. 論文作成④ 結果の記述	図・表を整理しておく(90分)	23. 論文作成⑤ 結果の記述	図・表の整理と文章の推敲をしておく(90分)	24. 論文作成⑥ 考察の記述	目的・仮説の確認と論点の整理をしておく(90分)	25. 論文作成⑦ 考察の記述	論点の整理と文章の推敲をしておく(90分)	26. 論文作成⑧ 要約の記述、抄録の作成	要約・抄録の作成準備をする(90分)	27. 研究成果のプレゼンテーション準備	発表のアウトラインの検討、資料の作成準備をする(90分)	28. 研究成果のプレゼンテーション	・時間内にポイントをしぼり、分かりやすく発表できるように準備する(60分) ・配付された資料を丁寧に読み、質問やコメントができるように準備する(60分)	29. 論文・抄録の完成	文章の推敲・修正をしておく(90分)	30. まとめ	研究のプロセスを振り返り、今後の課題を考慮しておく(60分)		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. 研究実施計画の検討①	夏期休暇中の進捗状況を報告できるように準備する(90分)																																																																
2. 研究実施計画の検討②	実施に向けての具体的な計画をイメージする(60分)																																																																
3. 研究実施の準備①	実施計画に基づき準備を進める(60分)																																																																
4. 研究実施の準備②	実施計画に基づき準備を進める(60分)																																																																
5. 卒業研究の実施① データ収集と整理	研究目的、対象者への説明について確認しておく、データ収集に必要な物品を準備しておく(60分)																																																																
6. 卒業研究の実施② データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)																																																																
7. 卒業研究の実施③ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)																																																																
8. 卒業研究の実施④ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)																																																																
9. 卒業研究の実施⑤ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)																																																																
10. 卒業研究の実施⑥ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)																																																																
11. 卒業研究の実施⑦ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)																																																																
12. 卒業研究の実施⑧ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)																																																																
13. 卒業研究の実施⑨ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)																																																																
14. 卒業研究の実施⑩ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)																																																																
15. 卒業研究の実施⑪ データ分析と解釈	データ分析の可能性や方向性を検討する(60分)																																																																
16. 卒業研究の実施⑫ データ分析と解釈	データ分析に必要な知識(例えば、統計学など)を確認しておく(60分)																																																																
17. 卒業研究の実施⑬ データ分析と解釈	データ分析に必要な知識(例えば、統計学など)を確認しておく(60分)																																																																
18. 卒業研究の実施⑭ データ分析と解釈	図・表の書き方を確認しておく(60分)																																																																
19. 論文作成① 背景の記述	文献レビュー、仮説の再検討を行っておく(90分)																																																																
20. 論文作成② 背景の記述	文献レビュー、仮説の再検討を行っておく(90分)																																																																
21. 論文作成③ 方法の記述	記述に必要な文献を整理しておく(90分)																																																																
22. 論文作成④ 結果の記述	図・表を整理しておく(90分)																																																																
23. 論文作成⑤ 結果の記述	図・表の整理と文章の推敲をしておく(90分)																																																																
24. 論文作成⑥ 考察の記述	目的・仮説の確認と論点の整理をしておく(90分)																																																																
25. 論文作成⑦ 考察の記述	論点の整理と文章の推敲をしておく(90分)																																																																
26. 論文作成⑧ 要約の記述、抄録の作成	要約・抄録の作成準備をする(90分)																																																																
27. 研究成果のプレゼンテーション準備	発表のアウトラインの検討、資料の作成準備をする(90分)																																																																
28. 研究成果のプレゼンテーション	・時間内にポイントをしぼり、分かりやすく発表できるように準備する(60分) ・配付された資料を丁寧に読み、質問やコメントができるように準備する(60分)																																																																
29. 論文・抄録の完成	文章の推敲・修正をしておく(90分)																																																																
30. まとめ	研究のプロセスを振り返り、今後の課題を考慮しておく(60分)																																																																
受講者への メッセージや アドバイス:	4年次の秋学期は、国家試験対策もあり重要な時期です。卒業研究Ⅲの学習計画を立案し、スケジュール管理を行い、計画的に進めてください。																																																																
フィードバックの 方法:	授業内で解説・フィードバックを行う、論文はコメントをつけて返却する																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table border="0"> <tr> <th>評価方法</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> <tr> <td>研究論文</td> <td>50</td> <td>到達目標2)3)4)の到達度および論文の完成度により評価する</td> </tr> <tr> <td>発表・討論</td> <td>30</td> <td>到達目標5)6)の達成度やグループ討論での役割とその達成度で評価する</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td>20</td> <td>到達目標1)の到達度および積極的な取り組みの姿勢、スケジュール管理について評価する</td> </tr> </table>	評価方法	割合	評価基準	研究論文	50	到達目標2)3)4)の到達度および論文の完成度により評価する	発表・討論	30	到達目標5)6)の達成度やグループ討論での役割とその達成度で評価する	授業への参加度	20	到達目標1)の到達度および積極的な取り組みの姿勢、スケジュール管理について評価する																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究論文	50	到達目標2)3)4)の到達度および論文の完成度により評価する																																																															
発表・討論	30	到達目標5)6)の達成度やグループ討論での役割とその達成度で評価する																																																															
授業への参加度	20	到達目標1)の到達度および積極的な取り組みの姿勢、スケジュール管理について評価する																																																															
教科書:																																																																	
参考文献等:	テーマにあわせ適宜紹介する																																																																
獲得が期待される 基礎的・汎用的な 能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力																																																																

教員との連絡
方法:

Eメールなど

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する

到達目標: “研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。”

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく。(60分)
2. データの収集1	データを収集を進める。(60分)
3. データの収集2	データを収集を進める。(60分)
4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める。(60分)
5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める。(60分)
6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する。(60分)
7. データの分析1	データの分析を進める。(60分)
8. データの分析2	データの分析を進める。(60分)
9. データの分析3	データの分析を進める。(60分)
10. データの分析4	データの分析を進める。(60分)
11. 図表の作成1	図表などを作成する。(60分)
12. 図表の作成2	図表などを作成する。(60分)
13. 図表の作成3	図表などを作成する。(60分)
14. データの分析、図表の見直し。	データ分析、図表などを見直す。(60分)
15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。(60分)
16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める。(60分)
17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める。(60分)
18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める。(60分)
19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める。(60分)
20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める。(60分)
21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める。(60分)
22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める。(60分)
23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める。(60分)
24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める。(60分)
25. 抄録の作成	研究論文の本筋部分を取り出しておく。(60分)
26. 抄録の作成	抄録の作成。(60分)
27. 研究発表の準備	発表資料の作成。(60分)
28. 研究発表の準備	発表資料の作成。(60分)
29. 研究の発表	発表の準備。(60分)
30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく。(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。コロナ感染を起こさない研究計画を授業方法を行います。

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	研究の独自性及び論理性、計画書の形式
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性
	授業への参加度	10	授業に取り組む積極性、主体性

教科書: 南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。

参考文献等: 小笠原知枝, 松木光子編(2007) これからの看護研究—基礎と応用, ニューヴェルヒロカワ。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる。

到達目標:

- ・研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
- ・データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
- ・既存の文献を用いて論理的に考察できる。
- ・研究成果を論文形式にまとめることができる。
- ・研究について発表することができる。
- ・研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	本科目のオリエンテーション 卒業研究における実施計画とは	卒業研究ⅠⅡの授業資料を確認する(予習) シラバスを読む(予習) オリエンテーション内容を整理する(復習) (30分)
2.	卒業研究における実施計画の方法	卒業研究Ⅱで作成した研究計画書内容を確認する(予習) 授業内容を整理する(復習) (60分)
3.	卒業研究の実施－研究の依頼について	研究依頼方法について調べる(予習) 授業内容を整理する(復習) (60分)
4.	卒業研究の実施－研究対象者の応募について	研究対象者の応募方法について調べる(予習) 授業内容を整理する(復習) (60分)
5.	卒業研究の実施－データ収集①	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習) (60分)
6.	卒業研究の実施－データ収集②	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習) (60分)
7.	卒業研究の実施－データ収集③	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習) (60分)
8.	卒業研究の実施－データ収集④	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習) (60分)
9.	卒業研究の実施－データ収集⑤	データ収集の準備を行う(予習) データ収集内容を確認、整理する(復習) (60分)
10.	卒業研究の実施－データ整理・データ入力①	データを整理し、資料を作成する(予習・復習) (60分)
11.	卒業研究の実施－データ整理・データ入力②	データを整理し、資料を作成する(予習・復習) (60分)
12.	卒業研究の実施－データ整理・データ入力③	データを整理し、資料を作成する(予習・復習) (60分)
13.	卒業研究の実施－データ分析①(記述統計)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習) (60分)
14.	卒業研究の実施－データ分析②(記述統計)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習) (60分)
15.	卒業研究の実施－データ分析①(統計解析)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習) (60分)
16.	卒業研究の実施－データ分析②(統計解析)	データを分析し、資料を作成する(予習・復習) (60分)
17.	論文作成－背景の記述①	論文(背景)を作成するために必要な引用文献を選定する (予習・復習) 論文(背景)を整理する(復習) (60分)
18.	論文作成－背景の記述②	論文(背景)を作成するために必要な引用文献を選定する (予習・復習) 論文(背景)を整理する(復習) (60分)
19.	論文作成－方法の記述①	研究計画書を踏まえ、実施した研究方法について整理する (予習・復習) (60分)
20.	論文作成－方法の記述②	研究計画書を踏まえ、実施した研究方法について整理する (予習・復習) (60分)
21.	論文作成－結果の記述①	収集したデータから結果を整理する(予習・復習) (60分)
22.	論文作成－結果の記述②	収集したデータから結果を整理する(予習・復習) (60分)
23.	論文作成－考察の記述①	研究結果から、先行文献を踏まえて考察を整理する(予習・ 復習) (60分)
24.	論文作成－考察の記述②	研究結果から、先行文献を踏まえて考察を整理する(予習・ 復習) (60分)

- | | | |
|-----|-----------------------|---|
| 25. | 抄録の作成① | 論文から要点を取り出し、抄録を作成する(予習・復習)
(60分) |
| 26. | 抄録の作成② | 論文から要点を取り出し、抄録を作成する(予習・復習)
(60分) |
| 27. | 抄録の作成③ | 論文から要点を取り出し、抄録を作成する(予習・復習)
(60分) |
| 28. | 研究についてのプレゼンテーション | プレゼンテーション資料を作成する(予習)
プレゼンテーション後、プレゼンテーション資料を振り返る
(復習)
(60分) |
| 29. | 研究についてのプレゼンテーションの振り返り | プレゼンテーションの振り返りを整理する(予習)
プレゼンテーションの振り返りから、最終プレゼンテーション
資料を作成する(復習)
(60分) |
| 30. | まとめ | 本科目を振り返る(予習・復習)
(90分) |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する。
返却は、教室にて直接、または、メール添付にて実施する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

基礎看護学④ 看護研究、メディカ出版、2018
D,F、ポーリット、C,T、ベック、看護研究 原理と方法、医学書院
西條剛央、看護研究で迷わないための超入門講座、医学書院
黒田裕子、黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版、医学書院

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーを活用して下さい。
必要時、教員まで直接メール(skimura@dwc.doshisha.ac.jp)をしてください。

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:

1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2. 量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析できる。
3. 質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。
4. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。
5. 論理的一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。
6. 研究について発表およびディスカッションができる。

授業方法: 学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」

および
「準備学習等の内
容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 卒業研究Ⅲの進め方	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す(120分)
2.	質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)1	研究計画書の修正があれば修正案を考えておく(120分)
3.	質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)2	印刷物を準備する(120分)
4.	質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)3	印刷物を準備する(120分)
5.	データ収集 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)4	対象者への協力を依頼しておく(120分)
6.	データ収集1 質問紙調査・インタビュー調査	対象者へのインタビュー方法のシミュレーションを行い練習しておく(120分)
7.	データ収集2 質問紙調査・インタビュー調査	前回のインタビュー方法の振り返りを行い練習しておく(120分)
8.	データ収集3 質問紙調査・インタビュー調査	前回のインタビュー方法の振り返りを行い練習しておく(120分)
9.	データ入力1 エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく(120分)
10.	データ入力2 エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく(120分)
11.	データ入力3 エクセル入力	データ入力ミスがないか確認しておく(120分)
12.	データ分析1 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく(質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする(120分))
13.	データ分析2 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく(120分)
14.	データ分析3 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく(120分)
15.	データ分析4 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく(120分)
16.	結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)1	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく(120分)
17.	結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく(120分)
18.	結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)3	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく(120分)
19.	背景・目的・意義の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく(120分)
20.	研究方法の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく(120分)
21.	結果の記述1	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく(120分)
22.	結果の記述2	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく(120分)
23.	考察のための文献検討	結果を解釈するのに必要な追加文献を収集し、検討しておく(120分)
24.	考察の記述1	結果を解釈できる考察を考えておく(120分)
25.	考察の記述2	結果を解釈できる考察を考えておく(120分)
26.	考察の記述3	結果を解釈できる考察を考えておく(120分)
27.	全体の推敲・修正	論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく(120分)
28.	抄録の作成	指定された抄録のフォーマットを確認しておく(120分)
29.	研究のプレゼンテーション1	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく(120分)
30.	研究のプレゼンテーション2	PPTを使用して、7分程度で発表する(120分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって、研究プロセスを踏みながら、論旨の一貫性が確保された論文を作成しましょう。

フィードバックの
方法:

研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	到達目標1～4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

適宜、紹介する。

参考文献等:

必要時、紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

講義時又はメールにて連絡する。

FLTナンバー: NUSI47-KG
 授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)
 授業の概要: 卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる
 到達目標: 【知識・理解】【関心・意欲・態度】【表現・技能・能力】

1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2. 量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析ができる。
質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。
3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4. 論理的一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。
5. 研究について発表およびディスカッションができる。

授業方法: 個別指導 WEB授業配信ツールによる双方向ゼミ

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス 卒業研究Ⅲの進め方	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す
2. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)1	研究計画書の修正があれば修正案を考えておく(120分)
3. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)2	印刷物を準備する(120分)
4. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)3	印刷物を準備する(120分)
5. データ収集 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)4	対象者への協力を依頼しておく(120分)
6. データ収集1 質問紙調査・インタビュー調査	
7. データ収集2 質問紙調査・インタビュー調査	
8. データ収集3 質問紙調査・インタビュー調査	
9. データ入力1 エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく(120分)
10. データ入力2 エクセル入力	
11. データ入力3 エクセル入力	データ入力ミスがないか確認しておく(120分)
12. データ分析1 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする(180分)
13. データ分析2 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
14. データ分析3 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
15. データ分析4 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	
16. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)1	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく(180分)
17. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく(180分)
18. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)3	
19. 背景・目的・意義の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく(180分)
20. 研究方法の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく(180分)
21. 結果の記述1	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく(180分)
22. 結果の記述2	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく(180分)
23. 考察のための文献検討	結果を解釈するのに必要な追加文献を収集し、検討しておく(180分)
24. 考察の記述1	結果を解釈できる考察を考えておく(180分)
25. 考察の記述2	結果を解釈できる考察を考えておく(180分)
26. 考察の記述3	結果を解釈できる考察を考えておく(180分)
27. 全体の推敲・修正	論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく(180分)
28. 抄録の作成	指定された抄録のフォーマットを確認しておく(180分)
29. 研究のプレゼンテーション1	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく(180分)
30. 研究のプレゼンテーション2	PPTを使用して、7分程度で発表する(180分)

受講者への
 メッセージや
 アドバイス:

科学的思考を培うための、研究プロセスを踏みながら、目的・方法・結果・考察にズレのない論旨の一貫性が確保された論文作成をしてください。

フィードバックの方法： 研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	到達目標1～4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
	プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。
教科書:	取り組み姿勢や態度	10	研究に取り組む積極性、主体性
	適宜、紹介する。		

参考文献等： 必要時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法： メール マナビー WEB授業配信ツール

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標: 1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。
5. 研究について発表することができる。
6. 研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	研究実施計画の作成	研究計画書を見直す(60分)
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集方法について復習する(60分)
4.	卒業研究の実施－データ収集 調査①	データを収集する(90分)
5.	卒業研究の実施－データ収集 調査②	データを収集する(90分)
6.	卒業研究の実施－データ収集 調査③	データを収集する(90分)
7.	卒業研究の実施－データ収集 調査④	データを収集する(90分)
8.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	データを収集する(90分)
9.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑥	データを収集する(90分)
10.	卒業研究の実施－データ整理	データを準備する(90分)
11.	卒業研究の実施－データ入力	データを準備する(90分)
12.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する(90分)
13.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する(90分)
14.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する(90分)
15.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する(90分)
16.	論文作成①	論文作成を行う(90分)
17.	論文作成②	論文作成を行う(90分)
18.	論文作成③	論文作成を行う(90分)
19.	論文作成④	論文作成を行う(90分)
20.	論文作成⑤	論文作成を行う(90分)
21.	論文作成⑥	論文作成を行う(90分)
22.	論文作成⑦	論文作成を行う(90分)
23.	論文作成⑧	論文作成を行う(90分)
24.	論文作成⑨	論文作成を行う(90分)
25.	論文作成⑩	論文作成を行う(90分)
26.	抄録の作成	抄録の構成を考える(90分)
27.	研究の発表およびディスカッション①	発表の準備を行う(90分)
28.	研究の発表およびディスカッション②	発表の準備を行う(90分)
29.	研究の発表およびディスカッション③	発表の準備を行う(90分)
30.	研究の発表およびディスカッション④	発表の準備を行う(90分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: 講義時、オフィスアワーに対応する。

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標: 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究について発表することができる。
研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究実施計画の作成	研究実施計画の作成(30分)
2.	研究実施計画の作成(推敲・修正)	研究実施計画の作成(60分)
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集の準備(60分)
4.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集の準備(60分)
5.	卒業研究の実施－データ収集 調査①	データ収集の準備(60分)
6.	卒業研究の実施－データ収集 調査②	データ収集の準備(60分)
7.	卒業研究の実施－データ収集 調査③	データ収集の準備(60分)
8.	卒業研究の実施－データ整理	分析資料の作成(60分)
9.	卒業研究の実施－データ整理	分析資料の作成(60分)
10.	卒業研究の実施－データ入力	分析資料の作成(60分)
11.	卒業研究の実施－データ入力	分析資料の作成(60分)
12.	卒業研究の実施－データ分析(記述統計)	分析資料の作成(60分)
13.	卒業研究の実施－データ分析(記述統計)(推敲・修正)	分析資料の作成(60分)
14.	卒業研究の実施－データ分析(統計解析)	分析資料の作成(60分)
15.	卒業研究の実施－データ分析(統計解析)(推敲・修正)	分析資料の作成(60分)
16.	論文作成－背景の記述	論文の作成(60分)
17.	論文作成－背景の記述(推敲・修正)	論文の作成(60分)
18.	論文作成－方法の記述	論文の作成(60分)
19.	論文作成－方法の記述(推敲・修正)	論文の作成(60分)
20.	論文作成－結果の記述	論文の作成(60分)
21.	論文作成－結果の記述(推敲・修正)	論文の作成(60分)
22.	論文作成－考察の記述	論文の作成(60分)
23.	論文作成－考察の記述(推敲・修正)	論文の作成(60分)
24.	論文作成－考察の記述(推敲・修正)	論文の作成(60分)
25.	抄録の作成	抄録の作成(60分)
26.	抄録の作成(推敲・修正)	抄録の作成(60分)
27.	研究についてのプレゼンテーション(準備)	発表資料の作成(60分)
28.	研究についてのプレゼンテーション(準備)(推敲・修正)	発表資料の作成(60分)
29.	研究についてのプレゼンテーション	発表準備(60分)
30.	研究についてのプレゼンテーション	発表準備(60分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法: Eメールを利用 葉山 yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそってウィメンズヘルス領域に関する研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標: 研究対象者に倫理的配慮を行い、正確にデータ収集することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究成果を発表することができる。
研究成果についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生による発表、学生間での討論、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	研究計画書の内容を復習し、持参する(30分)
2.	研究実施計画の作成	研究計画書の内容を復習し、持参する(30分)
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼	研究力者への依頼文を作成しておく(60分)
4.	卒業研究の実施－データ収集 調査①	データ収集の準備をしておく(120分)
5.	卒業研究の実施－データ収集 調査②	データ収集の準備をしておく(60分)
6.	卒業研究の実施－データ収集 調査③	データ収集の準備をしておく(60分)
7.	卒業研究の実施－データ収集 調査④	データ収集の準備をしておく(60分)
8.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	データ収集の準備をしておく(60分)
9.	卒業研究の実施－データ整理	収集できたデータを整理しておく(60分)
10.	卒業研究の実施－データ入力①	収集できたデータの入力をしておく(60分)
11.	卒業研究の実施－データ入力②	収集できたデータの入力をしておく(60分)
12.	卒業研究の実施－データ分析(記述統計)	収集できたデータの分析方法を検討しておく(60分)
13.	卒業研究の実施－データ分析(統計解析)	収集できたデータの分析をしておく(60分)
14.	論文作成－背景の記述①	収集した文献と文献検討の結果をまとめ、持参する(120分)
15.	論文作成－背景の記述②	研究の背景を記載しておく(120分)
16.	論文作成－方法の記述①	研究方法を記載しておく(60分)
17.	論文作成－方法の記述②	研究方法を記載しておく(60分)
18.	論文作成－結果の記述①	データ分析の結果をまとめておく(60分)
19.	論文作成－結果の記述②	データ分析の結果をまとめておく(60分)
20.	論文作成－結果の記述③	研究結果を記載しておく(120分)
21.	論文作成－考察の記述①	考察を記載しておく(120分)
22.	論文作成－考察の記述②	収集した文献と文献検討のまとめを持参する 考察を記載しておく(120分)
23.	論文作成－考察の記述③	収集した文献と文献検討のまとめを持参する 考察を記載しておく(120分)
24.	論文作成－結論の記述	収集した文献と文献検討のまとめを持参する 結論を記載しておく(120分)
25.	論文全体の推敲・完成	収集した文献と文献検討のまとめを持参する 論文(原案)を完成させておく(120分)
26.	抄録(原案)の作成	論文を完成させておく(120分)
27.	抄録の修正・完成	抄録(原案)を完成させておく(120分)
28.	プレゼンテーション①	発表の準備(資料の作成)をしておく(120分)
29.	プレゼンテーション②	発表の準備(資料の作成)をしておく(120分)
30.	まとめ	卒業論文の再確認をしておく(30分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	出席・態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等: 系統看護学講座別巻看護研究、坂下玲子他、医学書院
ナーシング・グラフィカ基礎看護学④看護研究、川村佐和子編、メディカ出版
黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版、黒田裕子、医学書院

獲得が期待される
基礎的・汎用的な
能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: 質問などは主にゼミ中に対応する
mizumi@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: NUSI47-KG
 授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得
 授業の概要: 研究計画書に基づいた研究の実施, 研究論文の作成.
 到達目標: 1.研究計画書に基づいてデータの収集・分析を行うことができる.
 2.実施した研究を研究論文にまとめることができる.
 授業方法: 演習

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	21. 論文作成(8)	(120分)
	22. 論文作成(9)	(120分)
	23. 論文作成(10)	(120分)
	24. グループメンバーによる論文推敲(1)	予め配布されたグループメンバーの論文を熟読しておく. (120分)
	25. グループメンバーによる論文推敲(2)	予め配布されたグループメンバーの論文を熟読しておく. (120分)
	26. 抄録の作成	抄録の作成 (120分)
	27. 抄録の修正	指導を受けて, 抄録を修正する. (120分)
	28. 研究についての発表(1)	発表資料の作成 (120分)
	29. 研究についての発表(2):発表, 意見交換	(120分)
	30. まとめ	研究論文・抄録の提出
	1. 研究計画書に基づいた研究の実施準備(1)	具体的な実施計画を考える. (120分)
	2. 研究計画書に基づいた研究の実施準備(2):研究協 力依頼等	研究協力を依頼する際の手続きについて (120分)
	3. データ収集(1)	データ収集の準備 (120分)
	4. データ収集(2)	収集したデータの整理 (120分)
	5. データ収集(3)	収集したデータの整理 (120分)
	6. データ収集(4)	収集したデータの整理 (120分)
	7. データ収集(5)	収集したデータの整理 (120分)
	8. 収集したデータの整理・分析(1)	データの分析 (120分)
	9. 収集したデータの整理・分析(2)	データの分析 (120分)
	10. 収集したデータの整理・分析(3)	データの分析 (120分)
	11. 収集したデータの整理・分析(4)	データの分析 (120分)
	12. 収集したデータの整理・分析(5)	データの分析 (120分)
	13. 分析結果についての発表, 意見交換	発表資料の作成 (120分)
	14. 論文作成(1)	(120分)
	15. 論文作成(2)	(120分)
	16. 論文作成(3)	(120分)
	17. 論文作成(4)	(120分)
	18. 論文作成(5)	(120分)
	19. 論文作成(6)	(120分)
	20. 論文作成(7)	(120分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法: グループ, あるいは個別にフィードバックを行う.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究実施・研究論文作成	80	研究計画書に基づいて研究を行うことができる. 研究論文を作成することができる.
	授業への取り組み	20	積極的・主体的に取り組むことができる.

教科書: 適宜紹介する.

参考文献等: 適宜紹介する.

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡
方法: ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 卒業研究ⅠⅡの学修を基盤とし、研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する

到達目標:

1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2. データを適切に分析し結果を明確に示すことができる。
3. 既存の文献を用いて成果を解釈し論理的に考察できる。
4. 研究成果を論文や抄録にまとめることができる。
5. 研究成果について発表することができる。
6. 研究成果についてディスカッションすることができる。

授業方法: 演習(学生によるプレゼンテーション及びディスカッション)、教員の指導により授業を展開する。(状況により、Zoom、Teamsなどで行うことがある)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究実施の具体的な計画の検討	作成した研究計画書を熟読しておく。(60分)
2.	研究実施の準備①	研究計画を確認しながら準備を行う。(60分)
3.	研究実施の準備②	研究計画を確認しながら準備を行う。(60分)
4.	研究の実施①データの収集	データの収集を進める。「看護における研究第2版」(p.140～170)のデータ収集方法の自己の研究に該当する部分)を読んでおくこと。(90分)
5.	研究の実施②データの収集	データの収集を進める。(90分)
6.	研究の実施③データの収集	データの収集に伴う進捗状況を確認、修正の必要性の検討を行う。(90分)
7.	研究の実施④データの収集	データの収集に伴う進捗状況を確認を行う。(90分)
8.	研究の実施⑤データの収集	データの収集に伴う進捗状況を確認を行う。(90分)
9.	研究の実施⑥データの収集と整理	データの収集に伴う進捗状況を確認、整理を行う。(90分)
10.	研究の実施⑦データのクリーニング、見直し	データを俯瞰し見直しを行う。(90分)
11.	研究の実施⑧データの分析1	データの分析の方向性を確認する。「看護における研究第2版」(p.172～239)のデータ分析方法の自己の研究に該当する部分)を読んでおくこと。(90分)
12.	研究の実施⑨データの分析2	データの分析を進める。(90分)
13.	研究の実施⑩データの分析3	データの分析を進める。(90分)
14.	研究の実施⑪データの分析4	データの分析を進める。(90分)
15.	研究の実施⑫データの分析5	データの分析と解釈を進める(90分)
16.	研究の実施⑬データの分析6	データの分析と解釈を進める。(90分)
17.	研究の実施⑭データの分析7	データの分析と解釈を進める。(90分)
18.	論文の記述に向けて	研究計画、研究結果、資料などを整理し、まとめておく。(60分)
19.	論文作成①(背景、目的)	論文の作成を進める。(90分)
20.	論文作成②(方法)	論文の作成を進める。(90分)
21.	論文作成③(結果)1	論文の作成を進める。図表などを作成する。(90分)
22.	論文作成④(結果)2	論文の作成を進める。文章を整理しておく。(90分)
23.	論文作成⑤(考察)1	論文の作成を進める。目的、仮説の確認、論点の整理をする。(120分)
24.	論文作成⑥(考察)2	論文の作成を進める。文章を整理しておく。(90分)
25.	論文作成⑦(結論、引用参考文献)	論文の作成を進める。引用参考文献を整理しておく。(90分)
26.	要約の記述、抄録の作成①	研究論文の本筋部分を取り出し、抄録を作成する。(120分)
27.	要約の記述、抄録の作成②	抄録を作成、修正する。(60分)
28.	研究成果の発表の準備	発表の準備。(60分)
29.	研究成果の発表	発表の資料を読み質問やコメントができるよう準備する。(60分)
30.	論文・抄録の完成、まとめ	誤字・脱字、文章の推敲・修正をしておく。(90分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業や国家試験の学習と並行して進めるため、学習計画の立案およびスケジュール管理が重要となります。また体調管理も大切です。自己管理をしながら進めてください。

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)、マナビー、メールなどで対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	60	研究の独自性及び論理性、論文の内容、論文の完成度や到達目標1～4の到達度により評価する。
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性、到達目標5～6の到達度により評価する。
	授業への参加度	20	授業に取り組む積極性、主体性、スケジュール管理について評価する。

教科書: 南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会

参考文献等: 適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

連絡先: tkawasak@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそってウィメンズヘルス領域に関する研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標: 研究対象者に倫理的配慮を行い、正確にデータ収集することができる。
データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
既存の文献を用いて論理的に考察できる。
研究成果を論文形式にまとめることができる。
研究成果を発表することができる。
研究成果についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生による発表、学生間での討論、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	研究計画書の内容を復習し、持参する(30分)
2. 研究実施計画の作成	研究計画書の内容を復習し、持参する(30分)
3. 卒業研究の実施－研究協力の依頼	研究力者への依頼文を作成しておく(60分)
4. 卒業研究の実施－データ収集 調査①	データ収集の準備をしておく(120分)
5. 卒業研究の実施－データ収集 調査②	データ収集の準備をしておく(60分)
6. 卒業研究の実施－データ収集 調査③	データ収集の準備をしておく(60分)
7. 卒業研究の実施－データ収集 調査④	データ収集の準備をしておく(60分)
8. 卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	データ収集の準備をしておく(60分)
9. 卒業研究の実施－データ整理	収集できたデータを整理しておく(60分)
10. 卒業研究の実施－データ入力①	収集できたデータの入力をしておく(60分)
11. 卒業研究の実施－データ入力②	収集できたデータの入力をしておく(60分)
12. 卒業研究の実施－データ分析(記述統計)	収集できたデータの分析方法を検討しておく(60分)
13. 卒業研究の実施－データ分析(統計解析)	収集できたデータの分析をしておく(60分)
14. 論文作成－背景の記述①	収集した文献と文献検討の結果をまとめ、持参する(120分)
15. 論文作成－背景の記述②	研究の背景を記載しておく(120分)
16. 論文作成－方法の記述①	研究方法を記載しておく(60分)
17. 論文作成－方法の記述②	研究方法を記載しておく(60分)
18. 論文作成－結果の記述①	データ分析の結果をまとめておく(60分)
19. 論文作成－結果の記述②	データ分析の結果をまとめておく(60分)
20. 論文作成－結果の記述③	研究結果を記載しておく(120分)
21. 論文作成－考察の記述①	考察を記載しておく(120分)
22. 論文作成－考察の記述②	収集した文献と文献検討のまとめを持参する 考察を記載しておく(120分)
23. 論文作成－考察の記述③	収集した文献と文献検討のまとめを持参する 考察を記載しておく(120分)
24. 論文作成－結論の記述	収集した文献と文献検討のまとめを持参する 結論を記載しておく(120分)
25. 論文全体の推敲・完成	収集した文献と文献検討のまとめを持参する 論文(原案)を完成させておく(120分)
26. 抄録(原案)の作成	論文を完成させておく(120分)
27. 抄録の修正・完成	抄録(原案)を完成させておく(120分)
28. プレゼンテーション①	発表の準備(資料の作成)をしておく(120分)
29. プレゼンテーション②	発表の準備(資料の作成)をしておく(120分)
30. まとめ	卒業論文の再確認をしておく(30分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	授業の参加度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等: 坂下玲子他(2016)系統看護学講座別巻看護研究, 医学書院
川村佐和子編(2018)ナーシング・グラフィカ基礎看護学④看護研究, メディカ出版
黒田裕子(2017)看護研究Step by Step 第5版, 医学書院

獲得が期待される
基礎的・汎用的な
能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: 質問などは主にゼミ中に対応する

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標: 1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。
5. 研究について発表することができる。
6. 研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	研究実施計画の作成	研究計画書を見直す(60分)
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	データ収集方法について復習する(60分)
4.	卒業研究の実施－データ収集 調査①	データを収集する(90分)
5.	卒業研究の実施－データ収集 調査②	データを収集する(90分)
6.	卒業研究の実施－データ収集 調査③	データを収集する(90分)
7.	卒業研究の実施－データ収集 調査④	データを収集する(90分)
8.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	データを収集する(90分)
9.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑥	データを収集する(90分)
10.	卒業研究の実施－データ整理	データを準備する(90分)
11.	卒業研究の実施－データ入力	データを準備する(90分)
12.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する(90分)
13.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する(90分)
14.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する(90分)
15.	卒業研究の実施－データ分析	データを準備する(90分)
16.	論文作成①	論文作成を行う(90分)
17.	論文作成②	論文作成を行う(90分)
18.	論文作成③	論文作成を行う(90分)
19.	論文作成④	論文作成を行う(90分)
20.	論文作成⑤	論文作成を行う(90分)
21.	論文作成⑥	論文作成を行う(90分)
22.	論文作成⑦	論文作成を行う(90分)
23.	論文作成⑧	論文作成を行う(90分)
24.	論文作成⑨	論文作成を行う(90分)
25.	論文作成⑩	論文作成を行う(90分)
26.	抄録の作成	抄録の構成を考える(90分)
27.	研究の発表およびディスカッション①	発表の準備を行う(90分)
28.	研究の発表およびディスカッション②	発表の準備を行う(90分)
29.	研究の発表およびディスカッション③	発表の準備を行う(90分)
30.	研究の発表およびディスカッション④	発表の準備を行う(90分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性
	態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義時、オフィスアワーに対応する。

FLTナンバー:	NUSI47-KG																																																																
授業テーマ:	研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)																																																																
授業の概要:	研究計画書にそって研究を実施し、論文にまとめ発表する。																																																																
到達目標:	<p>研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。 データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。 既存の文献を用いて論理的に考察できる。 研究成果を論文形式にまとめることができる。 研究について発表することができる。 研究についてディスカッションすることができる。</p>																																																																
授業方法:	学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。																																																																
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	<table border="0"> <tr> <th>授業内容</th> <th>準備学習等の内容</th> </tr> <tr> <td>1. データ収集に向けての準備</td> <td>作成した研究計画書を熟読しておく(60分)。</td> </tr> <tr> <td>2. データの収集1</td> <td>データを収集を進める(120分)。</td> </tr> <tr> <td>3. データの収集2</td> <td>データを収集を進める(120分)。</td> </tr> <tr> <td>4. データの収集、整理、入力1</td> <td>データを収集を進める(180分)。</td> </tr> <tr> <td>5. データの収集、整理、入力2</td> <td>データを収集を進める(180分)。</td> </tr> <tr> <td>6. データのクリーニング、見直し</td> <td>データを俯瞰する(60分)。</td> </tr> <tr> <td>7. データの分析1</td> <td>データの分析を進める(180分)。</td> </tr> <tr> <td>8. データの分析2</td> <td>データの分析を進める(180分)。</td> </tr> <tr> <td>9. データの分析3</td> <td>データの分析を進める(180分)。</td> </tr> <tr> <td>10. データの分析4</td> <td>データの分析を進める(180分)。</td> </tr> <tr> <td>11. 図表の作成1</td> <td>図表などを作成する(120分)。</td> </tr> <tr> <td>12. 図表の作成2</td> <td>図表などを作成する(120分)。</td> </tr> <tr> <td>13. 図表の作成3</td> <td>図表などを作成する(120分)。</td> </tr> <tr> <td>14. データの分析、図表の見直し</td> <td>データ分析、図表などを見直す(60分)。</td> </tr> <tr> <td>15. 論文の記述に向けて</td> <td>研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく(60分)。</td> </tr> <tr> <td>16. 論文作成(背景)</td> <td>論文の作成を進める(60分)。</td> </tr> <tr> <td>17. 論文作成(方法)</td> <td>論文の作成を進める(60分)。</td> </tr> <tr> <td>18. 論文作成(結果)1</td> <td>論文の作成を進める(120分)。</td> </tr> <tr> <td>19. 論文作成(結果)2</td> <td>論文の作成を進める(120分)。</td> </tr> <tr> <td>20. 論文作成(考察)1</td> <td>論文の作成を進める(180分)。</td> </tr> <tr> <td>21. 論文作成(考察)2</td> <td>論文の作成を進める(180分)。</td> </tr> <tr> <td>22. 論文作成(考察)3</td> <td>論文の作成を進める(180分)。</td> </tr> <tr> <td>23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)</td> <td>論文の作成を進める(60分)。</td> </tr> <tr> <td>24. 論文作成(見直し、印刷)</td> <td>論文の作成を進める(60分)。</td> </tr> <tr> <td>25. 抄録の作成1</td> <td>研究論文の本筋部分を取り出しておく(120分)。</td> </tr> <tr> <td>26. 抄録の作成2</td> <td>抄録の作成(120分)。</td> </tr> <tr> <td>27. 研究発表の準備1</td> <td>発表資料の作成(180分)。</td> </tr> <tr> <td>28. 研究発表の準備2</td> <td>発表資料の作成(180分)。</td> </tr> <tr> <td>29. 研究の発表</td> <td>発表の準備(60分)。</td> </tr> <tr> <td>30. 研究の報告と研究後の倫理について</td> <td>研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく(60分)。</td> </tr> </table>	授業内容	準備学習等の内容	1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく(60分)。	2. データの収集1	データを収集を進める(120分)。	3. データの収集2	データを収集を進める(120分)。	4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める(180分)。	5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める(180分)。	6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する(60分)。	7. データの分析1	データの分析を進める(180分)。	8. データの分析2	データの分析を進める(180分)。	9. データの分析3	データの分析を進める(180分)。	10. データの分析4	データの分析を進める(180分)。	11. 図表の作成1	図表などを作成する(120分)。	12. 図表の作成2	図表などを作成する(120分)。	13. 図表の作成3	図表などを作成する(120分)。	14. データの分析、図表の見直し	データ分析、図表などを見直す(60分)。	15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく(60分)。	16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める(60分)。	17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める(60分)。	18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める(120分)。	19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める(120分)。	20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める(180分)。	21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める(180分)。	22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める(180分)。	23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める(60分)。	24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める(60分)。	25. 抄録の作成1	研究論文の本筋部分を取り出しておく(120分)。	26. 抄録の作成2	抄録の作成(120分)。	27. 研究発表の準備1	発表資料の作成(180分)。	28. 研究発表の準備2	発表資料の作成(180分)。	29. 研究の発表	発表の準備(60分)。	30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく(60分)。		
授業内容	準備学習等の内容																																																																
1. データ収集に向けての準備	作成した研究計画書を熟読しておく(60分)。																																																																
2. データの収集1	データを収集を進める(120分)。																																																																
3. データの収集2	データを収集を進める(120分)。																																																																
4. データの収集、整理、入力1	データを収集を進める(180分)。																																																																
5. データの収集、整理、入力2	データを収集を進める(180分)。																																																																
6. データのクリーニング、見直し	データを俯瞰する(60分)。																																																																
7. データの分析1	データの分析を進める(180分)。																																																																
8. データの分析2	データの分析を進める(180分)。																																																																
9. データの分析3	データの分析を進める(180分)。																																																																
10. データの分析4	データの分析を進める(180分)。																																																																
11. 図表の作成1	図表などを作成する(120分)。																																																																
12. 図表の作成2	図表などを作成する(120分)。																																																																
13. 図表の作成3	図表などを作成する(120分)。																																																																
14. データの分析、図表の見直し	データ分析、図表などを見直す(60分)。																																																																
15. 論文の記述に向けて	研究計画書、研究結果、資料などを整理し、まとめておく(60分)。																																																																
16. 論文作成(背景)	論文の作成を進める(60分)。																																																																
17. 論文作成(方法)	論文の作成を進める(60分)。																																																																
18. 論文作成(結果)1	論文の作成を進める(120分)。																																																																
19. 論文作成(結果)2	論文の作成を進める(120分)。																																																																
20. 論文作成(考察)1	論文の作成を進める(180分)。																																																																
21. 論文作成(考察)2	論文の作成を進める(180分)。																																																																
22. 論文作成(考察)3	論文の作成を進める(180分)。																																																																
23. 論文作成(結論、引用参考文献の整理)	論文の作成を進める(60分)。																																																																
24. 論文作成(見直し、印刷)	論文の作成を進める(60分)。																																																																
25. 抄録の作成1	研究論文の本筋部分を取り出しておく(120分)。																																																																
26. 抄録の作成2	抄録の作成(120分)。																																																																
27. 研究発表の準備1	発表資料の作成(180分)。																																																																
28. 研究発表の準備2	発表資料の作成(180分)。																																																																
29. 研究の発表	発表の準備(60分)。																																																																
30. 研究の報告と研究後の倫理について	研究Ⅱ、Ⅲを振り返っておく(60分)。																																																																
受講者への メッセージや アドバイス:	<p>研究には、皆さんの看護に対する真摯な姿勢と、看護に関する純粋な疑問が大切です。また、研究を進めていくには、自主性と、地道な努力と継続、素直で真摯な姿勢が必要です。積極的に自ら進めることを期待します。 * 準備学習等の内容で記載した時間数は目安であり、研究方法やテーマによって異なります。</p>																																																																
フィードバックの 方法:	教室(ゼミ)、マナビーなどで対応する。																																																																
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table border="0"> <tr> <th>評価方法</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> <tr> <td>研究論文</td> <td>70%</td> <td>研究の独自性及び論理性</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション、ディ スカッション</td> <td>20%</td> <td>プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td>10%</td> <td>授業に取り組む積極性、主体性</td> </tr> </table>	評価方法	割合	評価基準	研究論文	70%	研究の独自性及び論理性	プレゼンテーション、ディ スカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性	授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性																																																				
評価方法	割合	評価基準																																																															
研究論文	70%	研究の独自性及び論理性																																																															
プレゼンテーション、ディ スカッション	20%	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性・適切性																																																															
授業への参加度	10%	授業に取り組む積極性、主体性																																																															
教科書:	南裕子他(2017), 看護における研究第2版, 日本看護協会出版会。																																																																
参考文献等:	適宜提示する。																																																																
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力																																																																
教員との連絡 方法:	ゼミ前後およびメール、マナビーなどで対応する。 メールアドレス: ahagimot@dwc.doshisha.ac.jp																																																																

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:

1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。
5. 研究を発表することができる。
6. 研究を批判的に吟味し、ディスカッションすることができる。
7. 看護を探求する姿勢を持ち、研究に積極的に取り組む

授業方法: 学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
23.	研究論文の作成—考察	論文原稿作成(90分)
24.	研究論文の作成-結論	論文原稿作成(90分)
25.	研究論文の作成—完成	論文原稿作成(90分)
26.	抄録作成	抄録作成(90分)
27.	抄録作成	抄録作成(修正)(90分)
28.	研究発表会準備	発表資料作成(90分)
29.	研究発表	発表準備(90分)
30.	研究発表	発表準備(90分)
1.	研究実施計画の作成	研究実施計画の作成(90分)
2.	研究協力の依頼	依頼文書・質問紙・インタビューガイド等の準備(90分)
3.	データ収集	必要書類の印刷、物品等準備(90分)
4.	データ収集	必要書類の印刷、物品等準備(90分)
5.	データ整理・入力	データ入力票の作成(90分)
6.	データ整理・入力	データの整理(90分)
7.	データ分析—記述統計	分析資料の作成(90分)
8.	データ分析—統計解析等	分析資料の作成(90分)
9.	データ分析	分析資料の作成(90分)
10.	データ分析	分析資料の作成(90分)
11.	データ分析	分析資料の作成(90分)
12.	データ分析(まとめ)	データ分析結果のまとめ(90分)
13.	研究(中間)報告会準備	資料作成(90分)
14.	研究報告会	発表準備(90分)
15.	研究報告会	発表準備(90分)
16.	研究論文の作成-序論	論文原稿作成(90分)
17.	研究論文の作成-序論	論文原稿作成(90分)
18.	研究論文の作成-方法	論文原稿作成(90分)
19.	研究論文の作成-方法	論文原稿作成(90分)
20.	研究論文の作成-結果	論文原稿作成(90分)
21.	研究論文の作成-結果	論文原稿作成(90分)
22.	研究論文の作成—考察	論文原稿作成(90分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 自ら積極的に学び、看護専門職者として看護研究を実践していける基礎となる力を身につけましょう。

フィードバックの方法: 授業中にその都度フィードバックする
必要時、メール・マナビーを通して、または対面で行う

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	60	研究計画書に沿って研究を進め、論文としてまとめることができる(目標1~4)
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	自分の考えや学習成果を授業の中でわかりやすく発表できること、ディスカッションに積極的に参加すること(目標5, 6)
	態度	20	自主性および授業に臨む態度(目標7)

教科書: 坂下玲子ほか(2020). 系統看護学講座 別巻 卒業研究. 医学書院

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: メールまたはマナビーを通じて連絡する(hihashim@dwc.doshisha.ac.jp)
必要であれば予約の上研究室に来てください(H506)

FLTナンバー: NUSI47-KG

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標: 1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる
2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる
3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる
4. 研究成果を論文形式にまとめることができる
5. 研究について発表することができる
6. 研究についてディスカッションすることができる

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	研究実施計画の作成	研究実施計画の概要について復習しておく
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集	研究協力の依頼方法について復習する
4.	卒業研究の実施－データ収集 調査①	データ収集の準備をする
5.	卒業研究の実施－データ収集 調査②	データ収集の準備をする
6.	卒業研究の実施－データ収集 調査③	データ収集の準備をする
7.	卒業研究の実施－データ収集 調査④	データ収集の準備をする
8.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	データ収集の準備をする
9.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑥	データ収集の準備をする
10.	卒業研究の実施－データ整理	データ整理方法について復習しておく
11.	卒業研究の実施－データ入力	データ入力に必要な物品を準備しておく
12.	卒業研究の実施－データ分析①	データ分析方法を復習しておく
13.	卒業研究の実施－データ分析②	データ分析方法を復習しておく
14.	卒業研究の実施－データ分析③	データ分析方法を復習しておく
15.	卒業研究の実施－データ分析④	データ分析方法を復習しておく
16.	論文作成①	論文の構成について復習しておく
17.	論文作成②	論文作成を行う
18.	論文作成③	論文作成を行う
19.	論文作成④	論文作成を行う
20.	論文作成⑤	論文作成を行う
21.	論文作成⑥	論文作成を行う
22.	論文作成⑦	論文作成を行う
23.	論文作成⑧	論文作成を行う
24.	論文作成⑨	論文作成を行う
25.	論文作成⑩	論文作成を行う
26.	抄録の作成	抄録の構成について復習しておく
27.	研究の発表およびディスカッション①	発表の準備をする
28.	研究の発表およびディスカッション②	発表の準備をする
29.	研究の発表およびディスカッション③	発表の準備をする
30.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性 授業開始時に評価ルーブリックを提示する。
	プレゼンテーション	10	プレゼンテーションの適切性
	授業への参加態度	20	研究に取り組む積極性、主体性

教科書: 医学書院 系統看護学講座別巻 看護研究(著者代表 坂下玲子)※卒業研究Ⅱで購入済み

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: manabeまたはE-mailにて対応する

FLTナンバー: NUSI47-KG
 授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)
 授業の概要: 卒業研究Ⅱで作成した研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる
 到達目標: ディプロマ・ポリシーに定める到達目標:【知識・理解】【関心・意欲・態度】【表現・技能・能力】

1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2. 量的研究ではデータに即した統計手法を選択し、分析ができる。
質的研究では、対象者の言動の文脈を意味を踏まえて分析できる。
3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4. 論理的一貫性を担保して研究成果を論文にまとめることができる。
5. 研究について発表およびディスカッションができる。

授業方法: グループまたは個人で作成した計画書に基づいて研究を実施する。学生によるプレゼンテーション及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス 卒業研究Ⅲの進め方	卒業研究Ⅱの研究計画書を見直す(60分)
2. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)1	研究計画書の修正があれば修正案を考えておく(60分)
3. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)2	印刷物を準備する(60分)
4. 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)3	印刷物を準備する(60分)
5. データ収集 質問紙調査の準備(量的)・インタビュー調査の準備(質的)4	対象者への協力を依頼しておく(60分)
6. データ収集1 質問紙調査・インタビュー調査	データ収集に必要な準備をしておく(90分)
7. データ収集2 質問紙調査・インタビュー調査	データ収集に必要な準備をしておく(90分)
8. データ収集3 質問紙調査・インタビュー調査	データ収集に必要な準備をしておく(90分)
9. データ入力1 エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく(90分)
10. データ入力2 エクセル入力	データ入力のフォーマットを作成しておく(90分)
11. データ入力3 エクセル入力	データ入力ミスがないか確認しておく(60分)
12. データ分析1 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする(60分)
13. データ分析2 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	SPSSの統計解析方法を復習しておく質的研究の場合の入力方法は事前にレクチャーする(60分)
14. データ分析3 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	データ分析をすすめておく(120分)
15. データ分析4 SPSS分析(量的)・エクセル分析(質的)	データ分析をすすめておく(120分)
16. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)1	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく(60分)
17. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)2	結果を簡潔に図や表でまとめる方法を復習しておく(60分)
18. 結果のまとめ 図表の作成(量的)・カテゴリの作成(質的)3	結果を図や表にまとめておく(180分)
19. 背景・目的・意義の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく(90分)
20. 研究方法の記述	研究計画書の内容を加筆・修正できるように準備しておく(90分)
21. 結果の記述1	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく(90分)
22. 結果の記述2	図や表の結果の内容を文章化できるように準備しておく(90分)
23. 考察のための文献検討	結果を解釈するのに必要な追加文献を収集し、検討しておく(120分)
24. 考察の記述1	結果を解釈できる考察を考えておく(120分)
25. 考察の記述2	結果を解釈できる考察を考えておく(120分)
26. 考察の記述3	結果を解釈できる考察を考えておく(120分)
27. 全体の推敲・修正	論旨の一貫性を担保した論文になっているか見直しておく(90分)
28. 抄録の作成	指定された抄録のフォーマットを確認しておく(60分)
29. 研究のプレゼンテーション1	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく(120分)
30. 研究のプレゼンテーション2	PPTを使用して、7分程度で発表できる準備をしておく(120分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 科学的思考を培うための、研究プロセスを踏みながら、目的・方法・結果・考察にズレのない論旨の一貫性が確保された論文作成をしてください。ゼミの日程は学生と教員で相談し、調整していきます。

フィードバックの方法: 研究実施を通して、適宜助言・指導を行います。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	到達目標1~4について、研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性等を評価する。
プレゼンテーション	20	到達目標5について、プレゼンテーションの適切性等を評価する。

教科書: 適宜、紹介する。

参考文献等: 必要時、紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: Eメール
mogasa@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 看護実践の探究とその方法としての研究の必要性を学ぶことをねらいとする。卒業研究ⅠⅡの学修を基盤として、研究計画書にそって研究を実施し、研究成果の解釈・活用方法を学び、論文にまとめる

到達目標: 1)研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2)データを適切に分析し、成果を解釈できる。
3)文献や統計資料を用いて成果を解釈し、論理的に考察できる。
4)研究成果を論文や抄録にまとめることができる。
5)研究成果について発表することができる。
6)研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 演習(プレゼンテーション・ディスカッション・データ収集など)

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究実施計画の検討①	夏期休暇中の進捗状況を報告できるように準備する(90分)
2. 研究実施計画の検討②	実施に向けての具体的な計画をイメージする(60分)
3. 研究実施の準備①	実施計画に基づき準備を進める(60分)
4. 研究実施の準備②	実施計画に基づき準備を進める(60分)
5. 卒業研究の実施① データ収集と整理	研究目的、対象者への説明について確認しておく、データ収集に必要な物品を準備しておく(60分)
6. 卒業研究の実施② データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)
7. 卒業研究の実施③ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)
8. 卒業研究の実施④ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)
9. 卒業研究の実施⑤ データ収集と整理	データの収集状況などの進捗状況を確認し、修正の必要性を検討する(60分)
10. 卒業研究の実施⑥ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)
11. 卒業研究の実施⑦ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)
12. 卒業研究の実施⑧ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)
13. 卒業研究の実施⑨ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)
14. 卒業研究の実施⑩ データ収集と整理	データ整理の進捗状況を確認し、課題を検討する(60分)
15. 卒業研究の実施⑪ データ分析と解釈	データ分析の可能性や方向性を検討する(60分)
16. 卒業研究の実施⑫ データ分析と解釈	データ分析に必要な知識(例えば、統計学など)を確認しておく(60分)
17. 卒業研究の実施⑬ データ分析と解釈	データ分析に必要な知識(例えば、統計学など)を確認しておく(60分)
18. 卒業研究の実施⑭ データ分析と解釈	図・表の書き方を確認しておく(60分)
19. 論文作成① 背景の記述	文献レビュー、仮説の再検討を行っておく(90分)
20. 論文作成② 背景の記述	文献レビュー、仮説の再検討を行っておく(90分)
21. 論文作成③ 方法の記述	記述に必要な文献を整理しておく(90分)
22. 論文作成④ 結果の記述	図・表を整理しておく(90分)
23. 論文作成⑤ 結果の記述	図・表の整理と文章の推敲をしておく(90分)
24. 論文作成⑥ 考察の記述	目的・仮説の確認と論点の整理をしておく(90分)
25. 論文作成⑦ 考察の記述	論点の整理と文章の推敲をしておく(90分)
26. 論文作成⑧ 要約の記述、抄録の作成	要約・抄録の作成準備をする(90分)
27. 研究成果のプレゼンテーション準備	発表のアウトラインの検討、資料の作成準備をする(90分)
28. 研究成果のプレゼンテーション	・時間内にポイントをしぼり、分かりやすく発表できるように準備する(60分) ・配付された資料を丁寧に読み、質問やコメントができるように準備する(60分)
29. 論文・抄録の完成	文章の推敲・修正をしておく(90分)
30. まとめ	研究のプロセスを振り返り、今後の課題を考えておく(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 4年次の秋学期は、国家試験対策もあり重要な時期です。卒業研究Ⅲの学習計画を立案し、スケジュール管理を行い、計画的に進めてください。

フィードバックの方法: 授業内で解説・フィードバックを行う、論文はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	50	到達目標2)3)4)の到達度および論文の完成度により評価する
発表・討論	30	到達目標5)6)の達成度やグループ討論での役割とその達成度で評価する
授業への参加度	20	到達目標1)の到達度および積極的な取り組みの姿勢、スケジュール管理について評価する

教科書:

参考文献等: テーマにあわせ適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

Eメールなど

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究プロセスの理解と修得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 作成した研究計画書を確認し、それにそって研究をすすめる。データを収集、整理と分析を行う。研究結果を解釈し、論文形式にまとめて、発表する。

到達目標:

1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。
5. 研究について発表し、ディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」

および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

準備学習等の内容

1.	研究実施計画の立案1:研究計画書の確認	卒業研究Ⅱ(研究計画書)の確認
2.	研究実施計画の立案2:実施計画の確認	研究実施計画の準備
3.	研究の実施1:研究協力依頼、予備的な調査①	実施計画に基づく準備・確認
4.	研究の実施2:研究協力依頼、予備的な調査②	実施計画に基づく準備・確認
5.	研究の実施3:データ収集①	実施計画に基づく研究の実施準備・確認
6.	研究の実施4:データ収集②	実施計画に基づく研究の実施準備・確認
7.	研究の実施5:データ収集③	実施計画に基づく研究の実施準備・確認
8.	研究の実施6:データ収集④	実施計画に基づく研究の実施準備・確認
9.	研究の実施7:データ収集⑤	実施計画に基づく研究の実施準備・確認
10.	研究の実施8:データ収集⑥	実施計画に基づく研究の実施準備・確認
11.	研究の実施9:データ収集⑦	実施計画に基づく研究の実施準備・確認
12.	研究の実施10:データ収集⑧	実施計画に基づく研究の実施準備・確認
13.	研究の実施11:データ収集⑨	実施計画に基づく研究の実施準備・確認
14.	研究の実施12:データ収集⑩	実施計画に基づく研究の実施準備・確認
15.	研究の実施13:データの整理入力①	分析資料の作成準備
16.	研究の実施14:データの整理入力②	分析資料の作成準備
17.	研究の実施15:データ収集①	分析資料の作成
18.	研究の実施16:データ収集①	分析資料の作成
19.	研究成果を論文にまとめる1:まとめ方の確認	論文作成
20.	研究成果を論文にまとめる2:表題や研究目的や意義、背景の記述	論文作成
21.	研究成果を論文にまとめる3:方法の記述①	論文作成
22.	研究成果を論文にまとめる4:方法の記述②	論文作成
23.	研究成果を論文にまとめる5:結果の記述①	論文作成
24.	研究成果を論文にまとめる6:結果の記述②	論文作成
25.	研究成果を論文にまとめる7:考察の記述①	論文作成
26.	研究成果を論文にまとめる8:考察の記述②	論文作成
27.	研究成果を論文にまとめる9:考察の記述③	論文作成
28.	研究成果を論文にまとめる10:まとめ、文献の記述、論文の体裁、流れなどの確認	論文作成
29.	研究成果の発表・ディスカッション、抄録作成	抄録と発表資料の作成
30.	研究成果の発表・ディスカッション、抄録作成	抄録と発表資料の作成

受講者への
メッセージや
アドバイス:

研究は難しくないです。じっくり取り組めば、それだけ物の見方が広がります。楽しみましょう!

フィードバックの
方法:

教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独往性、明瞭性、簡潔性
プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
研究への態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

適宜ゼミ内で助言する。必要な場合はメールで対応する。

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究プロセスの理解と習得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 研究計画書にそって研究を実施し、論文形式にまとめる

到達目標:

- ①研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
- ②データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
- ③既存の文献を用いて論理的に考察できる。
- ④研究成果を論文形式にまとめることができる。
- ⑤研究について発表することができる。
- ⑥研究についてディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」

および
「準備学習等の内
容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究実施計画の作成①	研究実施計画の作成(60分)
2.	研究実施計画の作成②	研究実施計画の作成(60分)
3.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集①	研究の実施(60分)
4.	卒業研究の実施－研究協力の依頼とデータ収集②	研究の実施(60分)
5.	卒業研究の実施－データ収集 調査①	研究の実施(60分)
6.	卒業研究の実施－データ収集 調査②	研究の実施(60分)
7.	卒業研究の実施－データ収集 調査③	研究の実施(60分)
8.	卒業研究の実施－データ収集 調査④	研究の実施(60分)
9.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑤	研究の実施(60分)
10.	卒業研究の実施－データ収集 調査⑥	研究の実施(60分)
11.	卒業研究の実施－データ整理①	研究の実施(60分)
12.	卒業研究の実施－データ整理②	研究の実施(60分)
13.	卒業研究の実施－データ入力①	分析資料の作成(60分)
14.	卒業研究の実施－データ入力②	分析資料の作成(60分)
15.	卒業研究の実施－データ分析(記述統計)①	分析資料の作成(60分)
16.	卒業研究の実施－データ分析(記述統計)②	分析資料の作成(60分)
17.	卒業研究の実施－データ分析(統計解析)①	分析資料の作成(60分)
18.	卒業研究の実施－データ分析(統計解析)②	分析資料の作成(60分)
19.	論文作成－背景の記述①	論文の作成(60分)
20.	論文作成－背景の記述②	論文の作成(60分)
21.	論文作成－方法の記述①	論文の作成(60分)
22.	論文作成－方法の記述②	論文の作成(60分)
23.	論文作成－結果の記述①	論文の作成(60分)
24.	論文作成－結果の記述②	論文の作成(60分)
25.	論文作成－考察の記述①	論文の作成(60分)
26.	論文作成－考察の記述②	論文の作成(60分)
27.	抄録の作成および研究についてのプレゼンテーショ ン①	抄録と発表資料の作成
28.	抄録の作成および研究についてのプレゼンテーショ ン②	抄録と発表資料の作成(60分)
29.	抄録の作成および研究についてのプレゼンテーショ ン③	抄録と発表資料の作成(60分)
30.	まとめ	卒業研究Ⅲの振り返り(60分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:フィードバックの
方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独創性、明瞭性、簡潔性
プレゼンテーション 態度	20 10	プレゼンテーションの適切性 研究に取り組む積極性、主体性

教科書: 特に指定しない

参考文献等: 適宜紹介する

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力教員との連絡
方法: 講義前後及びメールで適宜対応する

FLTナンバー:

授業テーマ: 研究プロセスの理解と修得(研究論文の作成と発表)

授業の概要: 作成した研究計画書を確認し、それにそって研究をすすめる。データを収集、整理と分析を行う。研究結果を解釈し、論文形式にまとめて、発表する。

到達目標:

1. 研究対象者に倫理的配慮を行って研究を遂行することができる。
2. データを正確に分析し結果を明確に示すことができる。
3. 既存の文献を用いて論理的に考察できる。
4. 研究成果を論文形式にまとめることができる。
5. 研究について発表し、ディスカッションすることができる。

授業方法: 学生によるプレゼン及びディスカッション、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究実施計画の立案1:研究計画書の確認	卒業研究Ⅱ(研究計画書)の確認(60分)
2. 研究実施計画の立案2:実施計画の確認	研究実施計画の準備(60分)
3. 研究の実施1:研究協力依頼、予備的な調査①	実施計画に基づく準備・確認(60分)
4. 研究の実施2:研究協力依頼、予備的な調査②	実施計画に基づく準備・確認(60分)
5. 研究の実施3:データ収集①	実施計画に基づく研究の実施準備・確認(60分)
6. 研究の実施4:データ収集②	実施計画に基づく研究の実施準備・確認(60分)
7. 研究の実施5:データ収集③	実施計画に基づく研究の実施準備・確認(60分)
8. 研究の実施6:データ収集④	実施計画に基づく研究の実施準備・確認(60分)
9. 研究の実施7:データ収集⑤	実施計画に基づく研究の実施準備・確認(60分)
10. 研究の実施8:データ収集⑥	実施計画に基づく研究の実施準備・確認(60分)
11. 研究の実施9:データ収集⑦	実施計画に基づく研究の実施準備・確認(60分)
12. 研究の実施10:データ収集⑧	実施計画に基づく研究の実施準備・確認(60分)
13. 研究の実施11:データ収集⑨	実施計画に基づく研究の実施準備・確認(60分)
14. 研究の実施12:データ収集⑩	実施計画に基づく研究の実施準備・確認(60分)
15. 研究の実施13:データの整理・入力①	分析資料の作成準備(60分)
16. 研究の実施14:データの整理・入力②	分析資料の作成準備(60分)
17. 研究の実施15:データの分析①	分析資料の作成(60分)
18. 研究の実施16:データの分析②	分析資料の作成(60分)
19. 研究成果を論文にまとめる1:まとめ方の確認	論文作成(60分)
20. 研究成果を論文にまとめる2:表題や研究目的や意義、背景の記述	論文作成(60分)
21. 研究成果を論文にまとめる3:方法の記述①	論文作成(60分)
22. 研究成果を論文にまとめる4:方法の記述②	論文作成(60分)
23. 研究成果を論文にまとめる5:結果の記述①	論文作成(60分)
24. 研究成果を論文にまとめる6:結果の記述②	論文作成(60分)
25. 研究成果を論文にまとめる7:考察の記述①	論文作成(60分)
26. 研究成果を論文にまとめる8:考察の記述②	論文作成(60分)
27. 研究結果を論文にまとめる9:考察の記述③	論文作成(60分)
28. 研究成果を論文にまとめる10:まとめ・文献の記述、論文の体裁、流れなどの確認	論文作成(60分)
29. 研究成果の発表・ディスカッション、抄録作成	抄録と発表資料の作成(60分)
30. 研究成果の発表・ディスカッション、抄録作成	抄録と発表資料の作成(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス: 楽しく研究しましょう

フィードバックの方法: 教室(ゼミ)でまとめて解説し、論文および発表資料はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	70	研究論文の形式、論理性、独往性、明瞭性、簡潔性
	プレゼンテーション、ディスカッション	20	プレゼンテーション、ディスカッションの積極性、適切性
	研究への態度	10	研究に取り組む積極性、主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 適宜ゼミ内で助言する

FLTナンバー:

授業テーマ: 卒業論文の作成とプレゼンテーション

授業の概要: 研究計画書にしたがって研究を進め、その成果を卒業論文にまとめる。これらを通して、学術研究の倫理的規範を身に着け、研究の進め方、問題点の解決方法、研究のまとめ方、プレゼンテーションの方法を学ぶ。

到達目標: 主体的学習により、情報収集と分析力、課題解決能力を養い、プレゼンテーション能力や研究論文をまとめる能力を身につける。

授業方法: 教員の指導のもとに研究を進める。

「授業内容」
および
「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究計画書に従って、データ収集、整理・解析する①。	研究計画書を確認し、データを選択する(60分)。
2. 研究計画書に従って、データ収集、整理・解析する②。	研究計画書を確認し、データを選択する(60分)。
3. 研究計画書に従って、データ収集、整理・解析する③。	データ解析を行う(120分)。
4. 研究計画書に従って、データ収集、整理・解析する④。	データ解析を行う(120分)。
5. 研究計画書に従って、データ収集、整理・解析する⑤。	データ解析を行い、まとめる(120分)。
6. 研究計画書に従って、データ収集、整理・解析する⑥。	データ解析を行い、まとめる(120分)。
7. 解析の結果を提示して、全員でディスカッションする。	ディスカッションの結果を反映させる(60分)。
8. 解析の結果を提示して、全員でディスカッションする。	ディスカッションの結果を反映させる(60分)。
9. 再度、解析の必要があれば、データ整理・解析を続ける。	ディスカッションの結果を反映させ、卒論構成の概略を作成する(120分)。
10. 再度、解析の必要があれば、データ整理・解析を続ける。	ディスカッションの結果を反映させ、卒論構成の概略を作成する(120分)。
11. 卒論の構成と見取り図を提示し、どのような形でまとめればよいかについて全員でディスカッションする。	【結果、結論】についてまとめる(120分)。
12. 卒論の構成と見取り図を提示し、どのような形でまとめればよいかについて全員でディスカッションする。	【結果、結論】についてまとめる(120分)。
13. 【結果、結論】の部分を提示し、全体でディスカッションする。	【方法】についてまとめる(60分)。
14. 【結果、結論】の部分を提示し、全体でディスカッションする。	【方法】についてまとめる(60分)。
15. 結果を導き出す、【方法】の部分について提示し、全体でディスカッションする。	【目的】についてまとめる(120分)。
16. 結果を導き出す、【方法】の部分について提示し、全体でディスカッションする。	【目的】についてまとめる(120分)。
17. 研究の背景に引用する文献をまとめ、【目的】を提示し、全体でディスカッションする。	【考察】についてまとめる(120分)。
18. 研究の背景に引用する文献をまとめ、【目的】を提示し、全体でディスカッションする。	【考察】についてまとめる(120分)。
19. 考察で引用する文献を整理し、結果の部分を踏まえて【考察】として提示し、全体でディスカッションする。	表題について考える(60分)
20. 考察で引用する文献を整理し、結果の部分を踏まえて【考察】として提示し、全体でディスカッションする。	表題について考える(60分)
21. 研究論文として、矛盾がないか、全体でディスカッションし、論文の【表題】を決定する。	抄録を作成する(120分)。
22. 研究論文として、矛盾がないか、全体でディスカッションし、論文の【表題】を決定する。	抄録を作成する(120分)。
23. 完成した研究論文のうち、【目的】、【方法】、【結果】、【考察】、【結論】から、全体のつながりを考慮しながら、該当部分を抜粋し【抄録】を作成する。	チェックリストに合致しているかについて確認する(60分)。
24. 完成した研究論文のうち、【目的】、【方法】、【結果】、【考察】、【結論】から、全体のつながりを考慮しながら、該当部分を抜粋し【抄録】を作成する。	チェックリストに合致しているかについて確認する(60分)。
25. 研究論文の見直しと作成した抄録が、チェックリストに沿っているかどうかを確認する。	プレゼンテーションを作成する(120分)。
26. 研究論文の見直しと作成した抄録が、チェックリストに沿っているかどうかを確認する。	プレゼンテーションを作成する(120分)。
27. プレゼンテーションを行い、全員でディスカッションすることによりブラッシュアップを行う。	より精査され、より説得力のあるプレゼンテーションを作成する(120分)。
28. プレゼンテーションを行い、全員でディスカッションすることによりブラッシュアップを行う。	より精査され、より説得力のあるプレゼンテーションを作成する(120分)。
29. プレゼンテーションを行う。	
30. プレゼンテーションを行う。	

受講者へのメッセージやアドバイス: 身の回りの些細なことも科学的な思考と方法で明らかになるプロセスを楽しんでほしい。サイエンスは、結果を積み上げていくことが基本となるため、毎授業後の調べものや解析データは、USB中にフォルダーを作り、随時記録していく。

フィードバックの方法:

教員、卒業論文作成グループ間でのディスカッションを日常的に行い、進捗を確認していく。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究論文	70	卒業論文の完成度
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの適切性・ディスカッションへの積極性
	取り組み姿勢	10	積極性・主体性

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, リーダーシップ, 思いやる力, 変化対応力, 自己管理能力, 自己実現力

教員との連絡
方法:
研究室、メール(nhasegaw@dwc.doshisha.ac.jp)

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

準備学習等の内容

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法

割合

評価基準

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

教員との連絡
方法:

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士論文の研究課題遂行に向けた学識ならびに方法論的準備

授業の概要: 薬学特別研究 I は、薬学特別研究 IV での最終的な博士学位論文を完成するための準備段階として位置づけられる。薬学特別研究 I では、目的とする研究分野の基礎的な知見を精査し、検証実験を実施することにより研究の方向性を探り、且つ、吟味することに力点を置きつつ、研究の方法や技術について基礎的な考え方を習得する。また、各講義では、研究科所属の全教員とともに進捗状況と将来性について質疑応答ならびに意見交換を行う。便宜上 15 項目を列挙するが、順序やそれぞれの回数は内容に応じて流動的に計画されている。

到達目標: 薬学特別研究 I での成果をもとに博士学位論文作成に向けての方向性を見定め、そのために必要となる専門的知識や技能習得を展開し、かつその中核となる研究を進展させることを目標とする。

授業方法: 文献調査を行うとともに、定期的に研究室ごとにラボミーティングを行い、実験データ、実験方法、実験条件、次の実験方針、関連する先端的研究の内容などについて討議する。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 薬学特別研究 I の評価と方向性の確認のための討議 1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
2. テーマに関連する問題点の洗い出し、関連論文の抽出	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
3. 目標達成のための方法論の討議、仮説の再構築	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
4. 関連論文講読・発表 1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
5. 関連論文講読・発表 2	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
6. 検証実験 1 と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
7. 検証実験 2 と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
8. 検証実験 3 と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
9. データのまとめと論点整理	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
10. ラボミーティング	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
11. ラボミーティングの指摘事項の整理、方法論の討議	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
12. 検証実験 4 と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
13. 検証実験 5 と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
14. 検証実験 6 と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)
15. 発表会での討議や方向性の妥当性評価	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など(3~4時間)

受講者へのメッセージやアドバイス: 常に研究テーマに関連する原著論文を精査し、研究手法や方向性についての知識や考え方を習得する姿勢を持つこと。

フィードバックの方法: ラボミーティングや日々の研究の中で随時、研究室で対応する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ラボミーティング	100%	研究の背景や原理、研究手法に関する知識、実験手技の熟練度、次の実験の立案、分かりやすい研究のプレゼンテーション力から総合的に到達目標への到達度を評価する。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 研究室で随時対応。

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士論文の研究課題の発展

授業の概要: 薬学特別研究は、IVにおいて最終的に博士論文を完成することを目的としている。その最終目標を達成するため、薬学特別研究Ⅱでは、中間報告会を設け、研究科所属教員全員で進捗状況と将来性の判定をおこなう。この時点で大きな懸念がある場合は、方向性を見直しを含めた指導方針の変更があり得る。この授業で網羅する15項目を列挙したが、順序やそれぞれの回数は内容に応じて流動的である。

到達目標: 薬学特別研究Ⅰでの成果をさらに発展させ、各研究室で与えられた研究課題について、その進展に向けて更なる探索的研究を行う。

授業方法: 文献調査を継続しつつ、頻回のラボミーティングを行い、実験データ、実験方法、実験条件、次の実験方針などについて討議する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬学特別研究Ⅰの評価と方向性の確認のための討議1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
2.	テーマに関連する問題点の洗い出し、関連論文の抽出	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
3.	目標達成のための方法論の討議、仮説の再構築	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
4.	関連論文講読・発表1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
5.	関連論文講読・発表2	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
6.	検証実験1と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
7.	検証実験2と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
8.	検証実験3と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
9.	データのまとめと論点整理	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
10.	中間報告会	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
11.	中間報告会の指摘事項の整理、方法論の討議	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
12.	検証実験4と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
13.	検証実験5と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
14.	検証実験6と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。
15.	発表会での討議、方向性の妥当性評価	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行することが求められる。準備時間の目安は2-4時間。

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究成果は一朝一夕には得られません。1%の発想と99%たゆまぬ努力が道を開きます。同時に、テーマに関連する文献を独自で検索し、研究手法の吟味や方向付けを行っていくことが大切です。

フィードバックの方法:

ミーティングや日々の研究・実験遂行の中で、随時研究室で対応し、コメントを与える。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プレゼンテーション	100%	期末の発表会の内容に基づき、評価する。

教科書:

参考文献等: 教員の指導のもとに学生が自力で探索する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

研究室で必要な時に随時対応する。

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士学位論文のための研究指導

授業の概要: 研究テーマに沿って博士学位論文作成のための必要な研究成果を挙げることを目標とし、研究の遂行と課題解決のための実験方法を提案し、得られた結果について議論し、次の課題を解決させるサイクルを通じて研究活動を行い、その中から学会発表並びに学術論文執筆に値する成果を得ることを目的とする。

到達目標: 国際的なジャーナル紙に投稿する英語論文の執筆のための必要な実験データなどを得、統計処理を行い、論文執筆のノウハウを学ぶとともに、実際にそれらのデータを用いて執筆を行うことを目標とする。

授業方法: 議論と執筆指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
11. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
12. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
13. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
14. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
15. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
16. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
17. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
18. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
19. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
20. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
21. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
22. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
23. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
24. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
25. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
26. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
27. 学会発表の予備練習	発表のためのポスターやスライドを作成する。(3~4時間)
28. 学会発表の予備練習	発表のためのポスターやスライドを作成する(3~4時間)
29. 英語論文の投稿準備1	研究成果を英語論文として発表するための草稿を作成する(720時間)
30. 英語論文の投稿準備2	指導を経て英語論文の草稿を精度の高いものに仕上げる(720時間)
1. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
2. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
3. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
4. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
5. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
6. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
7. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
8. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
9. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)
10. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(3~4時間)

受講者へのメッセージやアドバイス: 研究成果は一朝一夕には得られません。1%の発想と99%たゆまぬ努力が道を開きます。

フィードバックの方法: 直接の議論

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究成果と成果に関する 議論	100	学術の進歩に貢献しうる研究成果が得られているか、そしてその成果を適切に議論できるかを評価のポイントとする。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

対面指導

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士学位論文のための研究と博士学位論文作成

授業の概要: 薬学特別研究Ⅰ～Ⅲにおいて培ってきた専門知識あるいはその領域におけるテーマに沿って実験した結果得られたデータを統計解析し、吟味および討議した後、課題の問題解決に向けた論点を整理し、学会発表を行うとともに、博士学位論文作成のためのストーリーを構築して執筆活動を行う。

到達目標: 国際的なジャーナル紙に投稿して受理された英語論文を主軸とし、博士学位論文のストーリー展開を構築し、与えられたテーマについて専門的な学識を交えた博士学位論文を執筆し完成させることを目的とする。また、博士学位論文内容に関してその内容を公開の場で口頭発表を行い、議論をする。

授業方法: 議論と執筆指導

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
2. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
3. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
4. 研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
5. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
6. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
7. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
8. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
9. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
10. 研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
11. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
12. 研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
13. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
14. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
15. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
16. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
17. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
18. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
19. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
20. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
21. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
22. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
23. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	課博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)

- | | | |
|-----|--|------------------------------------|
| 24. | 研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。 | 課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間) |
| 25. | 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。 | 博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間) |
| 26. | 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。 | 博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間) |
| 27. | 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。 | 博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間) |
| 28. | 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。 | 博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間) |
| 29. | 博士学位論文発表会の準備 | 博士学位論文発表会のための草稿を作成する(720時間) |
| 30. | 博士学位論文発表会の準備 | 博士学位論文発表会のための草稿を作成する(720時間) |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

博士学位論文では、国際的なジャーナル紙に投稿して受理された英語論文を主軸として、研究テーマに関する専門的な知識を加味しながら、ストーリーを展開してゆきます。

フィードバックの
方法:

直接の議論

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
博士学位論文と質疑応答	100%	学術の進歩に貢献しうる研究成果により、論点を見極めたストーリー展開が博士学位論文に認められるか、そしてその発表会において適切に発表し、質疑応答ができていないかを評価のポイントとする。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

対面指導

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士学位論文のための研究と博士学位論文作成

授業の概要: 薬学特別研究Ⅰ～Ⅲにおいて培ってきた専門知識あるいはその領域におけるテーマに沿って実験した結果得られたデータを統計解析し、吟味および討議した後、課題の問題解決に向けた論点を整理し、学会発表を行うとともに、博士学位論文作成のためのストーリーを構築して執筆活動を行う。

到達目標: 国際的なジャーナル紙に投稿して受理された英語論文を主軸とし、博士学位論文のストーリー展開を構築し、与えられたテーマについて専門的な学識を交えた博士学位論文を執筆し完成させることを目的とする。また、博士学位論文内容に関してその内容を公開の場で口頭発表を行い、議論をする。

授業方法: 議論と執筆指導

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
2. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
3. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
4. 研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
5. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
6. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
7. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
8. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
9. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
10. 研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
11. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間)
12. 研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
13. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
14. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	課博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
15. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
16. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
17. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
18. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
19. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
20. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
21. 研究成果について議論し、考察する。次の課題を見出しその解決のための実験を考える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
22. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)
23. 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。	課博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間)

- | | | |
|-----|--|------------------------------------|
| 24. | 研博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。 | 課題を解決するための実験を行い結果を得る。(200時間) |
| 25. | 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。 | 博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間) |
| 26. | 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。 | 博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間) |
| 27. | 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。 | 博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間) |
| 28. | 博士学位論文作成のための研究成果について議論・考察し、博士学位論文のストーリーを構築する。課題が見つければ、解決のための実験を加える。 | 博士学位論文作成のためのストーリーの構築と吟味を行う。(200時間) |
| 29. | 博士学位論文発表会の準備 | 博士学位論文発表会のための草稿を作成する(720時間) |
| 30. | 博士学位論文発表会の準備 | 博士学位論文発表会のための草稿を作成する(720時間) |

受講者へのメッセージやアドバイス:

博士学位論文では、国際的なジャーナル紙に投稿して受理された英語論文を主軸として、研究テーマに関する専門的な知識を加味しながら、ストーリーを展開してゆきます。

フィードバックの方法:

直接の議論

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
博士学位論文と質疑応答	100%	学術の進歩に貢献しうる研究成果により、論点を見極めたストーリー展開が博士学位論文に認められるか、そしてその発表会において適切に発表し、質疑応答ができているかを評価のポイントとする。

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

対面指導

FLTナンバー: EDUe44-GS

授業テーマ: 博物館学芸員としての基礎的技術の習得

授業の概要: 今日の博物館は、学校教育のみならず生涯教育の場として、また文化の保存・伝承と研究発信の場として現代社会の中で大きな役割を果たしている。この「博物館実習」は「博物館学芸員資格」取得のための要となる授業であり博物館学芸員としての基礎的な心構えと技術を習得することを目的とする。
 そうした実際の博物館での実習を行う上で必要な博物館資料の取り扱いから展示の実現まで、主として考古学・歴史学の立場を軸としつつも、地理学・民俗学・美術史など幅広い観点から、多様な実務についての基礎技術を実習し、また、さまざまな博物館のあり方を現地で学び、地域社会における博物館のあり方を総合的に学習することを目標とする。
 また「博物館実習」の単位を取得するためには大学内での受講だけではなく実際の博物館の現場でおこなわれる「館園実習」(5～14日間程度)に参加することが必要となる。

到達目標: 博物館学芸員としての基礎的な技術を習得する。

授業方法: 実習形式とする。教室における屋内実習、野外でおこなう屋外実習、学外の博物館を訪れる見学実習がある。実際の作業や、ディスカッション等も含めて積極的な姿勢が前提となる。また、夏期を中心として実際の博物館での「館園実習」への参加も前提となる。また受講にあたっては定められた実習費を納めることが必要である。
 なお、この科目は、京田辺キャンパスと今出川キャンパスの双方で開講する。それぞれのキャンパスの特性を活かして、京田辺では博物館資料の取り扱い方に重点を置き、今出川では京都市内の博物館の実地見学実習(入館料・交通費は自己負担となる)を多く取り入れることとする。

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス 博物館実習の心構え(両キャンパス共通)	これまでの博物館学芸員関係科目の内容を復習しておく。なお、この回は学期最初の授業であるため、欠席してはならない。事前・事後学習必要時間(30分)。
2. 博物館の実地見学実習1(共通)	博物館の見学のマナーを考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
3. 博物館広報チラシの比較検討(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
4. 博物館資料室の見学(京田辺)/博物館の実地見学実習2(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
5. 民俗資料実習1～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
6. 民俗資料実習2～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
7. 民俗資料実習3～信仰資料の整理(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
8. 考古学資料実習1～遺物の扱い方(京田辺)/博物館の実地見学実習3(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
9. 考古学資料実習2～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習1～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
10. 考古学資料実習3～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習2～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
11. 考古学資料実習4～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習3～拓本(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
12. 考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習4(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
13. 考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習5(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
14. 考古学資料実習6～拓本(京田辺)/博物館学芸員の仕事(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
15. 博物館館園実習に関する事前指導(共通)	自分が館園実習に行く博物館についてまとめておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
16. 博物館館園実習の個別報告1(共通)	館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
17. 博物館館園実習の個別報告2(共通)/博物館の実地見学実習6(今出川)	館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
18. 歴史地理学資料実習1～古地図資料(京田辺)/考古学資料実習4～遺物実測(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
19. 歴史地理学資料実習2～近代地図資料(京田辺)/考古学資料実習5～遺物実測(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
20. 美術資料実習1～掛軸(京田辺)/博物館の実地見学実習7(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
21. 美術資料実習2～巻物(京田辺)/美術資料実習1～掛軸・巻物(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
22. 美術資料実習3～文書(京田辺)/美術資料実習2～文書・典籍(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
23. 美術資料実習4～典籍(京田辺)/博物館の実地見学実習8(今出川)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
24. 写実実習1(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
25. 写実実習2(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
26. 展示図録1～印刷の知識(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
27. 展示図録2～図録のレイアウト(共通)	博物館資料についての取り扱い方を考えておく。事前・事後学習必要時間(30分)。
28. 展示会の構成1～展示計画の立案(共通)	展示計画を立案する。事前・事後学習必要時間(60分)。
29. 展示会の構成2～展示計画の発表(共通)	立案した展示計画を発表できるようにしておく。事前・事後学習必要時間(30分)。

30. 博物館実習の総括

授業全般をふりかえり、自分なりに総括しておく。事前・事後学習必要時間(30分)。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実習の各作業に積極的に参加する姿勢が求められる。実習授業であるので、4分の1以上の欠席は、理由のいかんを問わず認めない(公欠は除く)。特に、学期最初、学期末の授業は欠席してはならない。多くの博物館を自主的に見学することも必須となる。特に実際の博物館の現場でおこなわれる「館園実習」は学外の博物館の厚意によって受け入れていただくものであるから生半可な気持ちで参加することは許されないことを肝に銘じていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ覚悟を持たない者はこの授業を受講してはならないことを強調しておく。

フィードバックの方法:

教室内でまとめておこなう。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びペーパー提出	50	遅刻せずに出席し、また、指定されたペーパー等を提出したか。実習授業であるので、4分の1以上の欠席は、理由のいかんを問わず認めない(公欠は除く)。博物館学芸員としての基礎的な技術を習得できたかどうか。
授業への積極的参加度	30	きちんと受講し、授業への積極的に参加し、博物館学芸員としての基礎的な技術を習得できたかどうか。
館園実習での評価	20	館園実習をきちんと受講したかどうか。

教科書:

参考文献等:

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』(芙蓉書房出版2002年2,700円+税)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

「マナビー」による連絡

FLTナンバー: EDUc44-J

授業テーマ: 図書館サービスの実践

授業の概要: 図書館情報学は極めて実践的な学問であり図書館サービス理論も整理技術も現実の図書館活動の中から生まれ発展してきた。さらに今日では利用者のニーズおよびメディアの多様化も相まって、図書館は大きな変容を遂げつつある。それだけに図書館への理解のためには、実務を経験し、利用者に対応することが必要である。本科目では、司書課程の集大成として、図書館の現場で図書館員の指導のもとに図書館の実態と理論を学ぶ。実習は基本的に公立図書館で行う。

到達目標: 1【知識・理解】図書館のサービスや業務について理解し、わかりやすく説明できる。
2【関心・意欲・態度】社会人としての基本的なマナーを身につけるとともに、責任感や協調性をもって他者と接することができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーションに必要な技能や評価する力を身に着ける。

授業方法: 講義・演習および実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	事前演習	イベントの企画、お話し会、展示、広報等に関する演習の準備(120分)
3.	実習の心構え	実習対象館の調査および提供されているデータベースの操作の確認(120分)
4.	公立図書館の現場から	参考文献として挙げているビデオ教材の視聴(本学図書館に所蔵)30分
5.	実習	実習先の指示や課題による
6.	実習	実習先の指示や課題による
7.	実習	実習先の指示や課題による
8.	実習	実習先の指示や課題による
9.	実習	実習先の指示や課題による
10.	実習	実習先の指示や課題による
11.	実習	実習先の指示や課題による
12.	実習	実習先の指示や課題による
13.	実習生による発表:実習報告	資料等発表の準備(120分)
14.	振り返り	自己評価資料の準備(120分)
15.	評価	

受講者へのメッセージやアドバイス: ・受講者数に応じて若干の変更を加える場合がある
・免許・資格課からの連絡があるので、掲示板やメールには注意して見ておくこと

フィードバックの方法: 授業時に口頭で行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習	80	実習訪問時の様子、実習ノート、実習受け入れ先の評価から総合的に判断する
	レポート・演習	20	到達目標の1・3を中心に事前・事後講義から評価する

教科書:

参考文献等: 日本図書館協会『図書館の達人 司書実務編2:コミュニケーション』紀伊國屋書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Eメール: mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー: MDAf42-J

授業テーマ: 情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法及び主題組織法(分類法、件名索引法)の実践演習を行う

授業の概要: 本科目では情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法、分類法・件名索引法の実践を演習し、理解を図る。
 春学期には記述目録法について、演習を通じて書誌レコードのコピーカタログリング、新規作成を学習する。さらに、典拠レコードの作成と書誌レコードとのリンクを演習して、書誌コントロールの意味を実体験し、理解を獲得する。
 秋学期には主題索引法(分類法、件名索引法)について、演習を通じて学習する。分類法の演習では、『日本十進分類法』を使用する。件名索引法では、『基本件名標目表』を使用する。ともに、日本図書館界で標準的に使用されている主題索引のツールである。本演習を通じて、主題索引法(分類法、件名索引法)の理解を図るとともに、実践能力の獲得を目指す。

到達目標: 本科目では情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法、分類法・件名索引法の実践を演習し、理解を図る。
 春学期には記述目録法について、演習を通じて書誌レコードのコピーカタログリング、新規作成を学習する。さらに、典拠レコードの作成と書誌レコードとのリンクを演習して、書誌コントロールの意味を実体験し、理解を獲得する。
 秋学期には主題索引法(分類法、件名索引法)について、演習を通じて学習する。分類法の演習では、『日本十進分類法』を使用する。件名索引法では、『基本件名標目表』を使用する。ともに、日本図書館界で標準的に使用されている主題索引のツールである。本演習を通じて、主題索引法(分類法、件名索引法)の理解を図るとともに、実践能力の獲得を目指す。

授業方法: 演習(事前に示した課題を提出する。その中から発表をし、講評や解説を行う。また、毎回、コメントペーパーの提出を求めらる。)

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内
 容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 科目概要の確認	同女OPAC、CiNii、国立国会図書館サーチなどで実際の資料を検索しておくこと。
2. 目録法の記述、区切り記号、BIBLASについて	目録法、特にISBD区切り記号について、教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。(30分)
3. カード目録演習その1	カード目録の基礎について、教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。(30分)
4. カード目録演習その2(課題提出)	BIBLAS上にてカード目録作成ができるよう教科書およびプリント等を用いて予習・復習をすること。(30分)
5. 書誌ユーティリティ(講義)、和図書コピーカタログリングその1	NIIの書誌ユーティリティについて、教科書およびプリント等で予習・復習をすること。(30分)
6. 和図書コピーカタログリングその2	和洋のコピーカタログリングの基本について、教科書およびプリント等で予習・復習をすること。(30分)
7. 和図書コピーカタログリングその3(課題提出)	BIBLAS上にて和図書のコピーカタログリングができるよう教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。(30分)
8. 和図書オリジナルカタログリングその1	和図書のオリジナルカタログリングの基本について、教科書およびプリント等で予習・復習をすること。(30分)
9. 和図書オリジナルカタログリングその2(課題提出)	BIBLAS上にて和図書のオリジナルカタログリングができるよう教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。(30分)
10. 洋図書コピーカタログリング(課題提出)	BIBLAS上にて洋図書のコピーカタログリングができるよう教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。(30分)
11. 洋図書オリジナルカタログリングその1	洋図書のオリジナルカタログリングの基本について、教科書およびプリント等で予習・復習をすること。(30分)
12. 洋図書オリジナルカタログリングその2(課題提出)	BIBLAS上にて洋図書のオリジナルカタログリングができるよう教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。(30分)
13. 著者名典拠コントロール(課題提出)	著者名の典拠について教科書およびプリント等で予習・復習をすること。Web NDL Authoritiesの概要を把握すること(30分)
14. 雑誌書誌及び所蔵データ(課題提出)	BIBLAS上にて逐次刊行物のカタログリングができるよう教科書およびプリント等を用い、予習・復習をすること。(30分)
15. まとめ	春学期のまとめをしておくこと。(120分)
16. 分類法・件名法の概略～NDCとBSHについて	「情報資源組織論」の教科書等でNDCとBSHの概要を把握しておくこと。(60分)
17. 分類法①分類規定	NDCの分類規定についてプリント等で予習・復習をすること。(30分)
18. 分類法②補助表 形式区分	NDC補助表のうち、形式区分についてプリント等で予習・復習をすること。(30分)
19. 分類法③補助表 地理区分	NDC補助表のうち、地理区分についてプリント等で予習・復習をすること。(30分)
20. 分類法④補助表 言語区分	NDC補助表のうち、言語区分についてプリント等で予習・復習をすること。(30分)
21. 分類法⑤各類別その1	NDC本表のうち、0類1類2類についてプリント等で予習・復習をすること。(30分)
22. 分類法⑥各類別その2	NDC本表のうち、3類4類についてプリント等で予習・復習をすること。(30分)
23. 分類法⑦各類別その3	NDC本表のうち、5類6類7類についてプリント等で予習・復習をすること。(30分)
24. 分類法⑧各類別その4	NDC本表のうち、8類9類についてプリント等で予習・復習をすること。(30分)
25. 分類法⑨総合演習	NDC本表および補助表のすべてを使えるようプリント等で予習・復習をすること。(30分)
26. 件名法①BSHの仕組みと特徴	BSHの基本についてプリント等で予習・復習をすること。(30分)
27. 件名法②主標目と細目付き件名	BSHの細目の使い方についてプリント等で予習・復習をすること。(30分)
28. 件名法③総合	BSHの本表および付属するすべてのツールを使えるようプリント等で予習・復習をすること。(30分)

29. 目録と分類のまとめ NDCとBSHを組み合わせで使えるようプリント等で予習・復習をすること。(30分)
30. 分類法、件名法のまとめ 秋学期のまとめをしておくこと。(120分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

- ・USBメモリを必ず持参すること。(毎回、作成したデータを保存するため、忘れると授業を受講することができない。システムはUSBメモリーがないと保存ができない仕組みになっているため、授業を受けることができないので注意すること。)
- ・教科書に従って授業を行う。教科書は必ず購入のこと。
- ・ほぼ毎回ホームワークの課題を出す。
- ・一つ一つ積み上げの授業のため、遅刻や欠席をすると理解困難となり、新しい課題の取り組みができなくなる。
- ・やむをえず欠席した場合、教科書・レジユメを基にした独習を求める。この場合も課題・レポートは必ず提出すること。

フィードバックの方法:

コメントペーパーの質問、要望等については、次回、教室でまとめて回答します。なお、提出物は返却しません。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	40	正答率
授業態度	30	演習の回答発表
課題	30	提出率と課題の正確性

教科書: 北克一・村上泰子共著『資料組織演習』改訂第4版、M.B.A、2017

参考文献等:

- 『日本目録規則 1987年版 改訂3版』、日本図書館協会、2003 (授業時貸出)
- 『日本十進分類法 第10版』、日本図書館協会、2014 (授業時貸出)
- 『基本件名標目表 第4版』、日本図書館協会、1999 (授業時貸出)
- 田窪直規ほか『改訂 情報資源組織演習』、樹村房、2017
- 那須雅熙『情報資源組織論及び演習』第3版(ライブラリー図書館情報学 9)、学文社、2020
- 『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』日本図書館研究会、2015
- 宮沢厚雄『目録法キイノート』樹村房、2016
- 宮沢厚雄『分類法キイノート』第3版補訂、樹村房、2020

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。Eメールを利用。

FLTナンバー:

授業テーマ: 周産期に必要な助産診断・技術に関する実践能力の修得

授業の概要: 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期助産診断技術学で習得した知識や理論を統合し、助産過程の展開や助産実践に必要な諸技能・ケアの評価方法を習得する。周産期のケア場面のシミュレーション学習や助産OSCEを通して、助産診断の統合や援助技術の習得状況を評価し、自らの課題を明確にする。周産期に必要な助産診断・技術を修得していくプロセスにおいて、助産師に期待される役割や姿勢・態度を探求する。

到達目標: [和泉美枝/5回]
 妊娠期・産褥期の問診、全身のフィジカルイグザミネーション、新生児期のフィジカルイグザミネーションなどから得られた情報のアセスメント、個別性を尊重した計画立案、実行、評価などの助産過程の展開ができる。
 妊娠期や産褥期に必要な保健指導や健康教育を対象の時期や背景を考慮して、集団と個人への指導を組み合わせた効果的な方法で企画・実践できる。
 [宮川幸代/6回]
 産婦を尊重し、安全かつ根拠に基づいた分娩期のケア技術、分娩介助法、分娩促進ケアを習得することができる。
 出生直後の新生児の胎外生活への適応促進のための支援方法を修得できる。
 産婦や新生児の事例を用いて助産過程を展開し、分娩期に必要な助産診断のプロセスを理解すると共に対象の個別性を尊重したケア技術を修得できる。
 [谷口利絵/4回]
 フリースタイル出産における分娩介助技術の原理と技法が修得できる。
 [越山茂代/6回]
 科学的・効果的な母乳育児支援技術、母乳育児についての基本的知識、妊娠中から出産後の母乳育児支援、エモーショナル・サポートの技法を修得できる。
 [大内裕美/4回]
 シミュレーターを用いた演習を実施し、国際基準の新生児蘇生法の基礎知識と技術を修得できる。
 [緒方あかね/2回]
 事例を通して、リスクのある妊産褥婦のケアや周産期におけるメンタルヘルスへの支援方法が修得できる。
 [渡邊裕也/3回]
 女性を対象としたエクササイズに関する教室展開の基礎として、身体活動、有酸素運動、筋力トレーニングなどの原理と基本動作や特徴、留意点について理解できる。

授業方法: 講義・演習形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 乳房・母乳の基礎知識、母乳育児の利点(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく(60分)
2. 母乳育児成功のための10ヵ条の実践とBFHの取り組み(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく(60分)
3. 母乳育児支援① 早期接触、抱き方含ませ方(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく(30分)
4. 母乳育児支援② エモーショナルケア(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく(30分)
5. 母乳育児支援③ 問題のあるケースへの支援(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく(30分)
6. 授乳中の諸問題とその支援(越山)	妊娠期助産診断技術学、産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に進行性変化や乳房管理について復習しておく(30分)
7. 新生児の蘇生(NCPR)① 基礎(大内)	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく(60分)
8. 新生児の蘇生(NCPR)② アルゴリズムと蘇生技術(大内)	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく(30分)
9. 新生児の蘇生(NCPR)③ シミュレーションシナリオトレーニング(大内)	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく(30分)
10. 新生児の蘇生(NCPR)④ シミュレーションシナリオトレーニング(大内)	産褥・新生児期助産診断技術学の復習、特に出生直後の新生児のケアについて復習しておく(30分)
11. 妊娠期のフィジカルイグザミネーション技術(和泉)	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
12. 妊娠期の健康診査:シミュレーションシナリオトレーニング(和泉)	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
13. 妊娠期の保健指導:シミュレーションシナリオトレーニング(和泉)	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
14. 助産OSCE:妊娠期(和泉)	妊娠期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
15. 身体活動、エクササイズの種類と特徴(渡邊)	身体活動、エクササイズの種類と特徴について調べておく(60分)
16. 有酸素運動の原理と基本動作、留意点(渡邊)	有酸素運動の原理と基本動作、留意点について調べておく(60分)
17. 筋力トレーニングの原理と基本動作、留意点(渡邊)	筋力トレーニングの原理と基本動作、留意点について調べておく(60分)
18. 分娩介助技術(1)分娩進行にかかわる診断技術(内診、導尿、人工破膜等)(宮川)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
19. 分娩介助技術(2)分娩介助に伴う清潔操作(宮川)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
20. 分娩介助技術(3)分娩介助技術(会陰保護等)(宮川)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
21. 分娩介助技術(4)分娩介助技術(胎盤娩出、縫合介助等)(宮川)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
22. 分娩介助技術(5)技術試験(シミュレーション)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく(60分)

23.	助産OSCE:分娩期	分娩期助産診断技術学の復習をしておく(120分)
24.	産褥・新生児期の保健指導:シミュレーションシナリオトレーニング(和泉)	産褥・新生児期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
25.	アクティブバースとは、メリットとデメリット(谷口)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
26.	フリースタイル分娩介助 仰臥位・側臥位・四つん這い・立位での分娩介助(谷口)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
27.	フリースタイル分娩介助 児の回旋と会陰保護(谷口)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
28.	会陰裂傷予防(谷口)	分娩期助産診断技術学の復習をしておく(60分)
29.	身体的ハイリスク妊産婦の看護援助と評価(緒方)	妊娠期助産診断技術学の復習、特に妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメントについて復習しておく(60分)
30.	心理・社会的ハイリスク妊産婦の看護援助と評価(緒方)	妊娠期助産診断技術学の復習、特に妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメントについて復習しておく(60分)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

課題については授業内でコメントする

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
助産OSCE	20	OSCEの評価点から評価する
授業への積極的態	80	積極的、主体的に授業に参加しているなど態度、意欲も評価する

教科書: UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース「母乳育児のための10カ条」の実践, 医学書院
細野茂春監修, 日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト第3版, メジカルビュー社

参考文献等: 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期, 医学書院
助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期, 医学書院
助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期, 医学書院
NCPR 新生児蘇生法テキスト 第3版 日本周産期・新生児医学会・新生児蘇生法委員会委員長細野茂春(監修)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡
方法:

質問などは主に授業内で対応する

FLTナンバー:

授業テーマ: 周産期にある母子や家族を対象にした助産実践・関連職種および地域との連携と協働

授業の概要: 妊娠中期から産後1か月までの事例を継続して受け持ち、助産過程を展開し、対象者のニーズや個別性、多様性を理解し、安全・安心・快適・満足なお産の実現に向けた助産師の役割を学び、個別性を尊重した助産ケアの実践能力を修得する。さらに、他職種および地域との連携の必要性やそのあり方を理解し、助産ケアや保健サービス向上のための方策を考察できる能力を修得する。

到達目標: 妊娠期からの継続ケアと対象との信頼関係に基づき、妊婦・分娩・産褥・新生児・育児期の助産過程が展開でき、日常生活に応じた個別的な援助ができる。
安全・安心・快適・満足なお産の実現に向けた助産師の役割が理解でき、実践できる。
多職種や地域との連携の必要性やそのあり方を理解でき、助産ケアや保健サービス向上のための方策を考察できる。

授業方法: 実験実習実技(学外)

「授業内容」
および
「準備学習等の内容」:

授業内容
1. 妊娠経過が正常である妊婦を妊娠中期から産褥母子訪問を含め産後1か月まで受け持ち、助産過程の展開と助産計画に基づいた助産ケアや保健指導を指導助産師の指導の下行う。

準備学習等の内容
助産学概論、ペアレディング援助論、妊娠期・分娩期・産褥・新生児期助産診断技術学・助産技術学演習、助産学実習Ⅰ・Ⅱ、助産マネジメント等での学習内容、および教科書・資料を復習しておく(30分)。また保健指導を行う場合は指導案を教員に提出し事前に指導を受ける(60分)。詳細は実習要項を参照する。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 実習記録はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
知識・技術	80	到達目標における知識や技術の到達度によって総合的に評価する
実習への積極的姿勢	20	事前学習や積極的・主体的な実習への取り組み、到達目標の理解を深めようとする姿勢、態度を評価する

教科書: ペアレディング援助論、妊娠期・分娩期・産褥・新生児期助産診断技術学、助産技術学演習等で使用した教科書

参考文献等: 実習の進行状況に則して適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法: 質問には主に実習中に対応する

FLTナンバー:

授業テーマ: 周産期における高度な診断能力と実践力

授業の概要: 周産期における高度専門職として、高度な診断能力と実践力を有し、緊急時の対応やエビデンスに基づいた最新の知識・技術が提供できる実践力を培う。
 (宮川) 安心・安全な出産環境を整え、周産期の母体安全を確保するための分娩取扱施設での急変発生時の初期対応と助産師の役割について考える。また、ストレスコーピングの視点から出産前に胎児の死亡が確認された事例や出産後に児を失った事例において家族が死を受容する心理過程について検討し、周産期におけるグリーフケア時の助産師の役割について考察する。
 (澤田) 会陰切開および会陰縫合の適応とその方法、婦人科的診察と子宮がんのスクリーニング検査の方法を習得する。
 (山畑) 産後の出血性ショック、肺塞栓症、子癇などの母体急変時の知識や母体の救命処置の実技、チームワークと連携強化についてシミュレーション場面で学習する。
 (吉田) 助産診断を補うために超音波診断の基礎的画像診断能力を養うとともに、基礎的な超音波装置の走査法および画像診断法をシミュレーションモデルや画像などを用いて修得する。

到達目標: 1)会陰切開および会陰縫合の適応とその方法が理解できる、子宮がんのスクリーニング検査を演習でできる
 2)母体の救命処置についてシミュレーション場面で習得できる
 3)超音波診断の基礎的画像診断能力を養い、画像診断法をシミュレーションモデルで習得できる

授業方法: 講義・演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	母体急変対応のABC、急変時の初期対応[山畑]	成人のBLSについて手技も含めて学習しておく(60分)
2.	シミュレーションシナリオトレーニング母体急変対応(1):子癇[山畑]	前回の授業内容を理解しておく(60分)
3.	シミュレーションシナリオトレーニング母体急変対応(2):分娩出血[山畑]	前回の授業内容を理解しておく(60分)
4.	シミュレーションシナリオトレーニング母体急変対応(3):チームトレーニング[山畑]	前回の授業内容を理解しておく(60分)
5.	超音波断層装置の基礎[吉田]	妊娠期助産診断技術学の内容を復習する(60分)
6.	周産期における超音波検査の基礎[吉田]	前回の授業内容を理解しておく(90分)
7.	周産期における超音波画像の読み方[吉田]	前回の授業内容を理解しておく(90分)
8.	シミュレートトレーニングモデルによる超音波演習(1)妊娠中・末期[吉田]	前回の授業内容を理解しておく(90分)
9.	シミュレートトレーニングモデルによる超音波演習(2)血流・胎児well-being評価[吉田]	前回の授業内容を理解しておく(90分)
10.	シミュレーションシナリオトレーニング胎児急変対応:臍帯脱出・胎児心拍異常[宮川]	産科医療保障制度の対象となった事例を確認しておく(60分)
11.	周産期におけるグリーフケア:ペリネイタル・ロス事例の検討[宮川]	事例や手記を探し、内容を理解する(60分)
12.	会陰切開および会陰縫合の適応[澤田]	分娩期助産診断技術学の内容を復習する(60分)
13.	会陰切開術および会陰縫合の手技[澤田]	前回の授業内容を理解しておく(60分)
14.	シミュレートトレーニングモデルによる会陰縫合の実際[澤田]	前回の授業内容を理解しておく(60分)
15.	婦人科的診察と子宮がんのスクリーニング検査[澤田]	前回の授業内容を理解しておく(60分)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業内でフィードバックする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的態度	50	演習への態度、理解度、演習時の手技などについて、目標の1)~3)の到達度を評価する
	レポート	50	目標の1)~3)の理解度を評価する

教科書: 竹村 秀雄(2018)新版 助産師外来で役立つ 超音波検査ガイドブック, メディカ出版

参考文献等: 適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法: 質問などは主に授業内で対応する

FLTナンバー:

授業テーマ: 助産学実践における研究課題への取組みと論文作成

授業の概要: 看護学研究科目(ウイメンズヘルスト論Ⅰ、ウイメンズヘルスト論Ⅱ)、助産学実践科目の履修を通して見出した研究課題を追及し、研究のプロセスに沿って実践的かつ実証的に研究を行い、課題研究論文としてまとめる。課題研究を通して助産師として必要な研究能力を修得する。具体的には、助産における研究の意義と特徴、研究デザインの考え方、研究方法、倫理上の配慮など、研究を進める上で必要な知識への理解を深めるとともに助産実践から研究疑問を抽出し、研究計画書を作成し、実施した結果を論文にまとめ発表会で発表する。

到達目標: 1)研究動向を踏まえ、専門領域における研究課題を明確にできる
2)研究課題に対して適切な研究方法を選定することができる
3)研究倫理に配慮した研究計画書を作成することができる
4)研究者としての自覚をもち、研究計画を遂行しデータ収集、分析ができる
5)収集したデータに基づき論文を作成することができる
6)課題論文の概要を報告することができる

授業方法: ゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 1)-1研究課題の明確化 研究課題の検討	・研究課題や関連する文献収集(90分)
2. 1)-2研究課題の明確化 研究課題の検討	・研究課題や関連する文献収集 ・前回講義時の課題の検討(90分)
3. 1)-3研究課題の明確化 研究課題と仮説の明確化	・研究課題や関連する文献収集 ・前回講義時の課題の検討(90分)
4. 2)-1先行研究のクリティーク 研究デザインの検討 研究の意義の明確化	・研究論文をクリティークしプレゼンできるように準備する ・研究方法・デザインについて復習する ・前回講義時の課題の検討(90分)
5. 2)-2先行研究のクリティーク 研究方法の検討	・研究論文をクリティークしプレゼンできるように準備する ・前回講義時の課題の検討(90分)
6. 2)-3先行研究のクリティーク データ分析・結果の検討	・研究論文をクリティークしプレゼンできるように準備する ・前回講義時の課題の検討(90分)
7. 3)研究方法の決定	・研究方法の検討、測定用具の信頼性妥当性について理解する ・前回講義時の課題の検討(90分)
8. 4)-1研究計画書の作成	・研究計画書の作成準備 ・前回講義時の課題の検討(90分)
9. 4)-2研究計画書、実施計画書の作成	・研究計画書を修正、実施計画書の作成準備 ・前回講義時の課題の検討(90分)
10. 5)-1倫理審査委員会申請書類の作成	・研究倫理審査申請書の作成準備 ・前回講義時の課題の検討(90分)
11. 5)-2倫理審査委員会申請書類の作成	・研究倫理審査申請書を修正し、提出 ・前回講義時の課題の検討(90分)
12. 6)-1データの収集と実施計画の見直し	・データ収集準備、調査に向けた課題を明確にする ・前回講義時の課題の検討(120分)
13. 6)-2データの収集	・研究データの収集・分析 ・研究の進捗状況の確認 ・前回講義時の課題の検討
14. 6)-3データの収集	・研究データの収集・分析 ・研究の進捗状況の確認 ・前回講義時の課題の検討
15. 6)-4データの収集	・不足する研究データの収集 ・研究の進捗状況の確認 ・前回講義時の課題の検討
16. 7)-1データ分析	・調査結果を仮説に基づきまとめる ・前回講義時の課題の検討(120分)
17. 7)-2データ分析(結果の構成)	・調査結果を仮説に基づきまとめる ・結果の構成を考える ・前回講義時の課題の検討(120分)
18. 7)-3データ分析、結果執筆	・結果の構成に基づき結果をまとめる ・前回講義時の課題の検討(120分)
19. 8)-1論文執筆(考察の構成)	・考察の構成を考える ・前回講義時の課題の検討(120分)
20. 8)-2論文執筆(考察)	・考察をまとめる ・前回講義時の課題の検討(120分)
21. 8)-3論文執筆(考察)	・考察をまとめる ・前回講義時の課題の検討(120分)
22. 8)-4論文執筆(考察の推敲)	・考察を推敲する ・前回講義時の課題の検討(120分)
23. 9)論文執筆(結論・研究課題の明確化)	・結論をまとめる、研究課題をまとめておく ・前回講義時の課題の検討(120分)
24. 10)論文執筆(要約)	・要約を記述する ・前回講義時の課題の検討(120分)
25. 11)論文推敲	・論旨の論理性、整合性を確認する ・前回講義時の課題の検討(120分)
26. 12)発表準備	・プレゼンテーション資料を作成 ・前回講義時の課題の検討(120分)

- 27. 13)-1論文発表・ディスカッション
 - ・プレゼンテーション・ディスカッションの準備
 - ・前回講義時の課題の検討(90分)
- 28. 13)-2論文発表・ディスカッション
 - ・プレゼンテーション・ディスカッションの準備
 - ・前回講義時の課題の検討(90分)
- 29. 14)論文修正
 - ・質疑応答や助言を論文に反映させて修正
 - ・前回講義時の課題の検討(90分)
- 30. 15)まとめ
 - 研究プロセスを振り返り、今後の課題を明確にする(90分)

研究プロセスの理解・実践は、助産師として必要な臨床能力です。1段階ずつ丁寧に、計画的に学習を進めましょう。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

講義時や課題提出時に直接コメントする

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究計画書	20	到達目標1)~3)の到達度により評価する
課題研究論文	50	到達目標1)~5)の到達度により評価する
プレゼンテーション	10	到達目標6)の到達度を評価する
取り組み姿勢・態度	20	到達目標1~6)の主体性、積極性について評価する

教科書:

適宜、紹介する

参考文献等:

必要時、紹介する

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

講義時ならびにメールにより連絡する

FLTナンバー:

授業テーマ: 看護の研究課題への取り組みと研究計画書の立案

授業の概要: 博士論文の研究計画書を作成する。そのために、関心領域の概念分析をする。文献レビューにより、当該領域の動向を把握する。文献レビューし、研究方法の要素を抽出する。

到達目標: 【知識・理解】【関心・意欲・態度】【表現・技能・能力】
1. 関心領域の概念分析をする。
2. 文献レビューにより、当該領域の研究動向を把握する。
3. 文献レビューにより、研究方法の要素を抽出する。
4. 研究計画書を作成し、倫理委員会の審査を受ける。

授業方法: ゼミ形式

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

- | 授業内容 | 準備学習等の内容 |
|------------------|----------|
| 1. 関心領域の概念分析1 | |
| 2. 関心領域の概念分析2 | |
| 3. 関心領域の概念分析3 | |
| 4. 関心領域の概念分析4 | |
| 5. 関心領域の概念分析5 | |
| 6. 概念分析の論文化 | |
| 7. 文献レビュー1 | |
| 8. 文献レビュー2 | |
| 9. 文献レビュー3 | |
| 10. 文献レビュー4 | |
| 11. 研究方法論の枠組み作成1 | |
| 12. 研究方法論の枠組み作成2 | |
| 13. 研究方法論の枠組み作成3 | |
| 14. 研究方法論の枠組み作成4 | |
| 15. 研究方法論の枠組み作成5 | |
| 16. 研究方法論の枠組み作成6 | |
| 17. 研究計画書の作成1 | |
| 18. 研究計画書の作成2 | |
| 19. 研究計画書の作成3 | |
| 20. 研究計画書の作成4 | |
| 21. 研究計画書の作成5 | |
| 22. 研究計画書の作成6 | |
| 23. 研究計画報告会の準備1 | |
| 24. 研究計画報告会の準備2 | |
| 25. 研究報告会開催 | |
| 26. 研究計画書修正1 | |
| 27. 研究計画書修正2 | |
| 28. 倫理委員会申請書作成1 | |
| 29. 倫理委員会申請書作成2 | |
| 30. 倫理委員会申請書作成3 | |

受講者への
メッセージや
アドバイス: 自主的に進めてくださいフィードバックの
方法: ゼミでのディスカッション

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	博士研究計画書	100	目標1から4を達成で評価する

教科書: 適宜紹介する

参考文献等: 適宜紹介する

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, 自己管理能力, 自己実現力教員との連絡
方法: メール WEB会議ツール

FLTナンバー:

授業テーマ: 看護学の研究課題への取組みと研究計画の立案

授業の概要: 在宅療養する人と家族、要介護状態または認知症の人が住み慣れた地域で最期まで暮らし続けることが可能となるための保健指導や看護援助等に関する研究課題について研究指導を行う。

到達目標: 1. 専門領域における自己の研究成果を踏まえて、研究テーマに応じた研究方法を選択する。
2. 研究テーマや研究手法に関する文献検討を実施し概念(研究課題、設問)を明確化する。
3. 学術性の高い研究計画書の作成に向けて文献レビューを作成する。
4. 研究計画書を作成し、研究倫理審査受審過程に主体的に取り組むことができる。
5. 倫理審査の受審過程において、当該領域での研究の意義や重要性、実施可能性の高い研究課題を明確し、課題解決のための企画・立案能力を修得することができる。

授業方法: 学生の主体性を重視しながら、小グループもしくは個人での研究指導を行う

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究課題の明確化(1): 専門領域の特講や学習成果をふまえ、自己の研究成果を整理	
2. 研究課題の明確化(2): 自己の研究成果から新たな研究課題の探究	
3. 研究課題の明確化(3): 各専門領域の特講やこれまでの学習成果をふまえ、自己の研究課題を焦点化し、報告する	
4. 研究課題の明確化(4): 研究課題の決定	
5. 国内論文の文献検索	
6. 国内論文の先行研究のクリティーク	
7. 国内論文の文献クリティークから研究課題を明確化	
8. 海外論文の文献検索	
9. 海外論文のクリティーク(1): 有用な論文を抽出	
10. 海外論文のクリティーク(2): 有用な論文の翻訳	
11. 海外論文のクリティーク結果を要約	
12. 国内外の論文クリティークから研究課題の精緻化と意義を明確にする	
13. 国内外の論文クリティークから研究課題の精緻化と意義を記述して報告	
14. 研究課題に見合った研究デザインの検討(1): 研究方法の理解	
15. 研究課題に見合った研究デザインの検討(2): 研究方法の修得計画	
16. 研究計画書作成(1): 研究課題の解決に適した研究方法を選択	
17. 研究課題に見合った研究デザインの検討(3): 研究方法の修得	
18. 研究計画書作成(2): 研究計画書の作成	
19. 研究計画書作成(3): 研究デザイン、研究方法の一貫性や妥当性を検討	
20. 研究遂行における倫理的配慮についての検討	
21. 研究計画発表会の準備	
22. 研究計画発表会における発表: テーマの新規性、実施可能性、看護学への貢献度、学術性などの評価を受ける	
23. 研究計画の修正	
24. 研究倫理審査委員会申請書類の作成準備	
25. 研究倫理審査委員会申請書類の作成	
26. 倫理審査委員会申請書類の推敲	
27. 研究倫理審査委員会申請書類の提出	
28. 研究倫理審査受審後、修正指示に応じて再提出	
29. 研究倫理審査を受審し承認を得る	
30. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 看護学の発展に寄与できる看護学研究に取り組みましょう。

フィードバックの方法: 講義時および必要時メールでフィードバックする

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究への取り組み姿勢、議論への参加度	50	研究への取り組み姿勢、議論への参加姿勢
	研究計画書の作成	30	研究計画書作成における主体性、計画性、緻密性、期日厳守
	プレゼンテーション内容	20	プレゼンテーションの焦点化、正確性、明瞭性、簡潔性

教科書: 適宜紹介する

参考文献等： 適宜紹介する

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, リーダーシップ, 思いやる力, 変化対応力, 自己管理能力, 自己実現力

教員との連絡
方法：

メールにて連絡する。mkomatsu@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 看護の研究課題への取組みと研究計画の立案

授業の概要: 妊産褥婦および育児期にある女性の健康の維持・増進をめざした支援に関する研究課題を選択し、自律的な研究活動と論文作成に必要な能力を修得できるよう研究指導を行う。

到達目標: 1.専門領域における自己の研究成果を踏まえて、研究テーマに応じた研究方法を選択する。
2.研究テーマや研究手法に関する文献検討を実施し概念(研究課題、設問)を明確化する。
3.学術性の高い研究計画書の作成に向けて文献レビューを作成する。
4.研究計画書を作成し、研究倫理審査受審過程に主体的に取り組むことができる。
5.倫理審査の受審過程において、当該領域での研究の意義や重要性、実施可能性の高い研究課題を明確し、課題解決のための企画・立案能力を修得することができる。

授業方法: 学生の主体性を重視しながら、個別で研究指導を行う

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究課題の明確化①	専門領域の特講やこれまでの学習成果をふまえ、現状分析する
2. 研究課題の明確化②	テーマの新規性、実施可能性、看護学への貢献度、学術性を検討する
3. 研究課題の明確化③	
4. 研究課題の明確化④	
5. 研究課題の明確化⑤	
6. 研究課題の明確化⑥	
7. 国内外の文献のクリティーク①研究課題の焦点化	
8. 国内外の文献のクリティーク②	
9. 国内外の文献のクリティーク③	
10. 国内外の文献のクリティーク④	
11. 国内外の論文クリティーク⑤	
12. 国内外の論文クリティーク⑥	
13. 国内外の論文クリティーク⑦	
14. 国内外の論文クリティーク⑧	
15. 研究方法の選択・研究計画書作成①	研究デザイン、分析方法を確認する
16. 研究方法の選択・研究計画書作成②	研究課題の解決に適した研究方法を検討する
17. 研究方法の選択・研究計画書作成③	
18. 研究方法の選択・研究計画書作成④	
19. 研究方法の選択・研究計画書作成⑤	
20. 研究方法の選択・研究計画書作成⑥	
21. 研究方法の選択・研究計画書作成⑦	
22. 研究方法の選択・研究計画書作成⑧	
23. 研究計画報告会における発表	テーマの新規性、実施可能性、看護学への貢献度、学術性を確認する
24. 研究方法の選択・研究計画書作成⑨	
25. 研究倫理審査申請書作成①	
26. 研究倫理審査申請書作成②	
27. 研究倫理審査申請書作成③	
28. 調査準備①	
29. 調査準備②	
30. 文献クリティーク成果発表	

受講者へのメッセージやアドバイス: 主体的に取り組む姿勢が求められます

フィードバックの方法: 講義時および必要時メールでフィードバックする

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究への取り組み姿勢、議論への参加度	50	研究への取り組み姿勢、議論への参加姿勢
	研究計画書の完成度	30	研究計画書作成における主体性、計画性、緻密性、期日厳守
	プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの焦点化、正確性、明瞭性、簡潔性

教科書: 適宜紹介する

参考文献等: 適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 変化対応力, 自己管理能力, 自己実現力

教員との連絡方法: メールにて連絡 emanabe@dwc.doshisha.ac.jp

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士論文(研究計画書)の作成とプレゼンテーション

授業の概要: 1.問題意識のある現象について系統的な文献検討を行い、幅広い知識を得るとともに、幅広く洞察できる力を身につける。
2.研究課題に合致した研究デザイン、データ収集方法、分析方法を理解し、課題に適切な方法論を組み立てる。
3.研究倫理について理解し、研究計画に反映させる。

到達目標: 1.看護ケアの発展に貢献できる高度な研究能力を養い、看護学に寄与する研究課題を探索する。
2.主体的学習により、情報収集と分析力、課題解決能力を養い、プレゼンテーション能力や研究論文をまとめる力を身につける。
3.看護研究に対する倫理的配慮ができる力を身につける。
4.研究により得られた知識を、看護実践に応用できる力を身につける。

授業方法: ゼミ形式

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 問題意識や関心のある現象に関して系統的な文献検討を行う。	課題に対する文献検索と検討
2. 問題意識や関心のある現象に関して系統的な文献検討を行う。	課題に対する文献検索と検討
3. 問題意識や関心のある現象に関して系統的な文献検討を行う。	課題に対する文献検索と検討
4. 問題意識や関心のある現象に関して系統的な文献検討を行う。	課題に対する文献検索と検討
5. 問題意識や関心のある現象に関して系統的な文献検討を行う。	課題に対する文献検索と検討
6. 問題意識や関心のある現象に関して系統的な文献検討を行う。	課題に対する文献検索と検討
7. 問題意識や関心のある現象に関して系統的な文献検討を行う。	課題に対する文献検索と検討
8. 問題意識や関心のある現象に関して系統的な文献検討を行う。	課題に対する文献検索と検討
9. 問題意識や関心のある現象に関して系統的な文献検討を行う。	課題に対する文献検索と検討
10. 問題意識や関心のある現象に関して系統的な文献検討を行う。	課題に対する文献検索と検討
11. 研究課題に最適な、研究デザイン、信頼性・妥当性の高いデータ収集方法、分析方法について検討する。	研究方法のまとめと分析法の確認
12. 研究課題に最適な、研究デザイン、信頼性・妥当性の高いデータ収集方法、分析方法について検討する。	研究方法のまとめと分析法の確認
13. 研究課題に最適な、研究デザイン、信頼性・妥当性の高いデータ収集方法、分析方法について検討する。	研究方法のまとめと分析法の確認
14. 研究課題に最適な、研究デザイン、信頼性・妥当性の高いデータ収集方法、分析方法について検討する。	研究方法のまとめと分析法の確認
15. 研究課題に最適な、研究デザイン、信頼性・妥当性の高いデータ収集方法、分析方法について検討する。	研究方法のまとめと分析法の確認
16. 図表などを用いて、研究結果をわかりやすく示す工夫を行う。	図、表の使い方、統計処理の確認
17. 図表などを用いて、研究結果をわかりやすく示す工夫を行う。	図、表の使い方、統計処理の確認
18. 図表などを用いて、研究結果をわかりやすく示す工夫を行う。	図、表の使い方、統計処理の確認
19. 研究結果の独創性、意義、実践活動への貢献、限界についても討議する。	図、表の使い方、統計処理の確認
20. 研究結果の独創性、意義、実践活動への貢献、限界についても討議する。	図、表の使い方、統計処理の確認
21. 研究結果の独創性、意義、実践活動への貢献、限界についても討議する。	図、表の使い方、統計処理の確認
22. 研究計画書の作成	研究計画書の作成
23. 研究計画書の作成	研究計画書の作成
24. 研究計画書の作成	研究計画書の作成
25. 研究計画書の作成	研究計画書の作成
26. 研究計画書の作成	研究計画書の作成
27. 研究計画書の遂行上、倫理審査を受ける必要がある場合、倫理委員会申請書を作成する。	倫理委員会申請書の作成
28. 研究計画書の遂行上、倫理審査を受ける必要がある場合、倫理委員会申請書を作成する。	倫理委員会申請書の作成
29. より精査され、より説得力のあるプレゼンテーションを作成する。	プレゼンテーションの作成
30. より精査され、より説得力のあるプレゼンテーションを作成する。	プレゼンテーションの作成

受講者への
メッセージや
アドバイス:

文献を精査し、質的研究の方法を理解し、看護ケアに貢献できるような研究課題を考案する。

フィードバックの方法： 教員間でのディスカッションを日常的に行い、進捗を確認していく。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究計画書	100	研究計画書の完成度

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 研究室、メール (nhasegaw@dwc.doshisha.ac.jp)

FLTナンバー:

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

準備学習等の内容

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法

割合

評価基準

教科書:

参考文献等:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

教員との連絡
方法:

FLTナンバー:

授業テーマ: 看護の研究課題への取り組みと研究計画書の立案

授業の概要: 博士論文の研究計画書を作成する。そのために、関心領域の概念分析をする。文献レビューにより、当該領域の動向を把握する。文献レビューし、研究方法の要素を抽出する。

到達目標:

1. 関心領域の概念分析をする。
2. 文献レビューにより、当該領域の研究動向を把握する。
3. 文献レビューにより、研究方法の要素を抽出する。
4. 研究計画書を作成し、倫理委員会の審査を受ける。

授業方法: ゼミ形式

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
----------------------------------	------	----------

1. 関心領域の概念分析1
2. 関心領域の概念分析2
3. 関心領域の概念分析3
4. 関心領域の概念分析4
5. 関心領域の概念分析5
6. 概念分析の論文化
7. 文献レビュー1
8. 文献レビュー2
9. 文献レビュー3
10. 文献レビュー4
11. 研究方法論の枠組み作成1
12. 研究方法論の枠組み作成2
13. 研究方法論の枠組み作成3
14. 研究方法論の枠組み作成4
15. 研究方法論の枠組み作成5
16. 研究方法論の枠組み作成6
17. 研究計画書の作成1
18. 研究計画書の作成2
19. 研究計画書の作成3
20. 研究計画書の作成4
21. 研究計画書の作成5
22. 研究計画書の作成6
23. 研究計画報告会の準備1
24. 研究計画報告会の準備2
25. 研究報告会開催
26. 研究計画書修正1
27. 研究計画書修正2
28. 倫理委員会申請書作成1
29. 倫理委員会申請書作成2
30. 倫理委員会申請書作成3

受講者への
メッセージや
アドバイス: 自主的に進めてくださいフィードバックの
方法: ゼミでのディスカッション

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
-----------------------	------	----	------

	博士研究計画書	100	目標1から4を達成で評価する
--	---------	-----	----------------

教科書: 適宜紹介する

参考文献等: 適宜紹介する

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, 自己管理能力, 自己実現力教員との連絡
方法: メール WEB会議ツール

FLTナンバー:

授業テーマ: 博士論文の研究課題の発展

授業の概要: 看護学特別研究Ⅱは研究計画書に基づいて、研究の主要概念を分析し、看護系雑誌に投稿する。また、主論文作成のために、データ収集を行う。

到達目標: 【知識・理解】【関心・意欲・態度】【表現・技能・能力】
1. 主要概念について論文化し、投稿する。
2. 研究計画書に沿ってデータを収集する。

授業方法: 対面ゼミ WEB対面式ゼミ

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究の主要概念に副論文指導1	研究に割ける可能な時間を使用
2. 研究の主要概念に副論文指導2	研究に割ける可能な時間を使用
3. 研究の主要概念に副論文指導3	研究に割ける可能な時間を使用
4. 研究の主要概念に副論文指導4	研究に割ける可能な時間を使用
5. 関連文献の検討1	研究に割ける可能な時間を使用
6. 関連文献の検討2	研究に割ける可能な時間を使用
7. 関連文献の検討3	研究に割ける可能な時間を使用
8. データ収集1	研究に割ける可能な時間を使用
9. データ収集2	研究に割ける可能な時間を使用
10. データ収集3	研究に割ける可能な時間を使用
11. データ収集4	研究に割ける可能な時間を使用
12. データ分析1	研究に割ける可能な時間を使用
13. データ分析2	研究に割ける可能な時間を使用
14. データ分析3	研究に割ける可能な時間を使用
15. 中間報告の準備	研究に割ける可能な時間を使用

受講者への
メッセージや
アドバイス: 研究成果は一朝一夕には得られません。1%の発想と99%のゆまめ努力が道を開きます。同時に、テーマに関連する文献を
独自で検索し、研究手法の吟味や方向付けを行っていくことが大切です。

フィードバックの
方法: ミーティングや日々の研究・実験遂行の中で、随時研究室で対応し、コメントを与える。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プレゼンテーション	50	資料に基づき評価する
	副論文の作成	50	副論文の投稿をもって評価する

教科書: 適宜紹介

参考文献等: 適宜紹介

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法: メール WEB会議ツール